HITACHI
Inspire the Next

Collaboration　導入ガイド

解説・操作書

3020-3-H01-D0

■対象製品

P-2646-6354 Groupmax Collaboration Portal 07-86（適用 OS：Windows Server 2008 R2 ※1，Windows Server 2008 x64 ※1，Windows Server 2008 x86，Windows Server 2003 R2 x64 ※1，Windows Server 2003 R2，Windows Server 2003）
P-2746-E354 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-86（適用 OS：Windows Server 2008 R2 ※1，Windows Server 2008 x64 ※1，Windows Server 2008 x86，Windows Server 2003 R2 x64 ※1，Windows Server 2003 R2，Windows Server 2003）
P-2746-E454 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-86（適用 OS：Windows Server 2008 R2 ※1，Windows Server 2008 x64 ※1，Windows Server 2008 x86，Windows Server 2003 R2 x64 ※1，Windows Server 2003 R2，Windows Server 2003）
P-2446-E354 Groupmax Collaboration - Workflow Portlet Option ※2 07-21（適用 OS：Windows Server 2003 R2 x64 ※1，Windows Server 2003 R2，Windows Server 2003，Windows 2000 Advanced Server，Windows 2000 Server）
P-2443-3D74 uCosminexus Collaboration Portal 06-86（適用 OS：Windows Server 2008 R2 ※1，Windows Server 2008 x64 ※1，Windows Server 2008 x86，Windows Server 2003 R2 x64 ※1，Windows Server 2003 R2，Windows Server 2003）
P-2443-3E74 uCosminexus Collaboration Portal - Forum/File Sharing 06-86（適用 OS：Windows Server 2008 R2 ※1，Windows Server 2008 x64 ※1，Windows Server 2008 x86，Windows Server 2003 R2 x64 ※1，Windows Server 2003 R2，Windows Server 2003）
P-2443-3R74 uCosminexus Collaboration - Workflow Portlet Option ※2 06-21（適用 OS：Windows Server 2003 R2 x64 ※1，Windows Server 2003 R2，Windows Server 2003，Windows 2000 Advanced Server，Windows 2000 Server）
注※1　WOW64 環境だけで使用できます。
注※2　オプション製品です。

■輸出時の注意

本製品を輸出される場合には，外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上，必要な手続きをお取りください。
なお，ご不明な場合は，弊社担当営業にお問い合わせください。

■商標類

ActiveX は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Borland のブランド名および製品名はすべて，米国 Borland Software Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
eTrust および SiteMinder は，CA, Inc. の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Microsoft は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Microsoft Internet Information Services は，米国 Microsoft Corporation の商品名称です。
Oracle と Java は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。
VisiBroker は，英国，米国，その他の国における Micro Focus (IP) Limited の商標または登録商標です。

■マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは，マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記		製品名
ActiveX		ActiveX(R)
IIS		Microsoft(R) Internet Information Services 5.0
		Microsoft(R) Internet Information Services 6.0
Windows 2000 Advanced Server		Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server Operating System
Windows 2000 Server		Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Operating System
Windows 7		Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise 日本語版（32 ビット版）
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise 日本語版（64 ビット版）
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional 日本語版（32 ビット版）
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional 日本語版（64 ビット版）
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate 日本語版（32 ビット版）
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate 日本語版（64 ビット版）
Windows XP Professional		Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System
Windows NT		Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network Operating System Version 3.51
		Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network Operating System Version4.0
		Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation Operating System Version 3.51
		Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation Operating System Version4.0
Windows Server 2003	Windows Server 2003 Enterprise Edition	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition 日本語版
	Windows Server 2003 Standard Edition	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition 日本語版
Windows Server 2003 R2	Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition 日本語版

表記		製品名
	Windows Server 2003 R2 Standard Edition	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition 日本語版
Windows Server 2003 R2 x64	Windows Server 2003 R2 Enterprise x64 Edition	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition 日本語版
	Windows Server 2003 R2 Standard x64 Edition	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition 日本語版
Windows Server 2008 x86	Windows Server 2008 Enterprise x86	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 32-bit 日本語版
	Windows Server 2008 Standard x86	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 32-bit 日本語版
Windows Server 2008 x64	Windows Server 2008 Enterprise x64	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 日本語版
	Windows Server 2008 Standard x64	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 日本語版
Windows Server 2008 R2	Windows Server 2008 R2 Enterprise	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise 日本語版
	Windows Server 2008 R2 Standard	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard 日本語版
Windows Vista		Microsoft(R) Windows Vista(R) Business 日本語版（32 ビット版）
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Business 日本語版（64 ビット版）
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise 日本語版（32 ビット版）
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise 日本語版（64 ビット版）
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate 日本語版（32 ビット版）
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate 日本語版（64 ビット版）

このマニュアルでは，特に断りのない場合は，Windows 7，Windows XP Professional，Windows Server 2003，Windows Server 2003 R2，Windows Server 2003 R2 x64，Windows Server 2008 x86，Windows Server 2008 x64，Windows Server 2008 R2，および Windows Vista を総称して Windows と表記していま

す。

■発行

2012 年 6 月 3020-3-H01-D0

■著作権

変更内容

変更内容（3020-3-H01-D0）Groupmax Collaboration Portal 07-86，Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-86，Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-86，uCosminexus Collaboration Portal 06-86，uCosminexus Collaboration Portal - Forum/File Sharing 06-86

追加・変更内容	変更個所
uCosminexus Portal Framework の URL 変換規則の設定が不要になりました。 これに伴い，uCosminexus Portal Framework の URL 変換規則の設定についての説明を削除しました。	4.6.3
複数のアプリケーションサーバを構築する環境で，負荷分散機を利用する場合の注意事項を追加しました。	付録 G

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは，Collaboration や各コンポーネントの概要，Collaboration のインストールやシステムの構築手順などについて説明したものです。
対象とする製品は，次のとおりです。

- Groupmax Collaboration Portal
- Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing
- Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule
- Groupmax Collaboration - Workflow Portlet Option（オプション製品）
- uCosminexus Collaboration Portal
- uCosminexus Collaboration Portal - Forum/File Sharing
- uCosminexus Collaboration - Workflow Portlet Option（オプション製品）

以降，オプション製品を除く五つの製品を総称して Collaboration Portal と表記する場合があります。

■対象読者

Collaboration を使ったシステムの構築および運用を担当する方を対象としています。なお，次に示す項目を熟知していることを前提としています。

- 使用する OS（Operating System）および Web ブラウザの操作
- uCosminexus Application Server Standard，uCosminexus Portal Framework，Groupmax，および HiRDB の基本的な知識

■読書手順

このマニュアルは，利用目的に合わせて次の個所をお読みいただくことをお勧めします。

マニュアルを読む目的	記述個所
Collaboration の概要について知りたい。	1 章
Collaboration の製品について知りたい。	2 章
Collaboration を利用したシステムの構成について知りたい。	2 章
Collaboration の製品のインストール方法，アンインストール方法について知りたい。	3 章
Collaboration を利用したシステムを構築する場合の手順および作業について知りたい。	4 章
Collaboration を利用したシステムの運用について知りたい。	5 章
Collaboration を利用したシステムの障害対策について知りたい。	6 章
Collaboration の監査ログ出力機能について知りたい。	7 章
添付ファイル操作機能用プロパティファイルのサンプルについて知りたい。	付録 A
兼任機能を使用する場合の設定および注意事項について知りたい。	付録 B
SiteMinder と連携する場合の設定および注意事項について知りたい。	付録 C

マニュアルを読む目的	記述個所
ポートレットとローカルの間のファイル操作でドラッグ＆ドロップ機能を使用する場合の設定および注意事項について知りたい。	付録 D
メソッドキャンセル機能を利用する場合の設定および注意事項について知りたい。	付録 E
SSL アクセラレータまたはリバースプロキシ使用時の注意事項について知りたい。	付録 F
負荷分散機を利用する場合の注意事項について知りたい。	付録 G
業務ポートレットを利用する場合の設定および注意事項について知りたい。	付録 H
Collaboration 共通のメッセージおよびナビゲーションビューのメッセージについて知りたい。	付録 I
Collaboration の利用時によくある質問とその回答について知りたい。	付録 J
このマニュアルを読むに当たっての参考情報について知りたい。	付録 K
Collaboration を利用するために必要な用語について知りたい。	付録 L

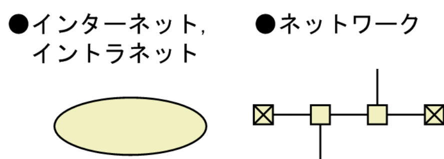
■このマニュアルで使用している記号

このマニュアルでは，次に示す記号を使用しています。

記号	意味
［　］	メニュー，コマンド，ウィンドウ，ダイアログ，ポートレットの名称，ボタンおよびキーボードのキーを示します。
［A］－［B］	メニュー項目を連続して選択すること（－の前に示した［A］メニューから［B］コマンドを選択すること）を示します。
「　」	ユーザが指定または選択する内容を示します。
〔　〕	この記号で囲まれている項目は省略してよいことを示します。
…	この記号の直前の項目を繰り返し，複数個指定できることを示します。
<　>	この記号で囲まれている項目が可変値であることを示します。

■このマニュアルの図中で使用している記号

このマニュアルの図中で使用している記号を，次のように定義します。



■このマニュアルで使用している画面図について

このマニュアルで使用している画面図は，「Groupmax Collaboration Portal」のものです。

ご使用の製品によって，ポータル画面の左上に表示されるタイトルが異なる場合があります。

目次

1 Collaboration の概要

この章では，企業情報ポータルを支援する Collaboration の概要と，Collaboration が提供する機能について説明します。

1.1 Collaboration とは

PC やインターネットの普及に伴って，企業内に分散した情報の共有化や，それらの情報を即時に伝達することを目的にしたグループウェアと呼ばれる情報システムがさまざまな企業で利用されています。

しかし，企業内で多種多様なグループウェアや業務システムを導入するだけでは，それらのシステムで扱う情報を集約したり，ユーザの業務に合わせた作業環境を重視した情報管理の効率化を図ったりすることが難しくなっています。このため，企業では，散在する既存の情報や限られた人材を一元的に管理して，活用できるような企業情報ポータル（EIP）が注目されるようになりました。

Collaboration は，既存のビジネスプロセスとの融合を目的とした企業情報ポータルを支援するミドルウェアです。人と情報と業務プロセスを連携し，ビジネスに効果的な次の三つのコラボレーションを強力に支援します。

- 職制などの組織を越えて同じ目的や問題意識を持つ人が集まり，情報の交換や共有を通して目的の実現を目指す**クロスファンクショナルコラボレーション**
- いつでもどこでも場所を選ばない作業環境で情報を活用できる**ユビキタスコラボレーション**
- 世界的規模に広がるビジネスに対応し，海外との情報交換を実現できる**グローバルコラボレーション**

1.1.1　Collaboration の特長

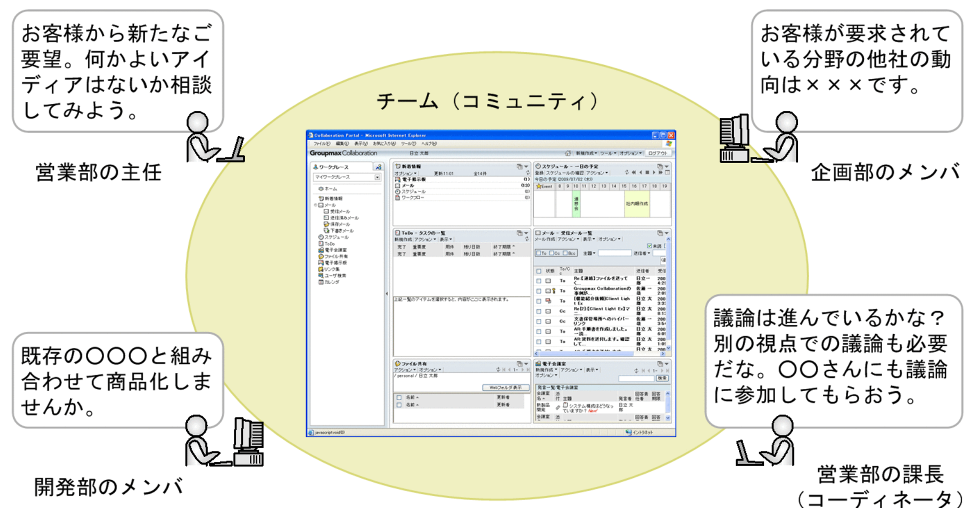
(1) クロスファンクショナルコラボレーション

従来のグループウェアのユーザ管理体系では，事業所や部署など業務組織上の階層関係に忠実なユーザ管理がほとんどです。また，グループウェア上で扱う情報はこのユーザ管理階層モデルに影響されて，組織階層を越えた情報の共有が難しくなっています。

Collaboration では，このような問題を解消しクロスファンクショナルコラボレーションを推進するために，協働作業の場や組織にとらわれないチーム（Collaboration では，「コミュニティ」と呼びます）を管理する機能を提供しています。このため，組織の壁を越え，必要なときに，必要な人と自由にチームを編成し，コミュニティ内で情報を共有して業務を進めることができます。

クロスファンクショナルコラボレーションの例を次に示します。

図 1-1　クロスファンクショナルコラボレーションの例



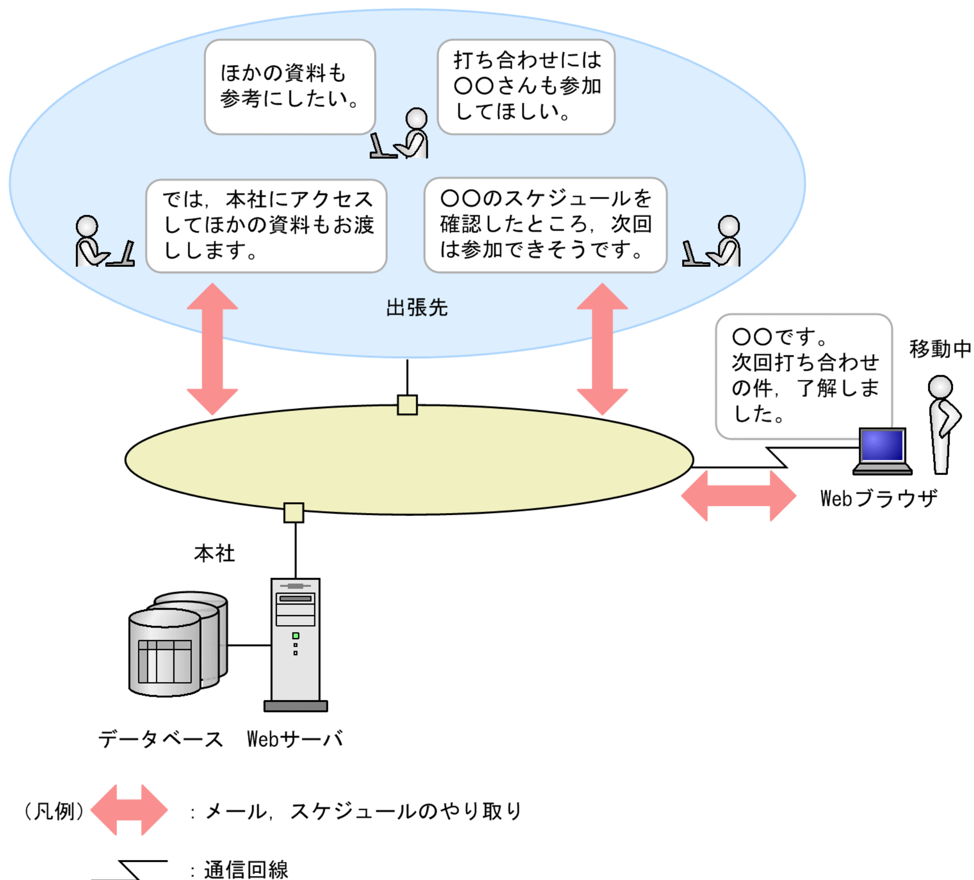
(2) ユビキタスコラボレーション

従来のグループウェアでは，サーバ側のコンピュータおよびクライアント側のコンピュータそれぞれにグループウェアのモジュールをセットアップする必要がありました。

Collaboration では，メールやスケジュールなどの Collaboration の各種コンポーネントを Web サーバに搭載しています。したがって，ユーザは，Web ブラウザがあれば，メールやスケジュールなどの Collaboration をいつでもどこでも利用できます。このため，サテライトオフィスや出張先・移動中など，使う場所や時間を選ばないユビキタスコラボレーションを実現できます。

ユビキタスコラボレーションの例を次に示します。

図 1-2　ユビキタスコラボレーションの例

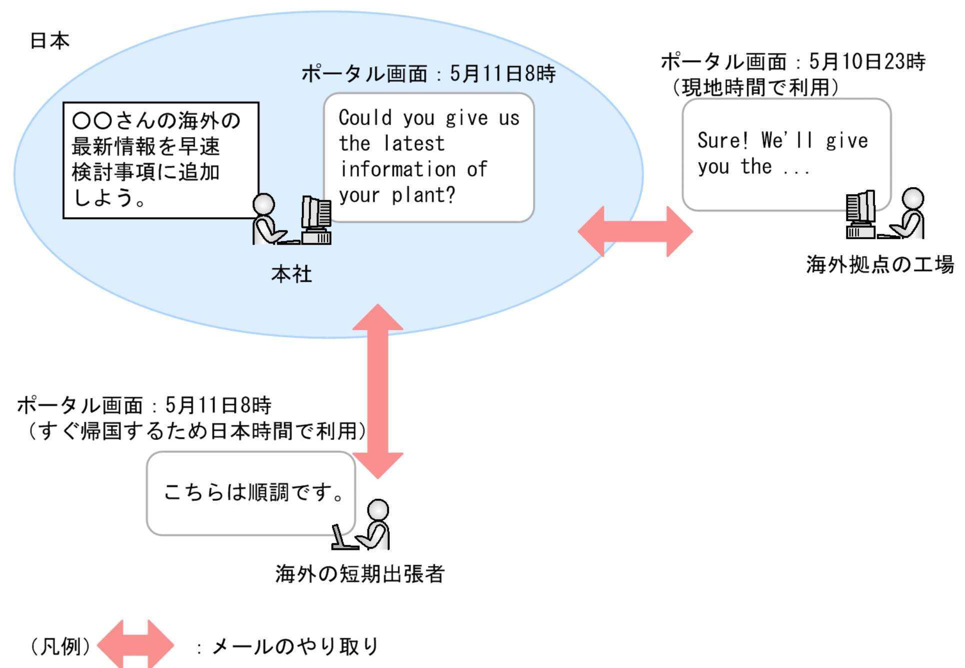


(3) グローバルコラボレーション

Collaboration では，企業のグローバル化に対応し，グローバルコラボレーションを支援します。言語環境やタイムゾーンの切り替えが容易にでき，また，国内と国外でそれぞれ蓄積した業務情報を連携させて業務を進めることができます。

グローバルコラボレーションの例を次に示します。

図 1-3　グローバルコラボレーションの例



1.1.2　Collaboration のポータル

Collaboration では，クロスファンクショナルコラボレーション，ユビキタスコラボレーション，グローバルコラボレーションを実現するため，次のようなポータルを提供しています。ただし，画面に表示される機能やレイアウトは，システム管理者や利用者の設定によって異なります。

Collaboration のポータル画面の例を次に示します。

図 1-4　Collaboration のポータル画面の例



注　トップメニュー，ナビゲーションビュー，および各ポートレットの詳細は，
マニュアル「Collaboration　ユーザーズガイド」を参照してください。

Collaboration のポータルには，個人の業務やコミュニティ内の情報共有・協働作業などを効率的に支援するための作業空間（**ワークプレース**）があります。業務に必要な情報がここに集約されています。ワークプレースは，ワークプレース選択リストボックスを使って切り替えます。ここから，メールや電子会議室などの各種業務の画面（**ポートレット**）に適宜アクセスし，迅速かつ効率的に業務を推進できます。

ワークプレースには，次の 2 種類があります。

マイワークプレース

マイワークプレースは，個人業務を支援するための各種情報アクセスツールや業務

システムへの入り口です。個人業務に必要な情報へ一元的にアクセスできます。

コミュニティワークプレース

コミュニティとは，ある業務目的を持った「人の集まり」のことです。既存の組織や部門などの枠を越えたユーザで構成できます。

コミュニティワークプレースは，コミュニティのメンバで情報を共有し，協働作業をする場所です。そのコミュニティ専用の電子会議室を設置したりコミュニティのメンバのスケジュールを参照したりできます。組織の壁を越えたコミュニティでの素早い意思決定や，時間や場所を選ばない創造的な協働作業を推進できます。

1.1.3 Collaboration のユーザ認証

Collaboration では，uCosminexus Portal Framework の機能を利用してシングルサインオンができます。このため，アプリケーションごとにログインする手間が省けます。

1.2 Collaboration の機能

Collaboration は，メールやスケジュールなど複数の機能を，一つの画面（ポータル画面）に表示して，必要な情報に効率良くアクセスできる企業内ポータルです。ここでは，Collaboration が提供する機能について説明します。

(1) Collaboration の主な機能

Collaboration の主な機能と概要を次の表に示します。なお，Collaboration の機能全体の詳細は，マニュアル「Collaboration　ユーザーズガイド」を参照してください。

表 1-1　Collaboration の主な機能と概要

機能	概要
新着情報	新着メールの件数や最新スケジュールの件数を表示できます。また，選択したメールやスケジュールのプレビューが表示できます。 新着情報の詳細は，マニュアル「Collaboration　ユーザーズガイド」を参照してください。
メール	ポータル画面上でメールを送受信できます。スケジュールおよび電子会議室とも連携でき，これらのポートレットからメールを送信できます。また，宛先台帳に受信したメールの宛先などを登録して，メールの送信時に宛先台帳から宛先を指定できます。 メールの詳細は，マニュアル「Collaboration - Mail　システム管理者ガイド」を参照してください。
電子会議室	情報蓄積型の階層的な会議室です。発言と発言の関連を階層構造（スレッドツリー）で表示でき，会議室でのディスカッションの流れがわかります。また，ディスカッションの状態（未決，既決）を確認したり，発言の内容をプレビューで表示したりできます。 電子会議室の詳細は，マニュアル「Collaboration - Forum　システム管理者ガイド」を参照してください。
ファイル共有	メンバ間でファイルやフォルダを共有できます。また，個人が所有するファイルを参照したり，編集したりできます。ほかのポートレットと連携すると，ファイルの格納先を連絡する手段として，メールや電子会議室を使用したり，ファイルの実体をメール，電子会議室や電子掲示板の添付ファイルとして登録したりできます。 ファイル共有の詳細は，マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」を参照してください。
スケジュール	自分のスケジュールを管理できます。また，施設の予約やメンバ同士のスケジュールを調整できます。さらに，コミュニティワークプレース上でコミュニティメンバのスケジュールを一覧で確認することもできます。 スケジュールの詳細は，マニュアル「Collaboration - Schedule　システム管理者ガイド」を参照してください。
ToDo	自分の仕事（タスク）を終了期限と重要度で管理できます。 ToDo の詳細は，マニュアル「Collaboration - Schedule　システム管理者ガイド」を参照してください。

機能	概要
ユーザ検索	組織に登録されているユーザを検索したり，ユーザの詳細情報を参照したりできます。また，検索したユーザをメールの宛先に指定したり，コミュニティのメンバに指定したりできます。 ユーザ検索の詳細は，マニュアル「Collaboration - Directory Access　システム管理者ガイド」を参照してください。
コミュニティ管理	職制などの組織を越えてコミュニティを簡単に作成できます。目的に応じて必要な人を集められます。 コミュニティ管理の詳細は，マニュアル「Collaboration - Online Community Management　システム管理者ガイド」を参照してください。
電子掲示板	伝達事項を掲示できます。複数の掲示板を作成できるので，用途別に管理できます。 電子掲示板の詳細は，マニュアル「Collaboration - Bulletin board　システム管理者ガイド」を参照してください。
リンク集	ユーザがよく利用する電子会議室やコミュニティメンバ一覧へのリンクを表示したり，リンクを登録したりできます。 リンク集の詳細は，マニュアル「Collaboration　ユーザーズガイド」を参照してください。

参考

- Collaboration では，使用できる機能を限定した製品も提供しています。導入する目的や使用したい機能に応じて，製品を選択できます。Collaboration の製品については，「2.1　Collaboration の製品構成」を参照してください。
- Collaboration では，利用者による各種操作の記録を監査ログとして出力できます。監査ログを出力する場合には，Collaboration の監査ログ出力機能を使用します。監査ログ出力機能の詳細は，「7.　Collaboration の監査ログ出力機能」を参照してください。

(2) Collaboration のオプション機能

Collaboration では，必要に応じて使用するオプション製品も提供しています。オプション製品を使用すると，ワークフロー連携機能が使用できます。なお，Collaboration のオプション製品については，「2.1　Collaboration の製品構成」を参照してください。

ワークフロー連携機能

ワークフローシステムと連携して，未処理のワークフロー案件数を確認できます。また，Collaboration から連携するワークフローシステムを起動できます。
ワークフロー連携機能の詳細は，Collaboration - Workflow Portlet Option のドキュメントを参照してください。

2 Collaboration の製品構成とシステム構成

この章では，Collaboration が提供する製品と，Collaboration を利用するシステムの構成について説明します。

2.1 Collaboration の製品構成

ここでは，Collaboration の各製品について説明します。

Collaboration では，主な機能を提供する製品と，必要に応じて使用するオプション製品を提供しています。また，基盤となるシステムによって，それぞれの製品で Groupmax と Cosminexus の 2 種類を提供しています。どちらの場合も，Collaboration のポータル画面の表示が異なるだけで，同じ機能を持っています。

Collaboration の主な機能を提供する製品（以降，Collaboration の製品）の種類と概要を次の表に示します。

表 2-1 Collaboration の製品の種類と概要

分類	製品名	概要
Groupmax	Groupmax Collaboration Portal	Collaboration の主な機能である，メール，電子会議室，ファイル共有，スケジュール，コミュニティ管理，電子掲示板などを利用するための製品です。 これらの製品を利用すると，組織の枠組みを越えたチーム（コミュニティ）編成でのプロジェクト遂行や，情報の交換や共有に，時間や場所を選ばない作業環境（ポータル画面）を実現できます。 なお，導入目的に応じて，利用できる機能を限定した製品を選択できます。Collaboration の機能と製品の関係については，表 2-2 を参照してください。
	Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing	
	Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule	
Cosminexus	uCosminexus Collaboration Portal	
	uCosminexus Collaboration Portal - Forum/File Sharing	

Collaboration では，導入目的に応じて，利用できる機能を限定した製品を選択できます。Collaboration の機能と製品の関係を次の表に示します。

表 2-2 Collaboration の機能と製品の関係

機能	製品				
	Groupmax Collaboration Portal	Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing	Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule	uCosminexus Collaboration Portal	uCosminexus Collaboration Portal - Forum/ File Sharing
新着情報	○	○	○	○	○
メール	○	×	○	○	×
電子会議室	○	○	×	○	○
ファイル共有	○	○	×	○	○
スケジュール	○	×	○	○	×
ToDo	○	×	○	○	×
ユーザ検索	○	○	○	○	○

機能	製品				
	Groupmax Collaboration Portal	Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing	Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule	uCosminexus Collaboration Portal	uCosminexus Collaboration Portal - Forum/ File Sharing
コミュニティ管理	○	○	○	○	○
電子掲示板	○	○	○	○	○
リンク集	○	○	○	○	○

（凡例）
○：利用できます。
×：利用できません。

参考

次の製品を使用している場合に，Collaboration - Schedule で Groupmax Scheduler Server と接続するための設定をすると，Collaboration で使用するカレンダに，Groupmax Scheduler Server で設定されている休日情報を表示できます。Groupmax Scheduler Server と接続するための設定については，マニュアル「Collaboration - Schedule　システム管理者ガイド」を参照してください。

- Groupmax Collaboration Portal
- Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule
- uCosminexus Collaboration Portal

これらの製品以外を使用している場合，または Groupmax Scheduler Server に休日情報が設定されていない場合，Collaboration で使用するカレンダには，Collaboration - Calendar にデフォルトで設定されている休日情報が表示されます。
なお，使用している製品に関係なく，カレンダの動作を設定するプロパティファイルで休日情報を変更できます。詳細は，「4.7.5　カレンダの動作を設定するプロパティファイルの設定方法」を参照してください。
Collaboration - Schedule で使用するカレンダのうち，カレンダビュー，および［スケジュール］ポートレットのカレンダ画面は，［スケジュール］ポートレットのタイムゾーンの設定に従って表示されます。このため，［カレンダ］ポートレットと表示内容が異なることがあります。［スケジュール］ポートレットのタイムゾーンの設定については，マニュアル「Collaboration - Schedule　ユーザーズガイド」を参照してください。

また，Collaboration のオプション機能を提供する製品（以降，Collaboration のオプション製品）の種類と概要を次の表に示します。

表 2-3　Collaboration のオプション製品の種類と概要

分類	製品名	概要
Groupmax	Groupmax Collaboration - Workflow Portlet Option	ワークフロー連携機能を利用するための製品です。

分類	製品名	概要
Cosminexus	uCosminexus Collaboration - Workflow Portlet Option	

参考

Collaboration のオプション製品を使用する場合は，Collaboration の製品の使用が前提となります。Collaboration のオプション機能については，「1.2　Collaboration の機能」を参照してください。

2.2　Collaboration のシステム構成と前提条件

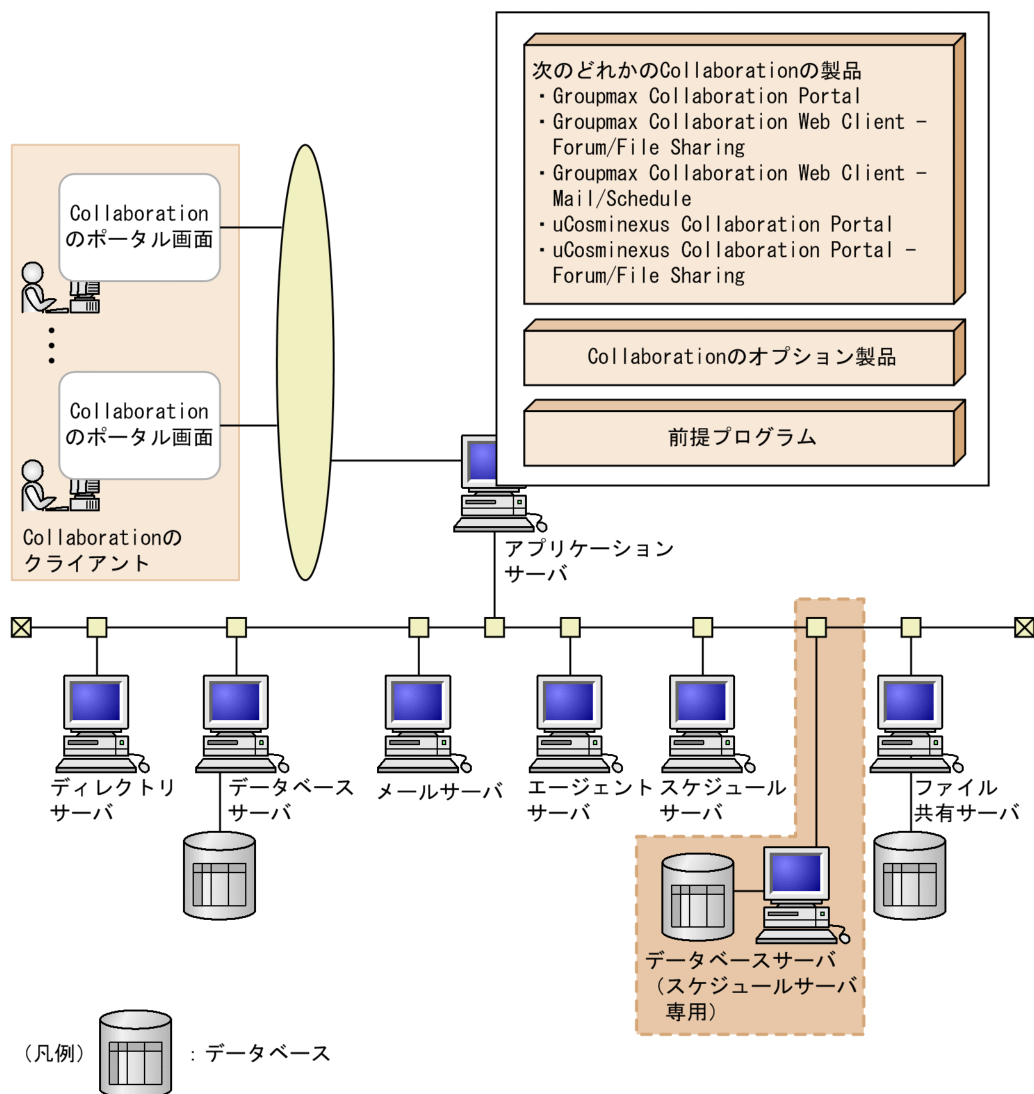
ここでは，Collaboration のシステムを構築する場合に必要な各種サーバ，および Collaboration のシステムの前提条件について説明します。

2.2.1　Collaboration のシステム構成

Collaboration のシステムは，Collaboration の各機能を持つアプリケーションサーバを中心に，各機能が動作する場合に必要な関連製品を持つディレクトリサーバや，データベースサーバなどの各種サーバで構成します。

Collaboration のシステム構成例を次の図に示します。

図 2-1　Collaboration のシステム構成例



注　［点線枠］で囲まれた部分は，スケジュールサーバをGroupmax Scheduler ServerのDBモードで運用する場合に必要になります。
DBモードについては，マニュアル「Groupmax Scheduler/Facilities Manager Version 7 システム管理者ガイド」を参照してください。

また，システム構成には幾つかのパターンがあります。それぞれのサーバに共有ディスクを接続するクラスタ構成，メールサーバ，スケジュールサーバ，ファイル共有サーバなどをサーバ分割して，負荷分散やリソース分散する拡張構成などがあります。機能ごとのシステム構成については，各機能のシステム管理者ガイドを参照してください。このように，Collaboration は多様なニーズにこたえることができます。

注意事項

複数のアプリケーションサーバを構築する場合に，負荷分散機を利用するときは，ヘルスチェック URL を使用するための設定が必要です。詳細は，「付録 G　負荷分散機を利用する場合の注意事項」を参照してください。

参考

Collaboration では，利用者による各種操作の記録を監査ログとして出力できます。監査ログを出力する場合の Collaboration のシステム構成については，「7.2.1　監査ログを出力するシステムの構成例」を参照してください。

次に，Collaboration のシステムを構成する各種サーバについて説明します。

(1) アプリケーションサーバ

アプリケーションサーバは，Collaboration の各ポートレットを使用するポータルの運用サーバです。アプリケーションサーバでは，uCosminexus Application Server Standard や uCosminexus Portal Framework を基盤として，メールやスケジュールなどのポートレットが動作します。

アプリケーションサーバは，ディレクトリサーバ，データベースサーバ，メールサーバ，スケジュールサーバおよびファイル共有サーバと連携します。

(a) アプリケーションサーバを構成するプログラム

アプリケーションサーバを配置するマシンには，導入目的に応じて選択した Collaboration の製品をインストールする必要があります。また，必要に応じて，Collaboration のオプション製品をインストールします。Collaboration の各製品については，「2.1　Collaboration の製品構成」を参照してください。

参考

Collaboration の前提製品である uCosminexus Portal Framework - Light は，Collaboration の製品に含まれています。uCosminexus Portal Framework の構築方法については，「4.6.3　uCosminexus Portal Framework の構築」，およびマニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」を参照してください。

(b) アプリケーションサーバの前提プログラム

アプリケーションサーバに必要な前提プログラムを次に示します。

- Groupmax Collaboration - Server または uCosminexus Collaboration - Server

Groupmax Collaboration - Server または uCosminexus Collaboration - Server は，次の製品で構成されています。

- uCosminexus Application Server Standard 08-53
- HiRDB/Run Time Version 8
- uCosminexus Interschema - Parsing Kit

各製品の詳細は，製品のマニュアルを参照してください。各製品の参照先マニュアルを次に示します。

製品名	参照先マニュアル
uCosminexus Application Server Standard	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 概説
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 ファーストステップガイド
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 システム設計ガイド
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 システム構築・運用ガイド
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編 (Web コンテナ)
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編 (EJB コンテナ)
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能)
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 拡張編
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 運用／監視／連携編
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 保守／移行／互換編
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 アプリケーション設定操作ガイド
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 運用管理ポータル操作ガイド
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス コマンド編
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス 定義編 (サーバ定義)
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス 定義編 (アプリケーション／リソース定義)
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス API 編
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 メッセージ 1 KDAL-KDCG および Hitachi Web Server 編
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 メッセージ 2 KDJE-KDJW 編

製品名	参照先マニュアル
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 メッセージ 3 KECX-KEDT ／ KEOS02000-29999 ／ KEUC-KFRM 編
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 メッセージ 4 監査ログ編
HiRDB/Run Time Version 8	スケーラブルデータベースサーバ　HiRDB Version 8 解説（Windows(R) 用）
uCosminexus Interschema - Parsing Kit	uCosminexus Interschema - Parsing Kit　ユーザーズガイド

(2) ディレクトリサーバ

LDAP 認証に必要なユーザ ID，メールアドレスなどのユーザ情報を格納します。

ディレクトリサーバに必要な前提プログラムを次に示します。

- Sun Java System Directory Server

Collaboration では，Groupmax Address Server ※とディレクトリサーバとの間で，ユーザ情報の整合性を保ちながら運用する必要があります。ユーザ情報の整合性を保つためには，ユーザ情報整合性確保ユティリティを利用します。ユーザ情報整合性確保ユティリティを利用する場合には，Groupmax Collaboration - Directory Converter を使用します。Groupmax Collaboration - Directory Converter については，Groupmax Collaboration - Directory Converter のドキュメントを参照してください。

注※

Groupmax Address Server は，Groupmax サーバに必要な前提プログラムです。このマニュアルでは，Groupmax の Mail，Scheduler および Workflow が利用できる環境を持つサーバを Groupmax サーバといいます。Groupmax Address Server については，マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 7　システム管理者ガイド　基本操作編」を参照してください。

(3) データベースサーバ

ポータル，コミュニティ管理，電子会議室，メール，電子掲示板，ファイル共有の情報を格納します。

データベースサーバに必要な前提プログラムを次に示します。

- Groupmax Collaboration - Data Server または uCosminexus Collaboration - Data Server

Groupmax Collaboration - Data Server または uCosminexus Collaboration - Data Server は，次の製品で構成されています。

- HiRDB/Single Server Version 8

- HiRDB Text Search Plug-in Version 8
- HiRDB Text Search Plug-in Index Generator
- Document Filter for Text Search Version 3

各製品の詳細は，製品のマニュアルを参照してください。各製品の参照先マニュアルを次に示します。

製品名	参照先マニュアル
HiRDB/Single Server Version 8	スケーラブルデータベースサーバ　HiRDB Version 8 解説 (Windows(R) 用)
HiRDB Text Search Plug-in Version 8	HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB Text Search Plug-in Version 8
HiRDB Text Search Plug-in Index Generator	HiRDB Text Search Plug-in Index Generator
Document Filter for Text Search Version 3	Document Filter for Text Search Version 3

(4) メールサーバ

ユーザが送受信するメール，および各コンポーネント（電子会議室など）が配信するメールを格納します。

メールサーバに必要な前提プログラムを次に示します。メールサーバに必要な前提プログラムは，Groupmax Groupware Server または Groupmax Agent - Application Version 6 に含まれています。

- Groupmax Mail Server Version 7
- Groupmax Mail - SMTP Version 7
- Groupmax Address Server Version 7
- Groupmax Object Server Version 6
- Groupmax Agent - Mail Server Version 6 ※

注※
　エージェントを使用してメールの自動転送または自動返信を行う場合に必要です。

各製品の詳細は，製品のマニュアルを参照してください。各製品の参照先マニュアルを次に示します。

製品名	参照先マニュアル
Groupmax Mail Server Version 7	Groupmax Address/Mail Version 7　システム管理者ガイド 基本操作編
	Groupmax Address/Mail Version 7　システム管理者ガイド ユティリティ編
Groupmax Mail - SMTP Version 7	Groupmax Mail - SMTP Version 7　運用ガイド

製品名	参照先マニュアル
Groupmax Address Server Version 7	Groupmax Address/Mail Version 7　システム管理者ガイド　基本操作編
	Groupmax Address/Mail Version 7　システム管理者ガイド　ユティリティ編
Groupmax Object Server Version 6	Groupmax Object Server Version 6　システム管理者ガイド
Groupmax Agent - Mail Server Version 6	Groupmax Agent Version 5　エージェント作成ガイド

(5) エージェントサーバ

メールサーバと連携して，特定の条件のメールに対して，自動的に転送したり，返信したりできます。メールの自動転送または自動返信を行う場合にだけ必要となります。

エージェントサーバに必要な前提プログラムを次に示します。エージェントサーバに必要な前提プログラムは，Groupmax Groupware Server または Groupmax Agent - Application Version 6 に含まれています。

- Groupmax Agent Server Version 5
- Groupmax Agent - Mail Function Version 6

各製品の詳細は，製品のマニュアルを参照してください。各製品の参照先マニュアルを次に示します。

製品名	参照先マニュアル
Groupmax Agent Server Version 5	Windows NT　Groupmax Agent Version 5　システム管理者ガイド
Groupmax Agent - Mail Function Version 6	Groupmax Agent Version 5　エージェント作成ガイド

(6) スケジュールサーバ

ユーザのスケジュール，タスクを格納します。

スケジュールサーバに必要な前提プログラムを次に示します。スケジュールサーバに必要な前提プログラムは，Groupmax Groupware Server に含まれています。

- Groupmax Scheduler Server Version 7
- Groupmax Facilities Manager Version 7
- Groupmax Address Server Version 7
- Groupmax Object Server Version 6
- Groupmax Scheduler_Facilities 管理ツール Version 7 ※

注※

Groupmax Scheduler Server の DB モードで運用する場合は，不要なプログラムで

す。

各製品の詳細は，製品のマニュアルを参照してください。各製品の参照先マニュアルを次に示します。

製品名	参照先マニュアル
Groupmax Scheduler Server Version 7	Groupmax Scheduler/Facilities Manager Version 7 システム管理者ガイド
Groupmax Facilities Manager Version 7	
Groupmax Address Server Version 7	Groupmax Address/Mail Version 7　システム管理者ガイド 基本操作編
	Groupmax Address/Mail Version 7　システム管理者ガイド ユティリティ編
Groupmax Object Server Version 6	Groupmax Object Server Version 6　システム管理者ガイド
Groupmax Scheduler_Facilities 管理ツール Version 7	Groupmax Scheduler/Facilities Manager Version 7 システム管理者ガイド

また，スケジュールサーバを Groupmax Scheduler Server の DB モードで運用する場合は，スケジュールの管理データ，およびスケジュールデータを一元管理するデータベースサーバ（HiRDB）が別途必要になります。このデータベースサーバは，Collaboration の各コンポーネントが使用するデータベースサーバとは別に構築してください。DB モード，および DB モードでスケジュールサーバを運用する場合に必要なプログラムについては，マニュアル「Groupmax Scheduler/Facilities Manager Version 7　システム管理者ガイド」を参照してください。

注意事項

Groupmax Scheduler Server と Groupmax Facilities Manager が DB モードをサポートしているバージョンかどうか，Collaboration のリリースノートを参照して確認してください。

(7) ファイル共有サーバ

Collaboration のユーザが共有するファイルを格納します。ファイル共有サーバは，ファイル共有の情報を格納する Collaboration - File Sharing のデータベースサーバと接続する必要があります。Collaboration - File Sharing のデータベースサーバについては，マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」を参照してください。

ファイル共有サーバに必要な前提プログラムを次に示します。

- Groupmax Collaboration - File Server または uCosminexus Collaboration - File Server

Groupmax Collaboration - File Server または uCosminexus Collaboration - File Server

は，次の製品で構成されています。

- Collaboration - File Sharing Server
- TPBroker
- DABroker Library
- HiRDB/Run Time Version 8

各製品の詳細は，製品のマニュアルを参照してください。各製品の参照先マニュアルを次に示します。

製品名	参照先マニュアル
Collaboration - File Sharing Server	Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド
	Collaboration - File Sharing　メッセージ
	Collaboration - File Sharing　ユーザーズガイド
TPBroker	トランザクショナル分散オブジェクト基盤　TPBroker　ユーザーズガイド
	Borland(R) Enterprise Server VisiBroker(R)　デベロッパーズガイド
	Borland(R) Enterprise Server VisiBroker(R)　プログラマーズリファレンス
HiRDB/Run Time Version 8	スケーラブルデータベースサーバ　HiRDB Version 8 解説 (Windows(R) 用)

なお，DABroker Library の詳細は，DABroker Library のドキュメントを参照してください。

(8) Collaboration のクライアント

Collaboration のユーザが操作するクライアントです。Web ブラウザを使用して Collaboration のシステムにアクセスします。

2.2.2　Collaboration の前提条件

Collaboration のサーバおよびクライアントの前提条件について説明します。

(1) Collaboration の前提 OS

Collaboration の前提 OS を次に示します。

- Windows Server 2003 Standard Edition
- Windows Server 2003 Enterprise Edition
- Windows Server 2003 R2 Standard Edition
- Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition
- Windows Server 2003 R2 Standard x64 Edition

- Windows Server 2003 R2 Enterprise x64 Edition
- Windows Server 2008 Standard x86
- Windows Server 2008 Enterprise x86
- Windows Server 2008 Standard x64
- Windows Server 2008 Enterprise x64
- Windows Server 2008 R2 Standard
- Windows Server 2008 R2 Enterprise

(2) Collaboration で利用できる Web ブラウザ

Collaboration のクライアントが利用できる Web ブラウザについては，マニュアル「Collaboration　ユーザーズガイド」を参照してください。

3 インストール・セットアップとアンインストール

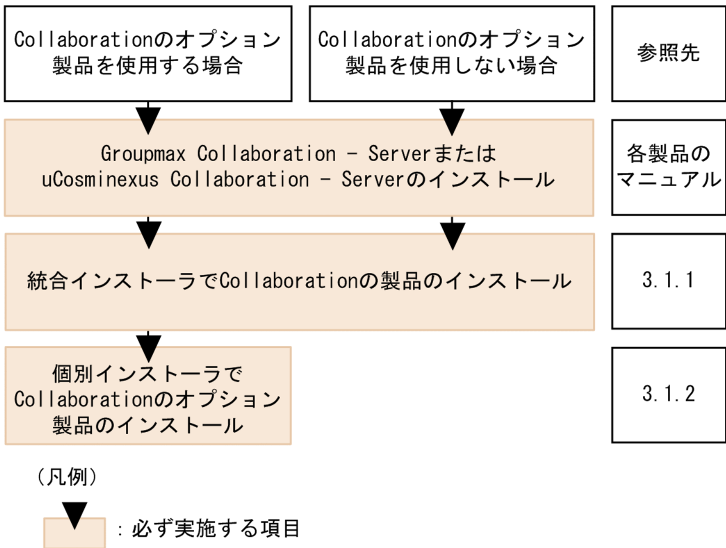
この章では，Collaboration のインストール・セットアップ，およびアンインストールの手順について説明します。

3.1 Collaboration のインストール・セットアップ

ここでは，アプリケーションサーバへ Collaboration の製品をインストール，セットアップする手順について説明します。

Collaboration では，主な機能を提供する製品と，必要に応じて使用するオプション製品を提供しています。Collaboration のオプション製品を使用する場合と，使用しない場合とでは，インストール手順が異なります。Collaboration のインストール手順を次の図に示します。

図 3-1 Collaboration のインストール手順



Collaboration の各製品については，「2.1　Collaboration の製品構成」を参照してください。

注意事項

Collaboration のシステムを構築する場合，次の製品がアプリケーションサーバにインストール済みであることが前提となります。Collaboration の製品をインストールする前に，アプリケーションサーバに次の製品をインストールしてください。

- Groupmax Collaboration - Server または uCosminexus Collaboration - Server を構成する製品
  Groupmax Collaboration - Server および uCosminexus Collaboration - Server を構成する製品については，「2.2.1　Collaboration のシステム構成」を参照してください。
  Groupmax Collaboration - Server および uCosminexus Collaboration - Server を構成する製品のインストールおよび構築方法については，各製品のマニュアルを参照してください。
- uCosminexus Portal Framework
  uCosminexus Portal Framework のインストールおよび構築方法については，「4.6.3 uCosminexus Portal Framework の構築」，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」を参照してください。なお，uCosminexus Portal Framework - Light は，Collaboration の製品に含まれています。

3.1.1 統合インストーラからのインストール・セットアップ

Collaboration の主な機能を提供する製品には，次の製品があります。構築する環境基盤や，使用する機能によって，インストールする製品を選択してください。Collaboration の機能と製品の関係については，「2.1　Collaboration の製品構成」を参照してください。

- Groupmax Collaboration Portal
- Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing
- Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule
- uCosminexus Collaboration Portal
- uCosminexus Collaboration Portal - Forum/File Sharing

これらの製品は，統合インストーラを使用してインストール・セットアップします。統合インストーラでは，それぞれのコンポーネントをインストール・セットアップします。各製品に含まれるコンポーネントを次の表に示します。各コンポーネントの詳細は，各コンポーネントのマニュアルを参照してください。

表 3-1 各製品に含まれるコンポーネント

コンポーネント	製品				
	Groupmax Collaboration Portal	Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing	Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule	uCosminexus Collaboration Portal	uCosminexus Collaboration Portal - Forum/ File Sharing
Collaboration - Directory Access	○	○	○	○	○
Collaboration - Online Community Management	○	○	○	○	○
Collaboration - Schedule	○	×	○	○	×
Collaboration - Calendar	○	○	○	○	○
Collaboration - Mail	○	×	○	○	×
Collaboration - Forum	○	○	×	○	○
Collaboration - File Sharing	○	○	×	○	○
Collaboration - Common Utility	○	○	○	○	○
Collaboration - Bulletin board	○	○	○	○	○
Collaboration - Navigation View	○	○	○	○	○

（凡例）
○：含まれています。
×：含まれていません。

ここでは，Collaboration を新規にインストールする手順と，上書きしてインストール（更新インストール）する手順について説明します。

注意事項

インストール時の注意

Collaboration をインストール・セットアップする場合は，必ず，管理者権限のあるユーザ ID でログインして実施してください。

（1）新規インストール

Collaboration を新規にインストールする手順を次に示します。

手順

1. **日立総合インストーラから統合インストーラを起動します。**
   インストール開始画面が表示されます。
2. **［次へ］ボタンをクリックします。**
   インストール先の選択画面が表示されます。
   インストールをキャンセルしたい場合は，インストール開始画面で［キャンセル］ボタンをクリックします。
3. **インストール先を指定します。**
   デフォルトのインストール先フォルダは次のとおりです。

   Windows Server 2003 R2 x64，Windows Server 2008 x64，および Windows Server 2008 R2 を使用している場合
   <OS（Windows）のインストールドライブ>:¥Program Files (x86)¥Hitachi¥Collaboration

   そのほかの OS（Windows）を使用している場合
   <OS（Windows）のインストールドライブ>:¥Program Files¥Hitachi¥Collaboration

   別のフォルダにインストールしたい場合は，［参照］ボタンをクリックしてフォルダを選択します。インストール先フォルダ名は，半角英数字および空白文字だけで構成されている必要があります。また，インストール先パス名が 50 文字を超えないように設定してください。
4. **［次へ］ボタンをクリックします。**
   ユーザ情報の設定画面が表示されます。
5. **ユーザ名および会社名を入力し，［次へ］ボタンをクリックします。**
   プログラムフォルダの選択画面が表示されます。
6. **スタートメニューのプログラムに登録するプログラムフォルダを選択します。**
   デフォルトのフォルダ名は，「Collaboration」です。別のフォルダにしたい場合は，任意のフォルダ名を入力するか，または既存のフォルダリストからフォルダを選択します。
7. **［次へ］ボタンをクリックします。**
   インストールの開始画面が表示されます。
8. **インストール情報を確認します。**
   現在の設定内容が表示されます。設定を変更したい場合は，［戻る］ボタンをクリックして，設定を変更してください。［次へ］ボタンをクリックすると，各コンポーネントのインストーラが呼び出され，インストールの進捗状況が表示されます。インストールが完了すると，インストールが完了したことを知らせるダイアログボックスが表示されます。

9. **［完了］ボタンをクリックします。**
［Readme を表示させますか？］チェックボックスをチェックしていた場合は，Readme が表示されます。

(2) 更新インストール

Collaboration をインストール済みのマシンに，上書きしてインストールする手順を次に示します。

> **注意事項**
>
> インストール済みの製品と異なる製品は更新インストールできません。インストール済みの製品をアンインストールしてから，新たに製品をインストールしてください。

手順

1. **Hitachi Web Server を停止します。**
2. **Collaboration を停止します。**
3. **ファイル転送サービス［Collaboration - File Sharing FTP Service］を停止します。**
Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule がインストールされている場合，この作業は必要ありません。
4. **日立総合インストーラから統合インストーラを起動します。**
セットアップタイプ画面が表示されます。
5. **「修正」を選択して，［次へ］ボタンをクリックします。**
修正インストールの開始画面が表示されます。
修正インストールをキャンセルしたい場合は，［キャンセル］ボタンをクリックします。
6. **再インストール情報を確認します。**
修正インストールの開始画面に現在の設定内容が表示されます。
設定を変更したい場合は，［戻る］ボタンをクリックして，設定を変更してください。
［次へ］ボタンをクリックすると，各コンポーネントのインストーラが呼び出され，インストールの進捗状況が表示されます。インストールが完了すると，インストールが完了したことを知らせるダイアログボックスが表示されます。
7. **［完了］ボタンをクリックします。**
［Readme を表示させますか？］チェックボックスをチェックしていた場合は，Readme が表示されます。

3.1.2 個別インストーラからのインストール・セットアップ

Collaboration のオプション製品には，Collaboration - Workflow Portlet Option（ワークフロー連携機能）があります。必要に応じて，インストールしてください。

Collaboration のオプション製品については，「2.1　Collaboration の製品構成」を参照してください。

このオプション製品は，統合インストーラからは呼び出されません。統合インストーラからのインストール・セットアップが完了したあと，個別インストーラを起動してインストールします。個別インストーラは，日立総合インストーラから起動します。詳細は，Collaboration - Workflow Portlet Option のドキュメントを参照してください。

3.2 Collaboration のアンインストール

ここでは，Windows Server 2003 を使用している場合のアンインストール手順について説明します。Windows Server 2003 以外の OS（Windows）を使用している場合，表示される画面の順序，画面名などが異なる場合があります。詳細は各 OS（Windows）のマニュアルを参照してください。

注意事項

アンインストール時の注意

Collaboration をアンインストールする場合は，必ず，管理者権限のあるユーザ ID でログインして実施してください。

message ディレクトリに関する注意

Groupmax Collaboration 07-20 以前または uCosminexus Collaboration 06-20 以前から，Groupmax Collaboration 07-30 以降または uCosminexus Collaboration 06-30 以降に更新インストールした環境で，Collaboration のインストールディレクトリ内に message ディレクトリを作成している場合，Collaboration のアンインストールを実行すると，message ディレクトリが削除されることがあります。

Collaboration をアンインストールする手順を次に示します。

手順

1. **Hitachi Web Server を停止します。**
2. **Collaboration を停止します。**
3. **ファイル転送サービス［Collaboration - File Sharing FTP Service］を停止します。**
   Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule がインストールされている場合，この作業は必要ありません。
4. **Windows のスタートメニューから［コントロール パネル］－［プログラムの追加と削除］をダブルクリックします。**
   ［プログラムの追加と削除］ダイアログボックスが表示されます。
5. **アンインストールする Collaboration の製品を選択します。**
6. **［変更と削除］ボタンをクリックします。**
   アンインストールするかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。
7. **［はい］ボタンをクリックします。**
   アンインストールが実行されます。
   アンインストールを中止したい場合は，アンインストールするかどうかを確認するダイアログボックスで［キャンセル］ボタンをクリックします。
   アンインストールが完了すると，アンインストール完了画面が表示されます。

参考

日立総合インストーラを使用して，Collaboration をアンインストールできます。日立総合インストーラを使用する場合は，統合インストーラを起動して，セットアップタイプ画面で「削除」を選択し，［次へ］ボタンをクリックしてください。アンインストールが開始され，すべてのコンポーネントがアンインストールされます。

4 Collaboration のシステム構築

この章では，Collaboration のシステムを構築する手順について説明します。

4.1　システム構築の手順の概要

Collaboration のシステムは，uCosminexus Application Server Standard や uCosminexus Portal Framework を基盤としています。Collaboration のシステムを構築する場合は，uCosminexus Application Server Standard や uCosminexus Portal Framework など，さまざまな製品をインストールして構築する必要があります。

ここでは，Collaboration システムを構成する各サーバの構築方法や，ポータルの標準画面の作成方法などについて説明します。

参考

Collaboration では，利用者による各種操作の記録を監査ログとして出力できます。監査ログを出力する場合には，Collaboration の監査ログ出力機能を使用します。監査ログ出力機能の詳細は，「7.　Collaboration の監査ログ出力機能」を参照してください。

参考

次の場合，Collaboration Setup Navigation を使ってシステム構築の負荷を軽減できます。

- ファイル共有サーバを新規に構築する場合
- DB モードで運用するスケジュールサーバ，およびスケジュールサーバ専用のデータベースサーバ（HiRDB）を新規に構築する場合※

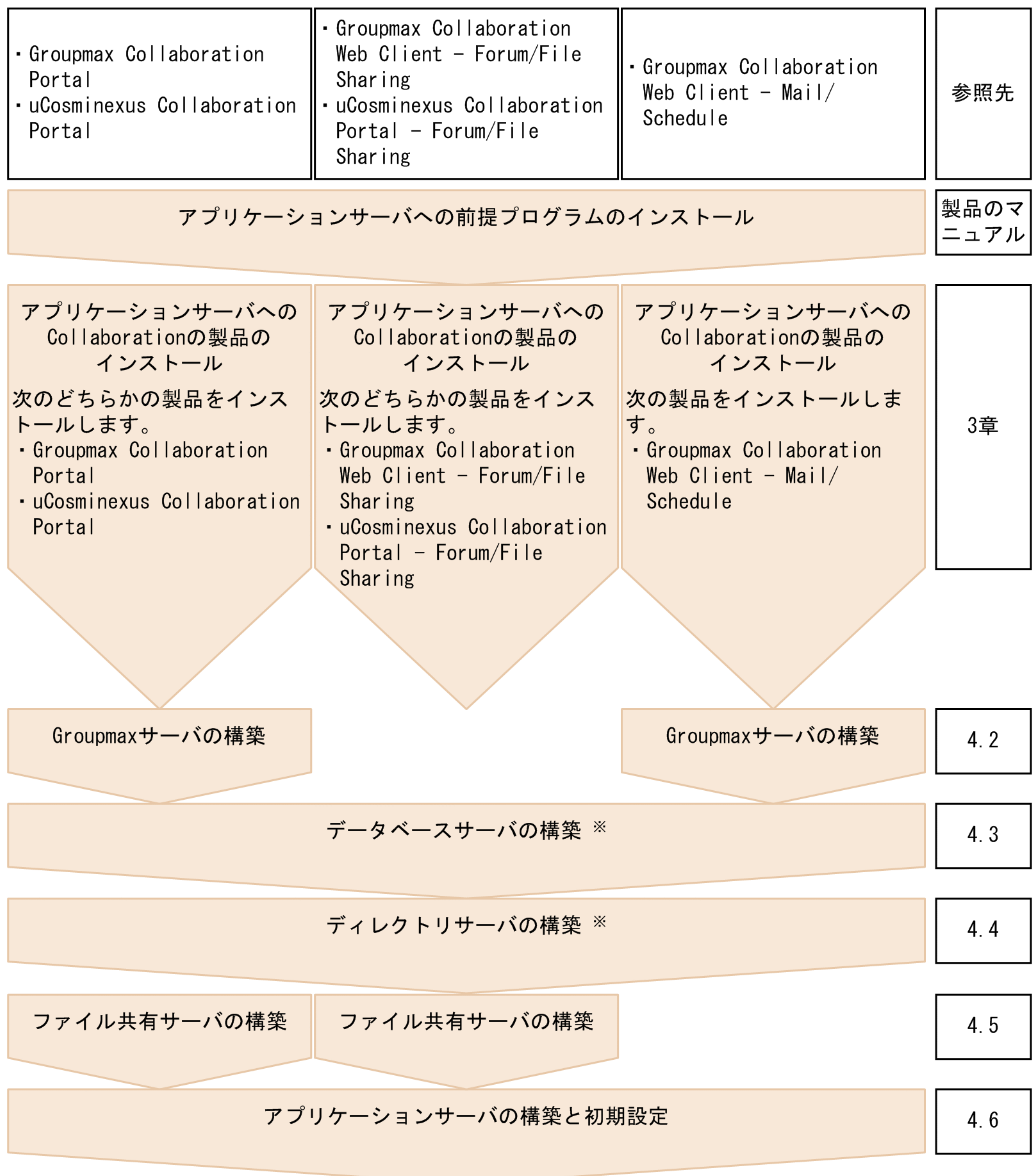
注※

構築できるデータベースサーバは，シングルサーバ構成だけです。また，構築済みのデータベースサーバへのデータベースの追加はできません。

Collaboration Setup Navigation を使ったシステム構築については，マニュアル「Collaboration　かんたんセットアップガイド」を参照してください。

Collaboration でのシステム構築手順の概要を次の図に示します。

図 4-1 Collaboration でのシステム構築手順の概要



注※
「データベースサーバの構築」および「ディレクトリサーバの構築」の作業は，順不同です。

注意事項

Collaboration のシステムを構築する場合，次の製品がアプリケーションサーバにインストール済みであることが前提となります。システム構築を開始する前に，必ず，アプリケーションサーバで次の製品のインストールを完了しておいてください。

- Collaboration の前提プログラム
  Collaboration の前提プログラムは，Groupmax Collaboration - Server または uCosminexus Collaboration - Server を構成する製品，および uCosminexus Portal Framework です。Groupmax Collaboration - Server および uCosminexus Collaboration - Server を構成する製品については，「2.2.1 Collaboration のシステム構成」を参照してください。uCosminexus Portal Framework のインストールおよび構築方法については，「4.6.3 uCosminexus Portal Framework の構築」を参照してください。
- Collaboration の製品
  詳細は，「2.1 Collaboration の製品構成」を，インストール方法については，「3. インストール・セットアップとアンインストール」を参照してください。

4.2 Groupmax サーバの構築

Groupmax の Mail，Scheduler および Workflow が利用できる環境を前提とします。Groupmax の Mail，Scheduler の構築方法については，Groupmax の各マニュアルを参照してください。Groupmax の Workflow の構築方法については，Workflow のドキュメントを参照してください。

ここでは，Collaboration で Groupmax サーバを使用する場合に必要な設定について説明します。

参考

Collaboration で利用するユーザ情報には，兼任ユーザの情報が設定できます。兼任機能を使用する場合は，Groupmax サーバの構築時に設定が必要です。兼任機能を使用する場合の設定手順については，「付録 B　兼任機能を使用する場合の設定および注意事項」を参照してください。

(1) ほかのシングルサインオンプログラムでユーザ認証を実行する場合の設定

uCosminexus Portal Framework 以外のシングルサインオンプログラムで，Collaboration - Mail からのユーザ認証（ログイン）を実行する場合は，Groupmax Mail Server の gmpublicinfo ファイル（<Groupmax Address/Mail Server インストールディレクトリ >¥nxcdir）に，TRUSTED_IP 環境変数を設定する必要があります。

TRUSTED_IP 環境変数には，Collaboration - Mail をインストールしているマシンの IP アドレスを指定してください。

TRUSTED_IP 環境変数は，次のように指定します。

記述形式

```
TRUSTED_IP=値［,値・・・］
```

指定方法

「値」には，ログインするユーザの IP アドレスを指定します。ユーザの IP アドレスは，次のどちらかの形式で指定します。

- フルアドレス形式
  フルアドレスで IP アドレスを指定します。指定した IP アドレスと一致する IP アドレスからのログイン要求を受け付けます。
  例えば，「TRUSTED_IP=192.10.12.55」と指定した場合，192.10.12.55 からのログイン要求を受け付けます。
- ネットワークアドレス形式
  IP アドレスと有効長で IP アドレスを指定します。有効長に指定できる値は 1 ～ 31 です。指定した IP アドレスと，有効長が示す長さの上位ビットのビットパ

ターンが一致する IP アドレスからのログイン要求を受け付けます。
例えば，「TRUSTED_IP=192.10.12.0/24」と指定した場合，192.10.12.0 と，上位 24 ビットのビットパターンが一致する IP アドレス（192.10.12.10 や 192.10.12.128 など）からのログイン要求を受け付けます。

なお，複数の IP アドレスを指定した場合，指定したすべての IP アドレスからのログイン要求を受け付けます。指定できる IP アドレスの個数は，最大 16 個です。

(2) ユーザ認証の方法をディレクトリ認証に切り替える設定

Collaboration では，ユーザ認証方式にディレクトリ認証を使用するため，Groupmax Address Server のユーザ認証方式を，アドレス認証からディレクトリ認証に切り替える必要があります。

Groupmax Address Server のユーザ認証方式をディレクトリ認証に切り替える方法については，マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 7　システム管理者ガイド　基本操作編」の「LDAP ディレクトリ認証」を参照してください。

Groupmax Address Server とディレクトリサーバでは，パスワードに使用できる文字種，文字数，および有効期限が異なるため，注意が必要です。

(3) 日本語および英語以外のメールを送受信する場合の設定

日本語と英語以外の言語のメールを，Groupmax のシステムの外部と送受信する場合は，Groupmax Mail - SMTP の設定が必要です。Groupmax Mail - SMTP の設定方法については，マニュアル「Groupmax Mail - SMTP Version 7　運用ガイド」の「本文 / 主題を無変換で受信したい」を参照してください。

4.3　データベースサーバの構築

ここでは，データベースサーバの構築の準備，および構築するデータベースサーバの種類と構成について説明します。

なお，運用状況に合わせて，データベース容量を定期的に見直してください。

注意事項

ここで説明するデータベースサーバは，Collaboration の各コンポーネントが使用する共通のデータベースサーバです。Groupmax Scheduler Server の DB モードでスケジュールサーバを運用する場合に使用するデータベースサーバについては，マニュアル「Groupmax Scheduler/Facilities Manager Version 7　システム管理者ガイド」を参照してください。

(1)　uCosminexus Portal Framework で使用する RD エリアの容量の見積もり

uCosminexus Portal Framework で使用する RD エリアの容量を見積もるには，表に格納する行の総数を見積もる必要があります。表に格納する行の総数の見積もり式を次の表に示します。

表 4-1　表に格納する行の総数の見積もり式

項番	テーブル名	見積もり式
1	HPTLUSER	UMX
2	FILECONTENT	（CMX ＋ PLX）× 2 ＋ 8
3	PORTLET_ARRANGE	0
4	PORTLET_ENTRY	PGX × PGP
5	PORTLET_GROUP	PGX
6	PORTAL_GROUP	CMX ＋ PMG ＋ 4
7	PORTAL_LAYOUT	CMX ＋ PLX ＋ 4
8	PORTAL_PORTLET	（PMG ＋ 4）× PMP
9	PORTAL_CREATEID	1
10	PORTAL_UPDATEID	1
11	COMPONENT_PORTLET	WCP

（凡例）

UMX：システムを利用するユーザの最大数
CMX：システム内で作成するコミュニティの最大数
PLX：追加登録するレイアウトの最大数
PGX：ポートレットグループの最大数
PGP：ポートレットグループ当たりの平均ポートレット数
PMG：追加登録するポータル管理グループの最大数

PMP：ポータル管理グループ当たりの平均ポートレット数
WCP：Web コンポーネントポートレットの最大数

ここで見積もった値を使用して，uCosminexus Portal Framework で使用する RD エリアの容量を見積もります。見積もり方法の詳細は，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」の DB の容量計算について説明している個所を参照してください。

(2) データベースサーバの構築の準備（パーソナライズ情報の見積もり）

Collaboration では，ユーザがポータル画面のレイアウトや設定内容をカスタマイズするための情報を，ユーザごとのパーソナライズ情報として，uCosminexus Portal Framework のデータベース上に登録します。

Collaboration のパーソナライズ情報を登録する領域を，uCosminexus Portal Framework のデータベース上に確保するためには，データベースサーバを構築する前に，Collaboration のパーソナライズ情報のデータベース容量を見積もる必要があります。

Collaboration のパーソナライズ情報のデータベース容量は，各コンポーネントが必要とするパーソナライズ情報のデータベース容量を合計して求めます。

各コンポーネントが必要とするパーソナライズ情報のデータベース容量を，次の表に示します。

表 4-2　各コンポーネントが必要とするパーソナライズ情報のデータベース容量

コンポーネント名		データベース容量（単位はバイト）
ナビゲーションビュー		((100 ＋（平均ポートレット名サイズ×平均登録アプリケーション数)）×平均カスタマイズワークプレース数）＋ 600
新着情報※1	新着情報との連携機能を利用する Collaboration - Bulletin board	平均利用ワークプレース数×平均新着情報掲示板アイテム数× 479
	新着情報との連携機能を利用する Collaboration - Forum	平均新着情報電子会議室アイテム数×（664 ×平均利用ワークプレース数－ 24）
	新着情報との連携機能を利用する Collaboration - Schedule（スケジュール機能）	平均利用ワークプレース数×平均新着情報スケジュールアイテム数× 420
	新着情報との連携機能を利用する Collaboration - Schedule（ToDo 機能）	平均利用ワークプレース数×平均新着情報 ToDo アイテム数× 420
	新着情報のカスタマイズ情報	300 ＋平均利用ワークプレース数× 400

コンポーネント名	データベース容量（単位はバイト）
リンク集	200 ＋（100 ＋平均表示名長＋平均説明文長＋平均 URL 長）×平均登録数
Collaboration - File Sharing ※ 2	マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」を参照してください。
Collaboration - Forum ※ 2	マニュアル「Collaboration - Forum　システム管理者ガイド」を参照してください。
Collaboration - Bulletin board	マニュアル「Collaboration - Bulletin board　システム管理者ガイド」を参照してください。
Collaboration - Mail ※ 3	マニュアル「Collaboration - Mail　システム管理者ガイド」を参照してください。
Collaboration - Schedule（スケジュール機能）※ 3	マニュアル「Collaboration - Schedule　システム管理者ガイド」を参照してください。
Collaboration - Schedule（ToDo 機能）※ 3	マニュアル「Collaboration - Schedule　システム管理者ガイド」を参照してください。
Collaboration - Directory Access	マニュアル「Collaboration - Directory Access　システム管理者ガイド」を参照してください。

注※ 1

新着情報のパーソナライズ情報のデータベース容量は，新着情報との連携機能を利用するコンポーネントのパーソナライズ情報のデータベース容量を合計して求めます。

注※ 2

Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule では，見積もる必要はありません。

注※ 3

Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing および uCosminexus Collaboration Portal - Forum/File Sharing では，見積もる必要はありません。

(3) データベースサーバの種類と構成

次の 2 種類のデータベースサーバを構築する必要があります。

Collaboration - Online Community Management，Collaboration - Mail，Collaboration - Forum および Collaboration - Bulletin board のデータベースサーバ

コミュニティ管理の情報，メールの情報，電子会議室の情報，電子掲示板の情報を格納するデータベースサーバです。Collaboration - Online Community Management，Collaboration - Mail，Collaboration - Forum および Collaboration - Bulletin board の各コンポーネントで，データベースサーバを構築します。

なお，Collaboration - Mail では，データベースを使用しない設定もできます。システムの運用に応じて，Collaboration - Mail のデータベースを構築するかどうかを選択してください。

構築方法については，マニュアル「Collaboration - Online Community Management　システム管理者ガイド」，「Collaboration - Mail　システム管理者ガイド」，「Collaboration - Forum　システム管理者ガイド」および「Collaboration -

Bulletin board　システム管理者ガイド」を参照してください。

Collaboration - File Sharing のデータベースサーバ

ファイル共有で使用するファイルの属性を格納するデータベースサーバです。
［ファイル共有］ポートレットで日本語および英語だけを使用する運用にしたい場合は，文書空間の文字コード種別に Shift-JIS を設定する必要があります。日本語および英語以外の言語も使用する運用にしたい場合は，文書空間の文字コード種別に UTF-8 を設定する必要があります。
文書空間の文字コード種別に Shift-JIS を設定する場合は，Collaboration - Online Community Management，Collaboration - Mail，Collaboration - Forum および Collaboration - Bulletin board のデータベースサーバとは別に, Collaboration - File Sharing のデータベースサーバを構築する必要があります。
文書空間の文字コード種別に UTF-8 を設定する場合は，Collaboration - Online Community Management，Collaboration - Mail，Collaboration - Forum および Collaboration - Bulletin board のデータベースサーバと同じデータベースサーバに Collaboration - File Sharing のデータベースを構築できます。
構築方法については，マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」を参照してください。

4.4　ディレクトリサーバの構築

uCosminexus Portal Framework および Collaboration - Directory Access で，ディレクトリサーバを構築します。ここでは，ディレクトリサーバに登録する情報の制限事項などについて説明します。

構築方法については，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」およびマニュアル「Collaboration - Directory Access　システム管理者ガイド」を参照してください。

参考

Collaboration で使用するユーザ情報は，ディレクトリサーバおよび Groupmax Address Server で管理します。Groupmax Address Server を使用する場合には，Groupmax Address Server とディレクトリサーバとの間で，ユーザ情報の整合性を保つ必要があります。Groupmax Collaboration - Directory Converter を使用すると，Groupmax Address Server とディレクトリサーバとの間で，Collaboration で使用するユーザ情報の整合性を保つことができます。Groupmax Collaboration - Directory Converter では，次の機能を提供しています。

- システム構築時に，Groupmax Address Server の情報をディレクトリサーバへコピーするための情報を作成します。
- Groupmax Address Server のユーザ情報の変更をディレクトリサーバへ反映するための情報を作成します。

詳細は，Groupmax Collaboration - Directory Converter のドキュメントを参照してください。
また，Collaboration で利用するユーザ情報には，兼任ユーザの情報が設定できます。兼任機能を使用する場合は，ディレクトリサーバの構築時に設定が必要です。兼任機能を使用する場合の設定手順については，「付録 B　兼任機能を使用する場合の設定および注意事項」を参照してください。

(1)　ディレクトリサーバに登録する情報についての制限事項

コンポーネントによっては，読み込める文字列の長さに制限があり，制限値を超えた文字列を読み込むとエラーが発生する場合があります。そのため，ディレクトリサーバに登録する各情報について，登録できる文字列の長さの制限値を次に示します。

ユーザの情報

項番	登録する情報	制限値
1	ユーザ ID の属性名 （hptl_clb_cum_uid）	Address Server の制限に従ってください※1。なお，大文字・小文字だけが異なる文字列は使用できません。
2	名前（日本語）の属性名 （hptl_clb_cum_name）	Address Server の制限に従って，かつ UTF-8 で 33 バイトまでにしてください※2。

項番	登録する情報	制限値
3	名前（英語）の属性名 （hptl_clb_cum_nameEn）	Address Server の制限に従って，かつ UTF-8 で 33 バイトまでにしてください。
4	日本語所属組織の属性名 （hptl_clb_cum_org）	Address Server の制限に従ってください※2。
5	英語所属組織の属性名 （hptl_clb_cum_orgEn）	Address Server の制限に従ってください。
6	日本語役職の属性名 （hptl_clb_cum_title）	Address Server の制限に従ってください。
7	英語役職の属性名 （hptl_clb_cum_titleEn）	日本語役職の属性名と同じ長さまでとしてください。
8	メールアドレスの属性名 （hptl_clb_cum_eMail）	Address Server の制限に従って，かつ UTF-8 で 255 バイトまでにしてください。なお，大文字・小文字だけが異なる文字列は使用できません。
9	電話番号の属性名 （hptl_clb_cum_telNo）	UTF-8 で 255 バイトまでにしてください。 ただし，Address Server の制限を守ることを推奨します。
10	FAX 番号の属性名 （hptl_clb_cum_faxNo）	Address Server の制限に従ってください。
11	電話番号 2 の属性名 （hptl_clb_cum_extTelNo）	Address Server の制限に従ってください。
12	FAX 番号 2 の属性名 （hptl_clb_cum_extFaxNo）	Address Server の制限に従ってください。
13	電話番号 3 の属性名 （hptl_clb_cum_extTelNo2）	Address Server の制限に従ってください。
14	電話番号 4 の属性名 （hptl_clb_cum_extTelNo3）	Address Server の制限に従ってください。
15	所属組織の DN の属性名 （hptl_clb_cum_belongOrgDn）	UTF-8 で 255 バイトまでにしてください。

注※ 1

ただし，「"」（ダブルクォート），「'」（シングルクォート），「<」（小なり），「>」（大なり），「&」（アンパサンド），半角スペース，全角スペース，タブ，制御文字は，使わないでください。

注※ 2

メンバのスケジュールを調整する画面で，メンバ名と組織名に Groupmax Scheduler Server に登録されている名前を表示する指定の場合，Groupmax Scheduler Server に登録されている 20 バイトのメンバ名，20 バイトの組織名を表示します。詳細は，マニュアル「Collaboration - Schedule　システム管理者ガイド」を参照してください。

組織の情報

項番	登録する情報	制限値
1	組織 ID を表すディレクトリサーバの設定値（hptl_clb_cum_orgId）	Address Server の制限に従ってください※1。なお，大文字・小文字だけが異なる文字列は使用できません。
2	日本語組織名の属性名（hptl_clb_cum_orgName）	Address Server の制限に従ってください※2。
3	英語組織名の属性名（hptl_clb_cum_orgNameEn）	Address Server の制限に従ってください。

注※ 1

ただし，「"」（ダブルクォート），「,」（コンマ），「¥」（円記号），「=」（等号），「#」（シャープ），「+」（プラス記号），「<」（小なり），「>」（大なり），「;」（セミコロン）は，使わないでください。

注※ 2

メンバのスケジュールを調整する画面で，メンバ名と組織名に Groupmax Scheduler Server に登録されている名前を表示する指定の場合，Groupmax Scheduler Server に登録されている 20 バイトの組織名を表示します。詳細は，マニュアル「Collaboration - Schedule　システム管理者ガイド」を参照してください。

(2) 最上位組織の指定についての制限事項

最上位組織（LDAPTOP_CLBROOT など）に上位組織を示す属性（hptlDepartmentDN）が指定されている場合は，属性を削除してください。

4.5 ファイル共有サーバの構築

Collaboration - File Sharing で，ファイル共有サーバを構築します。

構築方法については，マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」を参照してください。

参考

Collaboration で利用するユーザ情報には，兼任ユーザの情報が設定できます。兼任機能を使用する場合は，ファイル共有サーバの構築時に設定が必要です。兼任機能を使用する場合の設定手順については，「付録 B　兼任機能を使用する場合の設定および注意事項」を参照してください。

4.6　アプリケーションサーバの構築と初期設定

ここでは，アプリケーションサーバの構築方法について説明します。Collaboration でのアプリケーションサーバ構築および初期設定の流れを次に示します。

図 4-2　Collaboration でのアプリケーションサーバ構築および初期設定の流れ



参考

- Collaboration で利用するユーザ情報には，兼任ユーザの情報が設定できます。兼任機能を使用する場合は，アプリケーションサーバの構築時に設定が必要です。兼任機能を使用する場合の設定手順については，「付録 B　兼任機能を使用する場合の設定および注意事項」を参照してください。
- Collaboration では，ログイン時のユーザ認証に SiteMinder を利用できます。
SiteMinder を利用する場合は，アプリケーションサーバで設定が必要です。SiteMinder と連携する場合の設定手順については，「付録 C　SiteMinder と連携する場合の設定および注意事項」を参照してください。
- Collaboration では，ローカルからファイルを添付したり，添付ファイルをローカルへ保存（ダウンロード）したりする操作で，ドラッグ＆ドロップ機能を使用できます。ドラッグ＆ドロップ機能を使用する場合，アプリケーションサーバと Collaboration のクライアントで設定が必要です。ドラッグ＆ドロップ機能を使用する場合の設定手順については，「付録 D　ドラッグ＆ドロップ機能を使用する場合の設定および注意事項」を参照してください。
- 次の機能を Collaboration で使用する場合の注意事項については，それぞれ次の個所を参照してください。
• uCosminexus Application Server Standard のメソッドキャンセル機能
「付録 E　メソッドキャンセル機能を利用する場合の設定および注意事項」を参照してください。
• SSL アクセラレータまたはリバースプロキシ
「付録 F　SSL アクセラレータまたはリバースプロキシ使用時の注意事項」を参照してください。

4.6.1 運用ディレクトリの設定

Collaboration の運用ディレクトリに必要なディレクトリをコピーして，プロパティファイルを設定します。

手順

1. **Collaboration の各プログラムで提供される次のディレクトリ下にある「コピーするディレクトリ」に示したディレクトリを，Collaboration の運用ディレクトリ：<Collaboration インストールディレクトリ >¥clb_home にコピーします。**

   ディレクトリ

   - <Collaboration インストールディレクトリ >¥board
   - <Collaboration インストールディレクトリ >¥calendar
   - <Collaboration インストールディレクトリ >¥common
   - <Collaboration インストールディレクトリ >¥community
   - <Collaboration インストールディレクトリ >¥directoryaccess
   - <Collaboration インストールディレクトリ >¥filesharing¥Client ※1
   - <Collaboration インストールディレクトリ >¥forum ※1
   - <Collaboration インストールディレクトリ >¥mail ※2

- <Collaboration インストールディレクトリ >¥naviview
- <Collaboration インストールディレクトリ >¥schedule ※ 2
- <Collaboration インストールディレクトリ >¥todo ※ 2
- <Collaboration インストールディレクトリ >¥workflow ※ 3

注※ 1

Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule には含まれません。

注※ 2

Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing および uCosminexus Collaboration Portal - Forum/File Sharing には含まれません。

注※ 3

Collaboration のオプション製品です。

コピーするディレクトリ

- bin ディレクトリ
- conf ディレクトリ
- lib ディレクトリ

注意事項

コピーするディレクトリが，Collaboration の各プログラムで提供されるディレクトリ下にない場合はコピー不要です。ただし，コピーするディレクトリが，Collaboration の各プログラムで提供されるディレクトリ下にある場合は，すべてコピーしてください。

---

2. **コピーしたディレクトリ下の各プロパティファイルを設定します。**

hptl_clb_ccu_af_downloadplugin.properties の設定を次のように変更してください。

変更前

```
hptl_clb_ccu_af_extention.list = mlf
hptl_clb_ccu_af_extention.mlf = hptlclbcml/
jp.co.Hitachi.soft.collaboration.mail.util.mlf.MLMLFDownload
Plugin
```

変更後

```
hptl_clb_ccu_af_extention.list = mlf/bbf/bbfc
hptl_clb_ccu_af_extention.mlf = hptlclbcml/
jp.co.Hitachi.soft.collaboration.mail.util.mlf.MLMLFDownload
Plugin
hptl_clb_ccu_af_extention.bbf = hptlclbcbb/
jp.co.Hitachi.soft.collaboration.board.util.bbf.NoticeFileDo
wnloadPlugin
hptl_clb_ccu_af_extention.bbfc = hptlclbcbb/
jp.co.Hitachi.soft.collaboration.board.util.bbf.NoticeFileDo
```

```
wnloadPlugin
```

また，ファイルの添付操作や，添付ファイルの保存操作でドラッグ & ドロップ機能を使用する場合は，ご使用の製品によって hptl_clb_ccu_supportDragAndDropPortlet.properties の設定を次のように変更してください。

変更前

```
portletName = hptlclbcml
```

変更後（Groupmax Collaboration Portal，Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule または uCosminexus Collaboration Portal の場合）

```
portletName = hptlclbcml,hptlclbcbb
```

変更後（Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing または uCosminexus Collaboration Portal - Forum/File Sharing の場合）

```
portletName = hptlclbcbb
```

次のプロパティファイルの設定方法については，「4.7　プロパティファイルの設定」を参照してください。

- 共通プロパティファイル（hptl_clb_ccu.properties）
- 添付ファイル操作機能用プロパティファイル（hptl_clb_ccu_af_contenttype.properties）
- ナビゲーションビューの動作を設定するプロパティファイル（hptl_clb_cnv.properties）
- カレンダの動作を設定するプロパティファイル（hptl_clb_ccc.properties）

なお，監査ログプロパティファイルの設定については，「7.3.1　監査ログプロパティファイルの設定方法」を，そのほかのプロパティファイルの設定については，各ポートレットのマニュアルを参照してください。

すでに clb_home の下に設定済みの環境情報が存在する場合には，clb_home の内容を退避してから，clb_home へのコピーを実行してください。

4.6.2 ポータルプロジェクトの作成

<Collaboration インストールディレクトリ >¥deploy_work を <PROJECT_HOME> として，ポータルプロジェクトを作成します。ポータルプロジェクト名は deploy_work とします。

手順

1. **uCosminexus Portal Framework の次のディレクトリ下に格納されているすべてのディレクトリおよびファイルを <PROJECT_HOME>（<Collaboration インストールディレクトリ >¥deploy_work）にコピーします。**

コピー元ディレクトリ	コピー先ディレクトリ
<uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ >¥webapp	<PROJECT_HOME>：<Collaboration インストールディレクトリ >¥deploy_work
<uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ >¥templates¥designdivision	
<uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ >¥templates¥menubasetitlebar	

注意事項

上記のディレクトリのコピーでは，空のディレクトリも含めてコピーしてください。

2. **Collaboration の次のディレクトリ下に格納されているすべてのディレクトリおよびファイルを <PROJECT_HOME> にコピーします。**

コピー元ディレクトリ	コピー先ディレクトリ
<Collaboration インストールディレクトリ >¥web_home	<PROJECT_HOME>：<Collaboration インストールディレクトリ >¥deploy_work
<Collaboration インストールディレクトリ >¥template	

3. **Collaboration の次の設定ファイルを，<uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ > に上書きコピーします。**

   controllers.xml

   コピー元ファイル：<Collaboration インストールディレクトリ >¥web_home¥WEB-INF¥conf¥controllers.xml
   コピー先ディレクトリ：<uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ >¥conf

4. **作成したポータルプロジェクトのパスを次の手順で Portal Manager に設定します。**
   - Portal Manager のメニューから［ポータルプロジェクトの選択］を選択します。
   - ［プロジェクトホームの新規選択］に，<Collaboration インストールディレクトリ >¥deploy_work のフルパスを入力します。
   - ［新規選択］をクリックします。

Portal Manager の詳細は，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」を参照してください。

4.6.3 uCosminexus Portal Framework の構築

前提プログラムである uCosminexus Portal Framework を構築します。uCosminexus Portal Framework では，ログインするユーザの情報をディレクトリサーバおよびデータ

ベースサーバに設定していることが前提となります。また，認証はディレクトリサーバ，カスタマイズ情報の格納先はデータベースサーバとして構築してください。構築方法については，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」を参照してください。

注意事項

- Collaboration では，uCosminexus Portal Framework のポートレット並列実行を使用できません。ポートレット並列実行を無効（デフォルトの設定）にしてください。
- Collaboration ではウェルカム画面を提供していません。
  運用環境に応じたウェルカム画面を作成しない場合は，PortalResources.properties のウェルカム画面の表示，非表示を設定する属性（jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.WelcomeScreen.show）の値に false を設定してください。
- Collaboration で使用できる言語は，日本語と英語だけです。uCosminexus Portal Framework の「言語およびタイムゾーンの設定」では，日本語と英語以外の言語を指定しないでください。
- Collaboration では，uCosminexus Portal Framework の拡張レイアウト形式を使用できません。標準画面レイアウトの形式には，行列形式，タブ形式またはユーザ登録形式のどれかを使用してください。
- Collaboration で，uCosminexus Portal Framework のポートレットグループを定義する場合，ポートレットグループの階層は 1 階層で定義してください。2 階層以上のポートレットグループを定義しても，ポートレット選択画面ではツリー形式で表示されません。
- Collaboration で，uCosminexus Portal Framework のポートレットグループを定義する場合，一つのポートレットを複数のポートレットグループに登録しないでください。複数のポートレットグループに登録した場合，ポートレット選択画面で正しくポートレットを表示できません。
- Collaboration で，uCosminexus Portal Framework のポートレットグループのポートレットグループ英語タイトルを指定できません。ポートレットグループ英語タイトルを設定しても，ポートレット選択画面では，常にポートレットグループタイトルに指定した値が表示されます。
- 標準 API ポートレットは，Collaboration 上では動作できません。

(1) ナビゲーションビューを使用するための設定

Collaboration でナビゲーションビューを使用するために，uCosminexus Portal Framework で次の設定が必要です。

PortalResources.properties

```
<uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ
>¥conf¥PortalResources.properties
```

表 4-3 PortalResources.properties の設定

項番	プロパティ名	値	説明
1	jp.co.hitachi.soft.portal.portal.controls.NavigationPanedPortletControl.NavigationPortletName	hptlclbcnv	ナビゲーション用ポートレットの指定
2	jp.co.hitachi.soft.portal.portlets.force.tabcontroller	true	uCosminexus Portal Framework の処理で行列形式などタブ形式以外のレイアウトが常にタブ形式として表示されるように設定します。この設定がないと，表示するワークプレースが一つだけで，かつそれが非タブ形式の場合にナビゲーションビューが表示されないので Collaboration を正常な状態で利用できません。

注意事項

必要に応じて，jp.co.hitachi.soft.portal.repository.db.autoadd を設定します。

jp.co.hitachi.soft.portal.repository.db.autoadd については，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」の「PortalResources.properties の詳細」を参照してください。

記述例

```
...
#
----------------------------------------------------------------------------
-
#
#     N A V I G A T I O N   S E T T I N G
#
#
----------------------------------------------------------------------------
-
# This is the parameter which specifies the portlet displayed on the
navigation domain.
jp.co.hitachi.soft.portal.portal.controls.NavigationPanedPortletCo
ntrol.NavigationPortletName=hptlclbcnv
jp.co.hitachi.soft.portal.portlets.force.tabcontroller=true
...
```

注　記述例の太字（ボールド）は，システム構築者が変更する個所です。

(2) ［リンク集］ポートレットを使用するための設定

各コンポーネントが［リンク集］ポートレットのリンク登録機能を使用する場合，リンクを登録するリクエスト先 URI と登録情報を引き渡すインタフェースが必要になります。［リンク集］ポートレットは，リンク登録用 URL を生成するタグライブラリを提供します。

このタグライブラリは，［リンク集］ポートレットの par ファイル内に同梱して提供されます。

web.xml 内のタグライブラリに関する要素の追加の設定例

<Collaboration インストールディレクトリ >¥deploy_work¥WEB-INF¥web.xml で定義されている次の設定を変更します。

変更前

```
<taglib-location>/WEB-INF/cosmi/portlets/navigationmenu/
navimenu.tld</taglib-location>
```

変更後

```
<taglib-location>/WEB-INF/clb/tld/bookmark.tld</
taglib-location>
```

(3) パスワードの変更

パスワードを変更するには，ログインモジュールに WebPasswordLoginModule を使う必要があります。WebPasswordLoginModule 以外のログインモジュールを使用する場合は，パスワードの変更を行うことができませんのでご注意ください。詳細は，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」の「パスワード変更を設定する場合の注意点」に関する記述を参照してください。

(4) ワークプレース選択リストボックスに表示できるワークプレースの数の設定

ワークプレース選択リストボックスに表示できるワークプレースの数は，標準の設定では，最大 50 個です。

ワークプレース選択リストボックスに表示できるワークプレースの数の上限値は，uCosminexus Portal Framework の下記のプロパティで，1 ～ 500 の範囲で変更できます。

プロパティ名
　jp.co.hitachi.soft.portal.layout.default.maxdisplays

プロパティファイル名
　PortalResources.properties

詳細は，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」を参照してください。

(5) クリップボード用のウィンドウの設定

メールの宛先を指定するときなど，ユーザを指定する画面で一度に多数のユーザを登録しようとすると，「uCosminexus Portal Clipbord」という名称のクリップボード用のブラウザが起動して，処理が続行されます。

このクリップボード用のウィンドウの設定について考慮することを，次に示します。

- クリップボード用のウィンドウが起動するかどうかは，指定したユーザのサイズのバイト数が，jp.co.hitachi.soft.portal.csdc.datasize.threshold プロパティと比較されて決まります。標準の設定では 32,000 バイトであり，約 30 名を指定した場合にクリッ

プボード用のウィンドウが起動します。

- クリップボード用のウィンドウを起動したくない場合は，jp.co.hitachi.soft.portal.csdc.datasize.threshold プロパティの値を大きくすることで軽減できます。ただし，jp.co.hitachi.soft.portal.csdc.datasize.threshold プロパティの値を大きくすると，データ転送に要する処理時間が大きくなるため，64,000 バイト以下の値を指定してください。
  64,000 バイトを超える値を指定した場合，メールの宛先を指定するときなど，ユーザを指定する画面で一度に多数のユーザを登録しようとすると，「データサイズが大きいため，処理に時間がかかります。続行しますか？」という確認ダイアログが表示されることがあります。
  この確認ダイアログで［キャンセル］ボタンを選択すると，処理が中止されます。
  この確認ダイアログで［OK］ボタンを選択すると，「uCosminexus Portal Clipbord」という名称のクリップボード用のブラウザが起動して，処理が続行されます。
- クリップボード用のウィンドウは，Collaboration からログアウトするまで残りますが，処理には影響はありません。
- HTTPS 環境で Collaboration を使用している場合は，このクリップボード用のウィンドウが起動するときにセキュリティに関する次の二つの警告ダイアログが表示されます。しかし，実際にはセキュリティ上問題のある通信は発生しないため，この場合の警告ダイアログでは，必ず［はい］ボタンおよび［OK］ボタンをクリックしてください。［はい］ボタンおよび［OK］ボタンをクリックしないと，以降のデータ転送ができなくなります。
  - 「セキュリティで保護された接続から保護されていない接続へ変更しようとしています。・・・」
  - 「セキュリティで保護された接続でページを表示しようとしています。・・・」

4.6.4 J2EE サーバの設定

注意事項

J2EE サーバは，動作モードが 1.4 モードで稼働する環境が前提となります。

(1) セキュリティポリシーファイル

セキュリティポリシーファイル（server.policy）に設定を追加します。

変更後の記述中の太字部分を変更および追加してください。

なお，変更前の記述は，環境によって異なります。

変更前の記述

```
grant codeBase
"file:${ejbserver.http.root}/web/${ejbserver.serverName}/<コンテキストルート名>/-"{
  permission java.lang.RuntimePermission "accessDeclaredMembers";
```

```
  permission java.lang.RuntimePermission "modifyThread";
  permission java.lang.RuntimePermission "modifyThreadGroup";
  permission java.lang.RuntimePermission "stopThread";
  permission java.net.SocketPermission "*", "connect,resolve";
  permission java.io.FilePermission "<<ALL FILES>>",
"read,write,delete";
  permission javax.security.auth.AuthPermission
"createLoginContext.Portal";
};

grant codeBase
"file:${ejbserver.http.root}/web/${ejbserver.serverName}/<コンテキストルート名>/WEB-INF/lib/hitachiportal.jar"{
  permission java.lang.RuntimePermission "setFactory";
  permission java.lang.RuntimePermission
"accessClassInPackage.sun.misc";
  permission java.lang.reflect.ReflectPermission
"suppressAccessChecks";
  permission java.util.PropertyPermission "*", "read, write";
};
```

変更後の記述

```
grant codeBase
"file:${ejbserver.http.root}/web/${ejbserver.serverName}/<コンテキストルート名>/-"{
  permission java.lang.RuntimePermission "charsetProvider";
  permission java.lang.RuntimePermission "accessDeclaredMembers";
  permission java.lang.RuntimePermission "modifyThread";
  permission java.lang.RuntimePermission "modifyThreadGroup";
  permission java.lang.RuntimePermission "stopThread";
  permission java.net.SocketPermission "*", "connect,resolve";
  permission java.io.FilePermission "<<ALL FILES>>",
"read,write,delete";
  permission java.util.PropertyPermission "*", "read, write";
  permission javax.security.auth.AuthPermission
"createLoginContext.Portal";
};

grant codeBase
"file:<uCosminexus Portal Frameworkインストールディレクトリ>/lib/*"{
  permission java.lang.RuntimePermission "charsetProvider";
  permission java.lang.RuntimePermission "setFactory";
  permission java.lang.RuntimePermission
"accessClassInPackage.sun.misc";
  permission java.lang.RuntimePermission "loadLibrary.*";
  permission java.lang.RuntimePermission "queuePrintJob";
  permission java.lang.RuntimePermission "accessDeclaredMembers";
  permission java.lang.RuntimePermission "modifyThread";
  permission java.lang.RuntimePermission "modifyThreadGroup";
  permission java.lang.RuntimePermission "stopThread";
  permission java.net.SocketPermission "*", "connect";
  permission java.io.FilePermission "<<ALL FILES>>",
"read,write,delete";
  permission java.lang.reflect.ReflectPermission
"suppressAccessChecks";
  permission java.util.PropertyPermission "*", "read, write";
  permission javax.security.auth.AuthPermission
"createLoginContext.Portal";
};
```

注

"createLoginContext.*Portal*" の *Portal* は，uCosminexus Portal Framework で使用

するログインモジュール名です。ログインモジュールについては，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」の「ログイン情報の設定」を参照してください。

セキュリティポリシーファイルは，次のディレクトリに格納されています。

<Cosminexus インストールディレクトリ >¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥< サーバ名称 >¥

(2) VM 起動オプション

usrconf.cfg に次の設定を追加します。

add.jvm.arg=-XX:SurvivorRatio=8
add.jvm.arg=-XX:-HitachiUseExplicitMemory
add.class.path=<Collaboration インストールディレクトリ >¥clb_home¥conf

usrconf.cfg は，次のディレクトリに格納されています。

<Cosminexus インストールディレクトリ >¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥< サーバ名称 >¥

VM 起動オプションには，ファイル共有およびワークフロー（ワークフロー連携機能）で，それぞれ固有の設定があります。ファイル共有を使用する場合には，マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」を参照してください。ワークフロー（ワークフロー連携機能）を使用する場合には，Collaboration - Workflow Portlet Option のドキュメントを参照してください。

(3) VM 起動プロパティ

usrconf.properties に次のプロパティを設定します。

項番	項目名	設定値
1	ejbserver.server.j2ee.feature	1.4
2	webserver.connector.ajp13.max_threads	4 ～ 10 ※1
3	webserver.container.thread_control.queue_size	50 ～ 100 ※2
4	webserver.container.servlet.default_mapping.enabled	true
5	java.security.auth.login.config	=<Cosminexus インストールディレクトリ >/manager/config/jaas.conf ※3
6	com.cosminexus.admin.auth.config	<Cosminexus インストールディレクトリ >/manager/config/ua.conf

注※ 1

スレッド数は，4 ～ 10 を目安に設定してください。ただし，マシン性能やシステム構成によって最適値が異なるので，注意してください。

注※ 2

キューサイズは，50 ～ 100 を目安に設定してください。ただし，マシン性能やシステム構成によって最適値が異なるので，注意してください。

注※ 3

java.security.auth.login.config は，設定値の先頭が「=（半角イコール）」です。

そのためファイル中の記述では，次の記述例に示すように区切り文字の「=」と合わせて「==」という記述となります。

java.security.auth.login.config==D:/Hitachi/Cosminexus/manager/config/jaas.conf

usrconf.properties は，次のディレクトリに格納されています。

<Cosminexus インストールディレクトリ >¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥< サーバ名称 >¥

設定例を次に示します。

```
ejbserver.server.j2ee.feature=1.4
webserver.connector.ajp13.max_threads=10
webserver.container.thread_control.queue_size=100
webserver.container.servlet.default_mapping.enabled=true
java.security.auth.login.config==<Cosminexusインストールディレクトリ>/
manager/config/jaas.conf
com.cosminexus.admin.auth.config=<Cosminexusインストールディレクトリ>/
manager/config/ua.conf
```

VM 起動プロパティには，ファイル共有およびワークフロー（ワークフロー連携機能）で，それぞれ固有の設定があります。ファイル共有を使用する場合には，マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」を参照してください。ワークフロー（ワークフロー連携機能）を使用する場合には，Collaboration - Workflow Portlet Option のドキュメントを参照してください。

4.6.5　リソースアダプタの設定

J2EE サーバが起動してから，サーバ管理コマンドを使用して，リソースアダプタを設定します。リソースアダプタは，次のコンポーネントごとに作成します。

- uCosminexus Portal Framework
- Collaboration - Online Community Management
- Collaboration - Forum
- Collaboration - Bulletin board
- Collaboration - Mail

表示名やそのほかの設定値の詳細は，各コンポーネントのマニュアルを参照してください。操作の詳細は，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 アプリケーション設定操作ガイド」を参照してください。

(1)　HiRDB 環境変数グループの登録

リソースアダプタごとに，HiRDB 環境変数グループを登録します。環境変数グループ識

別子，環境変数グループ名やそのほかの設定値の詳細は，各コンポーネントのマニュアルを参照してください。HiRDB 環境変数グループの登録方法については，マニュアル「スケーラブルデータベースサーバ　HiRDB Version 8 UAP 開発ガイド」を参照してください。

(2) データベースと接続するための設定

Collaboration では，uCosminexus Application Server Standard の DB Connector を利用して，データベースサーバとのコネクションを確立します。

DB Connector を設定する手順を次に示します。

手順

1. **DB Connector をインポートして，任意のフォルダにコピーします。**
   DB Connector の種類は「DBConnector_DABJ_CP.rar」です。
2. **DB Connector の Connector 属性ファイルを取得し，任意のフォルダにコピーします。**
3. **Connector 属性ファイルをテキストエディタで編集します。**
   編集内容の詳細は，各コンポーネントのマニュアルを参照してください。
4. **Connector 属性ファイルに設定した値を DB Connector に反映します。**
5. **DB Connector をデプロイして起動します。**
6. **DB Connector の接続テストを実施して，設定した情報が正しいかどうかを検証します。**

(3) Collaboration - Forum，Collaboration - Bulletin board，および Collaboration - Mail でコネクションを共有する場合の設定

データベースサーバが 1 台の場合，コンポーネント間でコネクションを共有できます。コネクションを共有できるコンポーネントを次に示します。

- Collaboration - Forum
- Collaboration - Bulletin board
- Collaboration - Mail

なお，コンポーネントでコネクションを共有する場合，Connector 属性ファイルに設定する MinPoolSize，および MaxPoolSize の値は，各コンポーネントの中で設定値が最も大きいものに合わせてください。

(4) DB コネクションのタイムアウト

DB コネクションのタイムアウトの設計や見積もりは，コンポーネントごとに異なります。詳細は，各コンポーネントのシステム管理者ガイドを参照してください。

4.6.6 ポートレットのデプロイ

各プログラムで提供されるすべての par ファイルをポータルプロジェクトにデプロイします。設定方法の詳細は，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」を参照してください。

par ファイルは，次のディレクトリに格納されています。

- <Collaboration インストールディレクトリ >¥board¥portlets
- <Collaboration インストールディレクトリ >¥calendar¥portlets
- <Collaboration インストールディレクトリ >¥common¥portlets
- <Collaboration インストールディレクトリ >¥community¥portlets
- <Collaboration インストールディレクトリ >¥directoryaccess¥portlets
- <Collaboration インストールディレクトリ >¥filesharing¥Client¥portlets ※ 1
- <Collaboration インストールディレクトリ >¥forum¥portlets ※ 1
- <Collaboration インストールディレクトリ >¥mail¥portlets ※ 2
- <Collaboration インストールディレクトリ >¥naviview¥portlets
- <Collaboration インストールディレクトリ >¥schedule¥portlets ※ 2
- <Collaboration インストールディレクトリ >¥todo¥portlets ※ 2
- <Collaboration インストールディレクトリ >¥workflow¥portlets ※ 3

注※ 1

Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule には含まれません。

注※ 2

Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing または uCosminexus Collaboration Portal - Forum/File Sharing には含まれません。

注※ 3

Collaboration のオプション製品です。

uCosminexus Portal Framework に同梱されている Information View を組み込むことはできません。

また，<PROJECT_HOME>¥WEB-INF¥web.xml に，データソースの設定を追加します。次のように，既存の </resource-ref> タグと </web-app> タグの間に，データソースの設定を追加してください。

変更前

```
<web-app>
    :
    :
      <resource-ref>
                <res-ref-name>jdbc/CCMDB</res-ref-name>
                <res-type>javax.sql.DataSource</res-type>
                <res-auth>Container</res-auth>
      </resource-ref>
</web-app>
```

変更後

```
<web-app>
    :
    :
      <resource-ref>
                <res-ref-name>jdbc/CCMDB</res-ref-name>
                <res-type>javax.sql.DataSource</res-type>
                <res-auth>Container</res-auth>
      </resource-ref>
      <resource-ref>
                <res-ref-name>jdbc/myHiRDB</res-ref-name>
                <res-type>javax.sql.DataSource</res-type>          ← 追加個所
                <res-auth>Container</res-auth>
                <res-sharing-scope>Shareable</res-sharing-scope>
      </resource-ref>
</web-app>
```

jdbc/myHiRDB は，uCosminexus Portal Framework のデータベースに接続するための JNDI 名です。環境に合わせて変更してください。

4.6.7 ポートレットの設定の変更

各ポートレットの設定を必要に応じて変更します。なお，ここで説明していないポートレットの設定の変更方法については，各コンポーネントのマニュアルを参照してください。

(1) ナビゲーションビューの［ワークプレース］タブに表示するアプリケーションのデフォルト設定

表示アプリケーションのデフォルト設定

ナビゲーションビューに表示するアプリケーションのデフォルト（＝ユーザがカスタマイズする前）の表示順を必要に応じて設定できます。設定はシステムで一つです。

記述例

設定ファイル：<Collaborationインストールディレクトリ

```
>¥clb_home¥conf¥hptl_clb_cnv_portlet_order.xml
```

```
<?xml version="1.0"?>
<portlet-order xmlns="http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/
collaboration/naviview/portlet-order">
   <portlet-name>portletName1</portlet-name>
   <portlet-name>portletName2</portlet-name>
   <portlet-name>portletName3</portlet-name>
</portlet-order>
```

ルート要素 <portlet-order> の子要素として，表示順に <portlet-name> 要素を記述します。なお，ここに記述する各ポートレット名は，uCosminexus Portal Framework の PortalManager の［ポートレットの設定］画面で確認できます。

出荷時の設定には，次に示す順で Collaboration 標準アプリケーションを配置します。

- 新着情報
- メール
- スケジュール
- ToDo
- 電子会議室
- ファイル共有
- 電子掲示板
- リンク集

なお，各ユーザの画面では，ここで設定したポートレットがすべて表示されるわけではありません。次に示すポートレットは表示されません。

- デプロイされていないポートレット
- アクセス権のないポートレット
- ナビゲーションメニュー非対応※のポートレット

注※

詳細は，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　ポートレット開発ガイド」を参照してください。

(2) ［新着情報］ポートレットで設定できる機能

［新着情報］ポートレットで設定できる機能を次の表に示します。これらは，Portal Manager に設定します。

表 4-4 ［新着情報］ポートレットで設定できる機能

項番	機能	項目名	設定値	デフォルト値	最小値	最大値
1	キャッシング時間	hptl.inbox.cache.time	キャッシング時間を分単位で入力します（半角数字）。	30	0	360

項番	機能	項目名	設定値	デフォルト値	最小値	最大値
2	ポーリング機能の ON/OFF	hptl.inbox.polling	• true：ポーリング ON • false：ポーリング OFF	true	—	—
3	ポーリング時間※ 1	hptl.inbox.polling.time	ポーリング時間を分単位で入力します（半角数字）。	30	0	360
4	アイテム登録数※ 2	hptl.inbox.max.item	登録できるアイテム数を設定します。	10	1	200
5	デフォルトの新着情報の自動取得機能の ON/OFF	hptl.inbox.default.polling	• true：新着情報の自動取得 ON • false：新着情報の自動取得 OFF	true	—	—
6	デフォルトの一覧表示の高さ	hptl.inbox.default.percents.list	デフォルトの一覧表示の高さを入力します（%）。	30	1	99
7	デフォルトのアイテム一覧の横幅	hptl.inbox.default.percents.itemlist	デフォルトのアイテム一覧の横幅を入力します（%）。	30	1	99
8	デフォルトアイテムのポートレット名※ 3	hptl.inbox.default.item.portlets	デフォルトアイテムのポートレット名を入力します。ポートレット名には，登録済みのポートレットを指定してください。	—	—	—
9	デフォルトアイテムの名前※ 3	hptl.inbox.default.item.names	表示するデフォルトアイテム名を入力します。デフォルトアイテムごとに 32 文字以内で指定します。	—	—	—
10	デフォルトの自動更新時一覧表更新の有無	hptl.inbox.default.polling.updatelist	• true：一覧表示を更新します。 • false：一覧表示を更新しません。	true	—	—
11	更新間隔の設定の許可 / 禁止	hptl.inbox.polling.userdefine.enabled	ユーザが更新間隔を設定することを許可するかどうか設定します。 • true：許可 • false：禁止	false	—	—

項番	機能	項目名	設定値	デフォルト値	最小値	最大値
12	更新間隔の最小値	hptl.inbox.polling.userdefine.mintime	ユーザが更新間隔を設定する場合に設定できる最小値を設定します。	30	1	360
13	アイテムの追加と削除画面の設定	hptl.inbox.adddel.alwaysmaximum	アイテムの追加と削除画面を常に最大化モードで開くかどうか設定します。 • true：最大化モードで開きます。 • false：新規ウィンドウで開きます。	false	－	－
14	デフォルトのダブルクリック間隔値	hptl.inbox.doubleclick.timeout	ダブルクリックの間隔をミリ秒単位で入力します。	300	1	2000
15	新着一覧画面に表示する最大件数	hptl.inbox.list.maxcount	デフォルトの新着一覧画面に表示する最大件数を入力します。	500	1	※4
16	新着一覧画面に表示する1ページ当たりの件数	hptl.inbox.list.pagecount	デフォルトの新着一覧画面に表示する1ページ当たりの件数を入力します。	100	1	500
17	新着情報一覧の最大表示件数の上限値	hptl.inbox.list.maxcount.maximum	新着一覧に表示できる最大件数を設定する場合の最大値を入力します。	1000	1	9999 ※5
18	キャッシュ情報の保持方式の切り替え	hptl.clb.inbox.cache.mode.single	キャッシュ情報の保持方式を設定します。 • true：1レイアウト分だけ保持します（推奨）※6。 • false：レイアウトごとに保持します。	true	－	－

（凡例）

－：該当する値はありません。

注※1

ポーリング時間は，システムの性能に影響を与えます。

注※ 2
　システムの最大アイテム登録数は，キャッシュ機能に影響します。

注※ 3
　デフォルトアイテムを複数指定する場合は，コンマ（,）で区切って指定します。デフォルトアイテムのポートレット名と名前の数は，同じになるようにしてください。

注※ 4
　hptl.inbox.list.maxcount.maximum で設定された値となります。

注※ 5
　新着情報一覧の最大表示件数は，最大 4 桁入力のためです。

注※ 6
　「true」を設定した場合の注意事項については，「(a) キャッシュ情報を 1 レイアウト分だけ保持するように設定した場合の注意事項」を参照してください。

(a) キャッシュ情報を 1 レイアウト分だけ保持するように設定した場合の注意事項

キャッシュ情報を 1 レイアウト分だけ保持するように設定した場合，レイアウトを切り替えるたびに新着情報を取得するため，［新着情報］ポートレットでの性能が劣化することがあります。

また，キャッシュ情報を 1 レイアウト分だけ保持するように設定した場合，複数のポートレット（複数のレイアウト）で新着情報を操作すると，別のポートレットを操作したときにキャッシュ情報がクリアされていることがあります。その場合は，次のメッセージが表示されます。

日本語のメッセージ
　ほかの画面で新着情報を使用中です。しばらくしてからもう一度操作してください。

英語のメッセージ
　Data for the Information View is being used in another window. Try again later.

(3) Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 使用時の注意事項

コミュニティ管理のアプリケーションの登録・削除（set_application）コマンドを実行するときは，サンプルファイルの <Collaboration インストールディレクトリ>¥community¥command¥sys¥set_application.cfg.sam ではなく，<Collaboration インストールディレクトリ>¥mail_schedule¥community¥command¥sys¥set_application.cfg を指定します。set_application.cfg の内容は変更しないでください。

4.6.8　ポータルプロジェクトの組み込み

次の手順で，ポータルプロジェクトを J2EE サーバに組み込みます。詳細は，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」およびマニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 アプリケーション設定操作ガイド」を参照してください。

手順

1. **ポータルプロジェクトの WAR ファイルを作成します。**
   <uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ >¥bin 下の makewar.bat を次の形式で実行して，WAR ファイルを作成します。
   makewar < 作成する WAR ファイル > <Collaboration インストールディレクトリ >¥deploy_work
2. **J2EE サーバを起動します。**
3. **手順 1. で作成した WAR ファイルをインポートします。**
4. **J2EE アプリケーションを新規作成して，アプリケーション統合属性ファイルを取得します。**
   J2EE アプリケーションを新規作成して，インポートした WAR ファイルを追加します。J2EE アプリケーションを新規作成したら，アプリケーション統合属性ファイルを取得します。
5. **J2EE アプリケーションの属性を編集します。**
   アプリケーション統合属性ファイルをテキストエディタで編集します。編集する項目名と設定値を次に示します。

項目名	設定値
<linked-to> タグ	リソースアダプタ名
<context-root> タグ	コンテキストルート※
<display-name xml:lang="en">jetspeed</display-name> 下の <load-on-startup> タグ	-1

注※　任意の文字列を指定します。

6. **手順 5. で設定した項目を J2EE アプリケーションの属性に反映します。**
7. **J2EE アプリケーションを開始します。**

4.6.9 Web サーバの設定

Web サーバでは次の設定を実施します。

- 静的コンテンツを Web サーバから直接取得するための設定
- アクセス数の増加に対応するための設定
- SSL を無効にするための設定（Windows Vista で Collaboration - File Sharing の WebDAV 連携機能を利用する場合）

(1) 静的コンテンツを Web サーバから直接取得するための設定

HTML や画像ファイルなどの静的なコンテンツを，アプリケーションサーバを経由して取得するとレスポンスタイムが低下します。これを回避するには，次の手順で，静的コ

ンテンツを Web サーバから直接取得するようにバイパスを設定してください。

手順

1. **静的コンテンツをコピーします。**
   xcopy コマンドを実行して，<Collaboration インストールディレクトリ>¥deploy_work から静的コンテンツだけを抜き出し，<Collaboration インストールディレクトリ>¥clb_home¥public にコピーします。
   コピーする静的コンテンツのファイルの拡張子は，「.gif」，「.png」，「.html」，「.htm」，「.js」，「.css」です。
   Collaboration を d:¥hitachi¥collaboration にインストールした場合，次のようにコマンドを実行します（Collaboration をインストールしたディレクトリに合わせて，コマンドを変更して実行してください）。
   ```
   xcopy d:¥hitachi¥collaboration¥deploy_work¥*.gif
   d:¥hitachi¥collaboration¥clb_home¥public /S /Q /I /K /Y /R
   xcopy d:¥hitachi¥collaboration¥deploy_work¥*.png
   d:¥hitachi¥collaboration¥clb_home¥public /S /Q /I /K /Y /R
   xcopy d:¥hitachi¥collaboration¥deploy_work¥*.html
   d:¥hitachi¥collaboration¥clb_home¥public /S /Q /I /K /Y /R
   xcopy d:¥hitachi¥collaboration¥deploy_work¥*.htm
   d:¥hitachi¥collaboration¥clb_home¥public /S /Q /I /K /Y /R
   xcopy d:¥hitachi¥collaboration¥deploy_work¥*.js
   d:¥hitachi¥collaboration¥clb_home¥public /S /Q /I /K /Y /R
   xcopy d:¥hitachi¥collaboration¥deploy_work¥*.css
   d:¥hitachi¥collaboration¥clb_home¥public /S /Q /I /K /Y /R
   ```
   なお，一度静的コンテンツをコピーしても，<PROJECT_HOME>（<Collaboration インストールディレクトリ>¥deploy_work）の内容を変更した場合は，再度この手順を実行し変更された静的コンテンツを反映する必要があります。

2. **静的コンテンツに対応する仮想ディレクトリを作成します。**
   エイリアスにコンテキストルート名を，接続先に静的コンテンツをコピーしたディレクトリ（<Collaboration インストールディレクトリ>¥clb_home¥public）を指定して，仮想ディレクトリを作成します。
   Collaboration のインストールディレクトリが d:¥hitachi¥collaboration，コンテキストルートが /Portal，Web サーバが Hitachi Web Server の場合，httpsd.conf に次のように設定します。
   ```
   Alias /Portal "D:/Hitachi/Collaboration/clb_home/public"
   ```

3. **次の URL パターンをワーカーに振り分けるように，リダイレクタを設定します。**
   ```
   /<コンテキストルート>/portal/*
   /<コンテキストルート>/*.jsp
   /<コンテキストルート>/js/csdc.js
   ```
   設定例
   コンテキストルートが Portal，ワーカー名が worker1，Web サーバが Hitachi Web Server の場合，mod_jk.conf には次のように設定します。
   JkMount /Portal/portal/* worker1
   JkMount /Portal/*.jsp worker1
   JkMount /Portal/js/csdc.js worker1

Cosminexus のインストールディレクトリが D:¥Hitachi¥Cosminexus の場合，httpsd.conf に次のように設定します。
Include "D:/Hitachi/Cosminexus/CC/web/redirector/mod_jk.conf"

4. **Hitachi Web Server を再起動します。**

(2) アクセス数の増加に対応するための設定

利用者のアクセス数が多いと，次のような問題が発生します。

- サーバスレッド数が少ないと，レスポンスが低下します。
- ログの出力量が増え，ディスク使用量が増加します。

これらの問題を回避するには，Web サーバで，サーバスレッド数のディレクティブや，ログに関するディレクティブの設定値を変更します。Cosminexus のインストールディレクトリが d:¥hitachi¥cosminexus，Web サーバが Hitachi Web Server の場合の設定例を次に示します。

手順

1. **httpsd.conf で，次のディレクティブを設定します。**
   - ThreadsPerChild および KeepAliveTimeout ディレクティブ
     サーバスレッド数を増やし，KeepAlive 接続時の要求待ち時間を減らして，アクセス数が多い場合の処理量を変える設定をします。
   - ErrorLog，LogFormat および CustomLog ディレクティブ
     アクセスログやエラーログをログファイルサイズで分割して，複数のファイルにラップアラウンドして出力するように設定します。
   - LoadModule，<Directory>，ExpiresActive および ExpiresByType ディレクティブ
     静的コンテンツに対して有効期限を設定します。静的コンテンツが有効期限内の場合，クライアントからの静的コンテンツに対するリクエストは，Web ブラウザのキャッシュを利用するようになり，Web サーバへのリクエスト数が減少します。

   設定例

```
ThreadsPerChild 100
KeepAliveTimeout 5
ErrorLog "|¥"D:/Hitachi/Cosminexus/httpsd/sbin/rotatelogs2.exe
D:/Hitachi/Cosminexus/httpsd/logs/errorlog 102400 5¥""
LogFormat "%h %l %u %t %T ¥"%r¥" %>s %b" common
CustomLog "|¥"D:/Hitachi/Cosminexus/httpsd/sbin/rotatelogs2.exe
D:/Hitachi/Cosminexus/httpsd/logs/access 51200 5¥"" common
LoadModule expires_module modules/mod_expires.so
<Directory "D:/Hitachi/Collaboration/clb_home/public">
        ExpiresActive On
        ExpiresByType text/html A3600
        ExpiresByType image/gif A3600
        ExpiresByType image/png A3600
        ExpiresByType application/x-javascript A3600
        ExpiresByType text/css A3600
</Directory>
```

   各ディレクティブについては，マニュアル「Hitachi Web Server」を参照してくださ

い。

注意事項

次の場合，静的コンテンツが有効期限内の間は，移行前の古いファイルがキャッシュから利用されます。

- Collaboration を移行した場合
- Collaboration の移行後に障害などが発生して，移行前に戻した場合

このため，静的コンテンツの有効期限は，長過ぎないように，性能などを考慮して適切な値を設定してください。

2. **Hitachi Web Server を再起動します。**

(3) SSL を無効にするための設定（Windows Vista で Collaboration - File Sharing の WebDAV 連携機能を利用する場合）

Windows Vista で Collaboration - File Sharing の WebDAV 連携機能を利用する場合には，Web サーバで SSL を無効にしてください。

Windows Vista の場合，Web フォルダを作成したあとに，Collaboration - File Sharing の WebDAV 連携機能を使用します。この際，Web フォルダは，HTTP プロトコルを使用して作成します。このため，Web サーバで HTTPS プロトコルではなく，HTTP プロトコルを使用するように，SSL を無効にする必要があります。Web サーバが Hitachi Web Server の場合の設定例を次に示します。

手順

1. **httpsd.conf で，アプリケーションサーバと WebDAV 連携機能が使用するポート番号に，SSLDisable ディレクティブを設定します。**
   SSLDisable ディレクティブについては，マニュアル「Hitachi Web Server」を参照してください。
2. **Hitachi Web Server を再起動します。**

なお，Collaboration - File Sharing の WebDAV 連携機能については，マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」を参照してください。また，Web フォルダの作成方法については，マニュアル「Collaboration - File Sharing　ユーザーズガイド」を参照してください。

4.6.10 Web ブラウザでの表示確認

Web ブラウザで次の URL を指定します。Collaboration のポータル画面が表示できることを確認します。

http://< ホスト名 >/< コンテキストルート名 >/index.jsp

4.6.11 ポータルの標準画面の作成

ポータルの標準画面を作成します。

ポータルの標準画面を作成するとき，uCosminexus Portal Framework の運用管理ポートレットのレイアウト編集画面でホーム画面のレイアウトタイトルを「マイワークプレース」に設定します。英語タイトルには，「My Workplace」を設定します。

注意事項

管理者用レイアウトカスタマイズ画面上は設定したとおりの文字列「マイワークプレース」が表示されています。ナビゲーションビューやレイアウト編集画面の表示とは異なるので，注意してください。

ポータルの標準画面の作成および運用管理ポートレットの詳細は，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　運用管理者ガイド」を参照してください。

4.6.12 ［ファイル共有設定］ポートレットの表示設定

［ファイル共有設定］ポートレットをファイル共有のシステム管理者だけに表示されるように uCosminexus Portal Framework が提供している運用管理ポートレットで設定します。運用管理ポートレットの詳細は，マニュアル「uCosminexus Portal Framework 運用管理者ガイド」を参照してください。

ファイル共有設定では Collaboration - File Sharing が管理するファイルやフォルダの情報は設定できません。ベースパス情報および最大許容サイズ情報が設定できます。

運用管理ポートレットを使った［ファイル共有設定］ポートレットの表示設定手順を次に示します。

(1) ポータル管理グループの登録

ファイル共有のシステム管理者をポータル管理グループとして登録します。ポータル管理グループのタイトルは任意で指定してください。

(2) ポートレットのアクセス権の設定

「(1)　ポータル管理グループの登録」で追加したポータル管理グループだけに［ファイル共有設定］ポートレットが表示されるようにアクセス権を設定します。

4.7 プロパティファイルの設定

ここでは，次に示すプロパティファイルの設定方法について説明します。

- 共通プロパティファイル（hptl_clb_ccu.properties）
- 添付ファイル操作機能用プロパティファイル
（hptl_clb_ccu_af_contenttype.properties）
- ナビゲーションビューの動作を設定するプロパティファイル
（hptl_clb_cnv.properties）
- カレンダの動作を設定するプロパティファイル（hptl_clb_ccc.properties）

なお，監査ログプロパティファイルの設定については，「7.3.1　監査ログプロパティファイルの設定方法」を，そのほかのプロパティファイルの設定については，各ポートレットのマニュアルを参照してください。

プロパティファイルは，「4.6.1　運用ディレクトリの設定」で <Collaboration インストールディレクトリ >¥clb_home¥conf にコピーされています。

注意事項

Collaboration が提供する定義ファイル，制御ファイルなどのテキストファイルには，文字コードとして UTF-8 を前提とするものがあります。UTF-8 を前提とするテキストファイルを編集して保存する場合の注意事項については，「4.8　システム構築時の注意事項」を参照してください。

4.7.1 プロパティファイルの記述規則および使用上の注意事項

ここでは，次に示すプロパティファイルで共通の記述規則および使用上の注意事項について説明します。

- 共通プロパティファイル（hptl_clb_ccu.properties）
- 添付ファイル操作機能用プロパティファイル
（hptl_clb_ccu_af_contenttype.properties）
- ナビゲーションビューの動作を設定するプロパティファイル
（hptl_clb_cnv.properties）
- カレンダの動作を設定するプロパティファイル（hptl_clb_ccc.properties）

● 記述規則

プロパティファイルで共通の記述規則を次に示します。

- プロパティ名と値は，=（半角イコール）でつなぎます。
- 改行までが値になります。

- ファイル内の先頭が「#」で始まる行は，コメント行として扱います。
- 行頭および行末には，空白を指定しないでください。
- 値の後ろには，空白，コメントなどの文字列を指定しないでください。指定した場合，不正な値と解釈されます。
- プロパティの値に指定した文字列の大文字，小文字は区別されます。

● 使用上の注意事項

プロパティファイルで共通の使用上の注意事項を次に示します。

- プロパティファイルのフォーマットは，Java の Properties クラスの仕様に従ってください。
- 日本語を含む値を指定する場合は，uCosminexus Application Server Standard 付属の JDK コマンド（native2ascii コマンド）によってファイルを変換する必要があります。
- プロパティファイルは，uCosminexus Portal Framework の起動時に一度だけ参照されます。ポートレットの動作中にプロパティファイルを編集した場合は，設定内容をポートレットに反映するために uCosminexus Portal Framework を再起動してください。
- ログファイルの出力先ディレクトリが正しいか必ず確認してください。

4.7.2 共通プロパティファイルの設定方法

ここでは，共通プロパティファイル（hptl_clb_ccu.properties）の設定方法について説明します。共通プロパティファイルの記述規則および使用上の注意事項については，「4.7.1 プロパティファイルの記述規則および使用上の注意事項」を参照してください。

(1) 共通プロパティファイルの設定内容

共通プロパティファイルのプロパティを次の表に示します。

表 4-5 共通プロパティファイルのプロパティ

項番	プロパティ項目	プロパティ名	初期設定値	デフォルト値	必須 / 任意
1	ログファイルの出力先ディレクトリ	hptl_clb_ccu_logPath	C:¥¥Program Files¥¥Hitachi¥¥Collaboration¥¥clb_home¥¥log	－	必須
2	ログのトレースレベル	hptl_clb_ccu_logLevel	20	20	任意
3	ログファイルの面数	hptl_clb_ccu_logFileNum	8	8	任意
4	ログファイルのサイズ	hptl_clb_ccu_logfileSize	2097152	2097152	任意

項番	プロパティ項目	プロパティ名	初期設定値	デフォルト値	必須 / 任意
5	デフォルト言語種別	hptl_clb_ccu_LangType	ja	ja	任意
6	デフォルトタイムゾーン	hptl_clb_ccu_TimeZone	GMT+09:00	GMT+09:00	任意
7	セッション維持間隔	hptl_clb_ccu_session_interval	900	900	任意
8	ダブルクリック間隔タイムアウト	hptl_clb_ccu_doubleclick_timeout	300	300	任意
9	ログエンコード	hptl_clb_ccu_log_encoding	Windows-31J	Windows-31J	任意
10	表示フォント指定	hptl_clb_ccu_content_fonttype	ja,en	ja,en	任意
11	表示フォントデフォルト設定	hptl_clb_ccu_font_default	resource	resource	任意
12	強制表示デフォルト設定	hptl_clb_ccu_compulsory_display	1	1	任意
13	日付フォーマットデフォルト設定	hptl_clb_ccu_format_date_default	resource	resource	任意
14	添付ファイルダウンロードモード	hptl_clb_ccu_af_download_encoding_mode	1	1	任意
15	［ホーム］ボタン表示設定	hptl_clb_ccu_td_disp_home	On	On	任意
16	［ログイン画面へ］ボタン表示設定	hptl_clb_ccu_td_disp_login	On	On	任意
17	［パスワード変更］ボタン表示設定	hptl_clb_ccu_td_disp_password	On	On	任意
18	ファイル添付時のドラッグ＆ドロップ機能の使用	hptl_clb_ccu_useDragAndDropUpload	Off	Off	任意
19	添付ファイル保存時のドラッグ＆ドロップ機能の使用	hptl_clb_ccu_useDragAndDropDownload	Off	Off	任意
20	［環境設定］画面での添付ファイルのドラッグ＆ドロップ機能のデフォルト設定	hptl_clb_ccu_setDragAndDropDefault	On	On	任意
21	［環境設定］画面での ActiveX コントロールのインストーラのダウンロード設定	hptl_clb_ccu_dragAndDropDownload	Off	Off	任意

項番	プロパティ項目	プロパティ名	初期設定値	デフォルト値	必須 / 任意
22	［環境設定］画面からダウンロードする ActiveX コントロールのインストーラの格納先 URL	hptl_clb_ccu_dragAndDropInstallerURL	―	―	任意 ※
23	ドラッグ＆ドロップ機能で出力するログファイルのサイズ	hptl_clb_ccu_DADLogFileSize	1024	1024	任意
24	ドラッグ＆ドロップ機能で出力するログファイルの面数	hptl_clb_ccu_DADLogFileNum	4	4	任意
25	ドラッグ＆ドロップ機能で出力するログのトレースレベル	hptl_clb_ccu_DADLogLevel	20	20	任意
26	ドラッグ＆ドロップのファイル添付操作で一度に添付できるファイルの最大数	hptl_clb_ccu_DAD_maxAttachFileNum	5	5	任意
27	ドラッグ＆ドロップのファイル添付操作で一度に添付できるファイルの合計サイズの最大値	hptl_clb_ccu_DAD_maxAttachFileSize	100	100	任意
28	［ファイルダウンロード］画面および［添付ファイルダウンロード］画面の表示方法	hptl_clb_ccu_file_download_window	multiple	multiple	任意

（凡例）

―：プロパティファイルに値が設定されないことを示します。

必須：省略できません。必ず指定してください。

任意：省略できます。省略した場合はデフォルト値が設定されます。

注

初期設定値およびデフォルト値の意味を次に示します。

初期設定値：システムのインストール時に設定される値です。

デフォルト値：プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を設定した場合に設定される値です。

注※

hptl_clb_ccu_dragAndDropDownload プロパティに「On」を指定した場合，hptl_clb_ccu_dragAndDropInstallerURL プロパティは省略できません。必ず指定してください。

各プロパティの詳細について説明します。

(a) hptl_clb_ccu_logPath

ログファイルの出力先ディレクトリを指定します。区切り文字には，「¥¥」または「/」を使用してください。

(b) hptl_clb_ccu_logLevel

ログのトレースレベルを指定します。値は，「-1」，「10」，「20」，「30」または「40」のどれかで指定してください。トレースレベルの出力内容については，「6.2.2(2) uCosminexus Portal Framework 以外のトレースファイルの場合」を参照してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（20）が設定されます。

(c) hptl_clb_ccu_logFileNum

ログファイルの面数を指定します。値は，1 ～ 16 の整数で指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（8）が設定されます。

(d) hptl_clb_ccu_logfileSize

ログファイルのサイズをバイト単位で指定します。値は，4,096 ～ 2,147,483,647 で指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（2097152）が設定されます。

(e) hptl_clb_ccu_LangType

デフォルト言語種別を指定します。「ja」固定です。

(f) hptl_clb_ccu_TimeZone

デフォルトタイムゾーンを指定します。「GMT+09:00」固定です。

(g) hptl_clb_ccu_session_interval

セッションを維持するためにサーバにアクセスする間隔を秒単位で指定します。値は，セッションタイムアウトの半分の値を目安として，0 ～ 2,147,483,647 で指定してください。このプロパティに短い値（0，1 など）を指定するとサーバに負荷が掛かりますので，注意して指定してください。このプロパティは，新しいウィンドウで画面を表示した場合には有効になりません。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（900）が設定されます。

(h) hptl_clb_ccu_doubleclick_timeout

マウスのダブルクリック間隔のタイムアウト値をミリ単位で指定します。値は，1 ～ 2,000 の整数で指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（300）が設定されます。

(i) hptl_clb_ccu_log_encoding

ログのエンコードを指定します。「Windows-31J」固定です。

(j) hptl_clb_ccu_content_fonttype

表示フォントに指定できるフォント（フォント種別 ID）を指定します。「ja,en」固定です。

(k) hptl_clb_ccu_font_default

表示フォントの設定のデフォルト値を指定します。値は，「resource」，「browser」または「< 表示フォント指定（hptl_clb_ccu_content_fonttype プロパティ）の値 >」のどれかで指定してください。< 表示フォント指定（hptl_clb_ccu_content_fonttype プロパティ）の値 > には，hptl_clb_ccu_content_fonttype プロパティの値のうち，デフォルト値として使用するフォント（フォント種別 ID）を選択して指定します。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（resource）が設定されます。

- resource：メニューの表示言語の設定に従います。
- browser：ブラウザの表示言語の設定に従います。
- < 表示フォント指定（hptl_clb_ccu_content_fonttype プロパティ）の値 >：指定されたフォント（フォント種別 ID）の設定に従います。

(l) hptl_clb_ccu_compulsory_display

強制表示実行の有無のデフォルト値を指定します。値は，「0」または「1」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（1）が設定されます。

- 0：強制表示を行いません。
- 1：強制表示を行います。

(m) hptl_clb_ccu_format_date_default

日付フォーマットのデフォルト値を指定します。値は，「resource」または「content」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（resource）が設定されます。

- resource：メニューの表示言語の設定に従います。
- content：コンテンツの表示言語の設定に従います。

(n) hptl_clb_ccu_af_download_encoding_mode

添付ファイルダウンロード時に OS のダウンロードダイアログに表示するファイル名のエンコードモードを指定します。値は，「0」または「1」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（1）が設定されます。

- 0：OS のダウンロードダイアログに表示するファイル名を，必ず Windows-31J でエンコードします。
- 1：OS のダウンロードダイアログに表示するファイル名を，ブラウザの言語の設定で最も優先順位の高い言語の指定内容でエンコードします。フォント種別 ID が en の場合は UTF-8，ja の場合は Windows-31J でエンコードします。

(o) hptl_clb_ccu_td_disp_home

Collaboration の［ログイン］画面で，［ホーム］ボタンを表示するかどうかを指定します。値は，「On」または「Off」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（On）が設定されます。

- On：Collaboration の［ログイン］画面に［ホーム］ボタンを表示します。
- Off：Collaboration の［ログイン］画面に［ホーム］ボタンを表示しません。

(p) hptl_clb_ccu_td_disp_login

Collaboration の［ログイン］画面で，［ログイン画面へ］ボタンを表示するかどうかを指定します。値は，「On」または「Off」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（On）が設定されます。

- On：Collaboration の［ログイン］画面に［ログイン画面へ］ボタンを表示します。
- Off：Collaboration の［ログイン］画面に［ログイン画面へ］ボタンを表示しません。

(q) hptl_clb_ccu_td_disp_password

Collaboration の［ログイン］画面で，［パスワード変更］ボタンを表示するかどうかを指定します。値は，「On」または「Off」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（On）が設定されます。

- On：Collaboration の［ログイン］画面に［パスワード変更］ボタンを表示します。
- Off：Collaboration の［ログイン］画面に［パスワード変更］ボタンを表示しません。

(r) hptl_clb_ccu_useDragAndDropUpload

ローカルから Collaboration のポートレット※にファイルを添付する操作で，ドラッグ＆ドロップ機能を使用するかどうかを指定します。値は，「On」または「Off」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（Off）が設定されます。

注※

ドラッグ＆ドロップによるファイルの添付操作は，次のポートレットで実行できます。

- ［メール］ポートレット

- On：ファイルを添付する操作で，ドラッグ＆ドロップ機能を使用します。
- Off：ファイルを添付する操作で，ドラッグ＆ドロップ機能を使用しません。

このプロパティに「On」を指定して，［環境設定］画面で［添付ファイルのドラッグ＆ドロップを行う］チェックボックスをチェックすると，ローカルから Collaboration のポートレットにファイルを添付する操作で，ドラッグ＆ドロップが使用できるようになります。［環境設定］画面については，マニュアル「Collaboration　ユーザーズガイド」を参照してください。なお，［環境設定］画面の［添付ファイルのドラッグ＆ドロップを行う］チェックボックスのデフォルトは，hptl_clb_ccu_setDragAndDropDefault プロパティで設定できます。

(s) hptl_clb_ccu_useDragAndDropDownload

Collaboration のポートレット※上にある添付ファイルをローカルへ保存する操作で，ドラッグ＆ドロップ機能を使用するかどうかを指定します。値は，「On」または「Off」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（Off）が設定されます。

注※

ドラッグ＆ドロップによる添付ファイルの保存操作は，次のポートレットで実行できます。

- ［メール］ポートレット

- On：添付ファイルを保存する操作で，ドラッグ＆ドロップ機能を使用します。
- Off：添付ファイルを保存する操作で，ドラッグ＆ドロップ機能を使用しません。

このプロパティに「On」を指定して，［環境設定］画面で［添付ファイルのドラッグ＆ドロップを行う］チェックボックスをチェックすると，Collaboration のポートレットからローカルへ添付ファイルを保存する操作で，ドラッグ＆ドロップが使用できるようになります。［環境設定］画面については，マニュアル「Collaboration　ユーザーズガイド」を参照してください。なお，［環境設定］画面の［添付ファイルのドラッグ＆ドロップを行う］チェックボックスのデフォルトは，hptl_clb_ccu_setDragAndDropDefault プロパティで設定できます。

(t) hptl_clb_ccu_setDragAndDropDefault

［環境設定］画面の［添付ファイルのドラッグ＆ドロップを行う］チェックボックスのデフォルト設定を指定します。値は，「On」または「Off」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（On）が設定されます。

- On：［環境設定］画面の［添付ファイルのドラッグ＆ドロップを行う］チェックボックスをチェックした状態をデフォルトとします。
- Off：［環境設定］画面の［添付ファイルのドラッグ＆ドロップを行う］チェックボックスをチェックしない状態をデフォルトとします。

なお，hptl_clb_ccu_useDragAndDropUpload プロパティ，および hptl_clb_ccu_useDragAndDropDownload プロパティに「Off」を指定した場合，このプロパティの指定は無視され，［環境設定］画面に［添付ファイルのドラッグ＆ドロップを行う］チェックボックスは表示されません。

hptl_clb_ccu_setDragAndDropDefault プロパティ，hptl_clb_ccu_useDragAndDropUpload プロパティ，および hptl_clb_ccu_useDragAndDropDownload プロパティの設定と，操作ごとのドラッグ＆ドロップ機能の使用可否を次の表に示します。

表 4-6　各プロパティの設定と操作ごとのドラッグ＆ドロップ機能の使用可否

各プロパティの設定			操作の種類	
hptl_clb_ccu_setDragAndDropDefault プロパティの設定	hptl_clb_ccu_useDragAndDropUpload プロパティの設定	hptl_clb_ccu_useDragAndDropDownload プロパティの設定	ファイルの添付操作	添付ファイルの保存操作
On	On	On	○	○
		Off	○	×
	Off	On	×	○
		Off	×※	×※
Off	On	On	×	×
		Off	×	×
	Off	On	×	×
		Off	×	×

（凡例）
○：ドラッグ＆ドロップ機能を使用できます。
×：ドラッグ＆ドロップ機能を使用できません。

注※
hptl_clb_ccu_setDragAndDropDefault プロパティの設定は無視されます。

(u) hptl_clb_ccu_dragAndDropDownload

［環境設定］画面から ActiveX コントロールのインストーラをダウンロードできるようにするかどうかを指定します。値は，「On」または「Off」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（Off）が設定されます。［環境設定］画面から ActiveX コントロールのインストーラを配布する場合は，このプロパティに「On」を指定してください。

- On：［環境設定］画面から ActiveX コントロールのインストーラをダウンロードできます。
- Off：［環境設定］画面から ActiveX コントロールのインストーラをダウンロードできません。

このプロパティに「On」を指定して，hptl_clb_ccu_dragAndDropInstallerURL プロパティに ActiveX コントロールのインストーラの格納先を URL で指定すると，［環境設定］画面に［ActiveX コントロールのインストーラ（exe ファイル）のダウンロード］アンカーが表示され，ActiveX コントロールのインストーラをダウンロードできるようになります。hptl_clb_ccu_dragAndDropDownload プロパティに「On」を指定した場合は，必ず hptl_clb_ccu_dragAndDropInstallerURL プロパティで，［環境設定］画面からダウンロードする ActiveX コントロールのインストーラの格納先を URL で指定してください。［環境設定］画面については，マニュアル「Collaboration　ユーザーズガイド」を参照してください。

なお，hptl_clb_ccu_useDragAndDropUpload プロパティ，および hptl_clb_ccu_useDragAndDropDownload プロパティに「Off」を指定した場合，このプロパティの指定は無視されます。

(v) hptl_clb_ccu_dragAndDropInstallerURL

［環境設定］画面からダウンロードする ActiveX コントロールのインストーラの格納先を URL で指定します。［環境設定］画面から ActiveX コントロールのインストーラを配布する場合は，このプロパティを必ず指定してください。URL は，ActiveX コントロールのインストーラ（setup.exe）までのパスを指定してください。このプロパティの指定例を次に示します。

指定例

hptl_clb_ccu_dragAndDropInstallerURL = http://CollaboSvr1/Portal/ActiveX/DragAndDrop/setup.exe

また，URL を指定する場合は，次の点に注意してください。

- URL は，途中で改行できません。
- URL を相対パスで指定する場合は，コンテキストルートからの相対パスで指定してください。

hptl_clb_ccu_dragAndDropDownload プロパティに「On」を指定しても，このプロパティに URL を指定しないと，［環境設定］画面に［ActiveX コントロールのインストーラ（exe ファイル）のダウンロード］アンカーは表示されません。
hptl_clb_ccu_dragAndDropDownload プロパティに「On」を指定した場合は，このプロパティを必ず指定してください。

なお，hptl_clb_ccu_useDragAndDropUpload プロパティ，および hptl_clb_ccu_useDragAndDropDownload プロパティに「Off」を指定した場合，このプロパティの指定は無視されます。

(w) hptl_clb_ccu_DADLogFileSize

ドラッグ＆ドロップ機能で出力するログファイルのサイズをキロバイト単位で指定します。値は，4 〜 10,240 で指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，

または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（1024）が設定されます。

ドラッグ＆ドロップ機能で出力するログファイルは，Collaboration のクライアントマシンに出力されます。出力されるログファイルの名称は「DragAndDropN.log」です。N には，ログファイルの面番号（1 〜 hptl_clb_ccu_DADLogFileNum プロパティで指定した値）が設定されます。

(x) hptl_clb_ccu_DADLogFileNum

ドラッグ＆ドロップ機能で出力するログファイルの面数を指定します。値は，1 〜 8 の整数で指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（4）が設定されます。

ドラッグ＆ドロップ機能で出力するログファイルは，Collaboration のクライアントマシンに出力されます。出力されるログファイルの名称は「DragAndDropN.log」です。N には，ログファイルの面番号（1 〜このプロパティで指定した値）が設定されます。

(y) hptl_clb_ccu_DADLogLevel

ドラッグ＆ドロップ機能で出力するログのトレースレベルを指定します。値は，「-1」または「20」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（20）が設定されます。

- -1：ログを出力しません。
- 20：次の操作にかかわる情報をログとして出力します。
  - ローカルにあるファイルをドラッグ＆ドロップしてメールに添付する。
  - メールに添付されているファイルをドラッグ＆ドロップしてローカルに保存する。

ドラッグ＆ドロップ機能で出力するログファイルは，Collaboration のクライアントマシンに出力されます。出力されるログファイルの名称は「DragAndDropN.log」です。N には，ログファイルの面番号（1 〜 hptl_clb_ccu_DADLogFileNum プロパティで指定した値）が設定されます。

参考

ログファイルは，< 出力先ディレクトリ >¥Collaboration-DAD¥ に出力されます。
< 出力先ディレクトリ > は，次の順序で決定されます。

1. Collaboration のクライアントの環境変数 TMP に指定されているディレクトリ
2. Collaboration のクライアントの環境変数 TEMP に指定されているディレクトリ
3. < システムドライブ >¥WINNT，または < システムドライブ >¥WINDOWS
   Collaboration のクライアントマシンの OS が，Windows 2000 の場合は < システムドライブ >¥WINNT となり，Windows 7，Windows XP Professional および Windows Vista の場合は < システムドライブ >¥WINDOWS となります。

なお，環境変数 TMP または TEMP に指定されているディレクトリが不正な場合は，ログファイルの出力時にエラーとなります。

(z) hptl_clb_ccu_DAD_maxAttachFileNum

ドラッグ＆ドロップによるファイルの添付操作で，一度に添付できるファイルの最大数を指定します。値は，1 ～ 24 の整数で指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（5）が設定されます。

なお，hptl_clb_ccu_useDragAndDropUpload プロパティで「Off」を指定した場合，このプロパティの指定は無視されます。また，ドラッグ＆ドロップで添付するファイルの数がこのプロパティで指定した範囲内であっても，各ポートレットのプロパティファイルの指定によっては，エラーになることがあります。この場合，出力されるエラーメッセージに従って対処してください。

(aa) hptl_clb_ccu_DAD_maxAttachFileSize

ドラッグ＆ドロップによるファイルの添付操作で，一度に添付できるファイルの合計サイズの最大値をメガバイト単位で指定します。値は，1 ～ 200 で指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（100）が設定されます。

なお，hptl_clb_ccu_useDragAndDropUpload プロパティで「Off」を指定した場合，このプロパティの指定は無視されます。また，ドラッグ＆ドロップで添付するファイルの合計サイズがこのプロパティで指定した範囲内であっても，各ポートレットのプロパティファイルの指定によっては，エラーになることがあります。この場合，出力されるエラーメッセージに従って対処してください。

(ab) hptl_clb_ccu_file_download_window

次のファイルをクリックした場合に表示される［ファイルダウンロード］画面，および［添付ファイルダウンロード］画面の表示方法を指定します。

- ［ファイル共有］ポートレットに登録されているファイル
- メールに添付されているファイル
- 電子会議室の発言に添付されているファイル
- 電子掲示板の記事に添付されているファイル
- スケジュールの CSV ファイル

値は，「single」または「multiple」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（multiple）が設定されます。

- single：複数のファイルをクリックした場合も，［ファイルダウンロード］画面，および［添付ファイルダウンロード］画面を一つだけ表示します。
- multiple：［ファイルダウンロード］画面，および［添付ファイルダウンロード］画面をクリックしたファイルの数だけ表示します。

(2) 共通プロパティファイルの指定例

共通プロパティファイルの指定例を次に示します。

```
hptl_clb_ccu_logPath = C:¥¥Program
Files¥¥Hitachi¥¥Collaboration¥¥clb_home¥¥log
hptl_clb_ccu_logLevel = 20
hptl_clb_ccu_logFileNum = 8
hptl_clb_ccu_logfileSize = 2097152
hptl_clb_ccu_LangType = ja
hptl_clb_ccu_TimeZone = GMT+09:00
hptl_clb_ccu_session_interval = 900
hptl_clb_ccu_doubleclick_timeout = 300
hptl_clb_ccu_log_encoding = Windows-31J
hptl_clb_ccu_content_fonttype = ja,en
hptl_clb_ccu_font_default = resource
hptl_clb_ccu_compulsory_display = 1
hptl_clb_ccu_format_date_default = resource
hptl_clb_ccu_af_download_encoding_mode = 1
hptl_clb_ccu_td_disp_home = On
hptl_clb_ccu_td_disp_login = On
hptl_clb_ccu_td_disp_password = On
hptl_clb_ccu_file_download_window = multiple
hptl_clb_ccu_useDragAndDropUpload = Off
hptl_clb_ccu_useDragAndDropDownload = Off
hptl_clb_ccu_setDragAndDropDefault = On
hptl_clb_ccu_dragAndDropDownload = Off
hptl_clb_ccu_dragAndDropInstallerURL =
hptl_clb_ccu_DADLogFileSize = 1024
hptl_clb_ccu_DADLogFileNum = 4
hptl_clb_ccu_DADLogLevel = 20
hptl_clb_ccu_DAD_maxAttachFileNum = 5
hptl_clb_ccu_DAD_maxAttachFileSize = 100
```

4.7.3 添付ファイル操作機能用プロパティファイルの設定方法

ここでは，添付ファイル操作機能用プロパティファイル（hptl_clb_ccu_af_contenttype.properties）の設定方法について説明します。**添付ファイル操作機能用プロパティファイル**とは，拡張子に対応する MIME タイプを定義するプロパティファイルです。添付ファイル操作機能用プロパティファイルには初期設定値が記述されています。ご使用の環境によって，MIME タイプ，拡張子の変更が必要な場合は，適宜修正してください。添付ファイル操作機能用プロパティファイルの記述規則および使用上の注意事項については，「4.7.1　プロパティファイルの記述規則および使用上の注意事項」を参照してください。

注意事項

Collaboration - File Sharing は拡張子に対する MIME タイプを定義するレンディション定義ファイルを独自に持っています。このため，添付ファイル操作機能用プロパティファイルの設定内容はレンディション定義ファイルの定義と合わせてください。レンディション定義ファイルの詳細は，マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」を参照してください。

(1) 添付ファイル操作機能用プロパティファイルの設定内容

添付ファイル操作機能用プロパティファイルのプロパティを次の表に示します。

表 4-7 添付ファイル操作機能用プロパティファイルのプロパティ

項番	プロパティ項目	プロパティ名	初期設定値	デフォルト値	必須 / 任意
1	拡張子リスト	hptl_clb_ccu_af_contenttype.list	※1	−	任意 ※2
2	デフォルト MIME タイプ	hptl_clb_ccu_af_contenttype.default	application/octet-stream	application/octet-stream	任意 ※2
3	拡張子別 MIME タイプ	hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.xxx	※1	hptl_clb_ccu_af_contenttype.default プロパティで指定した値	任意 ※2

（凡例）

−：プロパティファイルに値が設定されないことを示します。

任意：省略できます。

注

初期設定値およびデフォルト値の意味を次に示します。

初期設定値：システムのインストール時に設定される値です。

デフォルト値：プロパティ名または値を省略した場合に設定される値です。

注※ 1

hptl_clb_ccu_af_contenttype.list プロパティ，および hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.xxx プロパティの初期設定値については，「付録 A　サンプルで提供するプロパティファイル」を参照してください。

注※ 2

hptl_clb_ccu_af_contenttype.list プロパティを省略した場合は，hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.xxx プロパティの解析は実行されません。

hptl_clb_ccu_af_contenttype.default プロパティ，および hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.xxx プロパティを省略した場合は，デフォルト値が設定されます。

各プロパティの詳細について説明します。

(a) hptl_clb_ccu_af_contenttype.list

MIME タイプを定義する拡張子を指定します。拡張子を複数指定する場合は，拡張子の間をスラントで区切って記述します。指定した拡張子の前後に半角スペース，タブを含む場合，拡張子解析時に前後の半角スペース，タブはすべて消去されます。

例：拡張子は jpg であると判断します。

list=gif/ →△ jpg △→ /txt

（凡例）

→：タブを表します。
△：半角スペースを表します。

プロパティ名または値を省略した場合，hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.xxx プロパティの解析は実行されません。

(b)　hptl_clb_ccu_af_contenttype.default

デフォルト MIME タイプを指定します。プロパティ名または値を省略した場合は，デフォルト値（application/octet-stream）が設定されます。

(c)　hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.xxx

hptl_clb_ccu_af_contenttype.list プロパティで指定した拡張子ごとに対応する MIME タイプを定義します。xxx には，hptl_clb_ccu_af_contenttype.list プロパティで指定した拡張子を指定します。xxx には，大文字，小文字の区別を含め，hptl_clb_ccu_af_contenttype.list プロパティで指定した文字列と完全に一致する文字列を指定してください。

例：ext.jpg プロパティがないと判断します。
　list=gif/jpg/txt
　ext.gif=image/gif
　ext.JPG=image/jpeg
　ext.txt=text/plain

hptl_clb_ccu_af_contenttype.list プロパティで指定した拡張子に対応するプロパティ名がない場合，または値が省略された場合は，その拡張子の MIME タイプは hptl_clb_ccu_af_contenttype.default プロパティで指定した値が設定されます。

詳細は，「付録 A　サンプルで提供するプロパティファイル」を参照してください。

(2)　添付ファイル操作機能用プロパティファイルの指定例

添付ファイル操作機能用プロパティファイルの指定例を次に示します。

```
hptl_clb_ccu_af_contenttype.list=doc/gif/jpg/txt/xls
hptl_clb_ccu_af_contenttype.default=application/octet-stream
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.doc=application/msword
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.gif=image/gif
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.jpg=image/jpeg
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.txt=text/plain
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.xls=application/vnd.ms-excel
```

4.7.4　ナビゲーションビューの動作を設定するプロパティファイルの設定方法

Collaboration では，ナビゲーションビューでの障害発生個所の特定や障害内容を特定するためのトレースを出力します。統合 RAS 収集コマンドでトレースファイルを取得し，トレースファイルを基に障害を特定します。統合 RAS 収集コマンドについては，「6.3.1

統合 RAS 収集コマンド」を参照してください。ナビゲーションビューのトレースを出力するための設定情報は，ナビゲーションビューの動作を設定するプロパティファイル（hptl_clb_cnv.properties）で指定します。

ここでは，ナビゲーションビューの動作を設定するプロパティファイル（hptl_clb_cnv.properties）の設定方法について説明します。ナビゲーションビューの動作を設定するプロパティファイルの記述規則および使用上の注意事項については，「4.7.1 プロパティファイルの記述規則および使用上の注意事項」を参照してください。

(1) ナビゲーションビューの動作を設定するプロパティファイルの設定内容

ナビゲーションビューの動作を設定するプロパティファイルのプロパティを次の表に示します。

表 4-8 ナビゲーションビューの動作を設定するプロパティファイルのプロパティ

項番	プロパティ項目	プロパティ名	初期設定値	デフォルト値	必須 / 任意
1	トレースファイルの出力先ディレクトリ	hptl_clb_cnv_trace_dir	<Collaboration インストールディレクトリ>¥clb_home¥log	<Collaboration インストールディレクトリ>¥clb_home¥log	必須※
2	トレースレベル	hptl_clb_cnv_trace_level	20	20	必須※
3	トレースファイルの面数	hptl_clb_cnv_trace_file_num	10	10	必須※
4	1 面当たりのトレースファイルのサイズ	hptl_clb_cnv_trace_file_size	26214400 バイト（=25 メガバイト）	26214400 バイト（=25 メガバイト）	必須※
5	ログイン時のタブの表示設定	hptl_clb_cnv_selected_tab	workplace	workplace	任意
6	［コンタクト］タブでのドラッグ＆ドロップ機能の使用の有無	hptl_clb_cnv_contact_drag_and_drop	true	true	任意
7	［コンタクト］タブへのメール送信アイコンの表示設定	hptl_clb_cnv_contact_icon_sendmail	true	true	任意
8	［コンタクト］タブへのスケジュール表示アイコンの表示設定	hptl_clb_cnv_contact_icon_displayschedule	true	true	任意
9	［コンタクト］タブへのユーザ詳細表示アイコンの表示設定	hptl_clb_cnv_contact_icon_displayuserdetails	true	true	任意

項番	プロパティ項目	プロパティ名	初期設定値	デフォルト値	必須 / 任意
10	［コンタクト］タブの表示形式のデフォルト設定	hptl_clb_cnv_contact_display_form	standard	standard	任意
11	［コンタクト］タブの表示順序のデフォルト設定	hptl_clb_cnv_contact_sort_key	registration	registration	任意
12		hptl_clb_cnv_contact_sort_order	asc	asc	任意
13	［コンタクト］タブの表示形式切り替えアイコンの表示設定	hptl_clb_cnv_contact_icon_change_display	false	false	任意
14	［コンタクト］タブの左クリック時の動作のデフォルト設定	hptl_clb_cnv_contact_left_click_action	sendmail	sendmail	任意
15	［コンタクト］タブのメール送信時のデフォルト設定	hptl_clb_cnv_contact_specified_desttype_to	false	false	任意
16	コンタクトリストからのドラッグ＆ドロップ時に使用する情報の設定	hptl_clb_cnv_contact_drag_source	addresslist	addresslist	任意

（凡例）

必須：省略できません。必ず指定してください。

任意：省略できます。省略した場合はデフォルト値が設定されます。

注

初期設定値およびデフォルト値の意味を次に示します。

初期設定値：システムのインストール時に設定される値です。

デフォルト値：プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を設定した場合に設定される値です。

注※

プロパティ名または値を省略した場合，デフォルトの値が設定されるエラーメッセージが出力されます。

各プロパティの詳細について説明します。

(a) hptl_clb_cnv_trace_dir

トレースファイルの出力先ディレクトリを指定します。デフォルト値以外を設定する場合は，RAS 設定ファイル（<Collaboration インストールディレクトリ >¥clb_home¥conf¥hptl_clb_cnv_ras.conf）にも同じディレクトリを指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（<Collaboration インストールディレクトリ >¥clb_home¥log）が設定されます。

(b) hptl_clb_cnv_trace_level

トレースレベルを指定します。値は,「-1」,「10」,「20」,「30」または「40」のどれかで指定してください。トレースレベルの出力内容については,「6.2.2(2) uCosminexus Portal Framework 以外のトレースファイルの場合」を参照してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（20）が設定されます。

(c) hptl_clb_cnv_trace_file_num

トレースファイルの面数を指定します。値は，1 〜 16 の整数で指定してください。実際のファイル名は「hptl_clb_cnv-N.log」になります。N には，ファイルの面番号が設定されます（デフォルト値の 10 を指定した場合，N には 1 〜 10 の数字が設定されます）。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（10）が設定されます。

(d) hptl_clb_cnv_trace_file_size

1 面当たりのトレースファイルのサイズをバイト単位で指定します。値は，4,096 〜 2,147,483,647 で指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（26214400）が設定されます。

(e) hptl_clb_cnv_selected_tab

ログイン時に表示するタブを指定します。値は,「workplace」または「contact」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（workplace）が設定されます。

- workplace：［ワークプレース］タブを表示します。
- contact：［コンタクト］タブを表示します。

(f) hptl_clb_cnv_contact_drag_and_drop

［コンタクト］タブでドラッグ＆ドロップ機能を利用するかどうかを指定します。値は,「true」または「false」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（true）が設定されます。

- true：ユーザアイコンに対するドラッグ＆ドロップ機能を利用します。
- false：ユーザアイコンに対するドラッグ＆ドロップ機能を利用しません。

(g) hptl_clb_cnv_contact_icon_sendmail

［コンタクト］タブにメール送信アイコンを表示するかどうかを指定します。値は,「true」または「false」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（true）が設定されます。

- true：メール送信アイコンを表示します。
- false：メール送信アイコンを表示しません。

(h) hptl_clb_cnv_contact_icon_displayschedule

［コンタクト］タブにスケジュール表示アイコンを表示するかどうかを指定します。値は，「true」または「false」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（true）が設定されます。

- true：スケジュール表示アイコンを表示します。
- false：スケジュール表示アイコンを表示しません。

(i) hptl_clb_cnv_contact_icon_displayuserdetails

［コンタクト］タブにユーザ詳細表示アイコンを表示するかどうかを指定します。値は，「true」または「false」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（true）が設定されます。

- true：ユーザ詳細表示アイコンを表示します。
- false：ユーザ詳細表示アイコンを表示しません。

(j) hptl_clb_cnv_contact_display_form

［コンタクト］タブの設定画面の設定項目「表示形式の設定」で，システムのデフォルト値を指定します。値は，「standard」または「grouping」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（standard）が設定されます。

- standard：コンタクトリストのデフォルトの表示形式を標準とします。
- grouping：コンタクトリストのデフォルトの表示形式をグルーピングとします。

(k) hptl_clb_cnv_contact_sort_key

［コンタクト］タブの設定画面の設定項目「表示順序の設定」で，システムのデフォルト値を指定します。値は，「registration」，「name」または「comment」のどれかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（registration）が設定されます。

- registration：登録順をデフォルトとします。
- name：名前順ごとをデフォルトとします。
- comment：コメント順ごとをデフォルトとします。

(l) hptl_clb_cnv_contact_sort_order

［コンタクト］タブの設定画面の設定項目「表示順序の設定」で，システムのデフォルト値を指定します。値は，「asc」または「desc」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（asc）が設定されます。

- asc：昇順をデフォルトとします。

- desc：降順をデフォルトとします。

(m) hptl_clb_cnv_contact_icon_change_display

［コンタクト］タブの設定画面の設定項目「アイコン表示の設定」で，システムのデフォルト値を指定します。値は，「true」または「false」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（false）が設定されます。

- true：表示形式切り替えアイコンを表示します。
- false：表示形式切り替えアイコンを表示しません。

(n) hptl_clb_cnv_contact_left_click_action

［コンタクト］タブの設定画面の設定項目「左クリックを押した時の動作」で，システムのデフォルト値を指定します。値は，「sendmail」，「displayschedule」または「displayuserdetails」のどれかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（sendmail）が設定されます。また，指定した機能を起動するコンポーネントがデプロイされていない場合も，デフォルト値（sendmail）が設定されます。

- sendmail：メールの送信をデフォルトとします。
- displayschedule：スケジュールの表示をデフォルトとします。
- displayuserdetails：ユーザ詳細の表示をデフォルトとします。

(o) hptl_clb_cnv_contact_specified_desttype_to

［コンタクト］タブの設定画面の設定項目「メールを送信する時の設定」で，システムのデフォルト値を指定します。値は，「true」または「false」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（false）が設定されます。

- true：ユーザの宛先を，宛先種別 To でメール作成画面に指定します。
- false：ユーザの宛先を，ユーザの持つ宛先種別でメール作成画面に指定します。

(p) hptl_clb_cnv_contact_drag_source

コンタクトリストからドラッグ＆ドロップするデータを作成する場合に，使用する情報を指定します。値は，「addresslist」または「directoryaccess」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（addresslist）が設定されます。

- addresslist：宛先台帳から取得した情報を使用します。
- directoryaccess：宛先台帳から取得した情報を基に，Collaboration - Directory Access で検索して生成した情報を使用します。

(2) ナビゲーションビューの動作を設定するプロパティファイルの指定例

ナビゲーションビューの動作を設定するプロパティファイルの指定例を次に示します。

```
hptl_clb_cnv_trace_dir=C:¥¥Program
Files¥¥Hitachi¥¥Collaboration¥¥clb_home¥¥log
hptl_clb_cnv_trace_level=20
hptl_clb_cnv_trace_file_num=10
hptl_clb_cnv_trace_file_size=26214400
hptl_clb_cnv_selected_tab=workplace
hptl_clb_cnv_contact_drag_and_drop=true
hptl_clb_cnv_contact_icon_sendmail=true
hptl_clb_cnv_contact_icon_displayschedule=true
hptl_clb_cnv_contact_icon_displayuserdetails=true
hptl_clb_cnv_contact_display_form=standard
hptl_clb_cnv_contact_sort_key=registration
hptl_clb_cnv_contact_sort_order=asc
hptl_clb_cnv_contact_icon_change_display=false
hptl_clb_cnv_contact_left_click_action=sendmail
hptl_clb_cnv_contact_specified_desttype_to=false
hptl_clb_cnv_contact_drag_source=addresslist
```

4.7.5 カレンダの動作を設定するプロパティファイルの設定方法

ここでは，カレンダの動作を設定するプロパティファイル（hptl_clb_ccc.properties）の設定方法について説明します。カレンダの動作を設定するプロパティファイルの場合，共通の記述規則および使用上の注意事項に加えて，カレンダの動作を設定するプロパティファイル固有の注意事項があります。共通の記述規則および使用上の注意事項については，「4.7.1 プロパティファイルの記述規則および使用上の注意事項」を参照してください。

注意事項

カレンダの動作を設定するプロパティファイル固有の使用上の注意事項を次に示します。

- カレンダの動作を設定するプロパティファイルには，このほかにもプロパティがありますが，「(1) カレンダの動作を設定するプロパティファイルの設定内容」に挙げているもの以外は編集しないでください。
- 初期設定時の hptl_clb_ccc.properties に記述されていないプロパティを編集する場合には，プロパティを追加して指定してください。

(1) カレンダの動作を設定するプロパティファイルの設定内容

カレンダの動作を設定するプロパティファイルのプロパティを次の表に示します。

表 4-9　カレンダの動作を設定するプロパティファイルのプロパティ

項番	プロパティ項目	プロパティ名	初期設定値	デフォルト値	必須 / 任意
1	ログファイルの出力先ディレクトリ	hptl_clb_ccc_logPath	C:¥¥Program Files¥¥Hitachi¥¥Collaboration¥¥clb_home¥¥log	－	必須
2	ログのトレースレベル	hptl_clb_ccc_logLevel	20	20	任意
3	ログファイルの面数	hptl_clb_ccc_logFileNum	8	8	任意
4	ログファイルのサイズ	hptl_clb_ccc_logfileSize	2097152	2097152	任意
5	週の始まりの指定	hptl_clb_ccc_start_day	Sunday	Sunday	任意
6	任意の祝日の指定	hptl_clb_ccc_public_holiday_xx	－	Groupmax Scheduler Server で設定した休日情報，または Collaboration - Calendar にデフォルトで設定されている休日情報	任意
7	任意の休日の指定	hptl_clb_ccc_weekly_holiday_xx	－	Groupmax Scheduler Server で設定した休日情報，または Collaboration - Calendar にデフォルトで設定されている休日情報	任意
8	任意の平日の指定	hptl_clb_ccc_weekday_xx	－	Groupmax Scheduler Server で設定した休日情報，または Collaboration - Calendar にデフォルトで設定されている休日情報	任意

（凡例）

－：プロパティファイルに値，またはプロパティおよび値が設定されないことを示します。

必須：省略できません。必ず指定してください。

任意：省略できます。省略した場合はデフォルト値が設定されます。

注

初期設定値およびデフォルト値の意味を次に示します。
初期設定値：システムのインストール時に設定される値です。
デフォルト値：プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を設定した場合に設定される値です。

各プロパティの詳細について説明します。

(a) hptl_clb_ccc_logPath

ログファイルの出力先ディレクトリを指定します。ログファイルの出力先ディレクトリには，日本語を含むディレクトリは指定できません。また，ディレクトリの区切りには「¥¥」を使用してください。このプロパティは，必ず指定してください。インストール時のファイルには，「C:¥¥Program Files¥¥Hitachi¥¥Collaboration¥¥clb_home¥¥log」が設定されています。

なお，出力されるログファイルの名称は「hptl_clb_cccN.log」です。N には，ログファイルの面番号が設定されます。

(b) hptl_clb_ccc_logLevel

トレースレベルを指定します。指定した値より大きいトレースレベルのログは出力されません。値は，-1 ～ 1,000 で指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（20）が設定されます。

なお，-2 以下の値を指定した場合は -1 を，41 以上の値を指定した場合は 40 を指定したと見なされます。

トレースレベルと出力基準を次の表に示します。

表 4-10　トレースレベルと出力基準（カレンダ）

トレースレベル	出力基準
-1	ログを出力しません。
10	重大なエラー，および［カレンダ］ポートレットの操作にかかわる情報を出力します。
20	トレースレベル 10 の出力情報に加えて，Groupmax Scheduler Server との通信にかかわる情報を出力します。ログの出力量は，トレースレベル 10 の 1.5 倍程度になります。
30	トレースレベル 20 の出力情報に加えて，［カレンダ］ポートレットの操作にかかわる詳細な情報を出力します。ログの出力量は，トレースレベル 10 の 2 倍程度になります。
40	トレースレベル 30 の出力情報に加えて，Groupmax Scheduler Server との通信にかかわる詳細な情報を出力します。ログの出力量は，トレースレベル 10 の 3 倍程度になります。

(c) hptl_clb_ccc_logFileNum

ログファイルの面数を指定します。値は，1 〜 16 で指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（8）が設定されます。

なお，0 以下の値を指定した場合は 1 を，17 以上の値を指定した場合は 16 を指定したと見なされます。

(d) hptl_clb_ccc_logfileSize

ログファイルのサイズをバイト単位で指定します。値は，4,096 〜 2,147,483,647 で指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（2097152）が設定されます。

なお，4,095 以下の値を指定した場合は 4096 を，2,147,483,648 以上の値を指定した場合は 2147483647 を指定したと見なされます。

(e) hptl_clb_ccc_start_day

［カレンダ］ポートレットおよび［スケジュール］ポートレットで，週の始まりにしたい曜日を指定します。値は，「Sunday」または「Monday」のどちらかで指定してください。指定した文字列の大文字，小文字は区別されます。

- Sunday
  カレンダの週が日曜日から始まるように設定します。
- Monday
  カレンダの週が月曜日から始まるように設定します。

なお，プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（Sunday）が設定されます。

(f) hptl_clb_ccc_public_holiday_xx

［カレンダ］ポートレットおよび［スケジュール］ポートレットで，祝日に設定したい日付を指定します。このプロパティの指定は，Groupmax Scheduler Server で設定した休日情報，または Collaboration - Calendar にデフォルトで設定されている休日情報よりも優先されます。

参考

hptl_clb_ccc_public_holiday_xx プロパティで指定した場合（祝日）と，hptl_clb_ccc_weekly_holiday_xx プロパティで指定した場合（休日）の画面の表示は，同じです。

---

hptl_clb_ccc_public_holiday_xx プロパティの xx には，1 〜 99 の値を指定します。1 〜 9 の値を指定する場合は，必ず 1 桁の数字（1，2 など）で指定してください。xx は，重

複しないように指定してください。

日付は，次のどちらかの形式で指定します。プロパティファイル内には，形式 1 および形式 2 を混在して指定できます。

形式 1（特定の日付を祝日に設定する場合）

yyyy/MM/dd

形式 2（毎年同じ日を祝日に設定する場合）

MM/dd

日付に指定できる値の意味と範囲を次に示します。値は半角の数字または半角の記号で指定してください。

- yyyy
  年を西暦で指定します。指定できる範囲は，今年を基準にして 10 年前から 10 年後までです。
- MM
  月を 01 ～ 12 または 1 ～ 12 の範囲で指定します。
- dd
  日付を 01 ～ 31 または 1 ～ 31 の範囲で指定します。
- /
  年と月，月と日の区切りを半角のスラント（/）で指定します。

指定例

2008/10/10 と毎年 7/13 を祝日に設定する場合の例を次に示します。

```
hptl_clb_ccc_public_holiday_1 = 2008/10/10
hptl_clb_ccc_public_holiday_2 = 7/13
```

また，次の場合，指定した祝日の情報は，［カレンダ］ポートレットおよび［スケジュール］ポートレットに反映されません。

- hptl_clb_ccc_public_holiday_xx プロパティに存在しない日付（2/31，4/31 など）を指定した場合（エラーになりません）
- 日付を全角で指定した場合（不正な値と見なされます）

なお，hptl_clb_ccc_public_holiday_xx プロパティまたは値を省略した場合，［カレンダ］ポートレットおよび［スケジュール］ポートレットには，次に示すどちらかの休日情報が設定されます。

- Groupmax Scheduler Server で設定した休日情報
  Collaboration - Schedule を使用して，Groupmax Scheduler Server と接続するための設定をしている場合に，Groupmax Scheduler Server で休日情報が設定されているときに表示される情報です。Groupmax Scheduler Server と接続するための設定については，マニュアル「Collaboration - Schedule　システム管理者ガイド」を参照してください。
- Collaboration - Calendar にデフォルトで設定されている休日情報

Collaboration - Schedule を使用していない場合，または Groupmax Scheduler Server で休日情報が設定されていない場合に表示される情報です。

参考

hptl_clb_ccc_public_holiday_xx プロパティは，hptl_clb_ccc.properties の初期設定時には記述されていません。指定する場合はプロパティを追加してください。

(g) hptl_clb_ccc_weekly_holiday_xx

［カレンダ］ポートレットおよび［スケジュール］ポートレットで，休日に設定したい日付を指定します。このプロパティの指定は，Groupmax Scheduler Server で設定した休日情報，または Collaboration - Calendar にデフォルトで設定されている休日情報よりも優先されます。

参考

hptl_clb_ccc_public_holiday_xx プロパティで指定した場合（祝日）と，hptl_clb_ccc_weekly_holiday_xx プロパティで指定した場合（休日）の画面の表示は，同じです。

---

hptl_clb_ccc_weekly_holiday_xx プロパティの xx には，1 〜 99 の値を指定します。1 〜 9 の値を指定する場合は，必ず 1 桁の数字（1，2 など）で指定してください。xx は，重複しないように指定してください。

日付は，次のどちらかの形式で指定します。プロパティファイル内には，形式 1 および形式 2 を混在して指定できます。

形式 1（特定の日付を休日に設定する場合）
yyyy/MM/dd

形式 2（毎年同じ日を休日に設定する場合）
MM/dd

日付に指定できる値の意味と範囲を次に示します。値は半角の数字または半角の記号で指定してください。

- yyyy
  年を西暦で指定します。指定できる範囲は，今年を基準にして 10 年前から 10 年後までです。
- MM
  月を 01 〜 12 または 1 〜 12 の範囲で指定します。
- dd
  日付を 01 〜 31 または 1 〜 31 の範囲で指定します。
- /

年と月，月と日の区切りを半角のスラント（/）で指定します。

指定例

2008/10/29 と毎年 7/19 を休日に設定する場合の例を次に示します。

```
hptl_clb_ccc_weekly_holiday_1 = 2008/10/29
hptl_clb_ccc_weekly_holiday_2 = 7/19
```

また，次の場合，指定した休日の情報は，［カレンダ］ポートレットおよび［スケジュール］ポートレットに反映されません。

- hptl_clb_ccc_public_holiday_xx プロパティと同じ日付を指定した場合
- hptl_clb_ccc_weekly_holiday_xx プロパティに存在しない日付（2/31，4/31 など）を指定した場合（エラーになりません）
- 日付を全角で指定した場合（不正な値と見なされます）

なお，hptl_clb_ccc_weekly_holiday_xx プロパティまたは値を省略した場合，［カレンダ］ポートレットおよび［スケジュール］ポートレットには，次に示すどちらかの休日情報が設定されます。

- Groupmax Scheduler Server で設定した休日情報
  Collaboration - Schedule を使用して，Groupmax Scheduler Server と接続するための設定をしている場合に，Groupmax Scheduler Server で休日情報が設定されているときに表示される情報です。Groupmax Scheduler Server と接続するための設定については，マニュアル「Collaboration - Schedule　システム管理者ガイド」を参照してください。
- Collaboration - Calendar にデフォルトで設定されている休日情報
  Collaboration - Schedule を使用していない場合，または Groupmax Scheduler Server で休日情報が設定されていない場合に表示される情報です。

参考

hptl_clb_ccc_weekly_holiday_xx プロパティは，hptl_clb_ccc.properties の初期設定時には記述されていません。指定する場合はプロパティを追加してください。

(h) hptl_clb_ccc_weekday_xx

［カレンダ］ポートレットおよび［スケジュール］ポートレットで，平日に設定したい日付を指定します。このプロパティの指定は，Groupmax Scheduler Server で設定した休日情報，または Collaboration - Calendar にデフォルトで設定されている休日情報よりも優先されます。

hptl_clb_ccc_weekday_xx プロパティの xx には，1 ～ 99 の値を指定します。1 ～ 9 の値を指定する場合は，必ず 1 桁の数字（1，2 など）で指定してください。xx は，重複しないように指定してください。

日付は，次のどちらかの形式で指定します。プロパティファイル内には，形式 1 および

形式 2 を混在して指定できます。

形式 1（特定の日付を平日に設定する場合）

yyyy/MM/dd

形式 2（毎年同じ日を平日に設定する場合）

MM/dd

日付に指定できる値の意味と範囲を次に示します。値は半角の数字または半角の記号で指定してください。

- yyyy
  年を西暦で指定します。指定できる範囲は，今年を基準にして 10 年前から 10 年後までです。
- MM
  月を 01 ～ 12 または 1 ～ 12 の範囲で指定します。
- dd
  日付を 01 ～ 31 または 1 ～ 31 の範囲で指定します。
- /
  年と月，月と日の区切りを半角のスラント（/）で指定します。

指定例

2008/10/21 と毎年 7/28 を平日に設定する場合の例を次に示します。

```
hptl_clb_ccc_weekday_1 = 2008/10/21
hptl_clb_ccc_weekday_2 = 7/28
```

また，次の場合，指定した平日の情報は，［カレンダ］ポートレットおよび［スケジュール］ポートレットに反映されません。

- hptl_clb_ccc_public_holiday_xx プロパティ，または hptl_clb_ccc_weekly_holiday_xx プロパティと同じ日付を指定した場合
- hptl_clb_ccc_weekday_xx プロパティに存在しない日付（2/31，4/31 など）を指定した場合（エラーになりません）
- 日付を全角で指定した場合（不正な値と見なされます）

なお，hptl_clb_ccc_weekday_xx プロパティまたは値を省略した場合，［カレンダ］ポートレットおよび［スケジュール］ポートレットには，次に示すどちらかの休日情報が設定されます。

- Groupmax Scheduler Server で設定した休日情報
  Collaboration - Schedule を使用して，Groupmax Scheduler Server と接続するための設定をしている場合に，Groupmax Scheduler Server で休日情報が設定されているときに表示される情報です。Groupmax Scheduler Server と接続するための設定については，マニュアル「Collaboration - Schedule　システム管理者ガイド」を参照してください。
- Collaboration - Calendar にデフォルトで設定されている休日情報

Collaboration - Schedule を使用していない場合，または Groupmax Scheduler Server で休日情報が設定されていない場合に表示される情報です。

参考

hptl_clb_ccc_weekday_xx プロパティは，hptl_clb_ccc.properties の初期設定時には記述されていません。指定する場合はプロパティを追加してください。

(2) カレンダの動作を設定するプロパティファイルの指定例

カレンダの動作を設定するプロパティファイルの指定例を次に示します。

```
hptl_clb_ccc_logPath = C:¥¥Program
Files¥¥Hitachi¥¥Collaboration¥¥clb_home¥¥log
hptl_clb_ccc_logLevel = 20
hptl_clb_ccc_logFileNum = 8
hptl_clb_ccc_logfileSize = 2097152
hptl_clb_ccc_start_day = Sunday
```

4.8 システム構築時の注意事項

Collaboration が提供する定義ファイル，制御ファイルなどのテキストファイルには，文字コードとして UTF-8 を前提とするものがあります。UTF-8 を前提とするテキストファイルを編集して保存する場合は，Windows のメモ帳を使わないでください。

UTF-8 を前提とするテキストファイルを Windows のメモ帳で編集して保存すると，Windows のメモ帳の仕様で，ファイルの先頭に「BOM」と呼ばれる数バイトの制御コードが付加されます。Collaboration が提供する機能やコマンドには，「BOM」制御コードをサポートしていないものがあるため，「BOM」制御コードが付加されたファイルを使うとエラーが発生することがあります。

UTF-8 を前提とするテキストファイルを編集して保存する場合は，「BOM」制御コードが付加されないテキストエディタを使う必要があります。

5 Collaboration の運用

この章では，Collaboration の起動と終了や，バックアップについて説明します。

5.1　Collaboration の起動と終了

ここでは，Collaboration の起動と終了について説明します。

J2EE サーバ上で Collaboration を起動するには，構築したポータルプロジェクトを Web アプリケーションとしてデプロイする必要があります。また，J2EE サーバ上で Collaboration を終了するには，J2EE サーバのサーバ管理コマンドを使用して，WAR ファイルをデプロイした J2EE アプリケーションを終了します。

詳細は，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」の「起動方法（J2EE サーバモード）」，「終了方法（J2EE サーバモード）」の説明，およびマニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 アプリケーション設定操作ガイド」の「J2EE アプリケーションの開始」，「J2EE アプリケーションの停止」の説明を参照してください。

5.2　ログインとログアウト

ここでは，Collaboration のクライアントが，Collaboration にログインする方法，および Collaboration のポータル画面からログアウトする方法について説明します。

(1)　Collaboration のログイン

Collaboration のログイン画面は，Web ブラウザ上で所定の URL を指定して呼び出します。ログイン画面の URL は，http://{ サーバ名 }/{ コンテキストルート名 }/index.jsp または https://{ サーバ名 }/{ コンテキストルート名 }/index.jsp の設定によって異なります。

ログイン画面でユーザ ID とパスワードを入力し，［ログイン］ボタンをクリックすると，Collaboration が起動します。ユーザ ID およびパスワードは，大文字・小文字を区別して入力してください。ユーザ ID の大文字・小文字の区別を間違えて入力すると，ディレクトリサーバでの認証が成功して，Groupmax サーバへのログインが失敗する場合があります。

ログイン画面では，Web ブラウザのツールバーおよびアドレスバーを非表示にする運用を推奨します。

(2)　Collaboration のログアウト

Collaboration のポータル画面で［ログアウト］ボタンをクリックすると，Collaboration のポータル画面が閉じてログイン画面に戻ります。

5.3　バックアップ

ここでは，Collaboration のシステムを構成する各種サーバのバックアップについて説明します。

運用時は，次のサーバのバックアップを取得してください。

- アプリケーションサーバ（Cosminexus 実行環境）
- ファイル共有サーバ
- データベースサーバ
- Groupmax サーバ
- ディレクトリサーバ

バックアップには，次の三つの方法があります。

(1)　システムバックアップ

システム全体のバックアップです。システムバックアップのデータは，システムに障害が起きて回復作業をするときに利用します。

システムバックアップは，市販のバックアップ製品を利用して取得してください。

(2)　データベースバックアップ

データベースのバックアップです。データベースバックアップのデータは，データベースに障害が起きて，データベースだけを回復させるときに利用します。

Collaboration - Online Community Management，Collaboration - Forum，Collaboration - File Sharing，Collaboration - Mail および Collaboration - Bulletin board では，データベースサーバとして HiRDB を利用しています。このため，HiRDB のデータベースバックアップを取得します。取得方法については，マニュアル「スケーラブルデータベースサーバ　HiRDB Version 8 システム運用ガイド（Windows(R) 用）」を参照してください。

(3)　コンテンツバックアップ

メールや記事などコンテンツのバックアップです。コンテンツバックアップのデータは，ユーザが誤ってファイルを削除したなど，コンテンツを回復，移動または複製するときに利用します。

コンテンツバックアップは，システムの稼働中に取得することもできます。

なお，ファイル共有で使用するファイル格納先ファイルシステムは，データベースのバックアップと同期を取ってバックアップを取得してください。バックアップは，OS の機能を使用して取得してください。

詳細は，必要に応じてマニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」および Groupmax 各製品のサーバのマニュアルを参照してください。

6 トラブルシュート

この章では，Collaboration システムに障害が発生した時，障害対策のためにエラー情報を採取する方法について説明します。

6.1　障害対策

Collaboration システムで障害が発生した場合は，出力されたメッセージやトレースファイルのエラー情報などを解析し，障害発生の要因を特定し，対策を立ててください。

トレースファイルに格納されているエラー情報には，次のような情報があります。

- アプリケーション識別名（ポートレットで発生しているエラーの場合，アプリケーション識別名はポートレット名になります）
- イベント種別
- メッセージ ID

これらのキーワードを手がかりに，障害状況を解析します。

なお，Collaboration - File Sharing は独自のトレースファイルや障害情報取得コマンドも持っています。詳細は，マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」を参照してください。

6.2　トレースファイル

トレースファイルは，Collaboration システム上で動作するポートレットやコンポーネントの実行経過を記録したファイルです。ポートレットやコンポーネントで障害が発生したとき，トレースファイルを解析して障害の原因を調べることができます。

なお，トレースファイルに関する次の項目は，プロパティファイルで制御できます。

- トレースファイルの出力先ディレクトリ
- トレースの対象となる情報レベル
- トレースの対象となる情報の面数
- トレースファイルのサイズの上限値

トレースの対象となる情報の初期化は，あるプロセスで Java のクラスが最初に呼び出されたときに実行されます。したがって，トレースファイルに関するプロパティファイルの設定値を変更した場合は，該当するプロセスを再起動させる必要があります。

6.2.1　トレースファイルの出力項目

トレースファイルの出力項目を次に示します。

番号　**日付**　**時刻**　AP**名**　pid　tid　**メッセージ**ID　**種別**　**メッセージテキスト**　CRLF

なお，プロセスの起動ごとに，上記のヘッダが出力されます。

出力項目について説明します。なお，例外発生時には，スタックトレースが 1 レコードずつスタック数分だけ出力されます。

番号

トレース情報（トレースレコード）の通し番号が，4 桁の数値で出力されます。

日付

トレースレコードが取得された日が「yyyy/mm/dd」の形式で出力されます。

時刻

トレースレコードが取得された時刻が「hh:mm:ss.sss」の形式で出力されます。なお，出力される時刻は，ローカル時刻（JST）に従います。また，「sss」にはミリ秒が出力されます。

AP **名**

uCosminexus Portal Framework のトレースファイルの場合

トレースレコードの対象となったポートレット名が出力されます。なお，ポートレット名が 17 文字以上の場合，17 文字目以降は出力されません。

uCosminexus Portal Framework 以外のトレースファイルの場合

トレースレコードの対象となったアプリケーション識別名が出力されます。

アプリケーション識別名とコンポーネントの対応を次に示します。

表 6-1 アプリケーション識別名とコンポーネントの対応

アプリケーション識別名	コンポーネント名
CCU	Collaboration - Common Utility
CCM	Collaboration - Online Community Management
CML	Collaboration - Mail
CSC	Collaboration - Schedule
CFR	Collaboration - Forum
CFS	Collaboration - File Sharing
CUM	Collaboration - Directory Access
CCC	Collaboration - Calendar
CNV	Collaboration - Navigation View
CBB	Collaboration - Bulletin board
CWF	Collaboration - Workflow Portlet Option

pid

uCosminexus Portal Framework のトレースファイルの場合

uCosminexus Portal Framework のプロセス識別子が出力されます。

uCosminexus Portal Framework 以外のトレースファイルの場合

プロセス識別子が出力されます。プロセス識別子は，JavaVM が Java 実行時ランタイムのインスタンスに割り当てたハッシュ値となります。

tid

uCosminexus Portal Framework のトレースファイルの場合

リクエストのスレッド識別子が出力されます。

uCosminexus Portal Framework 以外のトレースファイルの場合

スレッド識別子が出力されます。スレッド識別子は，JavaVM がスレッドのインスタンスに割り当てたハッシュ値となります。

メッセージ ID

uCosminexus Portal Framework のトレースファイルの場合

ポートレットで使用しているログ出力 Bean のメソッドに対応したメッセージ ID が出力されます。ログ出力 Bean のメソッドとメッセージ ID の対応を次に示します。

表 6-2　ログ出力 Bean のメソッドとメッセージ ID の対応

ログ出力 Bean のメソッド名	メッセージ ID
debug	KDPF99990-I
note	KDPF99991-I
warn	KDPF99992-W
error	KDPF99993-E
printStackTrace	KDPF99990-I

uCosminexus Portal Framework 以外のトレースファイルの場合

メッセージ ID が出力されます。

種別

uCosminexus Portal Framework のトレースファイルの場合

トレースの契機となったイベントの種別が出力されます。次のメソッドを使用した場合は，「ER」が出力されます。

- error(Object obj)
- error(Object obj, Throwable t)
- warn(Object obj, Throwable t)

uCosminexus Portal Framework 以外のトレースファイルの場合

トレースの契機となったイベントの種別が出力されます。出力されるイベント種別には，次のものがあります。

FB：関数の実行を開始した

FE：関数の実行を終了した

GM：アクセスメソッドを呼び出した

EC：例外が発生した

PB：ほかのプログラムを呼び出した

PE：呼び出したほかのプログラムから処理が戻ってきた

CP：任意に設定したチェックポイントのイベントを実行した

OC：オブジェクトを生成した

ER：エラーメッセージ

メッセージテキスト

メッセージの内容が出力されます。

例外が発生したときは，エラーメッセージのテキストが出力されます。これ以外では，トレースした詳細情報が 0 ～ 4,096 バイトの範囲で出力されます。ただし，トレースレコード一つ当たり 2,000 文字までとなり，2,000 文字を超える場合は，複数行に分割されて出力されます。

6.2.2 トレースレベル

トレースファイルに対して，プロパティファイルでトレースレベルを指定できます。トレースレベルと出力される情報を次に示します。

(1) uCosminexus Portal Framework のトレースファイルの場合

トレースレベル	出力されるログ	意味
0	error，printStackTrace	通常運用に適したトレースレベルです。
10	warn	一定の監視が必要な場合に適したトレースレベルです。プログラムの実行性能に影響がない範囲で出力されます。
20	note	障害調査時に適したトレースレベルです。プログラムの動作シーケンスを把握できる情報が出力されます。
30	debug	障害調査時に適したトレースレベルです。プログラムの動作を完全に把握できる情報が出力されます。

(2) uCosminexus Portal Framework 以外のトレースファイルの場合

トレースレベル	出力基準	出力内容
-1	トレース情報の出力を抑止します。	なし
10	発生したすべての例外をトレースし，出力します。	例外トレース情報（イベント種別：EC）
20	再現性のある障害に対し，障害の発生元となるコンポーネントを明確に切り分けるために使用するトレースレベルです。	• トレースレベル 10 で出力されるトレース情報 • JSP ファイルの実行開始および実行終了のトレース情報 • DB 接続，SQL 実行，および切断の開始・終了のトレース情報 • SQL 実行時の SQL 文
30	障害の個所を詳細に特定するために使用するトレースレベルです。主なメンバ関数の開始や終了の情報を取得します。	• トレースレベル 20 で出力されるトレース情報 • JSP ファイルから呼び出される，次のクラスメソッドの実行開始および実行終了のトレース情報 ほかのプログラムにアクセスするメソッド データベースアクセスに関するメソッド 初期化に関するメソッド • 任意イベントのトレース情報
40	障害の個所を詳細に特定するために使用するトレースレベルです。すべてのメンバ関数の開始や終了の情報を取得します。	• トレースレベル 30 で出力されるトレース情報 • JSP ファイルから呼び出される，すべてのメソッドの実行開始および実行終了のトレース情報

6.3 RAS 収集機能

Collaboration では，そのシステム上で動作する各コンポーネントに対し，実行経過を記録したトレースファイルを出力できます。Collaboration のシステム上では多くのコンポーネントが動作するため，障害発生個所の特定にはまずそれらのトレースファイルをすべて収集する必要があります。

複数のトレースファイルを容易に収集するため，RAS 収集機能があります。

6.3.1 統合 RAS 収集コマンド

統合 RAS 収集コマンドとは，各コンポーネントの RAS 収集機能を呼び出し，Collaboration 全体の RAS 情報を収集するコマンドです。統合 RAS 収集コマンドのコマンド形式や規則などについて説明します。

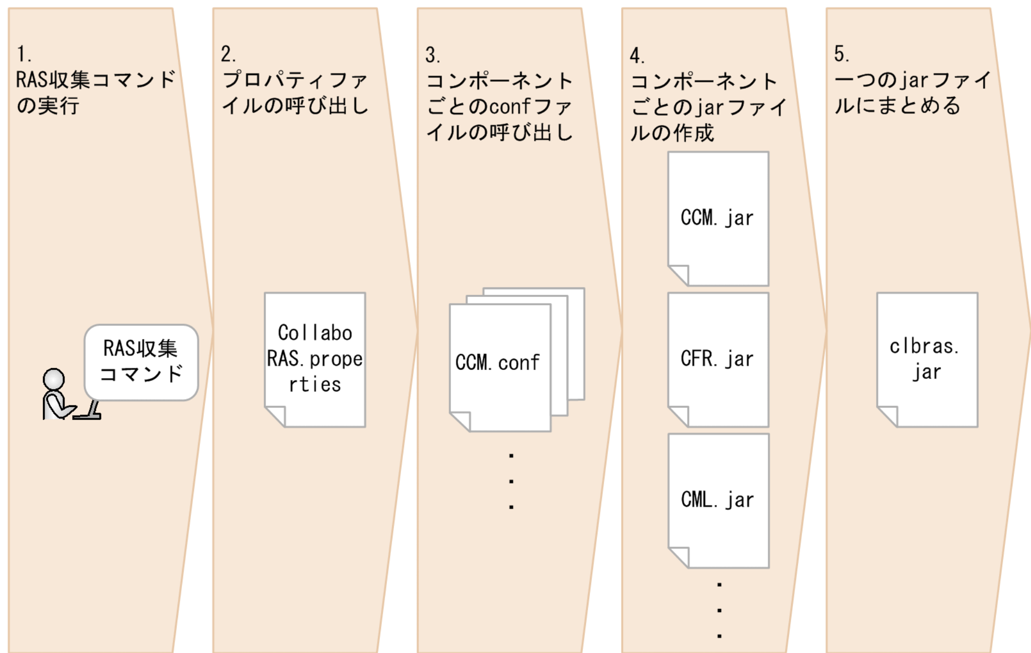
(1) 機能

統合 RAS 収集コマンドは，Collaboration のシステム上に格納されている各コンポーネントの jar ファイルを収集し，さらに一つの jar ファイルにするコマンドです。統合 RAS 収集コマンドを実行すると，収集した jar ファイルが格納され統合 RAS ファイルが生成されます。

各コンポーネントは，conf ファイルを用意します。

RAS 収集機能の概要の例を次に示します。

図 6-1 RAS 収集機能の概要の例



図の説明

1. RAS 収集コマンドを実行します。
2. プロパティファイル（CollaboRAS.properties）を呼び出します。
3. CollaboRAS.properties に記述されている各コンポーネントの conf ファイルを呼び出します。
4. 各コンポーネントの jar ファイルを作成します。jar ファイルには各コンポーネントの conf ファイルに記述されているファイルが格納されます。
5. 各コンポーネントの jar ファイルを一つの jar ファイルにまとめます。

(2) 形式

```
ClbRAS△プロパティファイルパス名△出力ファイルパス名
```

注

形式中の「△」は半角の空白文字を表します。

コーディング例

```
ClbRAS D:¥Collaboration¥conf¥CollaboRAS.properties
D:¥Collaboration¥RAS¥clbras.jar
```

(3) 戻り値

0	RAS 収集コマンドが正常に終了しました。
1 以上	RAS 収集コマンドでエラーが発生しました。

(4) 使用例

(a) プロパティファイル

各コンポーネントの conf ファイルの絶対パスを記述します。

RAS 収集プロパティファイルの記述例（CollaboRAS.properties の内容）を次に示します。

```
# <Collaboration - Common Utility>
CCU=C:¥¥Program
Files¥¥Hitachi¥¥Collaboration¥¥clb_home¥¥conf¥¥hptl_clb_ccu_ras.co
nf
# <Collaboration - Online Community Management>
CCM=C:¥¥Program
Files¥¥Hitachi¥¥Collaboration¥¥clb_home¥¥conf¥¥hptl_clb_ccm_ras.co
nf
# <Collaboration - Mail>
CML=C:¥¥Program
Files¥¥Hitachi¥¥Collaboration¥¥clb_home¥¥conf¥¥hptl_clb_cml_ras.co
nf
# <Collaboration - Schedule>
CSC=C:¥¥Program
Files¥¥Hitachi¥¥Collaboration¥¥clb_home¥¥conf¥¥hptl_clb_csc_ras.co
nf
# <Collaboration - Forum>
CFR=C:¥¥Program
Files¥¥Hitachi¥¥Collaboration¥¥clb_home¥¥conf¥¥hptl_clb_cfr_ras.co
nf
# <Collaboration - File Sharing>
CFS=C:¥¥Program
Files¥¥Hitachi¥¥Collaboration¥¥clb_home¥¥conf¥¥hptl_clb_cfs_ras.co
nf
# <Collaboration - Directory Access>
CUM=C:¥¥Program
Files¥¥Hitachi¥¥Collaboration¥¥clb_home¥¥conf¥¥hptl_clb_cum_ras.co
nf
# <Collaboration - Calendar>
CCC=C:¥¥Program
Files¥¥Hitachi¥¥Collaboration¥¥clb_home¥¥conf¥¥hptl_clb_ccc_ras.co
nf
# <Collaboration - Bulletin board>
CBB=C:¥¥Program
Files¥¥Hitachi¥¥Collaboration¥¥clb_home¥¥conf¥¥hptl_clb_cbb_ras.co
nf
# <Collaboration - Navigation View>
CNV=C:¥¥Program
Files¥¥Hitachi¥¥Collaboration¥¥clb_home¥¥conf¥¥hptl_clb_cnv_ras.co
nf
# <Collaboration - Workflow Portlet Option>
CWF=C:¥¥Program
Files¥¥Hitachi¥¥Collaboration¥¥clb_home¥¥conf¥¥hptl_clb_cwf_ras.co
nf
```

- CollaboRAS.properties 内の先頭が「#」で始まる行はコメント行として扱います。
- 各行（CCU，CCM，CML，CSC，CFR，CFS，CUM，CCC，CBB，CNV，CWF）のコメントを外し，conf ファイルのパスを指定してください。
- CollaboRAS.properties のフォーマットは，Java の Properties クラスの仕様に従って

ください。
- CollaboRAS.properties は次の形式で指定します。
  キー名＝各コンポーネントの conf ファイルの絶対パス
- キー名はアプリケーション識別子とします。
- パス名は絶対パス名で指定してください。
- 日本語を含む値を指定する場合は，uCosminexus Application Server Standard 付属の JDK コマンド（native2ascii コマンド）によってファイルを変換する必要があります。

(b) conf ファイル

各コンポーネントの jar ファイルに格納するファイルの絶対パスを記述します。

Collaboration の conf ファイル（hptl_clb_ccu_ras.conf）の記述例を次に示します。

```
C:¥Program Files¥Hitachi¥Collaboration¥clb_home¥log
C:¥Program Files¥Hitachi¥Collaboration¥clb_home¥conf
C:¥Program Files¥Hitachi¥CosmiPortalLight¥conf
C:¥Program Files¥Hitachi¥Collaboration¥deploy_work¥WEB-INF¥conf
C:¥Program Files¥Hitachi¥CosmiPortalLight¥log
C:¥Program
Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥server¥public¥ejb¥server1¥logs
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥server1
```

- conf ファイルには取得するファイルの存在するディレクトリ名またはファイル名を指定してください。
- conf ファイル内の先頭が「#」で始まる行はコメント行として扱います。
- パス名にはワイルドカード（*）は指定できません。
- パス名は絶対パス名で指定してください。
- 日本語を含む値を指定する場合も native2ascii コマンドを実行する必要はありません。実行環境の文字コードに合わせてファイルを保存してください。
- 同一 conf ファイル内に同じファイルを 2 回指定した場合，または別ドライブで同じファイル名を指定した場合は，あとから指定したファイルで jar ファイルの内容が上書きされます。
- hptl_clb_ccu_ras.conf ファイルには次のディレクトリを設定してください。
  <Collaboration インストールディレクトリ >¥clb_home¥log
  <Collaboration インストールディレクトリ >¥clb_home¥conf
  <Collaboration インストールディレクトリ >¥clb_home¥message
  <uCosminexus Portal Framework の設定ファイルディレクトリ >※
  <uCosminexus Portal Framework の Portal Manager で指定したログ出力先ディレクトリ >
  < 該当する J2EE サーバの作業ディレクトリ >¥ejb¥< サーバ名称 >¥logs
  <Component Container のインストールディレクトリ >¥server¥usrconf¥ejb¥< サーバ名称 >

  注※

<uCosminexus Portal Framework のインストールディレクトリ >¥conf および次のディレクトリ

Windows Server 2003 R2 x64，Windows Server 2008 x64，および Windows Server 2008 R2 を使用している場合

C:¥Program Files(x86)¥Hitachi¥Collaboration¥deploy_work¥WEB-INF¥conf

そのほかの OS（Windows）を使用している場合

C:¥Program Files¥Hitachi¥Collaboration¥deploy_work¥WEB-INF¥conf

（5） 使用上の注意事項

- 「出力ファイルパス名」は絶対パス名で指定してください。
- 統合 RAS 収集コマンド実行後，2 段の jar ファイルを展開し，障害の状況に応じたキーワードで収集した全ファイルを文字列検索してください。
- CollaboRAS.properties に指定する conf ファイルのパスに誤りがあった場合，動作は停止しないで，ログファイルにエラーメッセージを出力後，ほかの conf ファイルの読み込みを継続します。
- 「< 出力ファイルパス名 >_log.log」というファイル名でログファイルが作成されます。
- ClbRAS コマンドを途中で中断した場合は一時ディレクトリが残るため，一時ディレクトリを手動で削除してください。一時ディレクトリは，ClbRAS コマンドの実行時に指定した，出力ファイルパス名の下にあります。一時ディレクトリの名称と意味を次に示します。

一時ディレクトリの名称

logyyyymmdd_hhmmss

意味

log：固定です。

yyyy：年（西暦（4 桁））です。

mm：月（01 ～ 12）です。

dd：日（01 ～ 31）です。

_（アンダーバー）：固定です。

hh：時（00 ～ 23）です。

mm：分（00 ～ 59）です。

ss：秒（00 ～ 59）です。

例

log20040301_101050

6.4　各コンポーネントサーバのリストア

障害が発生してデータが破壊された場合，リストアを実施します。リストアには，次の三つの方法があります。

システムリストア

システムに障害が起きた場合，システム全体をリストアします。
システムリストアは，市販のバックアップ製品を利用して実施してください。

データベースリストア

データベースに障害が起きた場合，データベースだけをリストアできます。
Collaboration - Online Community Management，Collaboration - Forum，Collaboration - File Sharing，Collaboration - Bulletin board，および Collaboration - Mail では，データベースサーバとして HiRDB を利用しています。このため，データベースに障害が発生した場合は，HiRDB のデータベースをリストアすれば，回復できます。リストアの方法は，マニュアル「スケーラブルデータベースサーバ　HiRDB Version 8 システム運用ガイド（Windows(R) 用）」を参照してください。

コンテンツリストア

ユーザが誤ってファイルを削除したなど，コンテンツを回復，移動または複製する場合，コンテンツ単位でリストアできます。
なお，ファイル共有で使用するファイル格納先ファイルシステムは，データベースのリストアと同期を取ってリストアしてください。また，リストアを実行する前には，必ず Collaboration - File Sharing を停止させてください。リストアは，OS の機能を使用して実施してください。
詳細は，必要に応じてマニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」および Groupmax 各製品のサーバのマニュアルを参照してください。

7 Collaboration の監査ログ出力機能

この章では，Collaboration で提供する監査ログ出力機能について説明します。
なお，Collaboration - File Sharing の WebDAV 連携機能使用時に出力される監査ログの詳細は，マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」を参照してください。

7.1 Collaboration での監査ログ出力の概要

企業で内部統制整備や情報セキュリティへの関心が高まる中，IT システムには，「いつ」，「だれが」，「何をしたか」を記録する機能が求められています。

Collaboration では，メールや電子会議室などの各種業務の画面（ポートレット）に対する操作履歴や，Collaboration のシステムを運用するコマンドの操作履歴などの情報を，監査ログとして出力する機能を提供しています。監査者は，これらの情報（監査ログ）を調査することで，「いつ」，「だれが」，「何をしたか」を知ることができます。

ここでは，Collaboration での監査ログ出力機能の概要，監査ログを取得する際の検討事項などについて説明します。

7.1.1 監査ログ出力機能とは

Collaboration では，利用者による各種操作の記録を監査ログとして出力できます。Collaboration の監査ログには，次に示す情報が出力されます。

- メールや電子会議室などの各ポートレットに対する操作履歴と，それに伴うプログラムの動作履歴
- Collaboration のシステムを運用するコマンドの操作履歴と，それに伴うプログラムの動作履歴

これらの情報は，メールや電子会議室などの Collaboration の各機能から出力されます。**監査ログ出力機能**は，Collaboration の各機能から出力された監査ログを統一した形式に整形してファイルに出力する機能です。この機能が監査ログを出力するファイルを**監査ログファイル**と呼びます。

参考

Collaboration - File Sharing の WebDAV 連携機能を使用している場合，Web フォルダに対する操作履歴も監査ログとして出力できます。この場合，File Sharing クライアントの監査ログ出力機能を使用します。File Sharing クライアントの監査ログ出力機能，および出力される監査ログの詳細は，マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」を参照してください。

監査者は，監査ログファイルに出力された操作履歴および動作履歴から，「いつ」，「だれが」，「何をしたか」を調べることができます。監査ログに出力される主な項目を次の表に示します。

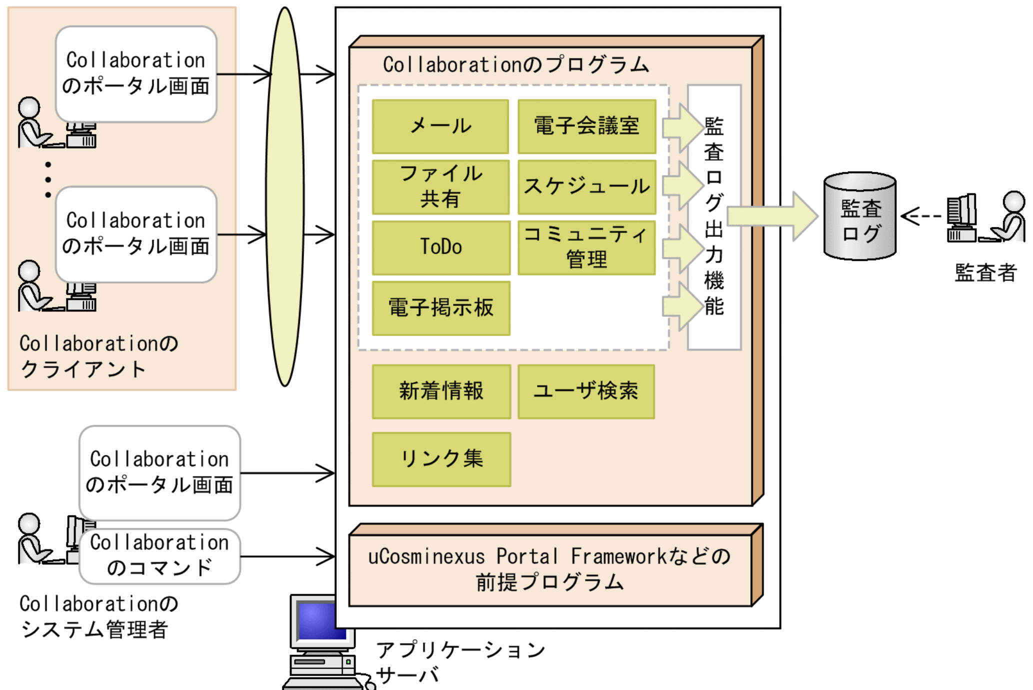
表 7-1　監査ログに出力される主な項目

項番	情報の種類	監査ログの主な出力項目
1	「いつ」に関する情報	日付，時刻

項番	情報の種類	監査ログの主な出力項目
2	「だれが」に関する情報	サブジェクト情報（ユーザ ID，プロセス ID）
3	「何をしたか」に関する情報	オブジェクト情報（操作対象のファイル，データベースなど），動作情報（追加，更新，参照，削除など）

Collaboration の監査ログ出力機能を次の図に示します。

図 7-1　Collaboration の監査ログ出力機能



この図のように，Collaboration のクライアントまたはシステム管理者が，Collaboration のポータル画面やコマンドを使用した操作を実施すると，操作対象の Collaboration の機能（コンポーネント）から監査ログが出力されます。各コンポーネントから出力された監査ログは，監査ログ出力機能で統一した形式に整形されたあと，監査ログファイルに出力されます。監査者は，監査ログファイルに出力された情報（監査ログ）を確認したり，調査したりできます。

また，JP1/NETM/Audit と連携すると，Collaboration のシステムで出力した監査ログを，Collaboration 以外の日立オープンミドルウェア製品が出力する監査ログとまとめて一元管理できます。JP1/NETM/Audit と連携する場合には設定が必要です。JP1/NETM/Audit と連携する場合に必要な設定については，「7.3.2　JP1/NETM/Audit と連携するための設定」を参照してください。なお，JP1/NETM/Audit については，マニュアル「JP1 Version 8 JP1/NETM/Audit」を参照してください。

注意事項

Collaboration のログイン，ログアウト，運用管理ポートレットに対する操作など，uCosminexus Portal Framework に関する操作で出力される監査ログの設定や内容については，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」を参照してください。

7.1.2 監査ログの取得対象の検討

Collaboration では，ポートレットおよびコマンドの操作履歴や，プログラムの動作履歴のうち，どのイベント（事象）を監査ログとして取得するかを監査ログプロパティファイルで設定できます。監査ログプロパティファイルでは，次の項目が設定できます。

- **重要度**
  監査ログの出力レベルを示します。重要度には，Error（エラー情報），Warning（警告情報），Information（通知情報）があります。
- **監査事象の種別**
  監査の事象（イベント）を分類したカテゴリを示します。監査事象の種別には，StartStop（起動・停止），Authentication（識別・認証），AccessControl（アクセス制御）などがあります。

これらの項目を設定することで，監査者が使用する特定の項目を出力したり，監査ログの出力量を抑えたりできます。

また，監査ログプロパティファイルでは，監査ログファイルの出力先や，切り替えのタイミングなども設定できます。監査ログプロパティファイルの詳細は，「7.3.1　監査ログプロパティファイルの設定方法」を参照してください。

注意事項

インストール時の監査ログプロパティファイルでは，監査ログの出力有無（hptl_clb_audit_logIsEnable プロパティ）に「Off」が設定されています。監査ログを出力する場合には，このプロパティ項目に「On」を設定してください。

参考

Collaboration - File Sharing の WebDAV 連携機能使用時に監査ログを出力するかどうかは，Collaboration - File Sharing の WebDAV 定義ファイルで設定します。WebDAV 定義ファイルについては，マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」を参照してください。

(1) 重要度による取得対象の検討

重要度は，監査ログがエラーの発生を知らせるメッセージとして出力されたものであるか，単なる操作内容を通知するメッセージとして出力されたものであるかなど，監査ログの出力レベルを示します。

監査ログは，システム運用時に出力されるメッセージとは異なり，ポートレットやコマンドで操作した処理が成功した場合にも，Information（通知情報）の監査ログが出力されます。例えば，Information（通知情報）の監査ログを出力しない設定にした場合，監査ログの出力量は抑えられますが，すべての操作履歴が取得できなくなります。監査や評価の目的に応じて，重要度の設定を検討してください。

(2) 監査事象の種別による取得対象の検討

監査事象は，起動・停止，識別・認証，アクセス制御などの事象（イベント）ごとに分類されています。監査事象は，監査や評価の目的に応じて決定した監査項目ごとに，どの事象の監査ログを取得すればよいかを検討して設定できます。

ここでは，各ポートレットおよびコマンドの操作で出力される監査ログの監査事象について説明します。Web フォルダの操作で出力される監査ログの監査事象については，マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」を参照してください。

Collaboration の監査ログに出力される監査事象を次の表に示します。

表 7-2　Collaboration の監査ログに出力される監査事象

項番	監査事象の種別	説明	Collaboration の操作	
			ポートレット※1	コマンド※2
1	StartStop	Collaboration のコマンドの開始と終了を示す事象	×	○
2	Authentication	リソースの参照，サーバとのコネクション確立など，Collaboration からの接続で認証が成功または失敗したことを示す事象	×	△※3
3	AccessControl	アクセス制限されているリソースに対する操作で認証が成功または失敗したことを示す事象	○	△※4

項番	監査事象の種別	説明	Collaboration の操作	
			ポートレット※ 1	コマンド※ 2
4	ConfigurationAccess	Collaboration の設定情報（アクセス権や構成情報）に対する操作が成功または失敗したことを示す事象	○	○
5	Failure	Collaboration のプロパティファイルの操作による異常，またはデータベースへのアクセスに対する異常を示す事象	○	○
6	External Service	外部サービス（メールサーバ）に対する通信が成功または失敗したことを示す事象	×	△※ 5
7	ContentAccess	Collaboration の機能が使用するデータに対する操作が成功または失敗したことを示す事象	○	○
8	AnomalyEvent	入力値チェックで異常が発生したことを示す事象	△※ 6	△※ 7

（凡例）

○：監査事象に対する監査ログが出力されます。

△：Collaboration の一部の操作で監査事象に対する監査ログが出力されます。

×：監査事象に対する監査ログは出力されません。

注

Collaboration の操作ごとに出力される監査事象については，「7.1.3　Collaboration に対する主な操作と出力される監査事象」を参照してください。

注※ 1

ポートレットについては，マニュアル「Collaboration　ユーザーズガイド」を参照してください。

ただし，［ユーザ検索］ポートレットを操作しても，監査ログは出力されません。

また，次に示すポートレットの場合，コンポーネントから監査ログは出力されませんが，これらのポートレットをほかのコンポーネントから利用した場合に，利用したコンポーネントから監査ログが出力されます。詳細は，「7.1.3　Collaboration に対する主な操作と出力される監査事象」の表 7-5，および各コンポーネントのマニュアルを参照してください。

・［新着情報］ポートレット

・［リンク集］ポートレット

注※ 2

次に示す機能のコマンドを操作した場合に，監査ログが出力されます。そのほかの機能のコマンドでは，監査ログは出力されません。

・電子会議室機能

・ファイル共有機能

・コミュニティ管理機能

・電子掲示板機能

注※ 3

次に示す機能のコマンドを操作した場合に，監査ログが出力されます。

・電子会議室機能
・コミュニティ管理機能
・電子掲示板機能

注※ 4

次に示す機能のコマンドを操作した場合に，監査ログが出力されます。
・ファイル共有機能

注※ 5

次に示す機能のコマンドを操作した場合に，監査ログが出力されます。
・電子会議室機能

注※ 6

次に示す機能のポートレットを操作した場合に，監査ログが出力されます。
・メール機能
・電子会議室機能
・ファイル共有機能
・スケジュール機能
・ToDo 機能
・電子掲示板機能

注※ 7

次に示す機能のコマンドを操作した場合に，監査ログが出力されます。
・電子会議室機能
・ファイル共有機能
・電子掲示板機能

また，監査項目と設定する監査事象の関係を，Collaboration の操作（ポートレットまたはコマンド）ごとに分けて説明します。

● ポートレットの操作に対する監査項目と設定する監査事象

ポートレットの操作に対する監査項目ごとに，取得する情報と設定する監査事象を次の表に示します。

表 7-3　監査項目ごとに取得する情報と設定する監査事象（ポートレットの場合）

項番	監査項目	取得する情報	取得する目的	設定する監査事象の種別
1	アクセス制御	リソースへの操作に対するアクセス権の監視結果	アクセス失敗の情報から，不正なアクセスがないかを監査します。	AccessControl
2	構成定義	アクセス権の設定情報に対する操作の監視結果	アクセス権の設定情報に不正な変更がないか，または必要以上にアクセス権を与えていないかを監査します。	ConfigurationAccess
3		管理対象の構成情報（施設情報，予約ルール）に対する操作の監視結果	構成情報に不正な変更がないかを監査します。	

項番	監査項目	取得する情報	取得する目的	設定する監査事象の種別
4	障害	ポートレットで使用するプロパティファイルに対する異常の監視結果，またはポートレットを使用したデータベースへのアクセスに対する異常の監視結果	障害発生時に不正な行為（データの盗難，削除など）がないかを監査します。	Failure
5	重要情報アクセス	Collaboration の機能が使用するデータに対する，ポートレットを利用した操作の監視結果	操作失敗の情報から，重要な情報への不正なアクセスがないかを監査します。	ContentAccess
6	異常事象	ユーザの入力操作に対する入力値エラーの監視結果	不正な操作が実行されていないかを監査します。	AnomalyEvent

● コマンドの操作に対する監査項目と設定する監査事象

コマンドの操作に対する監査項目ごとに，取得する情報と設定する監査事象を次の表に示します。

表 7-4　監査項目ごとに取得する情報と設定する監査事象（コマンドの場合）

項番	監査項目	取得する情報	取得する目的	設定する監査事象の種別
1	起動・停止	Collaboration のコマンドの開始と終了の監視結果	コマンドの不正な開始，終了がないかを監査します。	StartStop
2	識別・認証	リソースまたはサーバとの接続に対するユーザ認証の監査結果	認証失敗の情報から，不正な接続やアクセスがないかを監査します。	Authentication
3	アクセス制御	リソースへの操作に対するアクセス権の監視結果	アクセス失敗の情報から，不正なアクセスがないかを監査します。	AccessControl
4	構成定義	アクセス権の設定情報に対する操作の監視結果	アクセス権の設定情報に不正な変更がないか，または必要以上にアクセス権を与えていないかを監査します。	ConfigurationAccess
5		操作対象の構成情報（テーブル）に対する操作の監視結果	構成情報に不正な変更がないかを監査します。	
6	障害	コマンドで使用するプロパティファイルに対する異常の監視結果，またはコマンドを使用したデータベースへのアクセスに対する異常の監視結果	障害発生時に不正な行為（データの盗難，削除など）がないかを監査します。	Failure

項番	監査項目	取得する情報	取得する目的	設定する監査事象の種別
7	外部サービス	コマンドを使用した外部サービスに対する通信（メールの送受信など）の監視結果	外部サービスへの通信が正しく実施されているかを監査します。	External Service
8	重要情報アクセス	Collaboration の機能が使用するデータに対する，コマンドを利用した操作の監視結果	操作失敗の情報から，重要な情報への不正なアクセスがないかを監査します。	ContentAccess
9	異常事象	コマンドの引数に対する入力値エラーの監視結果	不正なコマンドが実行されていないかを監査します。	AnomalyEvent

7.1.3 Collaboration に対する主な操作と出力される監査事象

ここでは，Collaboration のポータル画面に対する操作と，Collaboration のコマンドを使用した操作ごとに，出力される監査事象について説明します。ポータル画面またはコマンドの操作で出力される監査ログの詳細は，各コンポーネントのマニュアルを参照してください。Web フォルダの操作で出力される監査ログの詳細は，マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」，およびマニュアル「Collaboration - File Sharing　メッセージ」を参照してください。

● Collaboration のポータル画面に対する操作と監査事象

Collaboration のポータル画面を構成するポートレットの種類ごとに，主な操作と出力される監査事象について説明します。なお，次に示すポートレットを操作しても，監査ログは出力されません。

- ［新着情報］ポートレット
- ［ユーザ検索］ポートレット
- ［リンク集］ポートレット

Collaboration のポータル画面に対する主な操作と出力される監査事象を次の表に示します。各ポートレットおよび操作の詳細は，各ポートレットのマニュアルを参照してください。

表 7-5　Collaboration のポータル画面に対する主な操作と出力される監査事象

項番	ポートレットの種類	Collaboration のポータル画面に対する主な操作	監査事象の種別				
			A	B	C	D	E
1	メール	メールの作成，編集，削除，送信，保存，印刷など	×	×	△※1	○	△※2
2		親展パスワードの入力（確認）	○	×	△※1	○	△※2

項番	ポートレットの種類	Collaboration のポータル画面に対する主な操作	監査事象の種別				
			A	B	C	D	E
3		親展パスワードの変更	×	○	△※1	○	△※2
4		宛先台帳のフォルダの作成，移動，編集，削除，宛先の登録，編集，削除など	○	×	△※1	○	△※2
5		グループ宛先台帳のルートフォルダの作成，参照，編集，削除	○	○	△※1	○	△※2
6		メールの新着情報の表示，参照	×	×	△※1	○	△※2
7	電子会議室	会議室の作成，会議室の情報の編集，参照など	○	○	△※1	○	△※2
8		会議室のメール設定情報の参照，編集，会議室の削除など	○	×	△※1	○	△※2
9		議題または発言の登録，削除，参照，議事録の作成など	○	×	△※1	○	△※2
10		議題または発言の検索など	○	×	△※1	×	△※2
11		［電子会議室］ポートレットの編集など	×	×	△※1	×	△※2
12		電子会議室の新着情報の一覧取得，表示条件の編集	×	×	△※1	×	△※2
13		リンク集への会議室の追加	○	×	△※1	×	△※2
14	ファイル共有	フォルダの作成，表示，コピー，削除，プロパティの参照，更新など	○	×	△※1	○	△※2
15		ファイルの登録，ダウンロード，コピー，移動，ロック，更新，削除，プロパティの参照，更新など	○	×	△※1	○	△※2
16		フォルダまたはファイルのアクセス権の参照，更新など	○	○	△※1	○	△※2
17		［ファイル共有］ポートレットの設定の参照，更新	×	×	△※1	×	△※2
18		最大許容サイズ情報またはベースパス情報の追加，削除など	○	×	△※1	○	△※2
19	スケジュール	スケジュールの予約，参照，印刷，更新，削除など	○	×	△※1	○	△※2
20		行先，区分，用件，略記およびローカルグループの追加，更新，削除など	×	×	△※1	○	△※2
21		施設に関する情報の登録，参照，削除など	○	○	△※1	○	△※2

項番	ポートレットの種類	Collaboration のポータル画面に対する主な操作	監査事象の種別				
			A	B	C	D	E
22		施設の予約ルールの有効化または無効化	×	○	△※1	×	△※2
23		スケジュールの新着情報の表示，参照	○	×	△※1	○	△※2
24	ToDo	タスクの登録，更新，削除，参照など	×	×	△※1	○	△※2
25		タスクの新着情報の表示，参照	×	×	△※1	○	△※2
26	コミュニティ管理	コミュニティの参照，作成，設定内容の変更，削除	○	○	△※1	○	×
27		コミュニティメンバの参照，追加，詳細情報の変更，削除	○	×	△※1	○	×
28		コミュニティ内の役割一覧の表示，役割の参照，作成，変更，削除	○	×	△※1	○	×
29		システム管理者・運用者の登録，登録内容の変更，削除	○	○	△※1	○	×
30		システム管理者・運用者一覧の表示，情報の参照	×	○	△※1	○	×
31		システム管理者・運用者メニューの表示	○	×	△※1	×	×
32		システムポリシーの参照，変更	○	○	△※1	×	×
33		コミュニティテンプレート一覧の表示，設定内容の参照	×	×	△※1	○	×
34	電子掲示板	掲示板の作成，編集，参照など	○	○	△※1	○	△※2
35		掲示板の削除	○	×	△※1	○	△※2
36		記事の作成，編集，参照，削除など	○	×	△※1	○	△※2
37		記事の検索	○	×	△※1	×	△※2
38		［電子掲示板］ポートレットの編集など	×	×	△※1	×	△※2
39		電子掲示板の新着情報の一覧取得，表示条件の編集	×	×	△※1	×	△※2

（凡例）

A：AccessControl

B：ConfigurationAccess

C：Failure
D：ContentAccess
E：AnomalyEvent
○：出力されます。
×：出力されません。
△：エラーが発生した場合に出力されます。

注※ 1
プロパティファイルの読み込みに失敗した場合，プロパティ名もしくは値の取得に失敗した場合，またはシステムで異常が発生した場合に監査ログが出力されます。

注※ 2
入力値チェックでエラーが発生した場合に監査ログが出力されます。

● Collaboration のコマンドを使用した操作と監査事象

Collaboration では，次に示す機能のコマンドを操作すると，監査ログが出力されます。

- 電子会議室機能
- ファイル共有機能
- コミュニティ管理機能
- 電子掲示板機能

Collaboration のコマンドによる操作と出力される監査事象を次の表に示します。各機能のコマンドの詳細は，各コンポーネントのマニュアルを参照してください。

表 7-6　Collaboration のコマンドによる操作と出力される監査事象

項番	機能の種類	Collaboration のコマンドによる操作	監査事象の種別							
			A	B	C	D	E	F	G	H
1	電子会議室	会議室のアーカイブ，状態変更，削除，期間延長，強制再開，復活，検索	○	○	×	×	△※1	×	○	△※2
2		会議室のリストア，所有者変更	○	○	×	○	△※1	×	○	△※2
3		システムパラメタの変更	○	○	×	○	△※1	×	×	△※2
4		添付ファイルの削除	○	○	×	×	△※1	×	×	△※2
5		メール配信，お知らせメール配信	○	○	×	×	△※1	○	×	△※2
6		メールによる議題または発言の投稿	○	○	×	×	△※1	○	○	△※2

項番	機能の種類	Collaboration のコマンドによる操作	監査事象の種別							
			A	B	C	D	E	F	G	H
7		会議室の状態変更通知，会議室の開催通知，回答期限通知のメッセージキューへの登録，メッセージキューの削除，参照	○	○	×	×	△※1	×	×	△※2
8		会議室の発言のインポート	○	○	○	×	△※1	×	○	△※2
9		会議室の発言のエクスポート	○	○	×	×	△※1	×	○	△※2
10	ファイル共有	グループルートフォルダの作成，非表示化，またはベースパス情報の取得，使用量の確認	○	×	○	×	△※1	×	○	△※2
11		グループルートフォルダのアクセス権の追加，変更，削除，または運用者の追加，削除	○	×	○	○	△※1	×	○	△※2
12		ルートフォルダ情報の一覧表示	○	×	○	×	△※1	×	○	△※2
13		ファイルの文字コードセットの変換	○	×	×	×	△※1	×	×	△※2
14		アクセス履歴ファイルに出力されたファイル，フォルダの情報の取得，OIID の変換	○	×	○	×	△※1	×	○	△※2
15		最大許容サイズ情報の取得	○	×	○	×	△※1	×	○	△※2
16	コミュニティ管理	システム情報の設定	○	○	×	○	△※1	×	×	×
17		アプリケーションの登録，削除	○	○	×	×	△※1	×	○	×
18		コミュニティテンプレートまたはワークプレーステンプレートの追加	○	○	×	×	△※1	×	○	×
19		ロール（役割）の追加	○	○	×	×	△※1	×	○	×
20		ユーザの一括登録，変更，ユーザおよびメンバの一括削除	○	○	×	×	△※1	×	○	×
21		レコードの削除	○	○	×	×	△※1	×	○	×

項番	機能の種類	Collaboration のコマンドによる操作	監査事象の種別							
			A	B	C	D	E	F	G	H
22		コミュニティ情報一覧の出力	○	○	×	×	△※1	×	○	×
23	電子掲示板	ルート掲示板の作成，掲示板の管理者変更，組織変更，検索	○	○	×	○	△※1	×	○	△※2
24		掲示板の削除，期限切れ記事の削除	○	○	×	×	△※1	×	○	△※2
25		添付ファイルの削除	○	○	×	×	△※1	×	×	△※2
26		システムパラメタの変更	○	○	×	○	△※1	×	×	△※2
27		掲示板の記事のインポート	○	○	○	×	△※1	×	○	△※2
28		掲示板の記事のエクスポート	○	○	×	×	△※1	×	○	△※2

（凡例）

A：StartStop
B：Authentication
C：AccessControl
D：ConfigurationAccess
E：Failure
F：External Service
G：ContentAccess
H：AnomalyEvent
○：出力されます。
×：出力されません。
△：エラーが発生した場合に出力されます。

注※ 1

プロパティファイルの読み込みに失敗した場合，プロパティ名もしくは値の取得に失敗した場合，または DB アクセスで異常が発生した場合に監査ログが出力されます。

注※ 2

コマンドの引数に不正があった場合，または入力値チェックでエラーが発生した場合に監査ログが出力されます。

7.2 監査ログを出力するシステムの構築

ここでは，監査ログを出力するシステムの構成と，ディスク使用量の見積もりについて説明します。

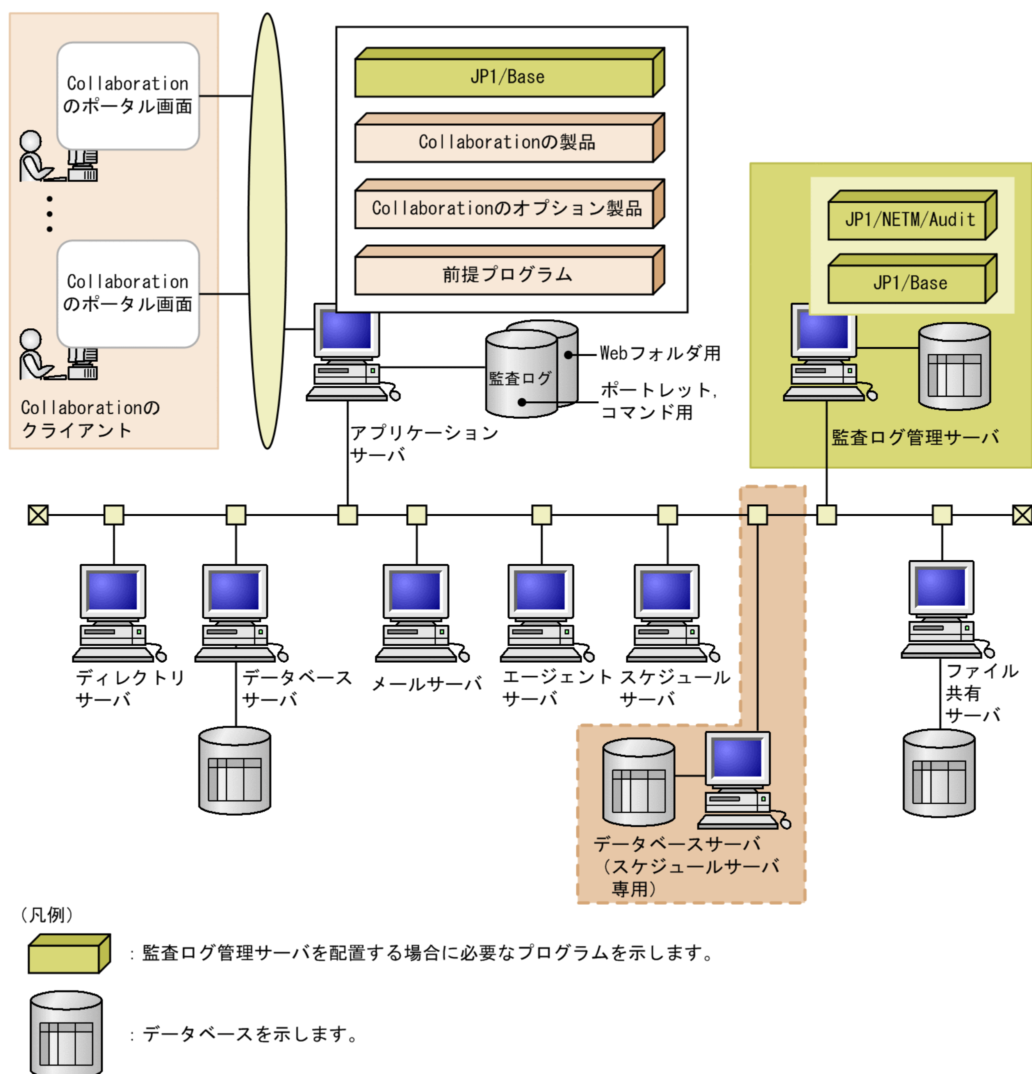
7.2.1 監査ログを出力するシステムの構成例

ここでは，監査ログを出力する場合のシステムの構成と，システムを構成する各種サーバについて説明します。

監査ログを出力するシステムを構築する場合，Collaboration のシステムを構成する各種サーバに加えて，監査ログを一元管理するための監査ログ管理サーバを配置できます。

監査ログを出力するシステムの構成例を次の図に示します。

図 7-2　監査ログを出力するシステムの構成例



注　で囲まれた部分は，スケジュールサーバをGroupmax Scheduler ServerのDBモードで運用する場合に必要になります。
DBモードについては，マニュアル「Groupmax Scheduler/Facilities Manager Version 7 システム管理者ガイド」を参照してください。

この図は，JP1/NETM/Audit と連携して，監査ログ管理サーバを配置した場合のシステムの構成です。JP1/NETM/Audit と連携しない場合は，監査ログ管理サーバの配置と，アプリケーションサーバへの JP1/Base のインストールは不要になります。

ここでは，Collaboration が監査ログを出力するアプリケーションサーバ，および監査ログ管理サーバについて説明します。そのほかの Collaboration のシステムを構成する各種サーバについては，「2.2.1　Collaboration のシステム構成」を参照してください。

(1) アプリケーションサーバ

アプリケーションサーバは，Collaboration の各ポートレットを使用するポータルの運用サーバです。アプリケーションサーバを構成するプログラムについては，「2.2.1 Collaboration のシステム構成」を参照してください。

Collaboration で監査ログを出力する場合，アプリケーションサーバに監査ログを出力するためのファイルが必要になります。監査ログを出力するファイルには，次の 2 種類があります。

- **監査ログファイル（ポートレット，コマンド用）**
  ポートレットやコマンドの操作履歴と，それに伴うプログラムの動作履歴が出力されます。
  監査ログファイルの出力先，出力形式および出力項目は，「7.4　監査ログの収集と確認」を参照してください。
- WebDAV **連携用監査ログファイル（**Web **フォルダ用）**
  Web フォルダの操作履歴が出力されます。Collaboration - File Sharing の WebDAV 連携機能を使用している場合，監査ログを出力するときに必要になります。
  WebDAV 連携用監査ログファイルの詳細は，マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」を参照してください。

また，JP1/NETM/Audit と連携して監査ログ管理サーバを配置する場合は，アプリケーションサーバに，JP1/Base をインストールする必要があります。JP1/Base の詳細は，マニュアル「JP1 Version 8 JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。監査ログ管理サーバを配置する場合にアプリケーションサーバで必要な設定については，「7.3.2　JP1/NETM/Audit と連携するための設定」を参照してください。

(2) 監査ログ管理サーバ

監査ログ管理サーバは，監査ログを収集して監査を実施するためのサーバです。このサーバは，監査者だけが使用します。監査ログ管理サーバを使用すると，Collaboration の監査ログは，監査ログ管理データベース（監査ログ管理サーバのデータベース）に収集され，ほかの日立オープンミドルウェア製品が出力する監査ログとともに一元管理されるようになります。監査ログ管理サーバおよび監査ログ管理データベースの詳細は，マニュアル「JP1 Version 8 JP1/NETM/Audit」を参照してください。

監査ログ管理サーバに必要なプログラムを次に示します。

- JP1/Base
- JP1/NETM/Audit

各製品の詳細は，製品のマニュアルを参照してください。各製品の参照先マニュアルを次に示します。

製品名	参照先マニュアル
JP1/Base	JP1 Version 8 JP1/Base 運用ガイド
	JP1 Version 8 JP1/Base メッセージ
JP1/NETM/Audit	JP1 Version 8 JP1/NETM/Audit

なお，監査ログ管理サーバを配置したシステムを構築する場合には，JP1/NETM/Audit と連携するための設定が必要になります。監査ログ管理サーバで必要な設定については，「7.3.2　JP1/NETM/Audit と連携するための設定」を参照してください。

7.2.2 監査ログ出力時のディスク使用量の見積もり

ここでは，監査ログ出力時に必要なディスク使用量の見積もり方法について説明します。

監査ログを出力する場合，監査ログファイルを格納するためのディスクが必要になります。監査ログ出力時のディスク使用量は，次の値を基に監査ログの出力量を算出して見積もってください。

監査ログの 1 行のサイズ：1,024 バイト
1 操作当たりの行数
- ポートレットの操作の場合：3 行
- コマンドの実行の場合：4 行

なお，操作によっては，上記の値より 1 操作当たりの行数が増えて，監査ログの出力量が増えることがあります。ポートレットおよびコマンドごとに，監査ログの出力量が増える操作と 1 操作当たりの行数について説明します。

● ポートレットの操作の場合
監査ログの出力量が増える操作と 1 操作当たりの行数を次の表に示します。

表 7-7　監査ログの出力量が増える操作と 1 操作当たりの行数（ポートレットの操作の場合）

機能	操作	1 操作当たりの行数
メール	グループ宛先台帳の作成	グループ宛先台帳を参照できるユーザ数＋グループ宛先台帳を参照できる組織数＋ 3 行
	グループ宛先台帳の設定	
	宛先台帳に宛先を追加	追加する宛先の数
電子会議室	会議室情報の編集	5 行＋（ユーザ数）行

機能	操作	1 操作当たりの行数
ファイル共有	複数ファイルを選択した削除の操作	選択したファイル数×２行
	複数ファイルを選択したフォルダへコピーの操作	
	複数ファイルを選択したフォルダへ移動の操作	
	複数フォルダを選択した削除の操作	選択したフォルダ数×２行
	複数フォルダを選択したフォルダへコピーの操作	
	複数フォルダを選択したフォルダへ移動の操作	
スケジュール	コミュニティメンバのスケジュールの一覧表示	コミュニティメンバ数×２行
	スケジュールの予約	スケジュールを予約したメンバ数×２行
	スケジュールの更新	スケジュール更新前のメンバ数×２行＋スケジュール更新後のメンバ数×２行＋１行
コミュニティ管理	コミュニティメンバの追加	コミュニティメンバ数×４行
	コミュニティメンバの詳細情報の変更	（変更する役割数＋１）行
	コミュニティメンバの削除	コミュニティメンバ数×３行
電子掲示板	掲示板情報の編集	５行＋（組織数＋ユーザ数）行

● コマンドの実行の場合

監査ログの出力量が増える操作と１操作当たりの行数を次の表に示します。

表 7-8 監査ログの出力量が増える操作と 1 操作当たりの行数（コマンドの実行の場合）

機能	操作（コマンド）	1 操作当たりの行数
電子会議室	会議室アーカイブ （frmarch）	アーカイブした会議室（最上位会議室およびその子会議室を含むすべての会議室）の数＋ 3 行
	会議室状態変更 （frmchstat）	状態を変更した会議室の数＋ 3 行
	会議室削除 （frmdel）	削除した会議室の数＋ 3 行
	会議室の発言のエクスポート （frmexpopn）	参照した会議室の数＋参照した発言の数＋参照した添付ファイルの数＋ 3 行
	会議室の発言のインポート （frmimpopn）	アクセスした会議室の数＋参照した会議室の数＋追加した発言の数＋追加した添付ファイルの数＋ 3 行
	お知らせメール配信 （frminfomail）	配信したお知らせメールの数＋ 3 行
	メール配信 （frmopnmail）	メール配信した発言の数＋ 3 行
	メールによる議題または発言の投稿 （frmopnregist）	メールで投稿された発言の数× 2 行＋ POP3 サーバの接続数※1 ＋ 3 行
	会議室リストア （frmrest）	（リストアした会議室 1）〔＋（リストアした会議室 2）…＋（リストアした会議室 n）〕＋ 3 行 n は，リストアした会議室の数を示します。 リストアした会議室の種類によって，出力される行数が異なります。 • 個人の会議室の場合 （会議室に含まれるメンバ＋ 1） • コミュニティの会議室の場合 （役割の数＋ 1）
	会議室復活 （frmrev）	復活した会議室の数＋ 3 行
	会議室検索※2 （frmsrch）	検索して該当した会議室の数＋ 3 行
ファイル共有	ベースパス情報の使用量の確認※3 （cfschkusdspc）	-name オプションに指定したベースパス情報の名前の数× 2 行＋ 2 行
	アクセス履歴ファイルに出力されたファイル，フォルダの情報の取得 （cfslstprop）	入力ファイル中にあるオブジェクトの数× 2 行＋ 2 行
	アクセス履歴ファイルに出力された OIID の変換 （cfsoiid2name）	入力ファイル中にあるオブジェクトの数× 2 行＋ 2 行

機能	操作（コマンド）	1 操作当たりの行数
コミュニティ管理	ユーザおよびメンバの一括削除 （del_member）	• -u または -m オプションの場合 3 行＋ユーザ数分の行 • -au または -am オプションの場合 4 行
	アプリケーションの登録・削除 （set_application）	6 行
	ユーザの一括登録・変更 （set_member）	3 行＋ユーザ数分の行
	ロールの追加 （set_role）	8 行
	コミュニティテンプレートの追加 （set_template）	6 行
	ワークプレーステンプレートの追加 （set_worktemplate）	6 行
電子掲示板	掲示板組織変更 （cbbchgorg）	変更した組織の数＋ 4 行
	期限切れ記事削除 （cbbclnnotice）	削除した記事の数＋ 3 行
	掲示板の記事のエクスポート （cbbexpnotice）	参照した掲示板の数＋参照した記事の数＋参照した添付ファイルの数＋ 3 行
	掲示板の記事のインポート （cbbimpnotice）	アクセスした掲示板の数＋参照した掲示板の数＋追加した記事の数＋更新した記事の数＋追加した添付ファイルの数＋削除した添付ファイルの数＋ 3 行
	掲示板検索 （cbbsrchboard）	検索した掲示板の数＋ 3 行

注※ 1

POP3 サーバの接続数は，次の算出式で同等の値が求められます。なお，hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_username_n プロパティについては，マニュアル「Collaboration - Forum　システム管理者ガイド」を参照してください。

```
投稿されたメールを取得するためのユーザ名
（hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_username_n）の定義数×2
```

注※ 2

frmsrch コマンドで -fcount および -fid オプションを指定した場合を除きます。frmsrch コマンドで -fstate，-fname または -fenname オプションを指定した場合に，監査ログの出力量が増えます。

注※ 3

cfschkusdspc コマンドで -name オプションの指定がない場合を除きます。cfschkusdspc コマンドで -name オプションの指定がある場合に，監査ログの出力量が増えます。

これらの値を目安に，ご使用の環境や運用に合わせて必要なディスク使用量を見積もってください。

7.3　監査ログ出力機能を使用するための設定

ここでは，Collaboration の監査ログ出力機能を使用して，監査ログを出力するための設定について説明します。

監査ログを出力する場合は，監査ログプロパティファイル（hptl_clb_audit.properties）の設定が必要です。

また，JP1/NETM/Audit と連携する場合には，Collaboration のアプリケーションサーバや，監査ログ管理サーバで連携するための設定も必要になります。

なお，Collaboration - File Sharing の WebDAV 連携機能を使用している場合に，監査ログを出力するときは，File Sharing クライアントの監査ログ出力機能を使用します。File Sharing クライアントの監査ログ出力機能を使用するための設定については，マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」を参照してください。

7.3.1　監査ログプロパティファイルの設定方法

ここでは，監査ログプロパティファイル（hptl_clb_audit.properties）の設定について説明します。

監査ログプロパティファイルは，監査ログの出力有無，監査ログファイルの出力先や切り替えのタイミングなどを定義するファイルです。このファイルは，「4.6.1　運用ディレクトリの設定」で <Collaboration インストールディレクトリ >¥clb_home¥conf にコピーされています。

(1)　監査ログプロパティファイルの記述規則および使用上の注意事項

監査ログプロパティファイルの記述規則，および使用上の注意事項について説明します。

●　記述規則

監査ログプロパティファイルの記述規則を次に示します。

- プロパティ名と値は，=（半角イコール）でつなぎます。
- 改行までが値になります。
- 監査ログプロパティファイル内の先頭が「#」または「!」で始まる行は，コメント行として扱います。
- 行頭および行末には，空白を指定しないでください。
- 値の後ろには，空白，コメントなどの文字列を指定しないでください。指定した場合，不正な値と解釈されます。

●　使用上の注意事項

監査ログプロパティファイルの使用上の注意事項を次に示します。

- インストール時の監査ログプロパティファイルは，監査ログを出力しない設定になっ

ています。監査ログを出力する場合には，必ず hptl_clb_audit_logIsEnable プロパティに「On」を設定してください。

- 監査ログプロパティファイルの設定内容が次のどれかの条件を満たす場合，監査ログは出力されません。
  - hptl_clb_audit_logPath プロパティに値がない。
  - hptl_clb_audit_logIsEnable プロパティに「Off」を設定している。
  - 重要度による監査ログ出力の有無を設定するプロパティ（hptl_clb_audit_logImportant で始まるプロパティ）すべてに「Off」を設定している。
  - 監査事象による監査ログ出力の有無を設定するプロパティ（hptl_clb_audit_log *監査事象の種別*のプロパティ）すべてに「Off」を設定している。*監査事象の種別*については，「(2)　監査ログプロパティファイルの設定内容」の表 7-9 の項番 10 ～ 20 を参照してください。
- 監査ログプロパティファイルのフォーマットは，Java の Properties クラスの仕様に従ってください。
- 日本語を含む値を指定する場合は，uCosminexus Application Server Standard 付属の JDK コマンド（native2ascii コマンド）によってファイルを変換する必要があります。
- JP1/NETM/Audit と連携する場合，hptl_clb_audit_logEncoding プロパティには「Shift_JIS」を設定してください。hptl_clb_audit_logEncoding プロパティで「UTF-8」を指定すると，JP1/NETM/Audit の監査ログ管理サーバで収集した監査ログが文字化けすることがあります。
- 監査ログを出力したあとに，監査ログの文字コードを切り替える（hptl_clb_audit_logEncoding プロパティを変更する）場合には，J2EE サーバの再起動を行う前に，hptl_clb_audit_logPath プロパティで指定したパスの下にあるファイルすべてを退避してください。
- UTF-8 の文字コードで出力すると，Shift_JIS の文字コードで出力した場合よりも，監査ログの出力バイト数が増加することがあります。
- 監査ログプロパティファイルは，uCosminexus Portal Framework の起動時に一度だけ参照されます。ポートレットの動作中に監査ログプロパティファイルを編集した場合は，設定内容をポートレットに反映するために uCosminexus Portal Framework を再起動してください。
- 監査ログファイルの出力先ディレクトリが正しいか必ず確認してください。

(2) 監査ログプロパティファイルの設定内容

監査ログプロパティファイルのプロパティを次の表に示します。

表 7-9　監査ログプロパティファイルのプロパティ

項番	プロパティ項目		プロパティ名	初期設定値	デフォルト値	必須 / 任意
1	監査ログファイルの出力先ディレクトリ		hptl_clb_audit_logPath	E:¥¥Hitachi¥¥auditlog	—	必須
2	監査ログ出力の有無		hptl_clb_audit_logIsEnable	Off	Off	任意
3	監査ログファイルを切り替えるタイミング（時刻で指定する場合）		hptl_clb_audit_logFileTime ※1	-1	-1	任意
4	タイムゾーン		hptl_clb_audit_logTimeZone	GMT+09:00	GMT+09:00	任意
5	監査ログファイルを切り替えるタイミング（監査ログファイルの最大サイズで指定する場合）		hptl_clb_audit_logFileSize ※1	536870912	536870912	任意
6	監査ログのファイル面数		hptl_clb_audit_logFileNum ※1	16	16	任意
7	重要度による監査ログ出力の有無	Error の監査ログ出力の有無	hptl_clb_audit_logImportant_E ※2	On	On	任意
8		Warning の監査ログ出力の有無	hptl_clb_audit_logImportant_W ※2	On	On	任意
9		Information の監査ログ出力の有無	hptl_clb_audit_logImportant_I ※2	On	On	任意
10	監査事象による監査ログ出力の有無	StartStop の監査ログ出力の有無	hptl_clb_audit_logStartStop ※3	On	On	任意
11		Authentication の監査ログ出力の有無	hptl_clb_audit_logAuthentication ※3	On	On	任意
12		AccessControl の監査ログ出力の有無	hptl_clb_audit_logAccessControl ※3	On	On	任意
13		ConfigurationAccess の監査ログ出力の有無	hptl_clb_audit_logConfigurationAccess ※3	On	On	任意

項番	プロパティ項目		プロパティ名	初期設定値	デフォルト値	必須 / 任意
14		Failure の監査ログ出力の有無	hptl_clb_audit_logFailure ※3	On	On	任意
15		LinkStatus の監査ログ出力の有無	hptl_clb_audit_logLinkStatus ※3	On	On	任意
16		ExternalService の監査ログ出力の有無	hptl_clb_audit_logExternalService ※3	On	On	任意
17		ContentAccess の監査ログ出力の有無	hptl_clb_audit_logContentAccess ※3	On	On	任意
18		Maintenance の監査ログ出力の有無	hptl_clb_audit_logMaintenance ※3	On	On	任意
19		AnomalyEvent の監査ログ出力の有無	hptl_clb_audit_logAnomalyEvent ※3	On	On	任意
20		ManagementAction の監査ログ出力の有無	hptl_clb_audit_logManagementAction ※3	On	On	任意
21	監査ログの文字コード		hptl_clb_audit_logEncoding ※1	Shift_JIS	Shift_JIS	任意

（凡例）

－：プロパティファイルに値が設定されないことを示します。
必須：省略できません。必ず指定してください。
任意：省略できます。省略した場合はデフォルト値が設定されます。

注

初期設定値およびデフォルト値の意味を次に示します。
初期設定値：システムのインストール時に設定される値です。
デフォルト値：プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を設定した場合に設定される値です。

注※1

hptl_clb_audit_logIsEnable プロパティの値が「Off」の場合，これらのプロパティの指定は無視されます。

注※2

hptl_clb_audit_logIsEnable プロパティの値が「Off」の場合，これらのプロパティに「On」を指定しても，監査ログは出力されません。なお，hptl_clb_audit_logIsEnable プロパティの値

が「On」の場合でも，重要度による監査ログ出力の有無を設定するプロパティの値がすべて「Off」のとき，監査ログは出力されません。

注※ 3

hptl_clb_audit_logIsEnable プロパティの値が「Off」の場合，これらのプロパティに「On」を指定しても，監査ログは出力されません。なお，hptl_clb_audit_logIsEnable プロパティの値が「On」の場合でも，監査事象による監査ログ出力の有無を設定するプロパティの値がすべて「Off」のとき，監査ログは出力されません。

各プロパティの詳細について説明します。

(a) hptl_clb_audit_logPath

監査ログファイルの出力先ディレクトリを指定します。区切り文字には，「¥¥」または「/」を使用してください。監査ログ出力機能を使用する場合，このプロパティは必ず指定してください。プロパティ名または値を省略した場合，監査ログは出力されません。

注意事項

このプロパティは，次の点に注意して指定してください。

- 障害発生時に消失する危険性を避けるため，Collaboration インストールディレクトリとは別のディスクを指定することをお勧めします。
- ネットワークドライブを指定しないでください。

(b) hptl_clb_audit_logIsEnable

監査ログを出力するかどうかを指定します。値は，「On」または「Off」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（Off）が設定されます。

- On：監査ログを出力します。
- Off：監査ログを出力しません。

(c) hptl_clb_audit_logFileTime

監査ログファイルを切り替えるタイミングを時刻（24 時間）で指定します。値は，-1，または 0 ～ 23 の整数で指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（-1）が設定されます。

- -1：監査ログファイルを切り替えません。
- 0 ～ 23：0 ～ 23 時に監査ログファイルを切り替えます。

(d) hptl_clb_audit_logTimeZone

監査ログに出力される時刻のタイムゾーンを指定します。値は，GMT（グリニッジ標準時：Greenwich Mean Time）からの時差で指定してください。指定形式を次に示します。

- GMT+hh:mm：GMT から hh 時間 mm 分進んでいることを示します。

- GMT-hh:mm：GMT から hh 時間 mm 分遅れていることを示します。

プロパティ名または値を省略した場合は，デフォルト値（GMT+09:00）が設定されます。不正な値を指定した場合は，「Z」（UTC（協定世界時））が設定されます。

(e) hptl_clb_audit_logFileSize

監査ログファイルを切り替えるタイミングを監査ログファイルの最大サイズ（バイト単位）で指定します。値は，4,096 ～ 2,147,483,647 の整数で指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（536870912）が設定されます。

(f) hptl_clb_audit_logFileNum

監査ログのファイル面数を指定します。値は，1 ～ 32 の整数で指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（16）が設定されます。

(g) hptl_clb_audit_logImportant_E

重要度が Error（エラー情報）の監査ログを出力するかどうかを指定します。値は，「On」または「Off」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（On）が設定されます。

- On：重要度が Error の監査ログを出力します。
- Off：重要度が Error の監査ログを出力しません。

なお，hptl_clb_audit_logIsEnable プロパティの値が「Off」の場合，このプロパティに「On」を指定しても，監査ログは出力されません。

(h) hptl_clb_audit_logImportant_W

重要度が Warning（警告情報）の監査ログを出力するかどうかを指定します。値は，「On」または「Off」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（On）が設定されます。

- On：重要度が Warning の監査ログを出力します。
- Off：重要度が Warning の監査ログを出力しません。

なお，hptl_clb_audit_logIsEnable プロパティの値が「Off」の場合，このプロパティに「On」を指定しても，監査ログは出力されません。

(i) hptl_clb_audit_logImportant_I

重要度が Information（通知情報）の監査ログを出力するかどうかを指定します。値は，「On」または「Off」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（On）が設定されます。

- On：重要度が Information の監査ログを出力します。
- Off：重要度が Information の監査ログを出力しません。

なお，hptl_clb_audit_logIsEnable プロパティの値が「Off」の場合，このプロパティに「On」を指定しても，監査ログは出力されません。

(j) hptl_clb_audit_logStartStop

監査事象が StartStop の監査ログを出力するかどうかを指定します。値は，「On」または「Off」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（On）が設定されます。

- On：監査事象が StartStop の監査ログを出力します。
- Off：監査事象が StartStop の監査ログを出力しません。

なお，hptl_clb_audit_logIsEnable プロパティの値が「Off」の場合，このプロパティに「On」を指定しても，監査ログは出力されません。

(k) hptl_clb_audit_logAuthentication

監査事象が Authentication の監査ログを出力するかどうかを指定します。値は，「On」または「Off」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（On）が設定されます。

- On：監査事象が Authentication の監査ログを出力します。
- Off：監査事象が Authentication の監査ログを出力しません。

なお，hptl_clb_audit_logIsEnable プロパティの値が「Off」の場合，このプロパティに「On」を指定しても，監査ログは出力されません。

(l) hptl_clb_audit_logAccessControl

監査事象が AccessControl の監査ログを出力するかどうかを指定します。値は，「On」または「Off」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（On）が設定されます。

- On：監査事象が AccessControl の監査ログを出力します。
- Off：監査事象が AccessControl の監査ログを出力しません。

なお，hptl_clb_audit_logIsEnable プロパティの値が「Off」の場合，このプロパティに「On」を指定しても，監査ログは出力されません。

(m) hptl_clb_audit_logConfigurationAccess

監査事象が ConfigurationAccess の監査ログを出力するかどうかを指定します。値は，「On」または「Off」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（On）が設定されます。

- On：監査事象が ConfigurationAccess の監査ログを出力します。
- Off：監査事象が ConfigurationAccess の監査ログを出力しません。

なお，hptl_clb_audit_logIsEnable プロパティの値が「Off」の場合，このプロパティに「On」を指定しても，監査ログは出力されません。

(n) hptl_clb_audit_logFailure

監査事象が Failure の監査ログを出力するかどうかを指定します。値は，「On」または「Off」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（On）が設定されます。

- On：監査事象が Failure の監査ログを出力します。
- Off：監査事象が Failure の監査ログを出力しません。

なお，hptl_clb_audit_logIsEnable プロパティの値が「Off」の場合，このプロパティに「On」を指定しても，監査ログは出力されません。

(o) hptl_clb_audit_logLinkStatus

監査事象が LinkStatus の監査ログを出力するかどうかを指定します。値は，「On」または「Off」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（On）が設定されます。

- On：監査事象が LinkStatus の監査ログを出力します。
- Off：監査事象が LinkStatus の監査ログを出力しません。

なお，hptl_clb_audit_logIsEnable プロパティの値が「Off」の場合，このプロパティに「On」を指定しても，監査ログは出力されません。

(p) hptl_clb_audit_logExternalService

監査事象が ExternalService の監査ログを出力するかどうかを指定します。値は，「On」または「Off」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（On）が設定されます。

- On：監査事象が ExternalService の監査ログを出力します。
- Off：監査事象が ExternalService の監査ログを出力しません。

なお，hptl_clb_audit_logIsEnable プロパティの値が「Off」の場合，このプロパティに「On」を指定しても，監査ログは出力されません。

(q) hptl_clb_audit_logContentAccess

監査事象が ContentAccess の監査ログを出力するかどうかを指定します。値は，「On」または「Off」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（On）が設定されます。

- On：監査事象が ContentAccess の監査ログを出力します。
- Off：監査事象が ContentAccess の監査ログを出力しません。

なお，hptl_clb_audit_logIsEnable プロパティの値が「Off」の場合，このプロパティに「On」を指定しても，監査ログは出力されません。

(r) hptl_clb_audit_logMaintenance

監査事象が Maintenance の監査ログを出力するかどうかを指定します。値は，「On」または「Off」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（On）が設定されます。

- On：監査事象が Maintenance の監査ログを出力します。
- Off：監査事象が Maintenance の監査ログを出力しません。

なお，hptl_clb_audit_logIsEnable プロパティの値が「Off」の場合，このプロパティに「On」を指定しても，監査ログは出力されません。

(s) hptl_clb_audit_logAnomalyEvent

監査事象が AnomalyEvent の監査ログを出力するかどうかを指定します。値は，「On」または「Off」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（On）が設定されます。

- On：監査事象が AnomalyEvent の監査ログを出力します。
- Off：監査事象が AnomalyEvent の監査ログを出力しません。

なお，hptl_clb_audit_logIsEnable プロパティの値が「Off」の場合，このプロパティに「On」を指定しても，監査ログは出力されません。

(t) hptl_clb_audit_logManagementAction

監査事象が Management Action の監査ログを出力するかどうかを指定します。値は，「On」または「Off」のどちらかで指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（On）が設定されます。

- On：監査事象が Management Action の監査ログを出力します。
- Off：監査事象が Management Action の監査ログを出力しません。

なお，hptl_clb_audit_logIsEnable プロパティの値が「Off」の場合，このプロパティに「On」を指定しても，監査ログは出力されません。

(u) hptl_clb_audit_logEncoding

監査ログの文字コードを指定します。値は，「Shift_JIS」または「UTF-8」のどちらかで指定してください。ただし，JP1/NETM/Audit と連携する場合は，「Shift_JIS」を必ず指定してください。プロパティ名もしくは値を省略した場合，または不正な値を指定した場合は，デフォルト値（Shift_JIS）が設定されます。

- Shift_JIS：監査ログを Shift_JIS の文字コードで出力します。
- UTF-8：監査ログを UTF-8 の文字コードで出力します。

(3) 監査ログプロパティファイルの指定例

監査ログプロパティファイルの指定例を次に示します。

ここでは，すべての重要度，監査事象の監査ログを出力する場合の指定例を示します。

```
hptl_clb_audit_logPath = E:¥¥Hitachi¥¥auditlog
hptl_clb_audit_logIsEnable= On
hptl_clb_audit_logFileTime = -1
hptl_clb_audit_logTimeZone = GMT+09:00
hptl_clb_audit_logFileSize = 536870912
hptl_clb_audit_logFileNum = 16
hptl_clb_audit_logImportant_E = On
hptl_clb_audit_logImportant_W = On
hptl_clb_audit_logImportant_I = On
hptl_clb_audit_logStartStop = On
hptl_clb_audit_logAuthentication = On
hptl_clb_audit_logAccessControl = On
hptl_clb_audit_logConfigurationAccess = On
hptl_clb_audit_logFailure = On
hptl_clb_audit_logLinkStatus = On
hptl_clb_audit_logExternalService = On
hptl_clb_audit_logContentAccess = On
hptl_clb_audit_logMaintenance = On
hptl_clb_audit_logAnomalyEvent = On
hptl_clb_audit_logManagementAction = On
hptl_clb_audit_logEncoding = Shift_JIS
```

7.3.2　JP1/NETM/Audit と連携するための設定

JP1/NETM/Audit と連携して監査ログの自動収集および一元管理をするためには，Collaboration のシステムを構成する，次のサーバで設定が必要になります。

- アプリケーションサーバ
- 監査ログ管理サーバ

ここでは，サーバごとに必要な設定について説明します。

(1) アプリケーションサーバの設定

監査ログ管理サーバで，監査ログの収集対象となるアプリケーションサーバの設定方法について説明します。アプリケーションサーバの設定手順を次に示します。

手順

1. **アプリケーションサーバに JP1/Base をインストールします。**
   JP1/Base のインストール手順については，マニュアル「JP1 Version 8 JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。
2. **アプリケーションサーバをセットアップします。**
   次の作業を実施して，アプリケーションサーバをセットアップします。

- JP1/Base のイベントサービスを設定します。
  アプリケーションサーバで出力された監査ログは，JP1/Base のイベントサービスによって，監査ログ専用のイベントサーバのイベントデータベースに蓄積されます。JP1/Base のイベントサービスを使用するために，アプリケーションサーバで，監査ログ専用のイベントサーバを登録して設定します。
- アダプタコマンドとアダプタコマンド定義ファイルをコピーします。
  アプリケーションサーバで出力された監査ログは，JP1/Base のログファイルトラップ機能によって JP1 イベントに変換されます。JP1/Base のログファイルトラップ機能を使用するために，監査ログ管理サーバからアプリケーションサーバへアダプタコマンドとアダプタコマンド定義ファイルをコピーします。
- JP1/Base のログファイルトラップ機能の設定を確認します。
  JP1/Base のログファイルトラップ機能が起動されているかどうかを確認します。

各作業の詳細は，マニュアル「JP1 Version 8 JP1/NETM/Audit」を参照してください。

なお，アプリケーションサーバを複数台配置している場合，手順 1. ～手順 2. の設定は，アプリケーションサーバごとに実施してください。

(2) 監査ログ管理サーバの設定

監査ログを収集する監査ログ管理サーバの設定方法について説明します。監査ログ管理サーバの設定手順を次に示します。

手順

1. **監査ログ管理サーバに，JP1/NETM/Audit の前提プログラム（JP1/Base など），および JP1/NETM/Audit をインストールします。**
   JP1/NETM/Audit の前提プログラムをインストールしたあとに，JP1/NETM/Audit をインストールします。
   JP1/Base のインストール手順については，マニュアル「JP1 Version 8 JP1/Base 運用ガイド」を，JP1/NETM/Audit のインストール手順については，マニュアル「JP1 Version 8 JP1/NETM/Audit」を参照してください。なお，JP1/NETM/Audit の前提プログラムについては，マニュアル「JP1 Version 8 JP1/NETM/Audit」を参照してください。
2. **JP1/NETM/Audit の前提プログラムをセットアップして必要な設定をします。**
   JP1/NETM/Audit の前提プログラムのセットアップ方法，および必要な設定については，マニュアル「JP1 Version 8 JP1/NETM/Audit」を参照してください。
3. **JP1/NETM/Audit をセットアップします。**
   JP1/NETM/Audit のセットアップ方法については，マニュアル「JP1 Version 8 JP1/NETM/Audit」を参照してください。
4. **監査ログの収集対象を設定します。**
   監査ログ管理サーバに監査ログの収集対象となるサーバ（アプリケーションサーバ）

を設定して，監査ログの収集を開始します。この設定は，収集対象となるアプリケーションサーバの台数分実行してください。監査ログの収集対象の設定方法については，マニュアル「JP1 Version 8 JP1/NETM/Audit」を参照してください。

7.4　監査ログの収集と確認

各コンポーネントで出力された監査ログは，監査ログ出力機能によって監査ログファイルに出力されます。ここでは，Collaboration が出力する監査ログの出力先，出力形式，および共通の出力項目について説明します。コンポーネント固有の出力項目の詳細は，各コンポーネントのマニュアルを参照してください。

監査者は，監査ログファイルに出力された監査ログについて，正しい情報が収集されているかを確認してください。正しい情報が収集されていない場合は，監査ログプロパティファイルを設定し直してください。監査ログプロパティファイルを編集する場合は，「7.3.1　監査ログプロパティファイルの設定方法」を参照してください。

また，JP1/NETM/Audit と連携している場合には，監査ログ管理サーバで検索条件，集計条件などを設定して，調査対象となる監査ログを検索したり，集計したりできます。監査ログ管理サーバを使用した運用については，マニュアル「JP1 Version 8 JP1/NETM/Audit」を参照してください。

7.4.1　監査ログの出力先と出力形式

Collaboration が出力する監査ログの出力先と出力形式について説明します。

(1)　監査ログの出力先

監査ログの出力先は，監査ログプロパティファイルの hptl_clb_audit_logPath プロパティで設定します。

監査ログファイルの名称は，「Collabo_Portlet[n].log」です。[n] には，監査ログファイルの面番号が，1 ～＜監査ログプロパティファイルの hptl_clb_audit_logFileNum プロパティに指定した値＞で設定されます。設定した面番号を超えた場合には，最初に作成されたファイル（Collabo_Portlet1.log）から上書きされます。

また，監査ログファイルは，次に示すタイミングで切り替えられます。

- 監査ログプロパティファイルの hptl_clb_audit_logFileTime プロパティに指定した時刻に達した時
- 監査ログプロパティファイルの hptl_clb_audit_logFileSize プロパティに指定したファイルサイズに達した時

WebDAV 連携用監査ログファイルの出力先およびファイル名称については，マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」を参照してください。

(2)　監査ログの出力形式

監査ログは，テキスト形式で，各コンポーネントのメッセージとして出力されます。メッセージは 1 行で出力されます。

● **出力形式**

監査ログのメッセージは次の形式で出力されます。

```
CALFHM 1.0,出力項目1=値1,出力項目2=値2,出力項目3=値3,・・・出力項目n=値n
```

先頭の「CALFHM 1.0」は，ヘッダ情報です。監査ログに共通で出力されます。出力項目の詳細は，「7.4.2　監査ログの出力項目」を参照してください。

なお，エスケープ処理の対象となる文字が値に含まれている場合，出力項目は，「出力項目 =" 値 "」（値が引用符（"）で囲まれた形式）で出力されます。

エスケープ処理の対象となる文字

%x20（スペース），%x22（"（引用符））※，%x2C（,（コンマ）），制御文字の %x00（NUL（空文字））～ %x1F（US（ユニットセパレータ）），%x7F（DEL（削除））。ただし，%x0D（CR（復帰））および %x0A（LF（改行））は除きます。

注※

%x22（"（引用符））の場合は，直前に %x22（"（引用符））が一つ付けられます。

● **出力例**

監査ログ出力機能で出力するメッセージの出力例を次に示します。

出力例

```
CALFHM 1.0, seqnum=16, msgid=KDCO20301-I, date=2008-02-27T18:43:06.734+09:00,
progid=Collaboration, compid=Mail_Portlet, pid=15357553, ocp:host=hostname,
ctgry=ContentAccess, result=Success, subj:uid=username, op=Refer,
msg= ユーザ (username) が，受信メール一覧の一覧情報の表示を行いました。( 成功 )
```

注

実際のメッセージは，1 行で出力されます。この例のように改行されません。

このメッセージは，uid に示すユーザ（username）が受信メール一覧を表示して成功したことを示しています。監査ログのメッセージの詳細は，各コンポーネントのマニュアルを参照してください。

7.4.2　監査ログの出力項目

ここでは，監査ログのメッセージに出力される項目について説明します。

Collaboration の場合，監査ログのメッセージに出力される項目には，コンポーネントで共通の項目と，コンポーネントで固有の項目があります。それぞれの項目の意味を次に示します。

コンポーネントで共通の出力項目

Collaboration のすべてのコンポーネントで同じ意味の可変値が出力されたり，共通

の文字列が出力されたりする項目です。

コンポーネントで固有の出力項目

Collaboration の各コンポーネントで異なる意味の可変値が出力されたり，特定のコンポーネントだけで文字列が出力されたりする項目です。コンポーネントで固有の出力項目の詳細は，各コンポーネントのマニュアルを参照してください。

監査ログのメッセージに出力される主な項目を次の表に示します。WebDAV 連携用監査ログファイルの出力項目については，マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」を参照してください。

表 7-10　監査ログのメッセージに出力される主な項目

項番	出力項目名	出力項目の意味	説明	共通または固有
1	seqnum	通番	監査ログの通番が出力されます。 出力される値は，1 ～ 2,147,483,647 の整数です。通番は，1 から 1 ずつ加算され，2,147,483,647 を超えた場合は，再度 1 から 1 ずつ加算されます。 なお，通番は，監査事象の発生順序ではありません。	共通
2	msgid	メッセージ ID	メッセージ ID が，次の形式で出力されます。 Kxxxnnnnn-y • Kxxx コンポーネントごとのメッセージのプリフィックス • nnnnn コンポーネントごとのメッセージの通番 • y 重要度。重要度には，E（エラー情報），W（警告情報），I（通知情報）があります。 なお，出力されるメッセージ ID の詳細は，各コンポーネントのマニュアルを参照してください。	固有

項番	出力項目名	出力項目の意味	説明	共通または固有
3	date	日付・時刻	監査ログを取得した日時が，次の形式で出力されます。 YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sssTZD • YYYY 年（西暦） • MM 月 • DD 日 • T 日付と時間の区切り • hh 時 • mm 分 • ss 秒 • sss ミリ秒 • TZD タイムゾーン。タイムゾーンは，UTC（協定世界時：Universal Coordinated Time）からの時差で表示されます。表示形式を次に示します。 +hh:mm：UTC から hh 時間 mm 分進んでいることを示します。 -hh:mm：UTC から hh 時間 mm 分遅れていることを示します。 Z：UTC と同じ （例）日本の場合：+09:00	共通
4	progid	プログラム名	監査事象が発生したプログラムの名称が出力されます。 「Collaboration」が固定で出力されます。	共通
5	compid	コンポーネント名	監査事象が発生したコンポーネントの名称が出力されます。※1	固有
6	pid	プロセス ID	監査事象が発生したプロセス ID が出力されます。	共通
7	ocp:host	発生場所（ホスト名の場合）	監査事象が発生したホストのホスト識別情報（ホスト名）が出力されます。 発生場所が特定できない場合は，「null」が出力されます。	共通
8	ocp:ipv4	発生場所（IPv4 アドレスの場合）	監査事象が発生したホストのホスト識別情報（IPv4 アドレス）が出力されます。 発生場所が特定できない場合は，「null」が出力されます。	共通

項番	出力項目名	出力項目の意味	説明	共通または固有
9	ocp:ipv6	発生場所（IPv6 アドレスの場合）	監査事象が発生したホストのホスト識別情報（IPv6 アドレス）が出力されます。 発生場所が特定できない場合は,「null」が出力されます。	共通
10	ctgry	監査事象の種別	監査事象の種別が出力されます。監査事象の種別には，次のどれかが出力されます。 • StartStop Collaboration のコマンドの開始と終了を示す事象です。 • Authentication リソースの参照，サーバとのコネクション確立など，Collaboration からの接続で認証が成功または失敗したことを示す事象です。 • AccessControl アクセス制限されているリソースに対する操作で認証が成功または失敗したことを示す事象です。 • ConfigurationAccess Collaboration の設定情報（アクセス権や構成情報）に対する操作が成功または失敗したことを示す事象です。 • Failure Collaboration のプロパティファイルの操作による異常，またはデータベースへのアクセスに対する異常を示す事象です。 • LinkStatus※2 機器間のリンク状態を示す事象です。 • External Service 外部サービス（メールサーバ）に対する通信が成功または失敗したことを示す事象です。 • ContentAccess Collaboration の機能が使用するデータに対する操作が成功または失敗したことを示す事象です。 • Maintenance※2 保守作業を実行して，操作が正常終了または失敗したことを示す事象です。 • AnomalyEvent ポートレット，またはコマンドの引数での入力値チェックで異常が発生したことを示す事象です。 • ManagementAction※2 プログラムの重要なアクションが実行されたことを示す事象，またはほかの監査事象を契機として実行されるアクションを示す事象です。	共通

項番	出力項目名	出力項目の意味	説明	共通または固有
11	result	監査事象の結果	監査事象の結果が出力されます。監査事象の結果には，次のどれかが出力されます。 • Success 監査事象の成功を示します。 • Failure 監査事象の失敗を示します。 • Occurrence 成功および失敗の区別がない事象の発生を示します。	共通
12	subj:uid	サブジェクト識別情報（アカウント識別子の場合）	監査事象の発生にユーザが関係している場合に，そのユーザが製品で提供するアカウント情報に割り付けられているときは，アカウント識別子（ユーザ ID）が出力されます。 ただし，サブジェクト識別情報が取得できなかった場合，「null」が出力されます。	固有
13	subj:euid ※2	サブジェクト識別情報（実効ユーザ ID の場合）	監査事象の発生にユーザが関係している場合に，そのユーザが OS で提供するアカウント情報に割り付けられているときは，実効ユーザ ID（OS アカウントのユーザ ID）が出力されます。 ただし，サブジェクト識別情報が取得できなかった場合，「null」が出力されます。	−
14	subj:pid	サブジェクト識別情報（プロセス ID の場合）	監査事象の発生にユーザが関係していない場合，監査事象を発生させたプロセス ID が出力されます。 ただし，サブジェクト識別情報が取得できなかった場合，「null」が出力されます。	固有
15	obj	オブジェクト情報	監査事象を発生させた操作の対象となった情報（会議室，ファイル，メール ID，データベース，掲示板など）が出力されます。	固有
16	op	動作情報	監査事象を発生させた操作の種別（参照，追加，更新，削除など）が出力されます。	固有
17	objloc	オブジェクトロケーション情報	オブジェクト情報を特定するための位置情報が出力されます。	固有
18	before	変更前情報	オブジェクトの変更前の情報が出力されます。	固有
19	after	変更後情報	オブジェクトの変更後の情報が出力されます。	固有
20	auth	権限情報	監査事象を発生させた操作の実行時に，サブジェクトに与えられていた権限が出力されます。	固有

項番	出力項目名	出力項目の意味	説明	共通または固有
21	sins ※ 2	サービスインスタンス名	サービスの利用者の識別子が出力されます。	―
22	haid ※ 2	冗長化識別情報	監査事象の発生場所が冗長化構成の場合，発生場所の系を表す情報が出力されます。	―
23	from:host ※ 2	リクエスト送信元ホスト	監査事象が複数のプログラム間で連携して動作するリクエストに関連する場合に，リクエストの送信元のホストのホスト識別情報が出力されます。	―
24	from:ipv4 ※ 2			
25	from:ipv6 ※ 2			
26	from:port ※ 2	リクエスト送信元ポート番号	監査事象が複数のプログラム間で連携して動作するリクエストに関連する場合に，リクエストの送信元のポート番号が出力されます。	―
27	to:host	リクエスト送信先ホスト（ホスト名の場合）	監査事象が複数のプログラム間で連携して動作するリクエストに関連する場合に，リクエスト送信先のホストのホスト識別情報（ホスト名）が出力されます。	固有
28	to:ipv4	リクエスト送信先ホスト（IPv4 アドレスの場合）	監査事象が複数のプログラム間で連携して動作するリクエストに関連する場合に，リクエスト送信先のホストのホスト識別情報（IPv4 アドレス）が出力されます。	固有
29	to:ipv6	リクエスト送信先ホスト（IPv6 アドレスの場合）	監査事象が複数のプログラム間で連携して動作するリクエストに関連する場合に，リクエスト送信先のホストのホスト識別情報（IPv6 アドレス）が出力されます。	固有
30	to:port	リクエスト送信先ポート番号	監査事象が複数のプログラム間で連携して動作するリクエストに関連する場合に，リクエスト送信先のポート番号が出力されます。	固有
31	batid ※ 2	一括操作識別子	監査ログを基本と詳細に分割して出力する場合に，分割した基本と詳細の監査ログを関連づけるための識別子が出力されます。	―
32	logtype ※ 2	ログ種別情報	監査ログを基本と詳細に分割して出力する場合に，ログの種類が出力されます。	―
33	outp:host ※ 2	出力元の場所	出力元が動作している場所情報が出力されます。	―
34	outp:ipv4 ※ 2			
35	outp:ipv6 ※ 2			
36	subjp:host ※ 2	指示元の場所	サブジェクトが指示を出した場所情報が出力されます。	―
37	subjp:ipv4 ※ 2			
38	subjp:ipv6 ※ 2			

項番	出力項目名	出力項目の意味	説明	共通または固有
39	dtp:host ※ 2	検出場所	検出エンティティが動作している場所情報が出力されます。	―
40	dtp:ipv4 ※ 2			
41	dtp:ipv6 ※ 2			
42	loc ※ 2	ロケーション識別情報	ユーザが設定したロケーション識別情報が出力されます。	―
43	agent:host ※ 2	エージェント情報	マネージャとエージェントのシステム構成の場合に，エージェントのプログラムがあるホストのホスト識別情報が出力されます。	―
44	agent:ipv4 ※ 2			
45	agent:ipv6 ※ 2			
46	msg	自由記述	監査事象の内容を示す文章（メッセージ）が出力されます。	固有

（凡例）

共通：Collaboration のコンポーネントで共通の出力項目を示します。

固有：Collaboration のコンポーネントで固有の出力項目を示します。コンポーネントで固有の出力項目には，この表に記載されてないものもあります。コンポーネントで固有の出力項目の詳細は，各コンポーネントのマニュアルを参照してください。

－：該当しません。

注

値が null もしくは空文字，または値がない場合，出力項目ごとに次のように出力されます。

・項番 1 ～項番 14 の出力項目のときは，「出力項目 =」の形式で出力されます。

・項番 15 ～項番 46 の出力項目のときは，出力されません。

注※ 1

Collaboration の監査ログで出力されるコンポーネント名を次の表に示します。コンポーネント名は，監査ログの出力元の操作が，ポートレットまたはコマンドのどちらの操作であるかによっても異なります。表中の「－」は，コンポーネント名が出力されないことを示します。また，*コマンド名*には，監査事象を発生させたコマンドの名称が出力されます。

機能	コンポーネント名（ポートレット）	コンポーネント名（コマンド）
メール	Mail_Portlet	―
電子会議室	Forum_Portlet	Forum_ *コマンド名*
ファイル共有	Filesharing_Portlet	Filesharing_ *コマンド名*
スケジュール	Schedule_Portlet	―
ToDo	Todo_Portlet	―
コミュニティ管理	Community_Portlet	Community_ *コマンド名*
電子掲示板	Board_Portlet	Board_ *コマンド名*

注※ 2

Collaboration のポートレットまたはコマンドでの操作では出力されません。

7.5 監査ログを出力する場合の注意事項

ここでは，監査ログを出力する場合の注意事項について説明します。

- 監査ログファイルは，監査ログファイルの最大サイズおよび時刻でファイルが切り替わります。また，監査ログファイルは，監査ログプロパティファイルで設定されているファイル面数を超えると，最初に作成されたファイル（Collabo_Portlet1.log）から上書きされます。監査ログは情報量が多いため，監査ログファイルの数が少ないと，監査ログの取得タイミングによっては，ファイルが上書きされて必要な情報が取得できないことがあります。監査ログを取得するタイミングや出力量を考慮して，必要な情報が欠落しないように，ファイル面数には十分な数を設定してください。
- 監査ログの出力先ディレクトリは，障害発生時に消失する危険性を避けるため，Collaboration インストールディレクトリとは別のディスクを指定することをお勧めします。
- JP1/NETM/Audit と連携する場合，監査ログプロパティファイルの hptl_clb_audit_logEncoding プロパティには，必ず「Shift_JIS」を設定してください。hptl_clb_audit_logEncoding プロパティで「UTF-8」を指定すると，JP1/NETM/Audit の監査ログ管理サーバで収集した監査ログが文字化けすることがあります。

付録

付録 A　サンプルで提供するプロパティファイル

サンプルで提供する添付ファイル操作機能用プロパティファイルを次に示します。

```
hptl_clb_ccu_af_contenttype.list=ai/aif/aifc/aiff/asd/asn/asp/au/
avi/bat/bin/bmp/cacert/cdf/cgi/ckl/class/clp/cpio/crd/crl/csh/css/
csv/doc/dot/dvi/dwf/dwg/ecert/enc/eps/es/esl/etc/etx/evy/exe/fif/
fm/fvi/gif/gtar/gz/hdf/hlp/hqx/htm/html/ice/ief/ifs/ins/jar/jfif/
jpe/jpeg/jpg/js/jsc/jsu/lam/latex/lcc/m13/m14/man/map/mbd/mdb/me/
mi/mid/midi/mif/mny/moc/mocha/moov/mov/movie/mp2v/mpe/mpeg/mpegv/
mpg/mpp/mpv/mpv2/ms/nc/oda/pac/pae/pbm/pcd/pdf/pgm/pjp/pjpeg/pl/
png/pnm/pot/ppm/pps/ppt/proxy/ps/pub/qt/ra/ram/ras/rgb/roff/rtf/
rtx/scd/scert/ser/sgm/sgml/sh/shar/shtml/sit/slc/smp/snd/spr/
sprite/src/svf/svr/t/talk/tar/tbp/tbt/tcl/tex/texi/texinfo/tif/
tiff/tki/tkined/tr/trm/tsv/txt/ucert/vbs/viv/vivo/vrt/wav/wi/wmf/
wri/wrl/wv/xbm/xla/xlc/xlm/xls/xlt/xlw/xpm/xwd/z/zip
hptl_clb_ccu_af_contenttype.default=application/octet-stream
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.ai=application/postscript
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.aif=audio/x-aiff
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.aifc=audio/x-aiff
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.aiff=audio/x-aiff
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.asd=application/astound
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.asn=application/astound
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.asp=application/x-asap
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.au=audio/basic
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.avi=video/msvideo
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.bat=magnus-internal/cgi
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.bin=application/octet-stream
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.bmp=image/bmp
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.cacert=application/x-x509-ca-cert
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.cdf=application/x-netcdf
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.cgi=magnus-internal/cgi
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.ckl=application/x-fortezza-ckl
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.class=application/java-vm
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.clp=application/x-msclip
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.cpio=application/x-cpio
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.crd=application/x-mscardfile
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.crl=application/x-pkcs7-crl
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.csh=application/x-csh
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.css=application/x-pointplus
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.csv=application/vnd.ms-excel
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.doc=application/msword
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.dot=application/x-dot
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.dvi=application/x-dvi
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.dwf=drawing/x-dwf
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.dwg=image/vnd
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.ecert=application/
x-x509-email-cert
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.enc=application/pre-encrypted
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.eps=application/postscript
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.es=audio/echospeech
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.esl=audio/echospeech
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.etc=application/x-earthtime
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.etx=text/x-setext
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.evy=application/x-envoy
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.exe=magnus-internal/cgi
```

```
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.fif=image/fif
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.fm=application/x-maker
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.fvi=video/isivideo
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.gif=image/gif
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.gtar=application/x-gtar
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.gz=application/x-gzip
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.hdf=application/x-hdf
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.hlp=application/winhlp
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.hqx=application/mac-binhex40
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.htm=text/html
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.html=text/html
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.ice=x-conference/x-cooltalk
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.ief=image/ief
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.ifs=image/ifs
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.ins=application/x-net-install
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.jar=application/java-archive
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.jfif=image/jpeg
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.jpe=image/jpeg
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.jpeg=image/jpeg
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.jpg=image/jpeg
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.js=application/x-javascript
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.jsc=application/
x-javascript-config
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.jsu=application/x-javascript
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.lam=audio/x-liveaudio
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.latex=application/x-latex
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.lcc=application/fastman
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.m13=application/x-msmediaview
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.m14=application/x-msmediaview
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.man=application/x-troff-man
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.map=magnus-internal/imagemap
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.mbd=application/mbedlet
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.mdb=application/x-msaccess
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.me=application/x-troff-me
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.mi=application/x-mif
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.mid=audio/midi
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.midi=audio/midi
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.mif=application/x-mif
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.mny=application/x-msmoney
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.moc=application/x-mocha
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.mocha=application/x-mocha
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.moov=video/quicktime
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.mov=video/quicktime
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.movie=video/x-sgi-movie
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.mp2v=video/x-mpeg2
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.mpe=video/mpeg
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.mpeg=video/mpeg
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.mpegv=video/mpeg
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.mpg=video/mpeg
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.mpp=application/vnd.ms-project
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.mpv=video/mpeg
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.mpv2=video/x-mpeg2
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.ms=application/x-troff-ms
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.nc=application/x-netcdf
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.oda=application/oda
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.pac=audio/x-pac
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.pae=audio/x-epac
```

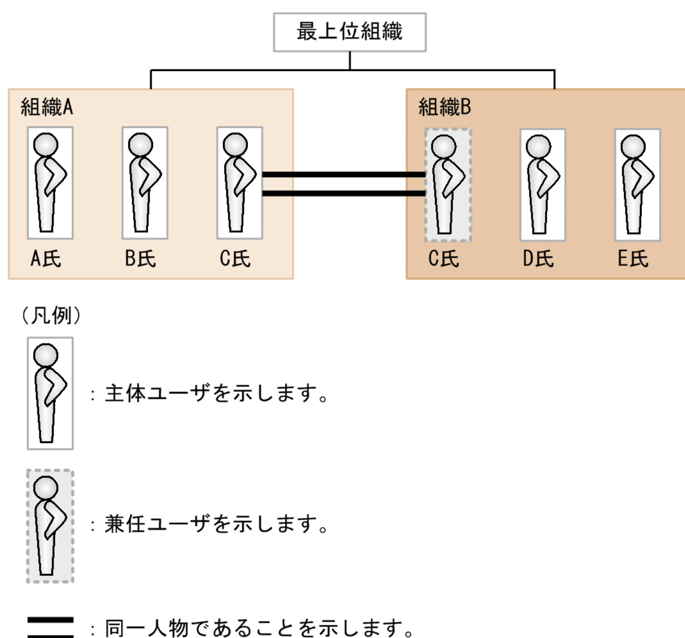
```
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.pbm=image/x-portable-bitmap
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.pcd=image/x-photo-cd
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.pdf=application/pdf
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.pgm=image/x-portable-graymap
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.pjp=image/jpeg
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.pjpeg=image/jpeg
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.pl=application/x-perl
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.png=image/png
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.pnm=image/x-portable-anymap
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.pot=application/vnd.ms-powerpoint
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.ppm=image/x-portable-pixmap
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.pps=application/vnd.ms-powerpoint
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.ppt=application/vnd.ms-powerpoint
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.proxy=application/
x-ns-proxy-autoconfig
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.ps=application/postscript
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.pub=application/x-mspublisher
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.qt=video/quicktime
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.ra=audio/x-pn-realaudio
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.ram=audio/x-pn-realaudio
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.ras=image/x-cmu-raster
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.rgb=image/x-rgb
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.roff=application/x-troff
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.rtf=application/rtf
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.rtx=text/richtext
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.scd=application/x-msschedule
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.scert=application/
x-x509-server-cert
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.ser=application/
java-serialized-object
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.sgm=text/sgml
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.sgml=text/sgml
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.sh=application/x-sh
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.shar=application/x-shar
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.shtml=magnus-internal/parsed-html
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.sit=application/x-stuffit
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.slc=application/x-salsa
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.smp=application/studiom
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.snd=audio/basic
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.spr=application/x-sprite
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.sprite=application/x-sprite
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.src=application/x-wais-source
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.svf=image/vnd
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.svr=x-world/x-svr
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.t=application/x-troff
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.talk=text/x-speech
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.tar=application/x-tar
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.tbp=application/x-timbuktu
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.tbt=application/timbuktu
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.tcl=application/x-tcl
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.tex=application/x-tex
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.texi=application/x-texinfo
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.texinfo=application/x-texinfo
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.tif=image/tiff
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.tiff=image/tiff
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.tki=application/x-tkined
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.tkined=application/x-tkined
```

```
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.tr=application/x-troff
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.trm=application/x-msterminal
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.tsv=text/tab-separated-values
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.txt=text/plain
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.ucert=application/x-x509-user-cert
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.vbs=video/mpeg
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.viv=video/vivo
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.vivo=video/vivo
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.vrt=x-world/x-vrt
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.wav=audio/x-wav
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.wi=image/wavelet
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.wmf=application/x-msmetafile
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.wri=application/x-mswrite
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.wrl=x-world/x-vrml
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.wv=video/wavelet
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.xbm=image/x-xbitmap
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.xla=application/vnd.ms-excel
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.xlc=application/vnd.ms-excel
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.xlm=application/vnd.ms-excel
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.xls=application/vnd.ms-excel
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.xlt=application/vnd.ms-excel
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.xlw=application/vnd.ms-excel
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.xpm=image/x-xpixmap
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.xwd=image/x-xwindowdump
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.z=application/x-compress
hptl_clb_ccu_af_contenttype.ext.zip=application/zip
```

付録 B　兼任機能を使用する場合の設定および注意事項

Collaboration では，システム管理者の設定によって，一人のユーザに対して複数の組織や役職を設定できます。一人のユーザが，複数の組織に所属したり，複数の役職に就いたりすることを**兼任**と呼びます。なお，本来所属する組織のユーザを**主体ユーザ**，それ以外の組織に所属するユーザを**兼任ユーザ**と呼びます。Collaboration では，Collaboration のユーザが複数の組織や役職を兼任できるようにする機能（**兼任機能**）を提供しています。兼任機能を使用する場合には，主体ユーザの情報のほかに，兼任ユーザの情報も登録する必要があります。なお，兼任ユーザを登録する場合には，登録前に，必ず兼任機能を使用する設定をしてください。兼任機能の概要を次の図に示します。

図 B-1　兼任機能の概要



この図のように，兼任機能を使用すると，C 氏は組織 A および組織 B に所属できるようになります。この場合，兼任する組織 B には，C 氏を兼任ユーザとして登録します。

参考

兼任機能を使用している場合にユーザ検索機能を使用すると，デフォルトの設定では，兼任ユーザと主体ユーザの両方の情報がユーザ一覧表示領域に表示されます。兼任ユーザの情報をユーザ一覧表示領域に表示しないようにしたい場合は，hptl_clb_cum.properties（Collaboration - Directory Access 固有プロパティファイル）で設定を変更してください。詳細は，マニュアル「Collaboration - Directory Access　システム管理者ガイド」を参照してください。

兼任ユーザの情報は，主体ユーザの情報と同様に，Collaboration で利用するユーザ情報が格納されているディレクトリサーバに登録する必要があります。兼任ユーザの情報をディレクトリサーバに登録する方法には，次のものがあります。

- Groupmax Collaboration - Directory Converter と連携して登録する方法
- Groupmax Collaboration - Directory Converter と連携しないで登録する方法

ここでは，兼任ユーザを Collaboration のシステムで使用するための設定方法および注意事項について，Groupmax Collaboration - Directory Converter と連携する場合と連携しない場合とに分けて説明します。

参考

Groupmax Collaboration - Directory Converter と連携する場合は，Collaboration の製品からインストールする必要があります。ただし，次の Collaboration の製品には，Groupmax Collaboration - Directory Converter が含まれていませんので，Groupmax Collaboration - Directory Converter と連携しない方法で，兼任ユーザの情報を設定してください。

- Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing
- uCosminexus Collaboration Portal - Forum/File Sharing

Groupmax Collaboration - Directory Converter の詳細は，Groupmax Collaboration - Directory Converter のドキュメントを参照してください。

付録 B.1　兼任機能を使用するための設定（Groupmax Collaboration - Directory Converter と連携する場合）

兼任機能を使用する場合，Groupmax Collaboration - Directory Converter と連携するときは，次の設定を実施します。

手順

1. **アプリケーションサーバでのポートレットの設定**※1
2. Groupmax Address Server **の設定変更**※1
3. Groupmax Collaboration - Directory Converter **を使用するための設定**※1

4. Groupmax Address Server での兼任ユーザ情報の登録※2

5. Groupmax Address Server での兼任ユーザ情報の出力※2

6. 兼任ユーザ用の LDIF ファイルの作成（Groupmax Collaboration - Directory Converter と連携する場合）※2

7. ディレクトリサーバへの兼任ユーザ用の LDIF ファイルのインポート※2

8. アプリケーションサーバの起動※2

注※1
手順 1. ～手順 3. の作業は，兼任機能の使用開始時に 1 回だけ実施します。兼任ユーザの情報を登録する前に，実施してください。

注※2
手順 4. ～手順 8. の作業は，兼任機能の使用開始時，および兼任ユーザの情報の変更時に実施します。なお，兼任機能を使用するかどうかは，Collaboration の初期構築時または移行時に決定してください。運用中に兼任機能の使用に関する設定を変更しないでください。

各手順で設定する内容について説明します。

(1) アプリケーションサーバでのポートレットの設定

アプリケーションサーバで，兼任機能を使用するための設定をします。この設定は，初期構築時または移行時に，アプリケーションサーバを起動する前に実施してください。また，ディレクトリサーバに兼任ユーザ用のエントリを登録する前に設定してください。

手順

1. **［ユーザ検索］ポートレットのプロパティファイル（hptl_clb_cum.properties）で，兼任機能を使用するかどうかの設定値（hptl_clb_cum_user_in_additional_post），主体ユーザのユーザ ID を表す属性名の設定値（hptl_clb_cum_user_in_main_post），兼任ユーザの E-mail アドレスを使用するかどうかの設定値（hptl_clb_cum_email_for_additional_post）を設定します。**
兼任機能を使用する場合の［ユーザ検索］ポートレットのプロパティファイルでの設定値を次の表に示します。

表 B-1　兼任機能を使用する場合の［ユーザ検索］ポートレットのプロパティファイルでの設定値（Groupmax Collaboration - Directory Converter と連携する場合）

項番	ファイル名	プロパティ名	設定値
1	hptl_clb_cum.properties	hptl_clb_cum_user_in_additional_post	link
2		hptl_clb_cum_user_in_main_post	<主体ユーザのユーザ ID を表す属性名>

［ユーザ検索］ポートレットのプロパティファイル（hptl_clb_cum.properties）の設定方法については，マニュアル「Collaboration - Directory Access　システム管理者ガイド」を参照してください。

2. **［メール］ポートレットのプロパティファイル（hptl_clb_cml.properties）の hptl_clb_cml_getMainEmailAddress，および Groupmax 通信ライブラリのプロパティファイルの GetMainEmailAddress で，兼任ユーザの宛先から主体ユーザの E-mail アドレスを取得するかどうかを設定します。**
兼任機能を使用する場合の［メール］ポートレットのプロパティファイルでの設定値を次の表に示します。

表 B-2　兼任機能を使用する場合の［メール］ポートレットのプロパティファイルでの設定値（Groupmax Collaboration - Directory Converter と連携する場合）

項番	ファイル名	プロパティ名	設定値
1	hptl_clb_cml.properties	hptl_clb_cml_getMainEmailAddress	On
2	Groupmax 通信ライブラリのプロパティファイル	GetMainEmailAddress	true

［メール］ポートレットのプロパティファイル（hptl_clb_cml.properties），および Groupmax 通信ライブラリのプロパティファイルの設定方法については，マニュアル「Collaboration - Mail　システム管理者ガイド」を参照してください。

3. **ファイル共有サーバのユーザ認証ライブラリ環境定義ファイル（cfsauth.ini）で，ユーザ検索時に兼任ユーザの情報を取得するかどうかの設定値（[DIRECTORY] セクションの AdditionalPostMode エントリ），主体ユーザのユーザ ID を表す属性名の設定値（[DIRECTORY] セクションの MainPostUidAttr エントリ）を設定します。**
兼任機能を使用する場合のファイル共有サーバのユーザ認証ライブラリ環境定義ファイルでの設定値を次の表に示します。

表 B-3　兼任機能を使用する場合のファイル共有サーバのユーザ認証ライブラリ環境定義ファイルでの設定値（Groupmax Collaboration - Directory Converter と連携する場合）

項番	セクション名	エントリ名	設定値
1	[DIRECTORY]	AdditionalPostMode	［ユーザ検索］ポートレットのプロパティファイル（hptl_clb_cum.properties）の「hptl_clb_cum_user_in_additional_post」と同じ値
2		MainPostUidAttr	［ユーザ検索］ポートレットのプロパティファイル（hptl_clb_cum.properties）の「hptl_clb_cum_user_in_main_post」と同じ値

注
［ユーザ検索］ポートレットのプロパティファイル（hptl_clb_cum.properties）に設定する値については，表 B-1 を参照してください。

ユーザ認証ライブラリ環境定義ファイル（cfsauth.ini）の設定方法については，マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」を参照してください。

(2) Groupmax Address Server の設定変更

兼任ユーザの情報を出力するために，Groupmax Address Server でマスタ管理サーバの gmpublicinfo ファイルに「ADDITIONAL_POSITION_EXP=Y」を設定します。
gmpublicinfo ファイルについては，マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド　基本操作編」の「gmpublicinfo ファイルの設定」を参照してください。

参考

兼任機能使用時，Groupmax Address Server の性能を上げるために必要な設定については，マニュアル「Collaboration - Mail　システム管理者ガイド」の「兼任機能使用時の Groupmax Address Server の設定」を参照してください。

(3) Groupmax Collaboration - Directory Converter を使用するための設定

Groupmax Collaboration - Directory Converter を使用するために，Groupmax Collaboration - Directory Converter をインストールしたマシンを用意して，環境設定を実施します。Groupmax Collaboration - Directory Converter は，Collaboration のシステムを構成するアプリケーションサーバなどのサーバマシンにも，個別のマシンにもインストールできます。

なお，ここでは，兼任機能を使用する場合に必要な設定について説明します。
Groupmax Collaboration - Directory Converter を使用するための設定については，Groupmax Collaboration - Directory Converter のドキュメントを参照してください。

手順

1. **個別インストーラを起動して，Groupmax Collaboration - Directory Converter をインストールします。**
   個別インストーラは，日立総合インストーラから起動します。Groupmax Collaboration - Directory Converter は，次の製品に含まれています。
   - Groupmax Collaboration Portal
   - Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule
   - uCosminexus Collaboration Portal

参考

Groupmax Collaboration - Directory Converter の前提 OS を次に示します。

- Windows Server 2003 Standard Edition
- Windows Server 2003 Enterprise Edition
- Windows Server 2003 R2 Standard Edition
- Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition
- Windows Server 2008 Standard x86
- Windows Server 2008 Enterprise x86

また，Groupmax Collaboration - Directory Converter を使用する場合は，次の前提製品をインストールする必要があります。

- LDAP Toolkit

---

2. **Groupmax Collaboration - Directory Converter のプロパティファイル（conv.properties）で，兼任ユーザ用の LDIF ファイルを生成するかどうかの設定値（Reg_UserType5），兼任ユーザの E-mail アドレスに主体ユーザの E-mail アドレスを登録するかどうかの設定値（Addpost_mail）を設定します。**

   conv.properties は，サンプルファイル（conv.properties.sam）のファイル名を conv.properties に変更し，<Collaboration インストールディレクトリ >¥Utility¥Directory Converter¥conf¥ にコピーして作成します。

   設定例

```
# All Rights Reserved. Copyright (C) 2004, 2007, Hitachi, Ltd.
# Licensed Material of Hitachi, Ltd.
# Reproduction, use, modification or disclosure otherwise than
# permitted in the License Agreement is strictly prohibited.

#TRC_Level=20
#TRC_FileNum=2
#TRC_FileSize=20
#TRC_Path=
#Reg_UserType1=1
#Reg_UserType2=1
Reg_UserType5=1
#Top_Org_Id=CLBROOT
#Gmax_Sys_Id=GMAXSYS
#TitleOrder_Support=0
#Title_Tbl_File=
Addpost_mail=1
```

   conv.properties.sam は，次のディレクトリに格納されています。

   <Collaboration インストールディレクトリ >¥Utility¥Directory Converter¥sample¥

3. **Groupmax Address Server と，Groupmax Collaboration - Directory Converter の兼任ユーザの情報を対応づけるために，兼任ユーザ用スキーママッピング定義ファイル（addpost.map）を設定します。**

   addpost.map は，サンプルファイル（addpost.map.sam）のファイル名を addpost.map に変更し，<Collaboration インストールディレクトリ

>¥Utility¥Directory Converter¥conf¥ にコピーして作成します。

設定例

```
schemadef:
dn: "uid=",5,",ou=people,o=hitachi,c=jp"
objectclass: "top"
objectclass: "inetOrgPerson"
objectclass: "hptluser"
sn: 11
cn;lang-ja-jp: 10
cn;lang-en-us: 12," ",11
hptlDepartmentName;lang-ja-jp: 31
hptlDepartmentName;lang-en-us: 32
title;lang-ja-jp: 9
title;lang-en-us: 9.title_table
mail: 59
telephoneNumber: 25
facsimileTelephoneNumber: 27
telephoneNumber;extension: 26
hptlDepartmentDN: "ou=",8,",ou=department,o=hitachi,c=jp"
hptlActualUid: 72
hptlTitleOrder: 71

tabledef: title_table
部長,Director
課長,Manager
技師,Engineer
```

注

太字部分を必要に応じて変更してください。addpost.map で変更できる情報を次の表に示します。

表 B-4　addpost.map で変更できる情報

項番	変更できる情報	サンプルファイルの設定値	設定内容	説明
1	DN 名	ou=people,o=hitachi,c=jp	Groupmax Collaboration - Directory Converter の uid を表す DN 名に変更します。※1	Groupmax Address Server の兼任ユーザのユーザ ID を Groupmax Collaboration - Directory Converter の uid（ユーザ ID を表す属性）にマッピングします。
2	ユーザの名前を表す属性名	cn;lang-ja-jp	Groupmax Collaboration - Directory Converter のユーザの名前を表す属性名に変更します。※2	Groupmax Address Server の氏名（日本語）を Groupmax Collaboration - Directory Converter のユーザの名前にマッピングします。

項番	変更できる情報	サンプルファイルの設定値	設定内容	説明
3	ユーザの名前（英語）を表す属性名	cn;lang-en-us	Groupmax Collaboration - Directory Converter のユーザの名前（英語）を表す属性名に変更します。※2	Groupmax Address Server の英語名と英語姓を Groupmax Collaboration - Directory Converter のユーザの名前（英語）にマッピングします。
4	組織名を表す属性名	hptlDepartmentName;lang-ja-jp	Groupmax Collaboration - Directory Converter の組織名を表す属性名に変更します。※2	Groupmax Address Server の組織名（日本語）を Groupmax Collaboration - Directory Converter の組織名にマッピングします。
5	英語所属組織名を表す属性名	hptlDepartmentName;lang-en-us	Groupmax Collaboration - Directory Converter の英語所属組織名を表す属性名に変更します。※2	Groupmax Address Server の組織名（英語）を Groupmax Collaboration - Directory Converter の英語所属組織名にマッピングします。
6	日本語役職名を表す属性名	title;lang-ja-jp	Groupmax Collaboration - Directory Converter のユーザの日本語役職名を表す属性名に変更します。※2	Groupmax Address Server の役職と職種を Groupmax Collaboration - Directory Converter のユーザの日本語役職名にマッピングします。
7	英語役職名を表す属性名	title;lang-en-us	Groupmax Collaboration - Directory Converter のユーザの英語役職名を表す属性名に変更します。※2 Groupmax Collaboration - Directory Converter に英語役職名を登録しない場合は，title;lang-en-us の定義を削除してください。	Groupmax Address Server の役職と職種と，項番 15 に設定されているテーブルから英語役職名を生成し，Groupmax Collaboration - Directory Converter のユーザの英語役職名にマッピングします。項番 15 に設定されているテーブルに対応する役職がない場合は，そのまま出力されます。

項番	変更できる情報	サンプルファイルの設定値	設定内容	説明
8	E-mail アドレスを表す属性名	mail	Groupmax Collaboration - Directory Converter のユーザの E-mail アドレスを表す属性名に変更します。※2	Groupmax Address Server の E-mail アドレスを Groupmax Collaboration - Directory Converter の兼任ユーザに対応する主体ユーザの E-mail アドレスにマッピングします。
9	電話番号を表す属性名	telephoneNumber	Groupmax Collaboration - Directory Converter のユーザの電話番号を表す属性名に変更します。※2	Groupmax Address Server の電話番号を Groupmax Collaboration - Directory Converter のユーザの電話番号にマッピングします。
10	FAX 番号を表す属性名	facsimileTelephoneNumber	Groupmax Collaboration - Directory Converter のユーザの FAX 番号を表す属性名に変更します。※2	Groupmax Address Server の FAX 番号を Groupmax Collaboration - Directory Converter のユーザの FAX 番号にマッピングします。
11	電話番号 2 を表す属性名	telephoneNumber;extension	Groupmax Collaboration - Directory Converter のユーザの電話番号 2 を表す属性名に変更します。※2	Groupmax Address Server の専用線番号を Groupmax Collaboration - Directory Converter のユーザの電話番号 2 にマッピングします。
12	上位組織を表す属性名	hptlDepartmentDN	Groupmax Collaboration - Directory Converter の上位組織を表す属性名に変更します。※2	Groupmax Address Server の上位組織 ID を Groupmax Collaboration - Directory Converter の上位組織を表す属性にマッピングします。
	組織を表す DN 名	ou=department,o=hitachi,c=jp	Groupmax Collaboration - Directory Converter の組織を表す DN 名に変更します。	
13	主体ユーザ ID を表す属性名	hptlActualUid	主体ユーザ ID を表す属性名に変更します。	主体ユーザ ID をマッピングします。

項番	変更できる情報	サンプルファイルの設定値	設定内容	説明
14	役職順位を表す属性名	hptlTitleOrder	Groupmax Collaboration - Directory Converter の役職順位を表す属性名に変更します。 Groupmax Collaboration - Directory Converter に役職順位を登録しない場合は，hptlTitleOrder の行を削除してください。※3	Groupmax Address Server で役職順位を設定している場合，役職順位の情報が格納されているファイルのテーブルから，Groupmax Collaboration - Directory Converter の役職順位にマッピングします。
15	役職名の対応づけ	tabledef: title_table	役職名の対応づけを，「< 日本語役職名 >※4,< 英語役職名 >」の形式で定義します。 （定義例） 部長 ,Director 課長 ,Manager 技師 ,Engineer Groupmax Collaboration - Directory Converter に英語役職名を登録しない場合は，title;lang-en-us と，tabledef: title_table 以下の定義を削除してください。	Groupmax Address Server の役職と職種から，英語役職名を生成するためのテーブルです。

注※ 1

Groupmax Collaboration - Directory Converter の組織を表す DN 名が記載されている個所は，すべて同じ値を設定してください。

注※ 2

Collaboration で提供するサンプルのプロパティファイルに設定されているデフォルト値を変更している場合は，その値に変更してください。Collaboration で提供するサンプルのプロパティファイルについては，マニュアル「Collaboration - Directory Access　システム管理者ガイド」を参照してください。

注※ 3

Groupmax Collaboration - Directory Converter に役職順位の情報を登録する場合は，プロパティファイル（conv.properties）で，役職順位の情報を登録するかどうかの設定値（TitleOrder_Support=2），Groupmax Address Server の役職順位の情報が格納されているファイルをコピーして格納するパスとファイル名の設定値（Title_Tbl_File）を指定してください。

注※ 4

Groupmax Address Server で役職順位を設定している場合（「役職名 # 数字」の形式で設定し

ている場合）も，＜日本語役職名＞には役職名だけを指定してください。Groupmax Address Server で役職順位については，マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 7　システム管理者ガイド　基本操作編」の「役職の定義」を参照してください。
（例）「課長 #1」の場合，「課長 ,Manager」と指定します。

addpost.map.sam は，次のディレクトリに格納されています。

<Collaboration インストールディレクトリ >¥Utility¥Directory Converter¥sample¥

(4) Groupmax Address Server での兼任ユーザ情報の登録

Groupmax Address Server で兼任ユーザの情報を登録します。兼任ユーザの情報の登録方法については，マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 7　システム管理者ガイド　基本操作編」の「兼任ユーザ情報の設定」を参照してください。

(5) Groupmax Address Server での兼任ユーザ情報の出力

Groupmax Address Server の gmaxexp コマンドを実行して，Groupmax Address Server に登録されている組織やユーザの情報を CSV ファイルに出力します。Groupmax Address Server の gmaxexp コマンドは，次のように実行します。

```
gmaxexp -a cgu <Groupmax Address Serverのユーザ情報を格納するファイル名>
```

注意事項

Groupmax Address Server の gmaxexp コマンドを実行する前に，マスタ管理サーバの gmpublicinfo ファイルで「ADDITIONAL_POSITION_EXP=Y」が設定されていることを確認してください。gmpublicinfo ファイルの設定については，「(2)　Groupmax Address Server の設定変更」を参照してください。

Groupmax Address Server の gmaxexp コマンドの使用方法については，マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 7　システム管理者ガイド　ユティリティ編」の「登録済み情報の出力　gmaxexp コマンド」を参照してください。

(6) 兼任ユーザ用の LDIF ファイルの作成（Groupmax Collaboration - Directory Converter と連携する場合）

Groupmax Collaboration - Directory Converter で，「(5)　Groupmax Address Server での兼任ユーザ情報の出力」で作成した Groupmax Address Server の CSV ファイルから，兼任ユーザ用の LDIF ファイルを作成します。

手順

1. **兼任ユーザ用の LDIF ファイルを作成するために，Groupmax Collaboration - Directory Converter のコマンドを，次のように実行します。**

Groupmax Collaboration - Directory Converter による運用を初めて開始する場合

makeLDIF コマンドを使用します。makeLDIF コマンドの形式を次に示します。

`makeLDIF -f <Groupmax Address Server の CSV ファイルの格納先ディレクトリ > -o <Groupmax Collaboration - Directory Converter の LDIF ファイルの出力先ディレクトリ >`

Groupmax Collaboration - Directory Converter による運用をすでに開始している場合

diffLDIF コマンドを使用します。diffLDIF コマンドの形式を次に示します。

`diffLDIF -f <Groupmax Address Server の CSV ファイルの格納先ディレクトリ > -o <Groupmax Collaboration - Directory Converter の LDIF ファイルの出力先ディレクトリ >[ -c]`

各コマンドのオプションの説明

- -f <Groupmax Address Server の CSV ファイルの格納先ディレクトリ >
  -f オプションには，「(5)　Groupmax Address Server での兼任ユーザ情報の出力」で作成した Groupmax Address Server の CSV ファイルを格納しているディレクトリを絶対パスで指定します。なお，ディレクトリ名に半角スペースが含まれる場合は，ファイルのパス全体を「"（半角引用符）」で囲んでください。
- -o <Groupmax Collaboration - Directory Converter の LDIF ファイルの出力先ディレクトリ >
  -o オプションには，LDIF ファイルを出力するディレクトリを絶対パスで指定します。このディレクトリに，兼任ユーザ用の LDIF ファイルをファイル名「conv_addpost.ldif」で出力します。なお，ディレクトリ名に半角スペースが含まれる場合は，ファイルのパス全体を「"（半角引用符）」で囲んでください。
- -c オプション
  兼任ユーザ用スキーママッピング定義ファイル（addpost.map）で，英語役職名の情報（tabledef: title_table の内容）を変更した場合に設定します。兼任ユーザ用スキーママッピング定義ファイル（addpost.map）の設定方法については，「(3) Groupmax Collaboration - Directory Converter を使用するための設定」を参照してください。

設定例

```
makeLDIF -f "C:¥Program
Files¥HITACHI¥Collaboration¥Utility¥Directory
Converter¥address.csv" -o "C:¥Program
Files¥HITACHI¥Collaboration¥Utility¥Directory Converter"
```

makeLDIF コマンド（makeLDIF.exe）および diffLDIF コマンド（diffLDIF.exe）は，次のディレクトリに格納されています。

<Collaboration インストールディレクトリ >¥Utility¥Directory Converter¥bin¥

参考

運用中に Groupmax Address Server で変更したユーザ情報を反映したい場合は，Groupmax Collaboration - Directory Converter の diffLDIF コマンドで LDIF ファイルを作成します。diffLDIF コマンドを利用すると，差分の LDIF ファイルが作成できます。

(7) ディレクトリサーバへの兼任ユーザ用の LDIF ファイルのインポート

ディレクトリサーバで ldapmodify コマンドを実行して，LDIF ファイルの内容を反映します。ldapmodify コマンドは，次のように実行します。

```
ldapmodify -a -D <サーバに対する認証に使用する識別名> -w <パスワード> -p <
ポート番号> -f <兼任ユーザ用のLDIFファイル>
```

ldapmodify コマンド（ldapmodify.exe）は，次のディレクトリに格納されています。

<iPlanet サーバインストールディレクトリ >¥shared¥bin¥

(8) アプリケーションサーバの起動

アプリケーションサーバを起動します。

付録 B.2　兼任機能を使用するための設定（Groupmax Collaboration - Directory Converter と連携しない場合）

兼任機能を使用する場合，Groupmax Collaboration - Directory Converter と連携しないときは，次の設定を実施します。

手順

1. **アプリケーションサーバでのポートレットの設定**※ 1
2. **兼任機能で使用するログインモジュールの設定**※ 1
3. **兼任ユーザ用の LDIF ファイルの作成（Groupmax Collaboration - Directory Converter と連携しない場合）**※ 2 ※ 3
4. **ディレクトリサーバへの兼任ユーザ用の LDIF ファイルのインポート**※ 2 ※ 3
5. **アプリケーションサーバの起動**※ 2

注※ 1

手順 1. ～手順 2. の作業は，兼任機能の使用開始時に 1 回だけ実施します。兼任ユーザの情報を登録する前に，実施してください。

注※ 2

手順 3. ～手順 5. の作業は，兼任機能の使用開始時，および兼任ユーザの情報の変更

時に実施します。なお，兼任機能を使用するかどうかは，Collaboration の初期構築時または移行時に決定してください。運用中に兼任機能の使用に関する設定を変更しないでください。

注※ 3

事前に兼任ユーザ用の LDIF ファイルを作成しないで，ディレクトリサーバのコンソールで直接兼任ユーザのデータを作成する場合，手順 3. および手順 4. の作業の代わりに，コンソールで兼任ユーザのデータを設定する必要があります。設定が必要な属性および値については，「(3)　兼任ユーザ用の LDIF ファイルの作成（Groupmax Collaboration - Directory Converter と連携しない場合）」を参照してください。

各手順で設定する内容について説明します。

（1）アプリケーションサーバでのポートレットの設定

アプリケーションサーバで，兼任機能を使用するための設定をします。この設定は，初期構築時または移行時に，アプリケーションサーバを起動する前に実施してください。また，ディレクトリサーバに兼任ユーザ用のエントリを登録する前に設定してください。

手順

1. **［ユーザ検索］ポートレットのプロパティファイル（hptl_clb_cum.properties）で，兼任機能を使用するかどうかの設定値（hptl_clb_cum_user_in_additional_post），主体ユーザのユーザ ID を表す属性名の設定値（hptl_clb_cum_user_in_main_post），兼任ユーザの E-mail アドレスを使用するかどうかの設定値（hptl_clb_cum_email_for_additional_post）を設定します。**
兼任機能を使用する場合の［ユーザ検索］ポートレットのプロパティファイルでの設定値を次の表に示します。

表 B-5　兼任機能を使用する場合の［ユーザ検索］ポートレットのプロパティファイルでの設定値（Groupmax Collaboration - Directory Converter と連携しない場合）

項番	ファイル名	プロパティ名	設定値
1	hptl_clb_cum.properties	hptl_clb_cum_user_in_additional_post	link
2		hptl_clb_cum_user_in_main_post	＜主体ユーザのユーザ ID を表す属性名＞

［ユーザ検索］ポートレットのプロパティファイル（hptl_clb_cum.properties）の設定方法については，マニュアル「Collaboration - Directory Access　システム管理者ガイド」を参照してください。

2. **［メール］ポートレットのプロパティファイル（hptl_clb_cml.properties）の hptl_clb_cml_getMainEmailAddress，および Groupmax 通信ライブラリのプロパティファイルの GetMainEmailAddress で，兼任ユーザの宛先から主体ユーザの E-mail ア**

ドレスを取得するかどうかを設定します。

兼任機能を使用する場合の［メール］ポートレットのプロパティファイルでの設定値を次の表に示します。

表 B-6　兼任機能を使用する場合の［メール］ポートレットのプロパティファイルでの設定値（Groupmax Collaboration - Directory Converter と連携しない場合）

項番	ファイル名	プロパティ名	設定値
1	hptl_clb_cml.properties	hptl_clb_cml_getMainEmailAddress	On
2	Groupmax 通信ライブラリのプロパティファイル	GetMainEmailAddress	true

［メール］ポートレットのプロパティファイル（hptl_clb_cml.properties），およびGroupmax 通信ライブラリのプロパティファイルの設定方法については，マニュアル「Collaboration - Mail　システム管理者ガイド」を参照してください。

3. **ファイル共有サーバのユーザ認証ライブラリ環境定義ファイル（cfsauth.ini）で，ユーザ検索時に兼任ユーザの情報を取得するかどうかの設定値（[DIRECTORY] セクションの AdditionalPostMode エントリ），主体ユーザのユーザ ID を表す属性名の設定値（[DIRECTORY] セクションの MainPostUidAttr エントリ）を設定します。**

兼任機能を使用する場合のファイル共有サーバのユーザ認証ライブラリ環境定義ファイルでの設定値を次の表に示します。

表 B-7　兼任機能を使用する場合のファイル共有サーバのユーザ認証ライブラリ環境定義ファイルでの設定値（Groupmax Collaboration - Directory Converter と連携しない場合）

項番	セクション名	エントリ名	設定値
1	[DIRECTORY]	AdditionalPostMode	［ユーザ検索］ポートレットのプロパティファイル（hptl_clb_cum.properties）の「hptl_clb_cum_user_in_additional_post」と同じ値
2		MainPostUidAttr	［ユーザ検索］ポートレットのプロパティファイル（hptl_clb_cum.properties）の「hptl_clb_cum_user_in_main_post」と同じ値

注

［ユーザ検索］ポートレットのプロパティファイル（hptl_clb_cum.properties）に設定する値については，表 B-5 を参照してください。

ユーザ認証ライブラリ環境定義ファイル（cfsauth.ini）の設定方法については，マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」を参照してください。

(2) 兼任機能で使用するログインモジュールの設定

兼任ユーザでのログインを抑止するために，兼任機能で使用するログインモジュールを

設定します。

手順

1. **ログインモジュールを有効にするために，**hptl_clb_ccu_loginmodule.jar **を** <Collaboration **インストールディレクトリ** >¥clb_home¥lib **に，** ClbPutLoginModule.bat **を** <Collaboration **インストールディレクトリ** >¥clb_home¥bin **にコピーします。**

   hptl_clb_ccu_loginmodule.jar は，次のディレクトリに格納されています。
   　<Collaboration インストールディレクトリ >¥common¥lib¥

   ClbPutLoginModule.bat は，次のディレクトリに格納されています。
   　<Collaboration インストールディレクトリ >¥common¥bin¥

2. <Collaboration **インストールディレクトリ** >¥clb_home¥bin **にコピーした** ClbPutLoginModule.bat **を実行して，ログインモジュール用のクラスファイルを配置します。**

   ログインモジュール用のクラスファイルの展開先ディレクトリ
   　<Cosminexus インストールディレクトリ >¥manager¥modules¥ ※

   展開されるログインモジュール用のクラスファイル
   　/jp/co/Hitachi/soft/collaboration/common/logincheck/ClbLoginCheckModule.class
   　/jp/co/Hitachi/soft/collaboration/common/logincheck/ClbLoginCheckModulePrincipal.class

   注※
   　ログインモジュール用のクラスファイルを展開するディレクトリは，ua.conf ファイルの com.cosminexus.admin.auth.custom.modules で変更できます。ua.conf ファイルについては，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 拡張編」を参照してください。

3. Portal Manager **で，主体ユーザのユーザ** ID **を表す属性のマッピング定義を追加します。**

   項目名
   　hptl_clb_actualuid

   属性名
   　< 主体ユーザのユーザ ID を表す属性名 >

   マッピング情報の追加方法については，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」の「マッピング情報の設定」を参照してください。

4. **兼任機能で使用するログインモジュールが動作するように，**jaas.conf **に次の内容を追加します。**

   設定例

```
com.cosminexus.admin.auth.login.DelegationLoginModule required
com.cosminexus.admin.auth.custom.lm="jp.co.Hitachi.soft.collabor
ation.common.logincheck.ClbLoginCheckModule"
jp.co.Hitachi.soft.collaboration.common.logincheck.additionalpos
t.mode="link"
jp.co.Hitachi.soft.collaboration.common.logincheck.userinfo.uid=
"uid"
jp.co.Hitachi.soft.collaboration.common.logincheck.userinfo.actu
aluid="hptlActualUid"
```

注

設定例はデフォルト値です。必要に応じて太字部分を変更してください。

jaas.conf に設定する情報を次の表に示します。

表 B-8　jaas.conf に設定する情報

項番	プロパティキー	設定値	デフォルト値
1	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.common.logincheck.additionalpost.mode	ログインしたユーザ ID に対して，兼任ユーザのチェックを実行するかどうかを指定します。 • none：ログインしたユーザ ID に対して，兼任ユーザのチェックを実行しません。 • link：ログインしたユーザ ID に対して，兼任ユーザのチェックを実行します。チェック時には，マッピング情報から取得した属性を使用します。 ［ユーザ検索］ポートレットのプロパティファイル（hptl_clb_cum.properties）の hptl_clb_cum_user_in_additional_post と同じ値を指定してください。	link
2	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.common.logincheck.userinfo.uid	Portal Manager のマッピング情報で，ログイン ID に設定した属性名を指定します。	uid
3	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.common.logincheck.userinfo.actualuid	Portal Manager のマッピング情報に追加した hptl_clb_actualuid に設定した < 主体ユーザのユーザ ID を表す属性名 > を指定します。	hptlActualUid

jaas.conf は，次のディレクトリに格納されています。

<Cosminexus インストールディレクトリ >¥manager¥config¥

jaas.conf ファイルについては，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス 定義編 (サーバ定義)」を参照してください。

(3) 兼任ユーザ用の LDIF ファイルの作成（Groupmax Collaboration - Directory Converter と連携しない場合）

事前に兼任ユーザ用の LDIF ファイルを作成する場合，次のように作成する必要があり

ます。なお，アプリケーションサーバでは，主体ユーザのユーザ ID を表す属性にデータが設定された（検索できるようになった）時点で，兼任ユーザを使用できるようになります。

- 兼任ユーザエントリには，主体のユーザ ID を格納する < 主体ユーザのユーザ ID を表す属性名 > を拡張してください。
- 兼任ユーザエントリ作成時には，必ず < 主体ユーザのユーザ ID を表す属性名 > を設定してください。
- 兼任ユーザエントリの email は，［ユーザ検索］ポートレットのプロパティファイル（hptl_clb_cum.properties）の hptl_clb_cum_email_for_additional_post に設定した値に従って，次のように値を設定してください。

hptl_clb_cum_email_for_additional_post の設定値	兼任ユーザエントリの email に設定する値
same	主体ユーザエントリと同じ E-mail アドレスを設定してください。
none ※	email は設定しないでください。 email を設定した場合は，次のような問題が生じます。 • 表示されない email を指定して，ユーザ検索を実行できてしまいます。 例えば，簡易検索画面で兼任ユーザに設定した email を指定した場合，ユーザ一覧のメールアドレスには主体ユーザエントリに登録された E-mail アドレスが表示されます。

注※

none は，業務アプリケーションの運用上，兼任ユーザと主体ユーザの E-mail アドレスを使い分ける必要がある場合にだけ指定してください。none を指定すると，兼任ユーザのユーザ ID を基に主体ユーザの E-mail アドレスを取得するため，ディレクトリサーバの性能が劣化します。このため，兼任ユーザと主体ユーザの E-mail アドレスを使い分ける必要がある場合以外は same を指定してください。

参考

ディレクトリサーバのコンソールで直接兼任ユーザのデータを作成する場合も，同じように作成してください。

(4) ディレクトリサーバへの兼任ユーザ用の LDIF ファイルのインポート

参考

ディレクトリサーバのコンソールで直接兼任ユーザのデータを作成する場合は，兼任ユーザ用の LDIF ファイルを作成しないため，インポート作業は不要です。

事前に兼任ユーザ用の LDIF ファイルを作成した場合，ディレクトリサーバで

ldapmodify コマンドを実行して，LDIF ファイルの内容反映します。ldapmodify コマンドは，次のように実行します。

```
ldapmodify -a -D <サーバに対する認証に使用する識別名> -w <パスワード> -p <
ポート番号> -f <兼任ユーザ用のLDIFファイル>
```

ldapmodify コマンド（ldapmodify.exe）は，次のディレクトリに格納されています。

<iPlanet サーバインストールディレクトリ >¥shared¥bin¥

(5) アプリケーションサーバの起動

アプリケーションサーバを起動します。

付録 B.3　兼任機能を使用する場合の注意事項

兼任機能を使用する場合の注意事項を次に示します。

- 兼任ユーザ用の LDAP エントリでは，LDAP 認証が成功しないように，パスワード属性を持たせないなどを設定してください。ログインモジュールは，Collaboration 以外のシステムで兼任ユーザを使用するため，LDAP 認証を失敗するように設定できない場合にだけ設定してください。
- Collaboration の運用中に，兼任機能の使用に関する設定を変更しないでください。また，兼任機能を使用する設定から兼任機能を使用しない設定に変更しないでください。
- 兼任ユーザエントリの氏名属性，英語氏名属性には，主体ユーザエントリと同じ属性値を指定してください。

付録 C　SiteMinder と連携する場合の設定および注意事項

Collaboration では，ログイン時のユーザ認証に SiteMinder を利用できます。
SiteMinder を利用する場合，SiteMinder 連携時に使用する Collaboration のログイン画面を作成する必要があります。

ここでは，Collaboration で SiteMinder と連携する場合の設定，および注意事項について説明します。また，IIS の設定について説明します。

付録 C.1　SiteMinder 連携時の設定手順の概要

Collaboration で，SiteMinder と連携するための前提条件，および設定手順について説明します。

(1) SiteMinder 連携時の前提条件

SiteMinder と連携する場合，次の条件を満たしている必要があります。

- uCosminexus Portal Framework で，SiteMinder 連携の環境が構築済みであること。
詳細は，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」を参照してください。

(2) SiteMinder と連携するための設定手順

SiteMinder と連携するための設定手順を次に示します。

手順

1. **uCosminexus Portal Framework での SiteMinder 連携時の設定**
詳細は，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」を参照してください。
2. **Collaboration のテンプレートの置き換え**
Collaboration のテンプレートを SiteMinder 連携用のテンプレートに置き換えます。
詳細は，「付録 C.2　Collaboration のテンプレートの置き換え」を参照してください。
3. **ログイン画面のボタンを非表示にするための設定**
Collaboration の［ログイン］画面に表示されるボタンを非表示にします。詳細は，「付録 C.3　ログイン画面のボタンを非表示にするための設定」を参照してください。
4. **ログアウト後にログイン画面を非表示にするための設定**
ログアウト後に，Collaboration の［ログイン］画面に戻らないようにします。詳細は，「付録 C.4　ログアウト後にログイン画面を非表示にするための設定」を参照してください。

5. **ウェルカム画面を非表示にするための設定**
   ウェルカム画面（ログイン前の画面）を非表示にします。詳細は，「付録 C.5　ウェルカム画面を非表示にするための設定」を参照してください。
6. uCosminexus Portal Framework **以外のシングルサインオンプログラムでユーザ認証して，**Groupmax Mail Server **に接続するための設定**
   Groupmax Mail Server への接続時に，uCosminexus Portal Framework 以外のシングルサインオンプログラムでユーザ認証するように設定します。詳細は，「付録 C.6　uCosminexus Portal Framework 以外のシングルサインオンプログラムでユーザ認証して Groupmax Mail Server に接続するための設定」を参照してください。
7. **ログアウト後に表示するメッセージを変更するための設定**
   必要に応じて，ログアウト後の画面で表示するメッセージを変更します。詳細は，「付録 C.7　ログアウト後に表示するメッセージを変更するための設定」を参照してください。
8. **ポータルプロジェクトの** WAR **ファイルの作成**
   詳細は，「4.6.8　ポータルプロジェクトの組み込み」を参照してください。
9. **作成した** WAR **ファイルの** J2EE **サーバへの組み込み**
   詳細は，「4.6.8　ポータルプロジェクトの組み込み」を参照してください。

各手順で設定する内容について説明します。

付録 C.2　Collaboration のテンプレートの置き換え

SiteMinder と連携すると，SiteMinder の情報を基にして，自動的に Collaboration にログインします。このため，Collaboration のテンプレートを SiteMinder 連携用のテンプレートに置き換える必要があります。Collaboration のテンプレートは，次のファイルをコピーして置き換えてください。

- index.jsp
- Login.jsp
- AfterLogout.jsp

各ファイルのコピー元とコピー先を次の表に示します。

表 C-1　各ファイルのコピー元とコピー先（Collaboration のテンプレートの置き換え）

ファイル名	コピー元	コピー先
index.jsp	<Collaboration インストールディレクトリ>¥template_siteminder¥index.jsp	<Collaboration インストールディレクトリ>¥deploy_work¥index.jsp
Login.jsp	<Collaboration インストールディレクトリ>¥template_siteminder¥WEB-INF¥templates¥jsp¥screens¥html¥Login.jsp	<Collaboration インストールディレクトリ>¥deploy_work¥WEB-INF¥templates¥jsp¥screens¥html¥Login.jsp

ファイル名	コピー元	コピー先
AfterLogout.jsp	<Collaboration インストールディレクトリ>¥template_siteminder¥WEB-INF¥templates¥jsp¥screens¥html¥AfterLogout.jsp	<Collaboration インストールディレクトリ>¥deploy_work¥WEB-INF¥templates¥jsp¥screens¥html¥AfterLogout.jsp

付録 C.3　ログイン画面のボタンを非表示にするための設定

SiteMinder と連携する場合は，Collaboration の［ログイン］画面に表示される次のボタンを非表示にする必要があります。Collaboration の［ログイン］画面については，マニュアル「Collaboration　ユーザーズガイド」を参照してください。

- ［ホーム］ボタン
- ［ログイン画面へ］ボタン
- ［パスワード変更］ボタン

［ホーム］ボタン，［ログイン画面へ］ボタン，および［パスワード変更］ボタンを非表示にする場合，共通プロパティファイル（hptl_clb_ccu.properties）の次に示すプロパティ項目に Off を設定します。なお，各プロパティ項目のデフォルト値は，On（表示する）です。

- hptl_clb_ccu_td_disp_home
- hptl_clb_ccu_td_disp_login
- hptl_clb_ccu_td_disp_password

設定例を次に示します。

設定例

```
hptl_clb_ccu_td_disp_home = Off
hptl_clb_ccu_td_disp_login = Off
hptl_clb_ccu_td_disp_password = Off
```

共通プロパティファイル（hptl_clb_ccu.properties）の格納先については，「4.7　プロパティファイルの設定」を，各プロパティ項目の設定内容については，「4.7.2　共通プロパティファイルの設定方法」を参照してください。

付録 C.4　ログアウト後にログイン画面を非表示にするための設定

通常，Collaboration のポータル画面で［ログアウト］ボタンをクリックすると，Collaboration のポータル画面が閉じて［ログイン］画面に戻ります。SiteMinder と連携する場合，ログアウト後に，Collaboration の［ログイン］画面に戻らないよう（非表示）にする必要があります。

ログアウト後の［ログイン］画面を非表示にする場合，uCosminexus Portal Framework の PortalResources.properties で，jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.AfterLogOutScreen.show に true を設定しま

す。

PortalResources.properties は，次のディレクトリに格納されています。

<uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ >¥conf¥

設定例を次に示します。

設定例

```
# AfterLogout Screen definition (true: appears  false: not
appears)
# default:false
jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.AfterLogOutScreen.sho
w=true
```

PortalResources.properties およびプロパティについては，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」を参照してください。

付録 C.5　ウェルカム画面を非表示にするための設定

デフォルトの場合，ポータルに最初にアクセスしたときには，ウェルカム画面（ログイン前の画面）が表示されます。SiteMinder と連携する場合，このウェルカム画面を非表示にする必要があります。

ウェルカム画面を非表示にする場合，uCosminexus Portal Framework の PortalResources.properties で，jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.WelcomeScreen.show に false を設定します。

PortalResources.properties は，次のディレクトリに格納されています。

<uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ >¥conf¥

設定例を次に示します。

設定例

```
# WelcomeScreen definition (true: appears  false: not appears)
# default: true
jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.WelcomeScreen.show=fa
lse
```

PortalResources.properties およびプロパティについては，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」を参照してください。

付録 C.6　uCosminexus Portal Framework 以外のシングルサインオンプログラムでユーザ認証して Groupmax Mail Server に接続するための設定

SiteMinder と連携する場合，Groupmax Mail Server への接続時に，uCosminexus Portal Framework 以外のシングルサインオンプログラムでユーザ認証するように設定する必要があります。

Groupmax Mail Server への接続時に，uCosminexus Portal Framework 以外のシングルサインオンプログラムでユーザ認証する場合，Collaboration - Mail 固有のプロパティファイル（hptl_clb_cml.properties）で hptl_clb_cml_single_sign_on_login に true を設定します。

hptl_clb_cml.properties は，次のディレクトリに格納されています。

<Collaboration インストールディレクトリ >¥clb_home¥conf¥

設定例を次に示します。

設定例

```
# For Single Sign On Login Setting
hptl_clb_cml_single_sign_on_login = true
```

hptl_clb_cml.properties，および hptl_clb_cml_single_sign_on_login の詳細は，マニュアル「Collaboration - Mail　システム管理者ガイド」を参照してください。

注意事項

- hptl_clb_cml.properties が格納ディレクトリにない場合は，<Collaboration インストールディレクトリ >¥mail¥conf から，<Collaboration インストールディレクトリ >¥clb_home¥conf にコピーしてください。
- Collaboration で，Groupmax Mail Server への接続時に，uCosminexus Portal Framework 以外のシングルサインオンプログラムでユーザ認証するように設定する場合は，Groupmax サーバでも設定が必要です。詳細は，「4.2(1)　ほかのシングルサインオンプログラムでユーザ認証を実行する場合の設定」を参照してください。

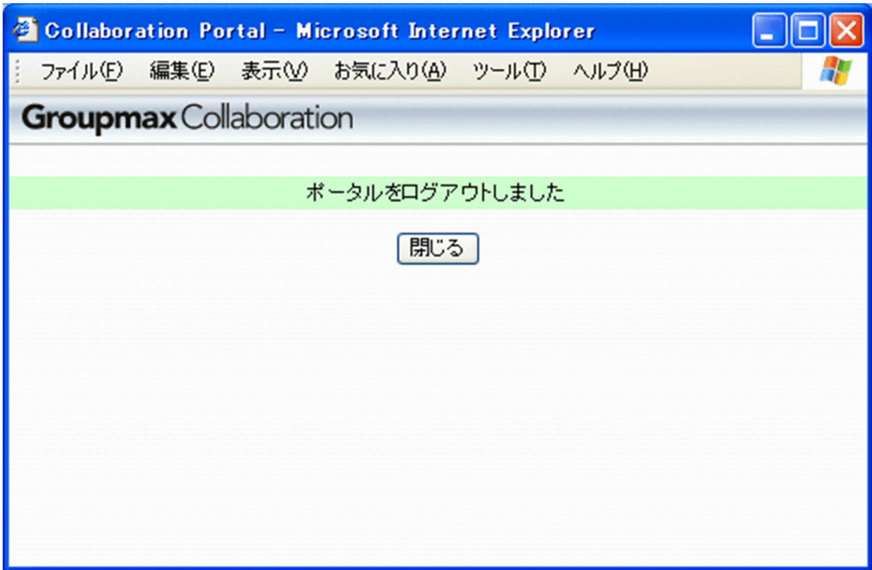
付録 C.7　ログアウト後に表示するメッセージを変更するための設定

Collaboration のテンプレートを SiteMinder 連携用のテンプレートに置き換えると，Collaboration のポータル画面からログアウトする時に表示される画面が変わります。ここでは，ログアウト後の画面と，画面に表示されるメッセージの変更方法について説明します。

● **ログアウト後の画面（SiteMinder 連携時）**

SiteMinder 連携用にテンプレートを置き換えたあとの，ログアウト後の画面例を次の図に示します。

図 C-1　ログアウト後の画面例



このログアウト後の画面には，Collaboration で提供するメッセージファイルのメッセージと，ボタンのラベルに設定されている内容が表示されます。

Collaboration で提供するメッセージファイルには日本語と英語があり，次のディレクトリに格納されています。

<Collaboration インストールディレクトリ >¥clb_home¥conf¥

Collaboration で提供するメッセージファイルのファイル名，およびログアウト後の画面に表示される初期値を次の表に示します。

表 C-2　Collaboration で提供するメッセージファイルのファイル名，およびログアウト後の画面に表示される初期値

分類	ファイル名	メッセージ ID	初期値
日本語	hptl_clb_sm_msg_ja.properties	CLB_AF_LOGOUT	ポータルをログアウトしました
		CLB_AF_CLOSE	閉じる
英語	hptl_clb_sm_msg_en.properties	CLB_AF_LOGOUT	You have logged out from the portal.
		CLB_AF_CLOSE	Close

注意事項

メッセージファイルが格納ディレクトリにない場合は，<Collaboration インストールディレクトリ >¥common¥conf から，<Collaboration インストールディレクトリ >¥clb_home¥conf にコピーしてください。

● 画面に表示されるメッセージの変更方法

ログアウト後の画面に表示されるメッセージ，およびボタンのラベルを変更する場合は，Collaboration で提供するメッセージファイルを編集します。ここでは，日本語のメッセージファイル（hptl_clb_sm_msg_ja.properties）を編集する手順について説明します。

手順

1. **変更後の文字列が英語以外の場合は，**uCosminexus Application Server Standard **付属の** JDK **コマンド（**native2ascii **コマンド）を使用して，**ASCII **文字に変換します。**
2. **手順** 1. **で変換した文字列を，メッセージファイル（**hptl_clb_sm_msg_ja.properties**）の** CLB_AF_LOGOUT**，および** CLB_AF_CLOSE **に指定します。**
   設定例を次に示します。

   設定例

   メッセージを「ブラウザを終了してください」に，ボタンのラベルを「このページを閉じる」に変更します。

```
CLB_AF_LOGOUT=¥u30d6¥u30e9¥u30a6¥u30b6¥u3092¥u7d42¥u4e86¥u3057¥u3066¥u30
4f¥u3060¥u3055¥u3044
CLB_AF_CLOSE=¥u3053¥u306e¥u30da¥u30fc¥u30b8¥u3092¥u9589¥u3058¥u308b
```

参考

変更後の文字列が英語の場合は，手順 1. の操作は不要です。また，英語の場合は，英語のメッセージファイル（hptl_clb_sm_msg_en.properties）を編集してください。

なお，メッセージファイルからメッセージが取得できなかった場合，ログアウト後の画面には，日本語のメッセージファイルの初期値が表示されます。日本語のメッセージファイルの初期値については，表 C-2 を参照してください。

付録 C.8　SiteMinder と連携する場合の注意事項

SiteMinder と連携する場合，IIS の設定が必要です。ここでは，IIS の設定と，SiteMinder 連携時の設定および運用上の注意事項について説明します。

（1） IIS の設定

静的コンテンツに対するレスポンスの低下や，ディスク使用量の増加などの問題を回避するために，次の手順で IIS の設定をします。

手順

1. **仮想ディレクトリの作成※**
2. **有効期限の設定**

注※
　静的コンテンツに対する仮想ディレクトリが作成済みの場合は，手順を省略してください。

各手順で設定する内容を次に示します。なお，ここでは，Windows Server 2003 で，エイリアスに「Portal」を指定して，「Portal」という名称の仮想ディレクトリを作成する場合の例を説明します。

(a) 仮想ディレクトリの作成

静的コンテンツに対する仮想ディレクトリを作成します。仮想ディレクトリの作成手順を次に示します。

手順

1. **インターネット インフォメーション サービス（IIS）マネージャを起動します。**
2. **［インターネット インフォメーション サービス（IIS）マネージャ］画面の左側ツリービューの「Web サイト」の下にある「既定の Web サイト」を右クリックします。**
3. **表示されるメニューから［新規作成］－［仮想ディレクトリ］を選択します。**
   仮想ディレクトリの作成ウィザードが起動されます。
4. **仮想ディレクトリの作成ウィザードに従って，次の項目を設定します。**
   - エイリアス：Portal
   - ディレクトリのパス：<Collaboration インストールディレクトリ>¥clb_home¥public（静的コンテンツをコピーしたディレクトリ）
5. **インターネット インフォメーション サービス（IIS）マネージャを終了します。**

(b) 有効期限の設定

静的コンテンツの有効期限を設定します。静的コンテンツの有効期限の設定手順を次に示します。

手順

1. **インターネット インフォメーション サービス（IIS）マネージャを起動します。**
2. **仮想ディレクトリ「Portal」を右クリックし，メニューから［プロパティ］を選択します。**
   ［Portal のプロパティ］画面（仮想ディレクトリのプロパティ）が表示されます。
3. **HTTP ヘッダータブの「コンテンツに有効期限を設定する」をチェックし，有効期間を設定します。**
   有効期間の値は，次に示す注意事項を考慮して設定してください。

設定例
- 有効期間：1 時間

注意事項

次の場合，静的コンテンツが有効期限内の間は，移行前の古いファイルがキャッシュから利用されます。
- Collaboration を移行した場合
- Collaboration の移行後に障害などが発生して，移行前に戻した場合

このため，静的コンテンツの有効期限は，長過ぎないように，性能などを考慮して適切な値を設定してください。

4. **［適用］ボタンをクリックします。**
5. **インターネット インフォメーション サービス（IIS）マネージャを終了します。**

（2） SiteMinder 連携時の設定および運用上の注意事項

SiteMinder 連携時の設定および運用上の注意事項を次に示します。

- SiteMinder と連携するための設定は，必ずアプリケーションサーバを停止してから実施してください。
- Collaboration や uCosminexus Portal Framework を入れ替えた場合には，再度，同じ作業（SiteMinder と連携するための設定）を実施してください。
- Hitachi Web Server と IIS を 1 台のマシンにインストールする場合は，IIS 側のポート番号に 80 以外を指定してください。

付録 D　ドラッグ＆ドロップ機能を使用する場合の設定および注意事項

Collaboration のクライアントが，ローカルから Collaboration のポートレット※にファイルを添付したり，Collaboration のポートレット※上にある添付ファイルをローカルへ保存（ダウンロード）したりする場合に，ドラッグ＆ドロップ機能を使用できます。ドラッグ＆ドロップ機能は，ファイルの添付と保存の両方の操作，またはどちらか一方の操作に設定できます。また，Collaboration のクライアントごとに，ドラッグ＆ドロップ機能を使用するかどうかも設定できます。

ポートレットとローカル間のファイル操作でドラッグ＆ドロップ機能を使用する場合は，アプリケーションサーバと，Collaboration のクライアントの両方で設定が必要です。

なお，Collaboration のクライアントが 64 ビット版 OS を使用している場合，ドラッグ＆ドロップ機能は使用できません。

注※

ドラッグ＆ドロップによるファイルの添付操作や，添付ファイルの保存操作は，次のポートレットで実行できます。

- ［メール］ポートレット
- ［電子掲示板］ポートレット

参考

ドラッグ＆ドロップ機能は，ポートレットとローカル間のファイル操作以外に，［カレンダ］ポートレットからの日付操作や，各ポートレットのユーザ操作などで使用できます。ドラッグ＆ドロップ機能を使用できる操作は，ポートレットによって異なります。ドラッグ＆ドロップ機能を使用できるポートレットごとの操作については，マニュアル「Collaboration ユーザーズガイド」，または各ポートレットのマニュアルを参照してください。
また，ナビゲーションビューの［コンタクト］タブでドラッグ＆ドロップ機能を利用するかどうかは，ナビゲーションビューの動作を設定するプロパティファイル（hptl_clb_cnv.properties）で設定できます。ナビゲーションビューの動作を設定するプロパティファイル（hptl_clb_cnv.properties）については，「4.7.4　ナビゲーションビューの動作を設定するプロパティファイルの設定方法」を参照してください。

ここでは，ポートレットとローカル間のファイル操作でドラッグ＆ドロップ機能を使用する場合の設定，および注意事項について説明します。

付録 D.1　ドラッグ＆ドロップ機能を使用する場合の設定

ポートレットとローカル間のファイル操作でドラッグ＆ドロップ機能を使用する場合，アプリケーションサーバと Collaboration のクライアントで次の設定を実施します。

手順

1. **アプリケーションサーバでのドラッグ＆ドロップ機能を使用するための設定**
2. Collaboration **のクライアントへの** ActiveX **コントロールのインストーラの配布**
3. Collaboration **のクライアントでのドラッグ＆ドロップ機能を使用するための設定**
4. Collaboration **のクライアントでの** ActiveX **コントロールのインストール**※

注※

JP1/NETM/DM のリモートインストールを利用して，ActiveX コントロールをインストールする場合，この作業は不要です。

各手順で実施する内容について説明します。

(1) アプリケーションサーバでのドラッグ＆ドロップ機能を使用するための設定

アプリケーションサーバで，ドラッグ＆ドロップ機能を使用するための設定をします。
ドラッグ＆ドロップ機能を使用するためには，共通プロパティファイル（hptl_clb_ccu.properties）で次の設定が必要です。ドラッグ＆ドロップ機能を使用するかどうかは，操作ごとに設定できます。必要に応じて，「On」または「Off」を設定してください。

● **ファイルの添付操作でドラッグ＆ドロップ機能を使用するための設定**
hptl_clb_ccu_useDragAndDropUpload プロパティに「On」を指定します。「On」を指定すると，ローカルから Collaboration のポートレットにファイルを添付する操作で，ドラッグ＆ドロップ機能が使用できるようになります。

● **添付ファイルの保存操作でドラッグ＆ドロップ機能を使用するための設定**
hptl_clb_ccu_useDragAndDropDownload プロパティに「On」を指定します。「On」を指定すると，Collaboration のポートレットからローカルに添付ファイルを保存する操作で，ドラッグ＆ドロップ機能が使用できるようになります。

また，共通プロパティファイル（hptl_clb_ccu.properties）では，一度のドラッグ＆ドロップ操作に関する設定や，ドラッグ＆ドロップ機能で出力するログファイルに関する設定などもできます。共通プロパティファイル（hptl_clb_ccu.properties）については，「4.7.2　共通プロパティファイルの設定方法」を参照してください。

(2) Collaboration のクライアントへの ActiveX コントロールのインストーラの配布

ポートレットとローカルの間のファイル操作で，ドラッグ＆ドロップ機能を使用する場合は，Collaboration のクライアントに ActiveX コントロールが必要です。このため，Collaboration のクライアントへ ActiveX コントロールのインストーラを配布できる環境を用意する必要があります。

Collaboration では，［環境設定］画面から ActiveX コントロールのインストーラを配布

する方法を提供しています。このほかに，JP1/NETM/DM のリモートインストールを利用したり，ダウンロード用に URL やサーバ上のディレクトリを指示したりして，ActiveX コントロールのインストーラを配布できます。

ActiveX コントロールのインストーラを配布する時に使用するファイルを次に示します。

- setup.exe
- __PLABEL.DT2
- __REMOT2.DT2
- NETMINST.EXE

これらのファイルは，次のディレクトリに格納されています。

ActiveX コントロールのインストーラを配布する時に使用するファイルの格納先

<Collaboration インストールディレクトリ >¥common¥ActiveX¥DragAndDrop¥

システム管理者は，システム環境に応じて，配布方法を決定してください。ここでは，次の配布方法について説明します。

- ［環境設定］画面による配布
- JP1/NETM/DM のリモートインストールによる配布

(a) ［環境設定］画面による配布

［環境設定］画面で ActiveX コントロールのインストーラを配布する場合は，［環境設定］画面の［ActiveX コントロールのインストーラ（exe ファイル）のダウンロード］アンカーから，ActiveX コントロールのインストーラをダウンロードできるように設定します。この場合，共通プロパティファイル（hptl_clb_ccu.properties）で次の設定が必要です。

● ［環境設定］画面から ActiveX コントロールのインストーラをダウンロードできるようにするための設定

hptl_clb_ccu_dragAndDropDownload プロパティに「On」を指定します。

● ［環境設定］画面からダウンロードする ActiveX コントロールのインストーラの格納先 URL の設定

hptl_clb_ccu_dragAndDropInstallerURL プロパティに，ActiveX コントロールのインストーラ（setup.exe）の格納先を URL で指定します。ActiveX コントロールのインストーラ（setup.exe）は，<Collaboration インストールディレクトリ >¥common¥ActiveX¥DragAndDrop¥ 下に格納されています。ほかのサーバやほかのディレクトリから ActiveX コントロールのインストーラをダウンロードさせる場合は，setup.exe を任意の場所にコピーして，その格納先を URL で設定してください。

各プロパティを設定すると，［環境設定］画面に［ActiveX コントロールのインストーラ（exe ファイル）のダウンロード］アンカーが表示されます。［環境設定］画面については，マニュアル「Collaboration　ユーザーズガイド」を参照してください。また，共通

プロパティファイル（hptl_clb_ccu.properties）については，「4.7.2　共通プロパティファイルの設定方法」を参照してください。

(b) JP1/NETM/DM のリモートインストールによる配布

JP1/NETM/DM のリモートインストールを利用して，ActiveX コントロールのインストーラを配布できます。この場合には，setup.exe，__PLABEL.DT2，__REMOT2.DT2，および NETMINST.EXE を使用します。これらのファイルは，<Collaboration インストールディレクトリ >¥common¥ActiveX¥DragAndDrop¥ 下に格納されています。JP1/NETM/DM のリモートインストールについては，マニュアル「JP1/NETM/DM 運用ガイド 1 (Windows(R) 用)」を参照してください。

(3) Collaboration のクライアントでのドラッグ＆ドロップ機能を使用するための設定

Collaboration のクライアントで，ドラッグ＆ドロップ機能を使用するための設定をします。ドラッグ＆ドロップ機能を使用するためには，［環境設定］画面で［添付ファイルのドラッグ＆ドロップを行う］チェックボックスをチェックします。このチェックボックスのデフォルトは，共通プロパティファイル（hptl_clb_ccu.properties）の hptl_clb_ccu_setDragAndDropDefault プロパティで指定できます。

［環境設定］画面については，マニュアル「Collaboration　ユーザーズガイド」を参照してください。共通プロパティファイル（hptl_clb_ccu.properties）については，「4.7.2 共通プロパティファイルの設定方法」を参照してください。

参考

ドラッグ＆ドロップ機能使用時にログファイルを出力すると，ハードディスクが最大 160 メガバイト使用されます。また，ドラッグ＆ドロップでローカルに添付ファイルを保存すると，ファイルの保存が完了するまで，一時ディレクトリに一時ファイルが保存されます。なお，一時ディレクトリは，ファイルの保存が完了すると自動的に削除されます。
Collaboration のクライアントマシンでハードディスクの空き容量を確認して，ドラッグ＆ドロップ機能を使用するかどうかを検討してください。ドラッグ＆ドロップ機能を使用しない場合は，［環境設定］画面で［添付ファイルのドラッグ＆ドロップを行う］チェックボックスをチェックしないでください。

(4) Collaboration のクライアントでの ActiveX コントロールのインストール

Collaboration のクライアントマシンで，［環境設定］画面から ActiveX コントロールのインストーラをダウンロードして，インストールします。ActiveX コントロールのインストーラは，［環境設定］画面の［ActiveX コントロールのインストーラ（exe ファイル）のダウンロード］アンカーをクリックすると，ダウンロードできます。JP1/NETM/DM のリモートインストールを利用して，ActiveX コントロールをインストールする場合，この作業は不要です。Collaboration のクライアントで ActiveX コントロールをインス

トールする手順については，マニュアル「Collaboration　ユーザーズガイド」を参照してください。

付録 D.2　ドラッグ＆ドロップ機能を使用する場合の注意事項

ポートレットとローカル間のファイル操作でドラッグ＆ドロップ機能を使用する場合の注意事項を次に示します。

- ドラッグ＆ドロップ機能を使用する Collaboration のクライアントマシンでは，次の条件を満たしている必要があります。
  - ActiveX コントロールの実行が有効になっていること。
  - Windows 7 の場合，接続するホストのアドレス（URL）をローカルイントラネットに登録していること。
  - Windows Vista の場合，接続するホストのアドレス（URL）を信頼済みサイトに登録していること。
- ドラッグ＆ドロップ機能を使用する Collaboration のクライアントに対して，ActiveX コントロールのインストーラを配布できる環境を用意してください。Collaboration では，［環境設定］画面を利用した配布方法を提供しています。また，JP1/NETM/DM のリモートインストールを利用して配布することもできます。ActiveX コントロールのインストーラを配布する時に使用するファイルは，Collaboration で提供しているファイルを使用してください。ActiveX コントロールのインストーラの配布方法については，「付録 D.1(2)　Collaboration のクライアントへの ActiveX コントロールのインストーラの配布」を参照してください。
- Collaboration を入れ替えた場合には，必要に応じて，ActiveX コントロールのインストーラを再配布する必要があります。ActiveX コントロールのインストーラを再配布した場合は，Collaboration のクライアントで，ActiveX コントロールを再インストールしてください。
- ポートレット上の添付ファイルを，直接［メール作成］画面へドラッグ＆ドロップして添付できません。ポートレット上の添付ファイルは，いったんローカルに保存してから，ドラッグ＆ドロップで［メール作成］画面へ添付してください。
- ポートレット上の添付ファイルを，直接アプリケーションにドラッグ＆ドロップして開くことはできません。ポートレット上の添付ファイルは，必ずローカルに保存してから開いてください。
- 添付ファイルが実行形式のファイル（exe ファイル）の場合，ドラッグ＆ドロップで保存できないことがあります。
- 添付ファイルのファイル名が Windows で設定している言語と異なる言語の場合，その添付ファイルは保存できません。
- ドラッグ＆ドロップ機能を使用すると，ActiveX コントロールのプログラムによって，自動的にローカルのディレクトリへログが出力されます。ハードディスクの空き容量が不足していないかを確認してください。
  なお，ログが出力されるディレクトリは，次の形式で作成されます。

< 作成先ディレクトリ >¥Collaboration-DAD

< 作成先ディレクトリ > は，次の順序で決定されます。

1. Collaboration のクライアントの環境変数 TMP に指定されているディレクトリ
2. Collaboration のクライアントの環境変数 TEMP に指定されているディレクトリ
3. < システムドライブ >¥WINNT，または < システムドライブ >¥WINDOWS
   Collaboration のクライアントマシンの OS が，Windows 7，Windows XP Professional および Windows Vista の場合は < システムドライブ >¥WINDOWS となります。

- ドラッグ＆ドロップ機能で添付ファイルの保存に失敗すると，保存に失敗した添付ファイルが，ローカルのディレクトリに残ることがあります。ドラッグ＆ドロップ機能で添付ファイルを保存するディレクトリは，次の形式で作成されます。
  < 作成先ディレクトリ >¥Collaboration-DAD¥< ユーザ ID>< 現在のシステムタイム >< プロセス ID>
  < 作成先ディレクトリ > は，次の順序で決定されます。
  1. Collaboration のクライアントの環境変数 TMP に指定されているディレクトリ
  2. Collaboration のクライアントの環境変数 TEMP に指定されているディレクトリ
  3. < システムドライブ >¥WINNT，または < システムドライブ >¥WINDOWS
     Collaboration のクライアントマシンの OS が，Windows 7，Windows XP Professional および Windows Vista の場合は < システムドライブ >¥WINDOWS となります。

  この作成されたディレクトリに添付ファイルが残っていると，添付ファイルの保存に失敗したり，ハードディスクの空き容量が不足したりするなどの原因になるため，不要な添付ファイルは定期的に削除してください。

付録 E　メソッドキャンセル機能を利用する場合の設定および注意事項

Collaboration では，uCosminexus Application Server Standard のメソッドキャンセル機能を利用できます。ここでは，メソッドキャンセル機能を利用して，Collaboration の実行時間を監視する場合の設定方法および注意事項について説明します。

メソッドキャンセル機能の詳細は，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 運用／監視／連携編」を参照してください。メソッドキャンセル機能を利用するための設定方法については，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス 定義編（サーバ定義）」および「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス コマンド編」を参照してください。

付録 E.1　メソッドキャンセル機能を利用するための設定

メソッドキャンセル機能を利用して，Collaboration の実行時間を監視する場合は，次の設定が必要です。

- 保護区リストファイルの設定
- タイムアウトを判定する時間の間隔の設定
- タイムアウト時間の設定
- メソッドキャンセルの動作モードの設定

(1) 保護区リストファイルの設定

保護区リストファイルに，メソッドキャンセルを禁止する保護区に指定するクラスとして，次の内容を追加します。

表 E-1　保護区リストファイルに追加するクラス名

コンポーネント名	保護区に指定するクラス名
uCosminexus Portal Framework	jp.co.hitachi.soft.portal.*
	org.apache.jetspeed.*
	org.apache.ecs.*
	org.exolab.castor.*
	org.apache.oro.*
	org.apache.velocity.*
	org.webmacro.*
	com.altova.xml.*
	com.schema.*
	com.sun.activation.*
	com.workingdogs.village.*
	helma.xmlrpc.*
Collaboration - Bulletin board	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.board.controller.customize.CustomizeInfoBase
	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.board.controller.customize.BoardCustomizeInfo
	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.board.controller.customize.LayoutCustomizeInfo
	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.board.controller.customize.PortletCustomizeInfo
	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.board.controller.customize.WorkplaceCustomizeInfo
	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.board.controller.customize.PortletCustomizeInfo0130
	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.board.util.BBUploadFile
Collaboration - Forum	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.forum.common.FrPortletCustomizeInfo
	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.forum.common.FrWorkplaceCustomizeInfo
	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.forum.common.FrLayoutCustomizeInfo
	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.forum.common.FrCustomizeInfoFor0110
	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.forum.util.FrUploadFile
Collaboration - Common Utility	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.common.af.CcuFileDownloadHelper
	jp.co.hitachi.cocktail.jxpand.web.*
Collaboration - File Sharing	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.filesharing.core.CfsDir
	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.filesharing.core.CfsFolderTree
	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.filesharing.core.CfsSession
	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.filesharing.core.CfsTran
	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.filesharing.web.CfsApp

コンポーネント名	保護区に指定するクラス名
Collaboration - Workflow Portlet Option	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.cwf.WFDBAccessor
	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.cwf.WFSession
	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.cwf.WFPortletsObjectManager
	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.cwf.WFHPortletInfo
	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.cwf.WFException
	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.cwf.WFTrace
	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.cwf.WFBPEntry
	jp.co.Hitachi.soft.WFJ.gmaxjlib.JWF ※
	jp.co.Hitachi.soft.WFJ.gmaxjlib.JWFCaseSelectData ※
	jp.co.Hitachi.soft.WFJ.gmaxjlib.JWFConnection ※
	jp.co.Hitachi.soft.WFJ.gmaxjlib.JWFException ※

注

クラス名は，フルパスで指定します。

注※

Groupmax Workflow を使用している場合だけ，追加する必要があります。

(2) タイムアウトを判定する時間の間隔の設定

uCosminexus Application Server Standard の usrconf.properties ファイルの ejbserver.ext.method_observation.interval キーに，動作中のリクエスト処理がタイムアウトしていないかどうか判定する時間の間隔を指定します。あとで設定するタイムアウト時間より短い時間を指定する必要があります。

Collaboration では，1 分間隔での監視を想定しています。

(3) メソッドのタイムアウト時間の設定

次の操作を実行して，uCosminexus Portal Framework のメソッドをタイムアウトする時間を設定します。

手順

1. **uCosminexus Application Server Standard の cjgetappprop コマンドで，jetspeed サーブレットのサーブレット属性ファイルを取得します。**
2. **取得したサーブレット属性ファイルの <method-observation-timeout> タグに，Collaboration 全体で共通のタイムアウトの時間を指定します。**
   Collaboration では，ログイン時の画面表示時間を基準に，タイムアウト時間を想定しています。Collaboration では，3 分以上の時間を指定する必要があります。

3. **変更したサーブレット属性ファイルを，**uCosminexus Application Server Standard **の** cjsetappprop **コマンドで** Web **アプリケーションに反映します。**

cjgetappprop コマンド，および cjsetappprop コマンドについては，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス コマンド編」を参照してください。

サーブレット属性ファイルについては，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス 定義編（アプリケーション／リソース定義）」を参照してください。

(4) メソッドキャンセルの動作モードの設定

タイムアウト時間が経過した処理をキャンセルする場合は，次の操作を実行して，メソッドキャンセルの動作モードを設定します。

手順

1. uCosminexus Application Server Standard **の** cjgetappprop **コマンドで，アプリケーション属性ファイルを取得します。**
2. **取得したアプリケーション属性ファイルの** <method-observation-recovery-mode> **タグに，メソッドキャンセルの動作モードを指定します。**
3. **変更したアプリケーション属性ファイルを，**uCosminexus Application Server Standard **の** cjsetappprop **コマンドで** Web **アプリケーションに反映します。**

cjgetappprop コマンド，および cjsetappprop コマンドについては，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス コマンド編」を参照してください。

アプリケーション属性ファイルについては，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス 定義編（アプリケーション／リソース定義）」を参照してください。

付録 E.2　メソッドキャンセル機能を利用する場合の注意事項

メソッドキャンセルによって処理を中断した場合，通常は表示されない調整中などのエラーメッセージが表示されます。このようなエラーメッセージが表示されたときは，Collaboration のすべてのポートレットを終了させたあと，Collaboration に再度ログインしてください。

各コンポーネントでメソッドキャンセル機能を利用する場合の固有の注意事項については，各コンポーネントのマニュアルを参照してください。

付録 F　SSL アクセラレータまたはリバースプロキシ使用時の注意事項

ここでは，SSL アクセラレータまたはリバースプロキシを使用している環境で，Collaboration を使用する場合の注意事項を次に示します。

- Collaboration では，uCosminexus Portal Framework の機能を利用して，ポータル画面内に含まれる URL を動的に生成しています。SSL アクセラレータまたはリバースプロキシを使用した環境で Collaboration を使用するためには，uCosminexus Portal Framework の URL 変換規則を変更して，SSL アクセラレータまたはリバースプロキシの URL を生成する必要があります。
  SSL アクセラレータまたはリバースプロキシの URL を生成するためには，PortalResources.properties の jp.co.hitachi.soft.portal.transurlflag に false を設定した上で，URL に応じて，次のどちらかのプロパティに設定が必要となります。
  - jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpdomain
  - jp.co.hitachi.soft.portal.url.proxy および jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpsdomain

  なお，Collaboration では，PortalResources.properties の次のプロパティにパス名を指定できません。ホスト名およびポート番号は指定できます。
  - jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpdomain
  - jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpsdomain

  また，次のプロパティは指定できません。
  - jp.co.hitachi.soft.portal.transcontextflag = true

  uCosminexus Portal Framework の URL 変換規則を変更するための設定方法については，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」を参照してください。
  また，uCosminexus Application Server Standard の観点からも注意事項があります。詳細は，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 システム設計ガイド」の「SSL アクセラレータを使用して暗号通信を処理する」および「DMZ へのリバースプロキシの配置を検討する」を参照してください。
- SSL アクセラレータもしくはリバースプロキシを適用していない環境を SSL アクセラレータもしくはリバースプロキシを適用する環境に変更する場合，または SSL アクセラレータもしくはリバースプロキシのホスト名を変更する場合は，次の点に注意してください。
  - uCosminexus Portal Framework の URL 変換規則を変更しても，リンク集に登録されている URL は変更されません。ユーザごとに，変更前の URL を削除したあと，変更後の URL を追加する必要があります。
  - メールや電子会議室の発言に，ファイル共有の配布 URL を埋め込んでいる場合，uCosminexus Portal Framework の URL 変換規則を変更したあと，変更前に埋め込まれた配布 URL にアクセスできません。

- Collaboration - File Sharing の WebDAV 機能では，SSL アクセラレータまたはリバースプロキシ経由でのアクセスをサポートしていないため，SSL アクセラレータまたはリバースプロキシを経由しないでアクセスする必要があります。
  SSL アクセラレータまたはリバースプロキシを経由しないでアクセスするためには，ファイル共有クライアントの環境設定用プロパティファイル（hptl_clb_cfs.properties）で，WebDAV 機能を提供しているサーバ名または IP アドレスを指定するキー（hptl_clb_cfs_DAVServerName）に，SSL アクセラレータまたはリバースプロキシを経由しないサーバ名または IP アドレスを指定する必要があります。
  設定方法については，マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」の「環境設定用プロパティファイル（hptl_clb_cfs.properties）」を参照してください。
- リバースプロキシを使用する場合，リバースプロキシのタイムアウト時間に，転送先サーバのタイムアウト時間より大きな値を設定する必要があります。
  また，プロキシサーバ，Web サーバ，およびアプリケーションサーバリバースプロキシのタイムアウト時間に設定する値の大きさを，次の関係になるように設定する必要があります。

  各サーバのタイムアウト時間に設定する値の関係

  プロキシサーバのタイムアウト時間 ＞ Web サーバのタイムアウト時間 ＞ アプリケーションサーバのタイムアウト時間

  ただし，アプリケーションサーバでメソッドキャンセル機能を使用する場合は，タイムアウトを判定する時間の間隔の設定，およびメソッドのタイムアウト時間を考慮して，リバースプロキシのタイムアウト時間を検討する必要があります。

  タイムアウト時間の検討例（メソッドキャンセル機能を使用する場合）

  ＜タイムアウトを判定する時間の間隔＞ × 5 ＋ ＜メソッドタイムアウト時間＞

  その他のタイムアウト時間の設定は，各コンポーネントのシステム管理者ガイドを参照してください。
- Collaboration を移行して，SSL アクセラレータまたはリバースプロキシを導入する場合，電子会議室を使用するときは，次の点に注意してください。
  - 移行前の環境でリンク集に登録した電子会議室の URL は，移行後の環境では使用できないため，再登録する必要があります。
    ［リンク集］ポートレットのリンク集編集画面で，リンク集から移行前の環境で登録した電子会議室の URL を削除したあと，［電子会議室］ポートレットで，URL を登録する会議室を選択した状態で，メニューから［オプション］－［会議室をリンク集に追加］を選択すると再登録できます。
  - 移行前の環境で電子会議室から配信されたメールに載っている URL は，移行前の環境では使用できません。

付録 G　負荷分散機を利用する場合の注意事項

複数のアプリケーションサーバを構築する環境で，負荷分散機を利用する場合の注意事項について説明します。

- 負荷分散機を利用する場合，ヘルスチェック URL を使用するための設定が必要です。このヘルスチェック URL を使用することで，uCosminexus Portal Framework が正常に稼働しているかを監視できます。ヘルスチェック URL の設定方法については，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」を参照してください。
- アプリケーションサーバへのアクセスに負荷分散機の仮想ホスト名を指定してアプリケーションサーバの振り分けをする場合は，PortalResources.properties の jp.co.hitachi.soft.portal.transurlflag に false を設定する必要があります。また，URL に応じて，次のどちらかのプロパティに設定が必要となります。
  - jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpdomain
  - jp.co.hitachi.soft.portal.url.proxy および jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpsdomain

  なお，Collaboration では，PortalResources.properties の次のプロパティにパス名を指定できません。仮想ホスト名およびポート番号は指定できます。
  - jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpdomain
  - jp.co.hitachi.soft.portal.url.httpsdomain

  また，次のプロパティは指定できません。
  - jp.co.hitachi.soft.portal.transcontextflag = true

  uCosminexus Portal Framework の URL 変換規則を変更するための設定方法については，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」を参照してください。

付録 H　業務ポートレットの利用

Collaboration では，Collaboration の機能として提供しているポートレット以外に，ユーザが開発したポートレット（以降，業務ポートレットと呼びます）を利用できます。

業務ポートレットは，ナビゲーションビューの［ワークプレース］タブに表示されるアプリケーション一覧から，業務ポートレット名を選択して起動することもできます。業務ポートレットは，Collaboration のポータル画面のワークプレース領域，または新規ウィンドウから，参照または操作できます。

ここでは，Collaboration で業務ポートレットを利用するための設定，および Collaboration で利用する業務ポートレットを開発するときの注意事項について説明します。

付録 H.1　Collaboration で業務ポートレットを利用するための設定

ここでは，Collaboration のナビゲーションビューの［ワークプレース］タブに業務ポートレットを表示して，業務ポートレットを利用できるようにするための設定について説明します。

Collaboration で業務ポートレットを利用するための設定の流れを次に示します。

1. **業務ポートレットの開発**
   Collaboration で利用する業務ポートレットを開発します。
   業務ポートレットの開発方法については，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　ポートレット開発ガイド」を参照してください。
   また，Collaboration で利用する業務ポートレットを開発するときの注意事項については，「付録 H.2　Collaboration で利用する業務ポートレットを開発するときの注意事項」を参照してください。

2. **ナビゲーションビューの［ワークプレース］タブに業務ポートレットを表示するための設定**
   ナビゲーションビューの［ワークプレース］タブに業務ポートレットを表示して，業務ポートレットを起動できるように設定します。
   設定方法については，「(1)　ナビゲーションビューの［ワークプレース］タブに業務ポートレットを表示するための設定」を参照してください。

3. **ナビゲーションビューの［ワークプレース］タブに表示するアプリケーションのデフォルト設定**
   必要に応じて，業務ポートレットを，ナビゲーションビューの［ワークプレース］タブにデフォルトで表示するように設定できます。
   設定方法については，「4.6.7(1)　ナビゲーションビューの［ワークプレース］タブに表示するアプリケーションのデフォルト設定」を参照してください。

(1) ナビゲーションビューの［ワークプレース］タブに業務ポートレットを表示するための設定

ナビゲーションビューには，下位にツリー状の階層を持たない構造のポートレットだけを追加表示できます。

ナビゲーションビューに表示する業務ポートレットの件数は，15 件までとしてください。

ナビゲーションビューの［ワークプレース］タブに業務ポートレットを表示するためには，Portal Manager で次の設定を行います。

表 H-1　ナビゲーションビューの［ワークプレース］タブに業務ポートレットを表示するための設定項目

項番	機能	項目名	設定値	デフォルト値
1	ナビゲーションメニューへの対応	hptl.navigationbar.support	ナビゲーションメニューに対応するかどうかを指定します。「true」を指定してください。	false
2	対応しているナビゲーションメニューの API のバージョンの設定	hptl.navigationbar.version	対応しているナビゲーションメニューの API のバージョンを指定します。「01-00」を指定してください。	01-00
3	ポートレットのデフォルトアイコンの URL の設定	hptl.portlet.defaulticon	ポートレットのデフォルトアイコンの URL を，ポートレットのエントリのディレクトリからの相対パスで指定してください。※1	－
4	新規ウィンドウで表示するときのウィンドウスタイルの受け渡し	hptl.portlet.parameters	jp.co.hitachi.soft.portal.PortletParameters インタフェースを実装した実装クラス名（パッケージ名を含む）を指定してください。※2	－

項番	機能	項目名	設定値	デフォルト値
5	ポートレットを新規ウィンドウで表示するときに，ブラウザに指定するウィンドウスタイル情報を取得するためのキーの設定	hptl.navigationbar.windowopen.paramkey	hptl.portlet.parameters の設定を行う場合に必要となります。ポートレットを新規ウィンドウで表示するときに，ブラウザに指定するウィンドウスタイル情報を取得するためのキーを指定してください。※ 3 また，hptl.navigationbar.windowopen.paramkey，hptl.portlet.parameters の設定がないときのウィンドウスタイルは，「menubar=yes, status=yes, resizable=yes, scrollbars=yes, titlebar=yes」となります。この場合，ウィンドウサイズは不定となります。	―

（凡例）

―：該当する値はありません。

注※ 1

アイコンの画像サイズは 16 × 16 ピクセルとします。設定値がないときはナビゲーションビューが提供するデフォルトアイコンが表示されます。

注※ 2

ナビゲーションビューからポートレットを新規ウィンドウで表示する場合，ウィンドウスタイルを指定したいときに設定が必要です。詳細はマニュアル「uCosminexus Portal Framework　ポートレット開発ガイド」の「ポートレットパラメタ取得インタフェース」を参照してください。

注※ 3

jp.co.hitachi.soft.portal.PortletParameters インタフェースを継承したクラスの getParameter(java.lang.String key) メソッドの引数にこの設定値が指定されて，呼び出されます。その返り値として，追加したポートレットを新規ウィンドウに表示するときに指定するウィンドウスタイル（JavaScript の window.open の第三引数に指定する値）を返してください。

付録 H.2　Collaboration で利用する業務ポートレットを開発するときの注意事項

Collaboration で利用する業務ポートレットを開発するときの注意事項を次に示します。

- Collaboration で利用する業務ポートレットは，最大化表示および新規ウィンドウ画面での表示に対応している必要があります。
  詳細は，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　ポートレット開発ガイド」の「デプロイ定義ファイル（hportlet.xml）の作成」および「新規ウィンドウ対応ポートレットの開発」を参照してください。
- uCosminexus Portal Framework ではポートレット中の特定の画面をリンク集に登録するように設定できますが，Collaboration では業務ポートレットのリンク集への登録には対応していません。
- uCosminexus Portal Framework では Shift-JIS または UFT-8 でポートレットを開発することを推奨していますが，Collaboration では UFT-8 でポートレットを開発する必要があります。
- Collaboration で利用する業務ポートレットは，日立 API ポートレットとして開発してください。標準 API ポートレットは利用できません。

付録 I　Collaboration 共通およびナビゲーションビューのメッセージ

ここでは，次のメッセージの出力形式および詳細について説明します。

- Collaboration 共通のメッセージ
- ナビゲーションビューのメッセージ

付録 I.1　Collaboration 共通およびナビゲーションビューのメッセージの形式

Collaboration 共通およびナビゲーションビューのメッセージの形式を次に示します。

XXXXnn..nn-Y

メッセージテキスト

メッセージの内容を補完して説明します。

(O)

メッセージを確認したあとにユーザがする処理を説明します。この説明に従って対処してください。

メッセージ ID の説明

メッセージ ID（XXXXnn..nn-Y）の意味を次に示します。

XXXX

メッセージを出力した Collaboration の機能を示す ID（プリフィックス）を表します。プリフィックスは英字 4 文字で示します。
KDCU：Collaboration 共通で出力するメッセージであることを示します。
KDCW：Collaboration - Navigation View が出力するメッセージであることを示します。

nn..nn

メッセージの通し番号（3 桁または 5 桁）を示します。

Y

メッセージの種類を示します。
E：エラーメッセージであることを示します。
W：警告レベルのトラブルが発生したことを通知するメッセージであることを示します。
I：システムの処理中のメッセージであることを示します。

可変値の説明

メッセージテキスト中の可変値に表示される情報の記載形式を次に示します。

- Collaboration 共通のメッセージの場合

可変値は，xxx または xx....xx のどちらかの形式で示します。x は英小文字です。
- ナビゲーションビューのメッセージの場合
  可変値は，{x} で示します。x は数字です。

付録 I.2　Collaboration 共通のメッセージ

Collaboration 共通のメッセージについて説明します。

(1) メッセージ一覧

KDCU001-E

使用方法：ClbRAS プロパティファイルパス名 出力 JAR ファイルパス名

コマンドの使用方法が誤っています。

(O)

コマンドの使用方法を見直して，再度実行してください。

KDCU002-I

キー名 (aaa) の処理を実行しています。

キー名の処理を実行しています。処理状態を示すメッセージです。
aaa：プロパティファイル内のキー名

(O)

特にありません。

KDCU003-E

指定されたファイル (aaa) は存在しません。

指定されたファイルは存在しません。
aaa：ファイル名

(O)

ファイルがあるかどうか見直して，再度実行してください。

KDCU004-E

ファイル (aaa) の作成でエラーが発生しました。

ファイルの作成でエラーが発生しました。
aaa：ファイル名

(O)

ファイル名を確認して，再度実行してください。

KDCU005-E

ディレクトリ (aaa) の作成でエラーが発生しました。

ディレクトリの作成でエラーが発生しました。
aaa：ディレクトリ名

(O)

ディレクトリ名を確認して，再度実行してください。

KDCU006-E

ファイル (aaa) の読み込みでエラーが発生しました。

ファイルの読み込みでエラーが発生しました。
aaa：ファイル名

(O)

ファイルの状態を確認して，再度実行してください。

KDCU099-E

システムエラーが発生しました。

システムエラーが発生しました。

(O)

このメッセージのあとに出力されるメッセージを確認してください。

KDCU10001-W

An invalid property was specified. (aa....aa = bb....bb) The default value cc....cc will be used.

不正なプロパティが指定されています（aa....aa = bb....bb）。デフォルト値（cc....cc）を使用します。
aa....aa：プロパティの名称
bb....bb：監査ログプロパティファイルの指定値
cc....cc：デフォルト値

(O)

プロパティの指定値を確認してください。

KDCU10002-E

An attempt to output the audit log has failed.

監査ログの出力に失敗しました。次に示す原因が考えられます。

- 監査ログを出力するディスクの容量が不足しています。
- 監査ログを出力するディスクが壊れています。
- 監査ログファイル出力先ディレクトリへのアクセス権がありません。

(O)

原因ごとにそれぞれの対処を実施してください。なお，これらの対処を実施しても

解決しない場合は，システム管理者に連絡してください。

ディスクの容量が不足している場合

- 監査ログを出力するディスクの空き容量を増やしてください。

ディスクが壊れている場合

- 監査ログを出力するディスクを交換してください。

監査ログファイル出力先ディレクトリにアクセス権がない場合

- 監査ログファイル出力先ディレクトリを変更してください。
- 監査ログファイル出力先ディレクトリへのアクセス権を確認してください。

KDCU10003-I

The property file (hptl_clb_audit.properties) does not exist.

監査ログプロパティファイル（hptl_clb_audit.properties）が存在しません。

（O）

監査ログを出力する場合には，監査ログプロパティファイル（hptl_clb_audit.properties）を設定してください。

KDCU10004-E

The specified parameter (hptl_clb_audit_logPath) is invalid.

監査ログのプロパティファイル（hptl_clb_audit.properties）の hptl_clb_audit_logPath が指定されていません。

（O）

監査ログを出力する場合には，監査ログプロパティファイル（hptl_clb_audit.properties）の hptl_clb_audit_logPath に，監査ログファイル出力先ディレクトリを指定してください。

付録 I.3　ナビゲーションビューのメッセージ

ナビゲーションビューのメッセージについて説明します。

(1) メッセージ一覧

KDCW00001-E

設定内容の保存中にエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。

ナビゲーションビューの設定を保存する際にエラーが発生しました。次の要因が考えられます。

- データベースに障害が発生しました。
- uCosminexus Portal Framework で障害が発生しました。

（O）

uCosminexus Portal Framework のエラーメッセージ，トレースを参照し，その内

容を基に対処してください。

KDCW00002-E

削除されたワークプレースではナビゲーションビューにポートレットを配置できません。(ワークプレース名 ={0})

指定されたコミュニティに参加していないため，ワークプレースが削除されています。ポートレットにアクセス権がないためナビゲーションビューに配置できません。

(O)

「コミュニティ管理」からコミュニティに参加します。コミュニティにアクセスできない場合は，コミュニティ管理者，またはシステム管理者に連絡して，コミュニティに参加できるようにしてください。

KDCW00003-E

指定されたワークプレースには利用可能なポートレットがありません。(ワークプレース名 ={0})

指定されたワークプレースにはナビゲーションビューからアクセスできるポートレットがないため，表示するアプリケーションの設定を行えません。

(O)

システム管理者に連絡して，ポートレットにアクセス権を設定してください。

KDCW00999-E

サーバ側で障害が発生しました。システム管理者に連絡してください。

サーバ側で障害が発生しました。

(O)

Collaboration，uCosminexus Portal Framework のトレース情報を取得し，開発元にお問い合わせください。

- Collaboration のトレース情報は統合 RAS 収集コマンドで取得します。統合 RAS 収集コマンドの詳細は「6.　トラブルシュート」の説明を参照してください。
- uCosminexus Portal Framework のトレース情報の取得方法は，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」を参照してください。

KDCW01999-E

サーバ側で障害が発生しました。(詳細 ={0})

サーバ側で障害が発生しました。

(O)

Collaboration，uCosminexus Portal Framework のトレース情報を取得し，開発元にお問い合わせください。

- Collaboration のトレース情報は統合 RAS 収集コマンドで取得します。統合 RAS 収集コマンドの詳細は「6.　トラブルシュート」の説明を参照してください。
- uCosminexus Portal Framework のトレース情報の取得方法は，マニュアル「uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド」を参照してください。

KDCW02000-E

トレースの初期化に失敗しました。トレースは出力されません。(詳細 ={0})

ナビゲーションビューが出力するトレースファイルの初期化に失敗しました。

（O）

共通プロパティファイル（<Collaboration インストールディレクトリ >¥clb_home¥conf¥hptl_clb_ccu.properties）のトレース出力先の指定（キー名 =hptl_clb_ccu_logPath）を見直してください。

KDCW02001-E

トレースの初期化に失敗しました。デフォルト設定で再試行します。(詳細 ={0})

ナビゲーションビューが出力するトレースファイルの初期化に失敗したため，デフォルト設定を使用して再度初期化を行います。

（O）

プロパティファイル（<Collaboration インストールディレクトリ >¥clb_home¥conf¥hptl_clb_cnv.properties）のトレース出力先の指定（キー名 =hptl_clb_cnv_trace_dir）を見直してください。

KDCW02002-E

指定したプロパティ値が不正です。デフォルト値を使用します。(キー ={0}, 指定値 ={1}, デフォルト値 ={2})

ナビゲーションビューのプロパティファイルに指定したプロパティ値が不正なため，デフォルト値を使用しました。

（O）

デフォルト値を使用したくない場合は，プロパティファイル（<Collaboration インストールディレクトリ >¥clb_home¥conf¥hptl_clb_cnv.properties）のキー ={0} に該当するプロパティ値を見直してください。
デフォルト値を使用する場合は対処の必要はありません。

KDCW02003-E

プロパティファイルの読み込みに失敗しました。(ファイル名 ={0}, 詳細 ={1})

ナビゲーションビューのプロパティファイル (hptl_clb_cnv.properties) の読み込みに失敗しました。デフォルト値を使用してトレースの初期化を行います。

次に示す要因が考えられます。
- プロパティファイルがありません。
- プロパティファイルへのアクセス権がありません。

（O）

ナビゲーションビューのプロパティファイルが所定のフォルダ（<Collaboration インストールディレクトリ >¥clb_home¥conf）にあるかどうか確認してください。ある場合はアクセス権があるかどうか確認してください。
これらの要因でない場合は [詳細] に表示される内容に従って対処してください。

KDCW04001-E

プロパティが見つかりません。(ファイル名 ={0}, プロパティ名 ={1})

ナビゲーションビューのプロパティファイルに必要なプロパティが見つかりません。

（O）

プロパティを設定してください。

KDCW04101-E

表示アプリケーションのデフォルト設定ファイルに誤りがあります。(詳細 ={0})

ナビゲーションビューの表示アプリケーションのデフォルト設定ファイルに誤りがあります。次の要因が考えられます。
- ポートレット名が重複しています。
- XML の構文に誤りがあります。

（O）

表示アプリケーションのデフォルト設定ファイル hptl_clb_cnv_portlet_order.xml を見直してください。

KDCW04201-E

デプロイ定義の内容に誤りがあります。デフォルト値を使用します。(ポートレット名 ={0}, パラメタ名 ={1}, パラメタ値 ={2}, デフォルト値 ={3})

ナビゲーションビューで表示するポートレットのデプロイ定義ファイルの内容に誤りがあります。

（O）

デプロイ定義ファイルを見直してください。ポートレット開発元に問い合わせてください。

KDCW04202-E

デプロイ定義の内容に誤りがあります。(ポートレット名 ={0}, パラメタ名 ={1}, パラメタ値 ={2}, 詳細 ={3})

ナビゲーションビューで表示するポートレットのデプロイ定義ファイルの内容に誤りが

あります。

(O)

デプロイ定義ファイルを見直してください。ポートレット開発元に問い合わせてください。

KDCW04301-E

設定ファイルの内容に誤りがあります。デフォルト値を使用します。(ファイル名 ={0}, ポートレット名 ={1}, プロパティ名 ={2}, プロパティ値 ={3}, デフォルト値 ={4})

ナビゲーションビューで表示するポートレットの設定ファイルの内容に誤りがあります。

(O)

ポートレットの設定ファイルを見直してください。ポートレット開発元に問い合わせてください。

KDCW04302-E

設定ファイルの内容に誤りがあります。(ファイル名 ={0}, ポートレット名 ={1}, 詳細 ={2})

ナビゲーションビューで表示するポートレットの設定ファイルの内容に誤りがあります。

(O)

ポートレットの設定ファイルを見直してください。ポートレット開発元に問い合わせてください。

KDCW04401-E

ストリングリソースの取得に失敗しました。(ポートレット名 ={0}, 詳細 ={1})

ナビゲーションビューで表示するポートレットの設定ファイルの内容に誤りがあります。

(O)

ポートレットの設定ファイルを見直してください。ポートレット開発元に問い合わせてください。

KDCW04402-E

リソースの取得に失敗しました。(ポートレット名 ={0}, 詳細 ={1})

ナビゲーションビューで表示するポートレットの設定ファイルの内容に誤りがあります。

(O)

ポートレットの設定ファイルを見直してください。ポートレット開発元に問い合わせてください。

KDCW05001-E

メールポートレットのアクセス権がありません。(ユーザ : {0})

［メール］ポートレットのアクセス権がないユーザが，［コンタクト］タブの表示を行いました。

（O）

運用管理ポートレットで，［メール］ポートレットへのアクセス権を付与してください。

付録 J　よくある質問とその回答

ここでは，Collaboration の利用時によくある質問とその回答を示します。

(1) ユーザ情報の再利用について

質問

あるユーザのユーザ情報（ユーザ ID，ニックネーム，またはメールアドレス）を別のユーザ用に再利用できますか。

回答

一度使用されたユーザ情報は再利用できません。必ず新しいユーザ情報を利用してください。

(2) ポートレットのデフォルトの高さの変更について

質問

ポートレットのデフォルトの高さは変更できますか。

回答

ポートレットの高さは次の方法で設定してください。
なお，これらの設定は，Collaboration Portal で提供しているポートレットだけに適用できます。また，Collaboration Portal を移行した場合，再度設定する必要があります。

(a) ポートレットのデフォルトの高さの設定

手順

1. **Portal Manager の［ポートレットの設定］画面の［その他の項目］で，次の項目を設定します。**

   項目名
   hptl.portlet.size.default

   設定値

   次の値のどれかを設定します。
   small：［レイアウトの変更］画面の高さ設定ドロップダウンメニューのデフォルトが「小」になります。
   middle：［レイアウトの変更］画面の高さ設定ドロップダウンメニューのデフォルトが「中」になります。
   large：［レイアウトの変更］画面の高さ設定ドロップダウンメニューのデフォルトが「大」になります。
   それぞれの値を設定した場合のポートレットの高さは，TurbineResources.properties で設定します。設定方法は「(b)［レイアウトの変更］画面で「小」，「中」，または「大」を選択した場合のポートレットの高さの設定」を参照してください。

2. J2EE **サーバを再起動します。**

注意事項

この設定は，ポートレットのデフォルトの高さの設定のため，ユーザがポートレットの高さを個別に設定している場合，そちらの設定が優先されます。

(b) ［レイアウトの変更］画面で「小」，「中」，または「大」を選択した場合のポートレットの高さの設定

手順

1. TurbineResources.properties **に次のプロパティを設定します。**

項番	項目名	設定値
1	jp.co.hitachi.soft.portal.portlet.height.small	「小」の場合のポートレットの高さを 1 ～ 1024 の数値で入力します。
2	jp.co.hitachi.soft.portal.portlet.height.middle	「中」の場合のポートレットの高さを 1 ～ 1024 の数値で入力します。
3	jp.co.hitachi.soft.portal.portlet.height.large	「大」の場合のポートレットの高さを 1 ～ 1024 の数値で入力します。

TurbineResources.properties は，次のディレクトリに格納されています。

<uCosminexus Portal Framework インストールディレクトリ >¥conf¥

設定例を次に示します。

```
jp.co.hitachi.soft.portal.portlet.height.small = 100
jp.co.hitachi.soft.portal.portlet.height.middle = 300
jp.co.hitachi.soft.portal.portlet.height.large = 500
```

2. J2EE **サーバを再起動します。**

注意事項

この設定はすべてのポートレットの高さに影響します。

(3) ユーザを削除する場合の作業について

質問

ユーザを削除する場合，Groupmax および LDAP からのユーザ情報の削除以外に必要な作業はありますか。

回答

ユーザを削除する場合に，Groupmax および LDAP からのユーザ情報の削除以外に

必要な作業は次のとおりです。

1. 削除するユーザの確認
2. Collaboration - Mail のデータ削除
3. Collaboration - File Sharing のデータ削除
4. ユーザカスタマイズ情報の削除

1. の作業はユーザを削除する前に実施してください。作業の詳細を説明します。

(a) 削除するユーザの確認

削除するユーザが次のどれかに当てはまるかどうかを確認します。

- Collaboration - Online Community Management のシステム管理者
- コミュニティ管理者
- 会議室所有者
- 掲示板管理者

削除するユーザが上記のどれかに当てはまるかどうかの確認方法，および当てはまった場合に実施する作業を次に示します。

Collaboration - Online Community Management のシステム管理者の場合

システム管理者が削除するユーザ一人だけの場合は，新しいシステム管理者を登録してください。システム管理者の登録方法は，マニュアル「Collaboration - Online Community Management　システム管理者ガイド」を参照してください。

コミュニティ管理者の場合

コミュニティ管理者を変更してください。変更手順を次に示します。

手順

1. **get_community コマンドを使用して，削除するユーザがコミュニティ管理者となっているコミュニティがあるかどうかを確認します。**
   get_community コマンドの詳細は，マニュアル「Collaboration - Online Community Management　システム管理者ガイド」を参照してください。
2. **削除するユーザが管理者となっているコミュニティがある場合は，削除するユーザで Collaboration にログインして，コミュニティ管理者を変更します。**
   変更方法の詳細は，マニュアル「Collaboration - Online Community Management　ユーザーズガイド」を参照してください。

会議室所有者の場合

削除するユーザが所有者となっている会議室を，ユーザ削除後も使用するときは，会議室所有者を変更してください。変更手順を次に示します。

手順

1. **frmexpopn コマンドの会議室一覧ファイルを使用して，削除するユーザが所有者となっている会議室があるかどうかを確認します。**
   frmexpopn コマンドの詳細は，マニュアル「Collaboration - Forum　システム管理者ガイド」を参照してください。
2. **削除するユーザが所有者となっている会議室がある場合は，会議室所有者を変更**

します。
変更方法の詳細は，マニュアル「Collaboration - Forum　システム管理者ガイド」を参照してください。
会議室所有者は，［電子会議室］ポートレットの［会議室編集］画面で変更することもできます。［会議室編集］画面の詳細は，マニュアル「Collaboration - Forum　ユーザーズガイド」を参照してください。

会議室を使用しないときは，会議室を削除してください。
削除方法の詳細は，マニュアル「Collaboration - Forum　システム管理者ガイド」を参照してください。
会議室は，［電子会議室］ポートレットの［会議室削除］メニューで削除することもできます。［会議室削除］メニューの詳細は，マニュアル「Collaboration - Forum　ユーザーズガイド」を参照してください。

掲示板管理者の場合

掲示板管理者を変更してください。変更手順を次に示します。

手順

1. **cbbexpnotice コマンドの掲示板一覧ファイルを使用して，削除するユーザが管理者となっている掲示板があるかどうかを確認します。**
cbbexpnotice コマンドの詳細は，マニュアル「Collaboration - Bulletin board　システム管理者ガイド」を参照してください。
2. **削除するユーザが管理者となっている掲示板がある場合は，掲示板管理者を変更します。**
変更方法の詳細は，マニュアル「Collaboration - Bulletin board　システム管理者ガイド」を参照してください。

(b) Collaboration - Mail のデータ削除

削除したユーザのメール保存用のフォルダ，および宛先台帳を削除します。

削除方法の詳細は，マニュアル「Collaboration - Mail　システム管理者ガイド」を参照してください。

(c) Collaboration - File Sharing のデータ削除

削除したユーザの個人ルートフォルダを削除します。

削除方法の詳細は，マニュアル「Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド」を参照してください。

(d) ユーザカスタマイズ情報の削除

次の SQL 文を実行して，削除したユーザのユーザカスタマイズ情報を削除します。

```
DELETE FROM HPTLUSER WHERE USERID='削除するユーザID';
```

付録 K　このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録 K.1　関連マニュアル

Collaboration のマニュアル体系を次に示します。

●Collaborationがどのようなものか，イメージをつかみたいときに

Collaboration ファーストステップガイド

●機能概要や操作方法を知りたいときに

Collaboration ユーザーズガイド
- Collaboration - Online Community Management ユーザーズガイド
- Collaboration - Directory Access ユーザーズガイド
- Collaboration - Mail ユーザーズガイド
- Collaboration - Schedule ユーザーズガイド
- Collaboration - Forum ユーザーズガイド
- Collaboration - File Sharing ユーザーズガイド
- Collaboration - Bulletin board ユーザーズガイド

●システムの構築や環境設定の方法を知りたいときに

Collaboration 導入ガイド

●システムの移行方法を知りたいときに

Collaboration 移行ガイド

（Collaboration 導入ガイド，Collaboration 移行ガイドの下位マニュアル）
- Collaboration - Online Community Management システム管理者ガイド
- Collaboration - Directory Access システム管理者ガイド
- Collaboration - Mail システム管理者ガイド
- Collaboration - Schedule システム管理者ガイド
- Collaboration - Forum システム管理者ガイド
- Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド
  - Collaboration - File Sharing メッセージ
- Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド

●Collaboration Setup Navigationを使ったシステムの構築方法を知りたいときに

Collaboration かんたんセットアップガイド

（凡例）

太枠：Collaboration共通，またはCollaboration全体の情報を記載しているマニュアルを示します。

細枠：Collaborationのコンポーネントごとの情報を記載しているマニュアルを示します。

Collaboration Portal の関連マニュアルを次に示します。また，Collaboration Portal の

関連製品である Collaboration - Server，Collaboration - Data Server，Collaboration - File Server，Groupmax Groupware Server，Groupmax Agent - Application Version 6 について，それぞれのコンポーネントの製品名，マニュアル名称，および資料番号を次に示します。必要に応じてお読みください。

- Groupmax Collaboration Portal（P-2646-6354）
- Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing（P-2746-E354）
- Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule（P-2746-E454）
- Groupmax Collaboration - Workflow Portlet Option（P-2446-E354）
- uCosminexus Collaboration Portal（P-2443-3D74）
- uCosminexus Collaboration Portal - Forum/File Sharing（P-2443-3E74）
- uCosminexus Collaboration - Workflow Portlet Option（P-2443-3R74）

マニュアル名称	資料番号
Collaboration　ファーストステップガイド	3020-3-H02
Collaboration　ユーザーズガイド	3020-3-H22
Collaboration　移行ガイド	3020-3-H44
Collaboration - Online Community Management　システム管理者ガイド	3020-3-H03
Collaboration - Online Community Management　ユーザーズガイド	3020-3-H04
Collaboration - Directory Access　システム管理者ガイド	3020-3-H05
Collaboration - Directory Access　ユーザーズガイド	3020-3-H06
Collaboration - Mail　システム管理者ガイド	3020-3-H07
Collaboration - Mail　ユーザーズガイド	3020-3-H08
Collaboration - Schedule　システム管理者ガイド	3020-3-H09
Collaboration - Schedule　ユーザーズガイド	3020-3-H10
Collaboration - Forum　システム管理者ガイド	3020-3-H11
Collaboration - Forum　ユーザーズガイド	3020-3-H12
Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド	3020-3-H13
Collaboration - File Sharing　メッセージ	3020-3-H14
Collaboration - File Sharing　ユーザーズガイド	3020-3-H15
Collaboration - Bulletin board　システム管理者ガイド	3020-3-H23
Collaboration - Bulletin board　ユーザーズガイド	3020-3-H24
Groupmax Collaboration - Directory Converter　取扱説明書	－
Collaboration - Workflow Portlet Option　取扱説明書	－
uCosminexus Portal Framework　システム管理者ガイド	3020-3-H71
uCosminexus Portal Framework　運用管理者ガイド	3020-3-H72
uCosminexus Portal Framework　ポートレット開発ガイド	3020-3-H73

マニュアル名称	資料番号
Cosminexus アプリケーションサーバ V8 システム構築・運用ガイド	3020-3-U04
Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編 (Web コンテナ)	3020-3-U05
Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編 (EJB コンテナ)	3020-3-U06
Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能)	3020-3-U07
Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 拡張編	3020-3-U08
Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 運用／監視／連携編	3020-3-U09
Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 保守／移行／互換編	3020-3-U10
Cosminexus アプリケーションサーバ V8 アプリケーション設定操作ガイド	3020-3-U12
Hitachi Web Server	3020-3-U17
Groupmax Address/Mail Version 7　システム管理者ガイド　基本操作編	3020-3-D10
Groupmax Address/Mail Version 7　システム管理者ガイド　ユティリティ編	3020-3-D11
Groupmax Mail - SMTP Version 7　運用ガイド	3020-3-D13
Groupmax Scheduler/Facilities Manager Version 7　システム管理者ガイド	3020-3-D15
スケーラブルデータベースサーバ　HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)	3020-6-352
スケーラブルデータベースサーバ　HiRDB Version 8 システム運用ガイド (Windows(R) 用)	3020-6-354
スケーラブルデータベースサーバ　HiRDB Version 8 コマンドリファレンス (Windows(R) 用)	3020-6-355
スケーラブルデータベースサーバ　HiRDB Version 8 UAP 開発ガイド	3020-6-356
JP1 Version 8 JP1/Base 運用ガイド	3020-3-K06
JP1 Version 8 JP1/Base メッセージ	3020-3-K07
JP1 Version 8 JP1/NETM/DM 運用ガイド 1 (Windows(R) 用)	3020-3-L38
JP1 Version 8 JP1/NETM/Audit	3020-3-L50

- Groupmax Collaboration - Server（P-2446-5X54）
- uCosminexus Collaboration - Server（P-2443-5X84）

製品または機能名	マニュアル名称	資料番号
uCosminexus Application Server Standard	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 概説	3020-3-U01
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 ファーストステップガイド	3020-3-U02
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 システム設計ガイド	3020-3-U03

製品または機能名	マニュアル名称	資料番号
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 システム構築・運用ガイド	3020-3-U04
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編 (Web コンテナ)	3020-3-U05
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編 (EJB コンテナ)	3020-3-U06
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能)	3020-3-U07
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 拡張編	3020-3-U08
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 運用／監視／連携編	3020-3-U09
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 保守／移行／互換編	3020-3-U10
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 アプリケーション設定操作ガイド	3020-3-U12
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 運用管理ポータル操作ガイド	3020-3-U13
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス コマンド編	3020-3-U14
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス 定義編 (サーバ定義)	3020-3-U15
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス 定義編 (アプリケーション／リソース定義)	3020-3-U16
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス API 編	3020-3-U26
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 メッセージ 1 KDAL-KDCG および Hitachi Web Server 編	3020-3-U41
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 メッセージ 2 KDJE-KDJW 編	3020-3-U42
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 メッセージ 3 KECX-KEDT ／ KEOS02000-29999 ／ KEUC-KFRM 編	3020-3-U43
	Cosminexus アプリケーションサーバ V8 メッセージ 4 監査ログ編	3020-3-U44
HiRDB/Run Time Version 8	スケーラブルデータベースサーバ　HiRDB Version 8 解説 (Windows(R) 用)	3020-6-351
uCosminexus Interschema - Parsing Kit	uCosminexus Interschema - Parsing Kit　ユーザーズガイド	3000-7-288

製品または機能名	マニュアル名称	資料番号
Collaboration Setup Navigation（Groupmax Collaboration - Server だけ）	Collaboration　かんたんセットアップガイド	3020-3-H30

- Groupmax Collaboration - Data Server（P-2446-5T54）
- uCosminexus Collaboration - Data Server（P-2443-3B74）

製品名	マニュアル名称	資料番号
HiRDB/Single Server Version 8	スケーラブルデータベースサーバ　HiRDB Version 8 解説（Windows(R) 用）	3020-6-351
HiRDB Text Search Plug-in Version 8	HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB Text Search Plug-in Version 8	3020-6-375
HiRDB Text Search Plug-in Index Generator	HiRDB Text Search Plug-in Index Generator	3000-6-289
Document Filter for Text Search Version 3	Document Filter for Text Search Version 3	3020-3-D59

- Groupmax Collaboration - File Server（P-2446-5U54）
- uCosminexus Collaboration - File Server（P-2443-3C74）

製品名	マニュアル名称	資料番号
Collaboration - File Sharing Server	Collaboration - File Sharing　システム管理者ガイド	3020-3-H13
	Collaboration - File Sharing　メッセージ	3020-3-H14
	Collaboration - File Sharing　ユーザーズガイド	3020-3-H15
TPBroker	TPBroker Version 5 トランザクショナル分散オブジェクト基盤　TPBroker　ユーザーズガイド	3020-3-U19
	VisiBroker Version 5 Borland(R) Enterprise Server VisiBroker(R)　デベロッパーズガイド	3020-3-U28
	VisiBroker Version 5 Borland(R) Enterprise Server VisiBroker(R)　プログラマーズリファレンス	3020-3-U29
DABroker Library	取扱説明書	－
HiRDB/Run Time Version 8	スケーラブルデータベースサーバ　HiRDB Version 8 解説（Windows(R) 用）	3020-6-351

- Groupmax Groupware Server（P-2446-5154）

製品名	マニュアル名称	資料番号
Groupmax Agent Server Mail Option Version 5	Windows NT　Groupmax Agent Version 5　システム管理者ガイド	3020-3-A76
Groupmax Agent Server Version 5		
Groupmax Document Manager Version 6	Groupmax Document Manager Version 6　システム管理者ガイド	3020-3-B54
Groupmax Object Server Version 6	Groupmax Object Server Version 6　システム管理者ガイド	3020-3-B56
Groupmax Server Setup Wizard Version 6	Groupmax Version 6 サーバ環境設定ガイド	3020-3-B73
Groupmax Address Server Version 7	Groupmax Address/Mail Version 7　システム管理者ガイド　基本操作編	3020-3-D10
	Groupmax Address/Mail Version 7　システム管理者ガイド　ユティリティ編	3020-3-D11
Groupmax Mail Server Version 7	Groupmax Address/Mail Version 7　システム管理者ガイド　基本操作編	3020-3-D10
	Groupmax Address/Mail Version 7　システム管理者ガイド　ユティリティ編	3020-3-D11
Groupmax Mail - SMTP Version 7	Groupmax Mail - SMTP Version 7　運用ガイド	3020-3-D13
Groupmax Scheduler Server Version 7	Groupmax Scheduler/Facilities Manager Version 7 システム管理者ガイド	3020-3-D15
Groupmax Facilities Manager Version 7		
Groupmax Scheduler_Facilities 管理ツール Version 7		

- Groupmax Agent - Application Version 6（P-2446-7T44）

製品名	マニュアル名称	資料番号
Groupmax Agent - Document Manager Function Version 5	Groupmax Agent Version 5　エージェント作成ガイド	3020-3-A77
Groupmax Agent - Document Manager Server Version 5		
Groupmax Agent - Workflow Function Version 5		

製品名	マニュアル名称	資料番号
Groupmax Agent - Workflow Server Version 5		
Groupmax Agent - Mail Function Version 6		
Groupmax Agent - Mail Server Version 6		
Groupmax Agent - Mail Web Option Version 6		

付録 K.2　このマニュアルでの表記

このマニュアルでは，製品名を次のように表記しています。

表記		製品名
SiteMinder		eTrust(R) SiteMinder
Collaboration	Groupmax Collaboration	• Groupmax Collaboration Portal 07-86 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-86 • Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-86 • Groupmax Collaboration - Workflow Portlet Option 07-21
	uCosminexus Collaboration	• uCosminexus Collaboration Portal 06-86 • uCosminexus Collaboration Portal - Forum/File Sharing 06-86 • uCosminexus Collaboration - Workflow Portlet Option 06-21
JP1/NETM/Audit		JP1/NETM/Audit - Manager
uCosminexus Portal Framework		uCosminexus Portal Framework - Light

このマニュアルでは，Collaboration のカレンダ機能を次のように表記しています。

表記	機能名
Collaboration - Calendar	次の製品のカレンダ機能 • Groupmax Collaboration Portal 07-86 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-86 • Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-86 • uCosminexus Collaboration Portal 06-86 • uCosminexus Collaboration Portal - Forum/File Sharing 06-86

このマニュアルでは，Collaboration のコミュニティ管理機能を次のように表記していま

す。

表記	機能名
Collaboration - Online Community Management	次の製品のコミュニティ管理機能 • Groupmax Collaboration Portal 07-86 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-86 • Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-86 • uCosminexus Collaboration Portal 06-86 • uCosminexus Collaboration Portal - Forum/File Sharing 06-86

このマニュアルでは，Collaboration のスケジュール機能および ToDo 機能を次のように表記しています。

表記	機能名
Collaboration - Schedule	次の製品のスケジュール機能および ToDo 機能 • Groupmax Collaboration Portal 07-86 • Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-86 • uCosminexus Collaboration Portal 06-86

このマニュアルでは，Collaboration の電子会議室機能を次のように表記しています。

表記	機能名
Collaboration - Forum	次の製品の電子会議室機能 • Groupmax Collaboration Portal 07-86 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-86 • uCosminexus Collaboration Portal 06-86 • uCosminexus Collaboration Portal - Forum/File Sharing 06-86

このマニュアルでは，Collaboration の電子掲示板機能を次のように表記しています。

表記	機能名
Collaboration - Bulletin board	次の製品の電子掲示板機能 • Groupmax Collaboration Portal 07-86 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-86 • Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-86 • uCosminexus Collaboration Portal 06-86 • uCosminexus Collaboration Portal - Forum/File Sharing 06-86

このマニュアルでは，Collaboration のナビゲーションビュー機能を次のように表記しています。

表記	機能名
Collaboration - Navigation View	次の製品のナビゲーションビュー機能 • Groupmax Collaboration Portal 07-86 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-86 • Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-86 • uCosminexus Collaboration Portal 06-86 • uCosminexus Collaboration Portal - Forum/File Sharing 06-86

このマニュアルでは，Collaboration のファイル共有機能を次のように表記しています。

表記	機能名
Collaboration - File Sharing	次の製品のファイル共有機能 • Groupmax Collaboration Portal 07-86 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-86 • uCosminexus Collaboration Portal 06-86 • uCosminexus Collaboration Portal - Forum/File Sharing 06-86

このマニュアルでは，Collaboration のメール機能および宛先台帳機能を次のように表記しています。

表記	機能名
Collaboration - Mail	次の製品のメール機能および宛先台帳機能 • Groupmax Collaboration Portal 07-86 • Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-86 • uCosminexus Collaboration Portal 06-86

このマニュアルでは，Collaboration のユーザ検索機能を次のように表記しています。

表記	機能名
Collaboration - Directory Access	次の製品のユーザ検索機能 • Groupmax Collaboration Portal 07-86 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-86 • Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-86 • uCosminexus Collaboration Portal 06-86 • uCosminexus Collaboration Portal - Forum/File Sharing 06-86

付録 K.3　英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	英字での表記
AP	Application Program
ASCII	American Standard Code for Information Interchange

英略語	英字での表記
CSV	Comma Separated Value
DB	Data Base
DN	Distinguished Name
EIP	Enterprise Information Portal
EJB	Enterprise JavaBeans
HTML	Hypertext Markup Language
HTTP	Hypertext Transfer Protocol
HTTPS	Hypertext Transfer Protocol Security
IPv4	Internet Protocol Version 4
IPv6	Internet Protocol Version 6
IT	Information Technology
JDK	Java Development Kit
JIS	Japanese Industrial Standards
JSP	JavaServer Pages
LDAP	Lightweight Directory Access Protocol
OS	Operating System
PC	Personal Computer
POP3	Post Office Protocol - Version 3
RAS	Reliability，Availability，Serviceability
RASIS	Reliability，Availability，Serviceability，Integrity，Security
SSL	Secure Sockets Layer
URL	Uniform Resource Locator
UTF	UCS Transformation Format
VM	Virtual Machine
WAR	Web ARchive
WebDAV	World Wide Web Distributed Authoring and Versioning
WOW64	Windows On Windows 64
WWW	World Wide Web

付録 K.4　KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト），1MB（メガバイト），1GB（ギガバイト），1TB（テラバイト）はそれぞれ 1,024 バイト，$1,024^2$ バイト，$1,024^3$ バイト，$1,024^4$ バイトです。

付録L　用語解説

（英字）

DB モード

Groupmax Scheduler Server の運用モードの一つです。スケジュールの管理データ，およびスケジュールデータを HiRDB で一元管理する運用ができます。

DN

Distinguished Name の略です。ディレクトリサーバの各エントリを識別する情報のことです。ファイルシステム内のファイルパスのように扱われます。

EIP

Enterprise Information Portal の略です。企業情報ポータルのことです。

Groupmax Collaboration - Directory Converter

Groupmax Address Server とディレクトリサーバとの間で，Collaboration で使用するユーザ情報の整合性を保つためのユティリティ（ユーザ情報整合性確保ユティリティ）です。次の機能を提供しています。

- システム構築時に，Groupmax Address Server の情報をディレクトリサーバへコピーするための情報を作成します。
- Groupmax Address Server のユーザ情報の変更をディレクトリサーバへ反映するための情報を作成します。

Groupmax Scheduler Server

メンバのスケジュールを参照したり，メンバ同士のスケジュールを調整したりするプログラムです。

HiRDB

業務の規模に応じたリレーショナルデータベースを構築できるようにする，データベース管理システム（DBMS：Database Management System）の製品です。

Hitachi Web Server

Hitachi Web Server は，トランザクション処理を含む業務システムや，基幹系システムなどの，ミッションクリティカルな環境で利用できる基幹業務システム向け Web サーバです。きめ細かな保守サービス，テクニカルサービスによって，信頼性の高いシステムをサポートしています。

HTML

Hypertext Markup Language の略です。WWW で利用できるハイパーテキストを記述するための言語です。

HTTP

Hypertext Transfer Protocol の略です。Web サーバと Web ブラウザとの通信で使用されるプロトコルです。

JP1/Base

JP1 イベントの送受信や，ユーザの管理，起動の制御などの機能を提供するプログラムです。

JP1/NETM/Audit

システム内の製品が出力した監査ログを自動収集して，一括管理するためのプログラムです。JP1/Base と連携して，Collaboration のアプリケーションサーバ，連携する日立オープンミドルウェア製品などが出力した監査ログを監査ログ管理サーバで自動収集できます。また，収集した監査ログを，監査ログ管理サーバのデータベースで一元管理できます。

LDAP

Lightweight Directory Access Protocol の略です。ディレクトリサーバにアクセスするための業界標準のプロトコルです。LDAP は，X.500 ディレクトリアクセスプロトコルより簡素化されていて，TCP/IP 上で動作します。

RAS

RASIS（Reliability Availability Serviceability Integrity Security）の省略形です。RASIS とは，コンピュータシステムの信頼性を評価するときチェックする項目である Reliability（信頼性），Availability（可用性），Serviceability（保守性），Integrity（保全性），Security（機密性）の頭文字で構成された用語です。

ToDo

自分の仕事（タスク）を重要度および終了期限で管理するポートレットです。

URL

Uniform Resource Locator の略です。Web 上にある特定のデータの位置を指定する規格です。

WebDAV プロトコル

HTTP プロトコルを使用してファイルおよびフォルダの移動，コピー，登録，削除などの操作を実現する方法を定義した規約です。

WebDAV 連携機能

Hitachi Web Server と File Sharing を連携させることによって，インターネット上で File Sharing のファイルとフォルダを共有できるようにする機能です。

Web アプリケーション

Web ブラウザを備えたクライアントを対象に作成されたアプリケーションです。具体的には，サーブレットプログラム，JSP ページ，HTML/XML ドキュメントなどの集合体を指します。

Web コンテナ

J2EE アーキテクチャの Web コンポーネント規約を実装するコンテナです。セキュリティ，トランザクションなどの各種サービスを提供する実行環境です。Web アプリケーションは，Web コンテナ上で動作します。

Web サーバ

WWW 環境を構成するソフトウェアの一つです。Web ブラウザからの要求に応じて HTML データなどを送信します。

Web フォルダ

Collaboration - File Sharing が管理するファイルおよびフォルダを，WebDAV プロトコルに従って操作するためのフォルダです。Windows のエクスプローラを使用すれば，Web フォルダ上のファイルおよびフォルダを簡単に操作できます。

Web ブラウザ

WWW 環境を構成するソフトウェアの一つです。Web サーバに HTML データなどの送信を要求し，HTML データを画面に表示します。

WWW

World Wide Web の略です。マシンをわたって配置できるハイパーテキストのことです。

（ア行）

アプリケーションサーバ

情報システムの中間に位置し，ユーザの要求（プレゼンテーション層）とデータベースなどの業務システム（データ層）の処理を橋渡しするためのアプリケーション層を構築するためのミドルウェアです。

日立のアプリケーションサーバ Cosminexus は，業務の開発から運用まで一貫した環境を提供します。

（カ行）

カレンダビュー

Collaboration - Schedule のスケジュール調整画面に表示するカレンダです。

［カレンダ］ポートレット

各ポートレットでの日付の入力に使用するカレンダを表示するポートレットです。

監査ログ

監査ログとは，ユーザがポートレットやコマンドに対して実行した操作の実行履歴のことです。監査ログはファイルに出力されます。監査者が監査ログを調査することで，「いつ」「だれが」「何をしたか」を知ることができます。

企業情報ポータル

イントラネットやインターネットと Web ブラウザを使って，企業内外から必要な情報にアクセスするためのポータルです。

グループウェア

組織内の情報を共有して，定型業務を効率的に実行するツールです。

兼任

一人のユーザが複数の組織に所属したり，役職に就いたりすることです。

本来所属している組織のユーザを「**主体ユーザ**」と呼びます。

それ以外の組織に所属しているユーザを「**兼任ユーザ**」と呼びます。

コミュニティ

同じ目的や問題意識を持つ人の集まりです。コミュニティに参加している人々は相互に情報交換や情報共有をし，目的の実現を目指します。

コミュニティ管理

コミュニティ，ワークプレースやコミュニティメンバなどを管理するポートレットです。

コミュニティテンプレート

Collaboration - Online Community Management が提供している，コミュニティを作成するための雛型です。コミュニティテンプレートには，コミュニティポリシーおよびワークプレースなどの必要な情報が設定されているので，コミュニティ名を設定するだけで，コミュニティを作成できます。コミュニティテンプレートには，管理者主導型，現場主導型，自由参加型があります。

コミュニティメンバ

コミュニティに参加中のメンバです。コミュニティメンバとして登録すると，Collaboration - Online Community Management のデータベースサーバに登録されていないユーザも自動的に登録されます。

コミュニティワークプレース

コミュニティのメンバで情報を共有し，協働作業をする「場所」です。そのコミュニティ専用の電子会議室を設置したり，コミュニティのメンバのスケジュールを表示したりできます。

（サ行）

［新着情報］ポートレット

各ポートレットの件数や一覧をまとめて新着情報として表示するポートレットです。また，新着情報の内容を表示できます。［新着情報］ポートレットの画面上で，新着情報の内容に応じた操作もできます。

スキーマ

ディレクトリサーバでは，オブジェクトクラス，エントリ，属性およびツリー構造などの規則のことです。データがどのように格納されるかを定義します。

スケジュール

自分やほかのメンバのスケジュールおよびタスクを管理するポートレットです。

（タ行）

ディレクトリサーバ

ディレクトリデータベース用のサーバです。ディレクトリデータベースには，ネットワークを利用するユーザのユーザ ID やメールアドレスなどの情報が保存されています。

デプロイ

ポートレットを uCosminexus Portal Framework に登録することです。

電子会議室

企業内で利用する情報蓄積型の電子会議室のポートレットです。場所と時間に依存しないで議論できる場です。

電子掲示板

ツリー構造を形成する掲示板の最上位に位置する掲示板のポートレットです。システムに一つしか存在しません。記事は登録できません。

統合インストーラ

Collaboration Portal を構成する各コンポーネントのインストーラを呼び出し，Collaboration Portal をインストールします。日立総合インストーラから呼び出されます。

トップメニュー

Collaboration 画面の右上にあり，メールの新規作成機能など状況に依存しないで使用する機能を呼び出すためのメニューです。また，ヘルプを呼び出したり，Collaboration からログアウトしたりできます。

（ナ行）

ナビゲーションビュー

Collaboration 画面の左側に配置されている領域です。ナビゲーションビューを選択するだけで，Collaboration のいろいろな機能やコンテンツに素早くアクセスできます。ナビゲーションビューには，［ワークプレース］タブおよび［コンタクト］タブがあります。［ワークプレース］タブでは，Collaboration 画面に表示するワークプレースを切り替えたり，表示するワークプレースを追加・削除したりできます。［コンタクト］タブでは，頻繁にメールを送信したり，スケジュールを表示したりするユーザに素早くアクセスできます。

（ハ行）

パーソナライズ情報

Collaboration のポータル画面のレイアウトや設定内容など，ユーザがカスタマイズした情報です。

配布 URL

ファイル共有上のフォルダやファイルにアクセスするための URL です。他コンポーネントとの連携時にファイル共有が提供する情報の一つです。

ファイル共有

Collaboration のシステムの中で，個人が所有するフォルダやファイル，コミュニティで共有するフォルダやファイル，組織単位またはユーザ単位で共有するフォルダやファイルを，Web ブラウザや Web フォルダなどの Web 環境を通して，共有し，操作するポートレットです。
各ポートレットと連携し，各ポートレットで使用するファイルを格納して，個人が所有するファイルを参照・編集したり，一つのファイルを複数のメンバで共有したりできます。

［ファイル共有設定］ポートレット

システム管理者が，File Sharing で管理する個人ルートフォルダ，グループルートフォルダおよび

ワークプレースルートフォルダのベースパス情報や最大許容サイズ情報をポータル上で操作するためのポートレットです。

ポータル

幾つかのポートレットで構成されたWebサイトのことです。さまざまな情報を統合したインターネットやイントラネットの入り口になります。

ポートレット

ポータル上で動作するコンポーネントです。

（マ行）

マイワークプレース

個人業務を支援するための各種情報アクセスツールや業務システムへの入り口です。個人業務に必要な情報へ一元的にアクセスできます。

メール

メールを送受信するためのポートレットです。電話帳，コミュニティ管理，およびファイル共有とも連携し，これらのポートレットからメールを送信することもできます。

（ヤ行）

ユーザ検索

ポータル上でユーザ検索機能および組織ツリー表示機能を提供するポートレットです。名前を指定してユーザを検索したり，組織ツリーを表示して各組織に所属するユーザを検索したりできます。検索と表示に必要な情報はディレクトリサーバから取得します。

（ラ行）

［リンク集］ポートレット

頻繁に利用する画面のURLをポータルサーバ上の［リンク集］ポートレットに登録して，社内や出張先などの複数台のPCから利用できます。

（ワ行）

ワークプレース

個人の業務やコミュニティ内の情報共有・協働作業などを効率的に推進するための作業空間です。個人の業務に使用するマイワークプレース，およびコミュニティのメンバでの協働作業に使用するコミュニティワークプレースがあります。

ワークプレースビュー

ワークプレースの情報を基に，アプリケーション（ポートレット）を使いやすいようレイアウトしたユーザインターフェースです。

ワークフロー連携機能

連携するワークフローシステムの画面を表示して，未処理のワークフロー案件を処理する機能です。

索引

J

L

R

S

T

U

V

W

あ

い

う

え

お

か

き

く

け

こ

さ

し

す

せ

た

て

と

な

に

は

ひ

ふ

ほ